

東海大学文学部北欧学科

フィンランド語文法

学生番号

氏名

**TOKAIN YLIOPISTO
POHJOISMAIDEN KIELTEN JA
KULTTUURIEN LAITOS
SUOMEN
KIELIOPPIA**

目次

目次	i
フィンランド語はどんな言葉か	1
文字と発音	4
音節	10
第1課	11
1-1. 人称代名詞と指示代名詞	
1-2. 動詞 olla の現在・肯定形	
1-3. 国名と -lainen/-läinen	
第2課	15
2-1. 動詞 olla の現在・否定形	
2-2. 基本的な疑問詞(1)	
2-3. 疑問文の作り方と答え方(1)	
第3課	19
3-1. 場所格について	
3-2. 内格と接格	
3-3. 母音調和	
第4課	23
4-1. 単数語幹	
4-2. 単数属格と複数主格	
4-3. 形容詞修飾語	
4-4. 指示代名詞と疑問詞の内格・接格・属格・複数主格	
第5課	27
5-1. 子音階程交替(1)	
5-2. 人称代名詞の内格、接格、属格	
第6課	31
6-1. 動詞のタイプ	
6-2. 動詞の現在形(1)	

第 7 課	35
7-1.	数詞－基数	
7-2.	分格	
第 8 課	39
8-1.	値段の表現	
8-2.	時刻の表現	
8-3.	数の表現	
8-4.	基本的な挨拶表現	
第 9 課	43
9-1.	出格と奪格・向格	
9-2.	入格	
9-3.	場所格のまとめ	
9-4.	基本的な疑問詞(2)	
第 10 課	47
10-1.	動詞の現在形(2)－否定形	
10-2.	疑問文の作り方と答え方(2)	
10-3.	接続詞(1)	
第 11 課	51
11-1.	mikä と指示代名詞の変化・まとめ(1)	
11-2.	kuka と人称代名詞の変化・まとめ(1)	
11-3.	特別な変化をする名詞・形容詞	
第 12 課	55
12-1.	目的語(1)	
12-2.	kuka と人称代名詞の対格	
12-3.	副詞-sti	
第 13 課	59
13-1.	動詞の現在形(3)－タイプ 1 の動詞の階程交替	
13-2.	不定詞の基本的な用法	

第 14 課	63
14-1.	että
14-2.	間接疑問文
14-3.	場所を表す副詞
第 15 課	67
15-1.	関係代名詞
第 16 課	71
16-1.	所有文と存在文
16-2.	所有文と存在文の注意点
第 17 課	75
17-1.	動詞 olla の補語 (1)
17-2.	時に関する表現 (1)
第 18 課	79
18-1.	格の基本的用法 (1) – 内格・出格・入格
第 19 課	83
19-1.	格の基本的用法 (2) – 接格・奪格・向格
第 20 課	87
20-1.	-si で終わる名詞・形容詞
20-2.	-e, -as, -äs, -is で終わる名詞・形容詞
20-3.	-os, -ös, -us, -ys で終わる名詞・形容詞
20-4.	-si、-e、-s で終わる語の活用例
第 21 課	91
21-1.	名詞・形容詞のタイプーまとめ
21-2.	名詞・形容詞のタイプ別活用例
第 22 課	95
22-1.	後置詞・前置詞
第 23 課	99
23-1.	所有接尾辞

第 24 課	103
24-1.	動詞の現在形 (4) – nähdä と tehdä	
24-2.	動詞の現在形 (5) – タイプ 3、4 の動詞の階程交替	
第 25 課	107
25-1.	sinä に対する命令形 (単数形)	
25-2.	te に対する命令形 (単数形)	
25-3.	命令文の目的語	
第 26 課	111
26-1.	動詞のタイプ – まとめ	
26-2.	動詞のタイプ別活用例	
第 27 課	115
27-1.	受動形 (1) – 現在形	
第 28 課	119
28-1.	格の基本的用法 (3) – 属格	
28-2.	目的語 (2)	
第 29 課	123
29-1.	格の基本的用法 (4) – 分格	
29-2.	不定代名詞	
第 30 課	127
30-1.	第 3 不定詞 (1)	
30-2.	第 3 不定詞・内格	
30-3.	第 3 不定詞・出格	
30-4.	第 3 不定詞・入格	
30-5.	第 3 不定詞・接格	
30-6.	第 3 不定詞・欠格	
30-7.	名詞・形容詞のタイプ (-in、-ut/-yt)	

第 31 課	131
31-1.	動詞の現在形(6)－タイプ 5 の動詞	
31-2.	tarvita 「必要とする」の使い方	
31-3.	動名詞	
第 32 課	135
32-1.	様格	
32-2.	変格	
第 33 課	139
33-1.	第 3 不定詞(2)－出格・入格・欠格の用法	
第 34 課	143
34-1.	動詞の過去形(1)－タイプ 1 の動詞	
第 35 課	147
35-1.	動詞の過去形(2)－タイプ 2 の動詞	
35-2.	動詞の過去形(3)－タイプ 3、4、5 の動詞	
35-3.	動詞の過去形(4)－nähdä と tehdä	
35-4.	過去形の活用例	
第 36 課	151
36-1.	動詞の過去形(5)－否定形	
36-2.	能動過去分詞	
第 37 課	155
37-1.	動詞の現在完了形と過去完了形	
37-2.	付加詞	
第 38 課	159
38-1.	se の用法	
38-2.	接続詞(2)	
第 39 課	163
39-1.	時に関する表現の復習	
39-2.	時の表現(2)	

第 40 課	167
40-1.	複数語幹の作り方	
40-2.	複数標識 -i- と過去標識 -i- の引き起こす変化	
第 41 課	171
41-1.	複数形	
41-2.	複数入格	
41-3.	複数形のまとめ (1)	
第 42 課	175
42-1.	複数分格	
42-2.	複数分格の用法	
第 43 課	179
43-1.	複数属格	
43-2.	複数形のまとめ (2)	
第 44 課	183
44-1.	目的語 (3) - まとめ	
44-2.	動詞 olla の補語 (2) - まとめ	
44-3.	所有文と存在文の主語 - 複数の場合	
第 45 課	187
45-1.	条件法・現在形	
45-2.	条件法・完了形	
第 46 課	191
46-1.	受動形 (2) - 過去の肯定形	
46-2.	受動形 (3) - 過去の否定形	
46-3.	受動過去分詞の作り方	
46-4.	受動形 (4) - 完了形	
第 47 課	195
47-1.	基数の格変化	
47-2.	基数の格変化一覧	

第 48 課	199
48-1.	受動形(5)－条件法現在形	
48-2.	受動形(6)－条件法完了形	
48-3.	受動形のまとめ	
第 49 課	203
49-1.	序数	
49-2.	序数の格変化	
49-3.	動詞の活用－まとめ	
第 50 課	207
50-1.	接辞について	
50-2.	名詞接辞	
50-3.	形容詞接辞	
50-4.	動詞接辞	
第 51 課	211
51-1.	形容詞の比較級	
51-2.	形容詞の最上級	
51-3.	不規則な変化をする語	
51-4.	比較表現	
第 52 課	215
52-1.	比較級と最上級の語幹	
52-2.	比較級と最上級の格変化一覧	
52-3.	-mpi で終わる疑問詞と不定代名詞	
第 53 課	219
53-1.	副詞の比較変化	
53-2.	注意すべき副詞の比較級と最上級	
53-3.	注意すべき最上級の表現	
第 54 課	223
54-1.	第 1 不定詞長形	
54-2.	複数形で使われる語	

第 55 課	227
55-1. 動詞のタイプ 6	
55-2. toinen の使い方	
55-3. 数の表現	
第 56 課	231
56-1. 分詞について	
56-2. 能動現在分詞	
56-3. 能動過去分詞	
56-4. 名詞として使われる形容詞	
第 57 課	235
57-1. 受動現在分詞	
57-2. 受動過去分詞	
第 58 課	239
58-1. 行為者分詞	
58-2. 分詞のまとめ	
第 59 課	243
59-1. 場所を表わす副詞の比較級と最上級	
59-2. 季節名の比較級	
第 60 課	247
60-1. 分詞構文について	
60-2. 能動分詞を使った分詞構文	
60-3. 分詞構文に所有接尾辞が使われる場合	
第 61 課	251
61-1. 受動分詞を使った分詞構文	
61-2. 分詞構文を取る代表的な動詞	
61-3. 第 2 不定詞具格	

第 62 課	255
62-1.	tahansa, hyvänsä, vain, vaikka	
62-2.	minkä-で始まる疑問詞	
62-3.	-pa/-pä を使った重要な表現	
62-4.	方角を表す語	
62-5.	さまざまな副詞	
第 63 課	259
63-1.	時相構文について	
63-2.	時相構文(1)－第 2 不定詞内格	
63-3.	-kkain/-kkäin	
63-4.	-ttain/-ttäin	
第 64 課	263
64-1.	時相構文(2)－第 2 不定詞内格受動形	
64-2.	時相構文(3)－受動過去分詞の分格	
第 65 課	267
65-1.	共格	
65-2.	欠格	
65-3.	具格	
65-4.	格の不一致	
第 66 課	271
66-1.	不定形について	
66-2.	注意すべき分詞の用法	
66-3.	-itse	
第 67 課	275
67-1.	注意すべき不定詞の用法	
67-2.	注意すべき動名詞の用法	
67-3.	フィンランド語の話し言葉	

第 68 課	279
68-1.	可能法現在形	
68-2.	可能法完了形	
第 69 課	283
69-1.	受動形(7)－可能法現在形	
69-2.	受動形(8)－可能法完了形	
69-3.	完了形のまとめ	
69-4.	動詞の活用一覧	
第 70 課	287
70-1.	命令法・1 人称複数形	
70-2.	命令法・3 人称	
70-3.	動詞の語幹と命令法のまとめ	

フィンランド語はどんな言葉か

フィンランド語は、多くの日本人が勉強する機会を持つ英語、ドイツ語、フランス語などとも、あるいはノルウェー語やデンマーク語など他の北欧の言語などともかなり違った印象を与える言語です。したがって、フィンランド語とはだいたいどのような言葉なのか知っておくことが、勉強を始めるに当たっては大切なことだと思えます。

1. フィンランド語の発音は比較的やさしい

日本語を母語とする人にとって非常に発音の難しいと思われる音は、フィンランド語にはそれほど多くはありません。rとlの区別や、日本語にはないäやöといった母音の発音は気をつけて学習する必要がありますが、概して日本語を母語とする者にとって、フィンランド語の発音は習得しやすいと言われていています。アクセントも単語の最初の母音にあるのが原則ですので、個別にアクセントを覚えるというような苦勞もありません。簡単に言えば、フィンランド語は書かれているとおりに「ローマ字読み」すれば、ほとんど正しく発音ができます。発音については4ページの「文字と発音」の解説をよく読んでください。

2. 名詞・形容詞の活用

フィンランド語の名詞や形容詞は「格変化する」と言われます。格変化とは、たとえば日本語で「家」という語に「家で、家から、家へ、家の、家を」などと助詞をつけるのと同じように、格語尾と呼ばれるものを語の後ろにつけることだと考えれば問題ありません。ですから日本語の話者にとっては、比較的理解しやすい事柄です。たとえばtalo「家」に-ssaという語尾をつけてtalossaとすると「家に/で」という意味になります。

ただ格変化を勉強するときには「母音調和」、そして「階程交替」と呼ばれている事柄を勉強する必要があります。「母音調和」とは、あるグループの母音と別のグループの母音は同じ語の中に現れる事ができない、という約束事です。たとえばaとäという2つの音は別のグループに属するので、フィンランド語にはtämä「これ」という語はありますが、tamäという語はありません。この約束事は、名詞に格語尾を付けるときにも重要になってきます。

「階程交替」とは、名詞に格語尾を付けるときに、単語の中の k、t、p という 3 種類の音に変化をする現象です。たとえば、*katu* 「通り」という語に *-lla* という語尾を付けて「通りに/で」という意味にすると *kadulla* となり、語の中の t は d に変化します。

格変化については格語尾を覚え、またそれぞれの格の働きを学ぶことが中心となります。また「母音調和」や「階程交替」も、フィンランド語の勉強を続けていけば、だんだんと慣れることのできる事柄です。

格の数は数え方にもよりますが、およそ 14 の格があるとされています。さらにフィンランド語には単数と複数の区別があります。原則として格語尾は単数でも複数でも同じ形ですが、複数の場合には格語尾の前に複数を表す印が入ります。たとえば *kadulla* は「(1つの) 通りに/で」ですが、*kaduilla* は「(複数の) 通りに/で」という意味です。つまり i が複数の印として *-lla* の前に入っています。

3. 動詞の活用

名詞や形容詞の格変化と並んで重要なのが、動詞の人称変化です。名詞の後ろに格語尾がつくのと同様に、フィンランド語では動詞の後ろに主語を示す語尾(= 人称語尾) がつきます。たとえば *menen* は「私が行く」という意味ですが、*menet* は「あなたが行く」という意味です。*menen* の最後の音 n が「私」を表し、*menet* の最後の音 t が「あなた」を表します。フィンランド語では単数と複数を合わせて 6 つの人称を区別しますので、6 つの人称語尾を覚えることとなります。また名詞の格変化の場合と同様に、動詞が人称変化をするときにも階程交替が起こる場合があります。動詞の変化ではまず現在形と命令法、さらに過去形を勉強します。さらに現在完了形と過去完了形、条件法と呼ばれる形が重要です。

4. 受動形

一方しばしば「受身形」、あるいは「受動形」と呼ばれる形がありますが、これはフィンランド語を話すのにも読むのにも非常に重要な形です。この形は「不定人称形」と呼ばれる場合もあり、「(人々が、彼らが、私たちが、誰かが) ...する」と訳すことができますが、「...される」と訳すことができる場合も多く、そのためにしばしば「受身形」と呼ばれています。この形には「...しよう」と人を誘う働きもあり、毎日の会話でも絶えず耳にする形です。

5. 動詞の不定形

分詞、不定詞などと呼ばれる形を合わせて動詞の不定形と呼びます。フィンランド語には多くの不定形があり、その中には話し言葉でも普通に使われるものもあれば、書き言葉で多用されるものもあります。たとえば *ostaa* は「買う」という意味の動詞ですが、*ostamaan* は「買いに、買うために」という意味を表します。この形は第3不定詞の入格とよばれますが、日常の会話でも欠かすことのできない形です。しっかりとしたフィンランド語の力をつけようと思うと、不定形の用法を習得することが重要になってきます。特に「分詞構文」、「時相構文」などと呼ばれているものは書き言葉で多用されますので、たとえば新聞記事を読むときにも、その理解は欠かせません（ただし、これらは本書では扱いません）。動詞の不定形の勉強もフィンランド語学習の大きな柱になります。

6. 文法用語

フィンランド語を勉強すると、英語を勉強したときには出会ったことのない事柄がたくさん出てきます。そしてそれらには名前がついていますので、聞いたことのないような文法用語に出会うことになります。たとえば母音調和、階程交替、内格、第3不定詞の入格などと聞くと、ひょっとすると頭が痛くなるかもしれません。ただし、これらはただの名前です。名前で怯えてしまうことのないようにしてください。

7. フィンランド語のおもしろさ

とにかく未知のものに興味のある方には、フィンランド語は非常におもしろい言葉だと思います。英語の勉強などでは出会ったことのない事柄がたくさんあって、言葉がいかに多様なものであるかも分かります。

8. 辞書

勉強が進むと辞書を使うようになってきます。フィンランド語の学習では「辞書が引けるようになれば一人前」だと言われることもあります。辞書が引けるようになるためにも、文法の勉強をきちんとしておく必要があります。『フィンランド語辞典』、『フィンランド語日本語小辞典』（どちらも荻島崇著、大学書林）など、日本語の辞書も出版されています。

文字と発音

1. フィンランド語のアルファベット

フィンランド語で使われる文字と、文字の名前は次のとおりです。発音をカタカナで正しく表すことはできませんので、それぞれの発音に関しては解説の部分をよく読んでください。

A a	[aa] アー	O o	[oo] オー
B b	[bee] ベー	P p	[pee] ペー
(C c)	[see] セー	(Q q)	[kuu] クー
D d	[dee] デー	R r	[är, ärrä] アエル、アエツラ
E e	[ee] エー	S s	[äs, ässä] アエス、アエッサ
F f	[äf, äffä] アエフ、アエツファ	T t	[tee] テー
G g	[gee] ゲー	U u	[uu] ウー
H h	[hoo] ホー	V v	[vee] ヴェー
I i	[ii] イー	(Ww)	[kaksois-vee] カクソイスヴェー
J j	[jii] イイー	(X x)	[äks, äksä] アエクス、アエクサ
K k	[koo] コー	Y y	[yy] イュー
L l	[äl, ällä] アエル、アエツラ	(Z z)	[tset, tseta] ツェット、ツェタ
M m	[äm, ämmä] アエム、アエンマ	Ä ä	[ää] アエー
N n	[än, ännä] アエン、アエンナ	Ö ö	[öö] オエー

上のアルファベットのうち()の中に入っている **c, q, w, x, z** は外来語や外国の人名・地名などに現れるだけで、めったに見かけることはありません。また **b, f** も外来語にしか出てきません。上のアルファベットには含まれていませんが、外来語の中では **š** という文字が使われることがあります。これは **sh** と表記されることもあり [ʃ] という音（シャ、シュ、ショの音）を表します。さらにスウェーデン系の人の名前や地名の中には **å** という文字がよく出てきますが [oo]（オー）と発音します。

2. 母音の発音

2-1. 短母音と長母音

日本語には「あ、い、う、え、お」という5つの母音がありますが、フィンランド語では8つの母音を区別します。母音が1つ書かれていれば短母音と呼びます。また同じ文字が2つ続けて書かれていれば長く発音しますが、このように同じ文字が2つ並んでいる場合を長母音と呼びます。フィンランド語では短母音と長母音の違いは、語と語を区別する上で重要です。

a, aa 日本語の[ア、アー]だと思って発音すれば大丈夫です。

kala [カラ] 魚 aamu [アーム] 朝

e, ee 日本語の[エ、エー]だと思って発音すれば大丈夫です。

meri [メリ] 海 tee [テー] お茶

i, ii 日本語の[イ、イー]だと思って発音すれば大丈夫です。

nimi [ニミ] 名前 niin [ニーン] そのように

o, oo 日本語の[オ、オー]だと思って発音すれば大丈夫です。

omena [オメナ] リンゴ koota [コータ] 集める

u, uu 日本語を母語とする人間には難しい音かもしれません。日本語の[ウ、ウー]とは違い、唇をしっかりと丸めて突き出すようにして発音します。口の奥の方で発音する感じで、o [オ]に近く聞こえることもあります。

puku [プク] 服 suu [スー] 口

ä, ää e [エ]を発音する口の構えのまま、a [ア]を発音します。カタカナでは[アエ]というように書いておきます。

tämä [タエマエ] これ ääni [アエーニ] 声

ö, öö o [オ]を発音する口の構えのまま、e [エ]を発音します。あるいは逆にe [エ]を発音したまま、唇を丸めて突き出します。[オエ]というように書いておきます。

söpö [ソエポエ] かわいらしい Töölö [トエーロエ] (地名)

y, yy フィンランド語ではyの文字は母音の表記に使われます。フィンランド語のuを発音する口の構えのまま、i [イ]を発音します。あるいは逆にi [イ]を発音したまま、唇を丸めて突き出します。[イユ]というように書いておきます。

kyky [キュキュ] 能力 syy [スュー] 理由

2-2. 二重母音

種類の違う母音が2つ並んでいる場合には、それぞれの音をしっかりと発音すれば問題はありません。違う種類の母音が2つ並んでいると、二重母音と呼ばれる場合があります。次に上げるものがフィンランド語の二重母音です。二重母音は i, u, y で終わるのがふつうですが、ie, uo, yö も二重母音です。

(1) i で終わる二重母音

ai aina [アイナ] いつも
ei eilen [エイレン] 昨日
oi noin [ノイン] あのように
ui uida [ウイダ] 泳ぐ
yi lyijy [リュイユ] 鉛
äi äiti [アエイティ] 母
öi öinen [オエイネン] 夜の

(2) u で終わる二重母音

au kaunis [カウニス] 美しい
eu Eurooppa [エウロoppa] ヨーロッパ
iu viulu [ヴィウル] バイオリン
ou joulu [ヨウル] クリスマス

(3) y で終わる二重母音

äy käydä [カエイユダエ] 行ってくる
öy pöytä [ポエイユタエ] テーブル

(4) その他の二重母音

ie tie [ティエ] 道
uo Suomi [スオミ] フィンランド
yö työ [トウイオエ]

ポイントー二重母音

二重母音は i, u, y で終わる2つの母音の連続です。ただし ie, uo, yö も二重母音です。

2-3. 二重母音以外の母音の連続

母音が2つ並んでいても、2つ目の母音が a, ä, e, o, ö である場合には二重母音ではありません。ただし ie, uo, yö は二重母音です (ie は二重母音でない場合もありますが、あまりに気にすることはありません)。

二重母音かそうでないかは、語を「音節」というものに分けるときに重要になってきます。「音節」については別の所で解説します。

(1) a/ä で終わるもの

ea	vaikea [ヴァイケア] 難しい
eä	pimeä [ピメアエ] 暗い
oa	sanoa [サノア] 言う
öä	säilöä [サエイロエアエ] 保存する
ia	asia [アジア] 物事
iä	etsiä [エツツィアエ] 探す
ua	puhua [プファ] 話す
yä	kysyä [キユスアエ] 尋ねる

(2) e で終わるもの

ae	tae [タエ] 保証
äe	säe [サエ] 詩句
oe	koe [コエ] 試験
öe	säilöessä [サエイロエエツサエ] 保存するとき
ie	käsien [カエシエン] (複数の)手の
ue	luen [ルエン] 私は読む
ye	kysyessä [キユスエツサエ] 尋ねるとき

(3) o/ö で終わるもの

io	ansio [アンシオ] 稼ぎ
iö	häiriö [ハエイリオエ] 妨害
äö	näön [ナエオエン] 視力の

ポイントー二重母音以外の母音連続

2つの母音が並んでいても、2番目の音が a, ä, e, o, ö の場合には二重母音とはなりません。ただし ie, uo, yö は二重母音です。

3. 子音の発音

フィンランド語の子音にも、日本語話者にとって特に難しい音は多くはありません。子音の場合にも同じ文字が2つ並んでいれば長く発音することになります。母音の場合と同様に同じ文字が2つ並んでいれば長く発音します。

k, kk 日本語の[カキクケコ]の子音と同じように発音します。

kkは[ツカ]、[ツキ]のように発音します。

kuka [クカ] 誰 kukka [クッカ] 花

p, pp 日本語の[パピプペポ]の子音と同じように発音します。

ppは[ツパ]、[ツピ]のように発音します。

papu [PAPU] 豆 pappi [PAPPI] 牧師

t, tt 日本語の[タテト]の子音と同じように発音します。tiはティ、tuはトゥと日本語で書く音になります。

ttは[ツタ]、[ツテ]のように発音します。

täti [タエティ] 叔母 tuttu [トウットウ] なじみの

d 日本語の[ダデド]の子音と同じように発音します。diはディ、duはドゥと日本語で書く音になります。

sade [サデ] 雨

m, mm 日本語の[マミムメモ]の子音と同じように発音します。

mmは「あんみつ」と言うときの子音と同じように発音します。

maa [マー] 国 mummo [ムンモ] おばあちゃん

n, nn 日本語の[ナニヌネノ]の子音と同じように発音します。

nnは「みんな」と言うときの子音と同じように発音します。

nenä [ネナエ] 鼻 onni [オンニ] 幸運

nk, ng nkはそのまま発音すれば自然と[ŋk]という発音になります。ngは綴りとは違い[ŋŋ]という発音になります。鼻に抜けるガギグゲゴの音を長く発音することになります。

kaupunki [カウプンキ] 都市 kaupungin [カウプンギン] 都市の

l, ll 舌の先をしっかりと上前歯の上の所につけ、空気を舌の横から通すように発音します。

llは[ツラ]、[ツリ]のように発音します。

tuli [トゥリ] 火 tulli [トゥツリ] 税関

- r, rr** 舌の先をどこにもつせず、震わせて発音する音です。
rr は[ツラ]、[ツリ]のように発音します。
ranta [ランタ] 岸 aarre [アーツレ] 宝
- s, ss** 日本語の[サスセソ]の子音と同じように発音します。si は日本語の[シ]と英語の[si]の中間のような音になります。
kesä [ケサエ] 夏 kissa [キッサ] 猫
- h** 日本語の[ハヘホ]の子音と同じように発音します。
raha [ラハ] お金
- j** 日本語の[ヤユヨ]の子音と同じように発音します。
Japani [ヤパニ] 日本
- v** 上の歯を下唇に軽く当てて、その間を通る空気に摩擦を起こさせる音です。ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォと日本語で書くことがあります。日本語の[バビブベボ]とならないように注意しましょう。
vauva [ヴァウヴァ] 赤ん坊
- b** 日本語の[バビブベボ]の子音と同じように発音します。外来語にしか現れません。
bussi [ブッシ] バス
- f** 上の歯を下唇に軽く当てて発音しますが、v が濁った音であるのに対して f は澄んだ音です。外来語にしか現れません。
filmi [フィルミ] フィルム、映画
- g** 日本語の[ガギグゲゴ]の子音と同じように発音します。
golf [ゴルフ] ゴルフ
- š** 日本語の[シャ、シュ、ショ]の子音と同じように発音します。
šekki [シェッキ] 小切手

4. アクセント

フィンランド語では、単語の最初の母音にアクセントが置かれます。つまり単語の最初の母音を強く読むことになります。

hývää päivää	こんにちは	ánteeksi	すいません
kiitos	ありがとう	óle hyvää	どうぞ
nákemiin	さようなら	térve	やあ

音節

語は「音節」に分けることができます。「音節」というのは、フィンランド語を話す人が一続きに発音する部分のことです。語は1つの音節でできている場合もありますが、2つ以上の音節からできているほうが一般的です。

音節についての知識は、語の活用を学習する場合に必要なになってくることがあります。ここでは、語はどのように音節に分かれるのかを解説します。それほど難しいことではありませんが、文法の学習の中で音節の話がなされたときには、ここを参照するようにしてください。

- ① 音節の中心になるのは母音です。子音だけで音節を作ることはできません。また長母音や二重母音は1つに数えます。ですから次のような語は1つの音節からできていることとなります。

maa 国 pää 頭 tie 道 suo 湖沼 työ 仕事

子音だけでは音節を作ることはできないので、語頭の子音は必ず次の母音にくっつくこととなります。同様に語尾の子音は前の母音にくっつきます。ですから次の語も1つの音節からできているということとなります。

maan 国の pään 頭の

- ② 語中の子音は、最後の一つが次の母音にくっつきます。母音が1つだけなら、もちろん次の母音にくっつくこととなります。もし2つ以上の母音がある場合には、最後の1つだけが次の母音にくっついて、それ以外の子音は前の母音にくっつきます(「-」の印が音節の区切りを表します)。

ku-kan 花の kuk-ka 花 kir-kon 教会の kirk-ko 教会

- ③ ①で説明したように長母音と二重母音は1つと数えますが、母音が2つ並んでいても二重母音でない場合には、2つの別々の音節に属することとなります。

vai-ke-a 難しい

vaikea では、ai は二重母音ですから1つに数えますが、ea は二重母音ではありませんでしたから、それぞれ別の音節を作ることとなります。

- ④ 上で説明したように語は音節に分かれますが、語の音節の数が1つだけであれば「1音節の語」、語が2つの音節からできていれば「2音節の語」というような言い方をします。maa は1音節、kuk-ka は2音節、vai-ke-a は3音節の語です。

第 1 課 — Ensimmäinen kappale

1-1. 人称代名詞と指示代名詞

1-2. 動詞 olla の現在・肯定形

1-3. 国名と -lainen/-läinen

1-4. 場所に関する基本的な語

1-1. 人称代名詞と指示代名詞

ポイント 1 — 人称代名詞	
minä 私(は/が)	me 私たち(は/が)
sinä あなた(は/が)	te あなたたち(は/が)
hän 彼/彼女(は/が)	he 彼ら(は/が)

ここに上げた形は「主格形」と呼ばれ辞書の見出し語になっていますが、そのままの形で文の主語として使うことができます。 **minä**, **sinä**, **hän** は 1 人の人間について使うので単数形, **me**, **te**, **he** は 2 人以上の人間について使うので複数形と呼びます。一方, 話し手を含む **minä** と **me** を 1 人称, 聞き手を含む **sinä** と **te** を 2 人称, 話し手も聞き手も含まない **hän** と **he** を 3 人称と呼びます。ですから, たとえば **minä** を単数 1 人称と呼びます。

hän という語は女に関しても男に関しても使います。また「あなたたち」を意味する **te** という語を一人の相手に対して使うと丁寧になり, 書く場合には普通 **Te** と大文字で書き始めます。

指示代名詞と呼ぶものは, 日本語の「これ, あれ, それ」にほぼ一致します

ポイント 2 — 指示代名詞	
tämä これ(は/が), この	nämä これら(は/が), これらの
tuo あれ(は/が), あの	nuo あれら(は/が), あれらの
se それ(は/が), その	ne それら(は/が), それらの

これら指示代名詞は単独で使われる以外に, 名詞の前について「この, あの, その」という意味で形容詞的に使うこともできます。

tämä kissa この猫 *tuo* koira あの犬 *se* lintu その鳥

1-2. 動詞 olla の現在・肯定形

動詞 **olla** は「～です；～いる，ある」という意味を持ち，非常に重要な動詞です．辞書には **olla** という形で載っていますが，この形をふつう不定詞と呼びます．すでにお話ししたようにフィンランド語では，動詞が主語によって6つの形に変化します．変化の仕方には規則がありますが，**olla** に関しては不規則なところもあるので，そのまま覚えることになります．また主語によって動詞の形は違いますので，1人称と2人称の主語 (*minä, sinä, me, te*) は省略することができます．

ポイント 3 - olla の現在・肯定形			
(minä)	olen	(me)	olemme
(sinä)	olet	(te)	olette
<i>hän</i>	on	<i>he</i>	ovat
<i>tämä</i>	} on	<i>nämä</i>	} ovat
<i>tuo</i>		<i>nuo</i>	
<i>se</i>		<i>ne</i>	

1-3. 国名と -lainen/-läinen

国名に **-lainen/-läinen** をつけると「...人」という名詞や、「... (人) の」という形容詞になります．**-lainen** と **-läinen** の使い分けについては3課を勉強するとはっきりしますが，今は気にしないでください．

Japani 「日本」 - **japanilainen** 「日本人、日本(人)の」

Norja 「ノルウェー」 - **norjalainen** 「ノルウェー人、ノルウェー(人)の」

Tanska 「デンマーク」 - **tanskalainen** 「デンマーク人、デンマーク(人)の」

Islanti 「アイスランド」 - **islantilainen** 「アイスランド人、アイスランド(人)の」

次のものは少し不規則ですので注意してください．

Suomi 「フィンランド」 - **suomalainen** 「フィンランド人、フィンランド(人)の」

Ruotsi 「スウェーデン」 - **ruotsalainen** 「スウェーデン人、スウェーデン(人)の」

Venäjä 「ロシア」 - **venäläinen** 「ロシア人、ロシア(人)の」

また **-lainen/-läinen** は都市名などにもつけることができます．

Helsinki 「ヘルシンキ」 - **helsinkiläinen** 「ヘルシンキの人、ヘルシンキの」

kaupunki 「都市」 - **kaupunkilainen** 「都会人、都市の」

koulu 「学校」 - **koululainen** 「生徒」

eläke 「年金」 - **eläkeläinen** 「年金生活者」

1-4. 場所に関する基本的な語

場所に関して使う基本的な語を勉強します。

täällä ここで/に	tuolla あそこで/に	siellä そこで/に
------------------------	-------------------------	------------------------

これらの単語はもちろん、*tämä*, *tuo*, *se* と関係のある語です。次のような語も覚えておきましょう。

kotona 家で/に	ulkona 外で/に	kaukana 遠くで/に	sisällä 中で/に
-----------------------	-----------------------	-------------------------	------------------------

次の例文で、ここまで学習したことを確認してください。

Minä olen suomalainen. = Olen suomalainen.	私はフィンランド人だ
Sinä olet japanilainen. = Olet japanilainen	あなたは日本人だ
Hän on norjalainen.	彼/彼女はノルウェー人だ
Me olemme täällä. = Olemme täällä.	私たちはここにいる
Te olette kotona. = Olette kotona.	あなたたちは家にいる
He ovat tuolla.	彼らはあそこにいる
Tämä on kirje.	これは手紙だ
Tuo on kirja.	あれは本だ
Se on kynä.	それはペンだ
Nämä ovat minun.	これらは私のものだ
Nuo ovat sinun.	あれらはあなたのものだ
Ne ovat hänen.	それらは彼/彼女のものだ
Tämä poika on Pekka.	この少年はペッカだ
Tuo tyttö on Outi.	あの少女はオウティだ
Se mies on Matti.	その男はマッティだ
Olen ruotsalainen opiskelija.	私はスウェーデン人の学生だ
Tämä on eestiläinen (= virolainen) laukku.	これはエストニア製のカバンだ
Tuolla on islantilainen hevonen.	あそこにアイスランドの馬がいる
Olemme sisällä.	私たちは中(屋内)にいる
Olette ulkona.	あなたたちは外にいる
He ovat kaukana.	彼らは遠くにいる

文法問題 1-1. olla-動詞の適切な形を補いなさい。

- 1) Hän ___ Martti Salonen. 彼はマルッティ・サロネンです。
- 2) Me ___ ulkona. 私達は外にいます。
- 3) Tuo talo ___ ravintola. あの建物はレストランです。
- 4) Sinä ___ opiskelija. あなたは学生です。
- 5) Te ___ kotona. あなた達は家にいます。
- 6) He ___ tuolla. 彼らはあそこにいます。
- 7) Se ___ auto. それは自動車です。
- 8) Minä ___ opettaja. 私は教員です。
- 9) Tämä ___ asema. これは駅です。
- 10) Nämä ___ minun. これらは私のものです。

文法問題 1-2. 適切な代名詞を補いなさい。

- 1) _____ on poro. これはトナカイです。
- 2) _____ olen norjalainen. 私はノルウェー人です。
- 3) _____ olette aina ulkona. あなた達はいつも外にいます。
- 4) _____ on usein täällä. 彼/彼女はしばしばここにいる。
- 5) _____ on pieni kissa. それは小さな猫です。
- 6) _____ ovat kissa ja koira. それらは犬と猫です。
- 7) _____ ovat joskus siellä. 彼らは時々そこにいます。
- 8) _____ olet insinööri. あなたはエンジニアです。
- 9) _____ olemme nyt ulkona. 私達は今外にいます。
- 10) _____ ovat hänen. あれらは彼/彼女のものです。
- 11) _____ olette suomalainen. あなたはフィンランド人でいらっしゃる(丁寧に)

文法問題 1-3. 次の文の主語を複数形にして文全体を書き直しなさい。

- 1) Tämä on meidän. これは私たちのものです。
- 2) Sinä olet aina täällä. あなたはいつもここにいます。
- 3) Hän on tuolla. 彼/彼女はあそこにいます。
- 4) Tuo on teidän. あれはあなた達のものです。
- 5) Minä olen usein ulkona. 私はよく外にいます。
- 6) Se on heidän. それは彼らのものです。

第 2 課 – Toinen kappale

2-1. 動詞 olla の現在・否定形

2-2. 基本的な疑問詞(1)

2-3. 疑問文の作り方と答え方(1)

2-1. 動詞 olla の現在・否定形

1-2. で勉強した動詞 olla の否定形を勉強します。フィンランド語では「否定動詞」と呼ばれるものと、動詞の「現在語幹」と呼ばれる形を組み合わせて、現在・否定形を作ります。この場合には否定動詞が主語に合わせて形を変えますが、現在語幹はいつも同じ形です。olla-動詞の現在語幹は **ole** という形です。動詞 olla は非常に重要な語ですので、やはり暗記する必要があります。

ポイント 4 – olla の現在・否定形					
(minä)	en	} ole	(me)	emme	} ole
(sinä)	et		(te)	ette	
hän	ei		he	eivät	

tämä	} ei ole	nämä	} eivät ole		
tuo		nuo			
se		ne			

2-2. 基本的な疑問詞(1)

kuka は「誰」、**mikä** は「何、どの」という意味を表し疑問文を作ります。**missä** は「どこに(いるのか)」と居場所を尋ねるときに使い、また **millainen** と **minkälainen** はどちらも「どのような」という意味を持つ疑問詞です。疑問詞は文頭に置きますが、それ以外は特に語順を変える必要はありません。また、疑問文も特別なイントネーションで読む必要はありません。

ポイント 5 – 疑問詞(1)

Kuka sinä olet? あなたは誰ですか

Mikä tämä on? これは何ですか

Missä hän on? 彼/彼女はどこにいますか

Millainen (= Minkälainen) koira on? 犬はどんなですか

Kuka sinä olet? – Minä olen Pekka Koivisto.

あなたは誰ですか。 – 私はペッカ・コイヴィストです。

Kuka tuo nainen on? – Hän on Aulikki Aho.

あの女性は誰ですか。 – 彼女はアウリッキ・アホです。

Mikä tämä on? – Se on kirja.

これは何ですか。 – それは本です。

Mikä kaupunki tuo on? – Se on Helsinki.

あれは何という都市ですか。 – それはヘルシンキです。

Missä Tuomas on? – Hän on kotona.

トウオマスはどこにいますか。 – 彼は家にいます。

Millainen (=Minkälainen) se koira on? – Se on iso.

その犬はどんなですか。 – それは大きいです。

2-3. 疑問文の作り方と答え方(1)

1) 疑問詞のない疑問文の作り方

フィンランド語では「～ですか、～しますか」というような、「はい」あるいは「いいえ」で答えることのできるような疑問文を作るときに、ふつう文の動詞に**-ko / -kö** (疑問付加詞と呼ぶことにします) という印をつけて文頭に置きます。**-ko** と **-kö** の使い分けについては3課の「母音調和」の項で学習しますので今は気にしないで下さい。動詞 **olla** には**-ko** をつけて疑問文を作ります。書くときには文の最後に疑問符をつけますが、イントネーションは特に変える必要はありません。

ん {	Sinä olet suomalainen.	あなたはフィンランド人です。
	Olet-ko sinä suomalainen?	あなたはフィンランド人ですか。
	Hän on saamelainen.	彼女はサーミ人です。
	On-ko hän saamelainen?	彼女はサーミ人ですか。

また「～ではないのですか、～しないのですか」という否定の疑問文を作るときには、否定動詞に**-kö** をつけ文頭に置きます。

{	Sinä et ole virolainen.	あなたはエストニア人ではない。
	Et-kö sinä ole virolainen?	あなたはエストニア人ではないのですか。
	Hän ei ole norjalainen.	彼はノルウェー人ではない。
	Ei-kö hän ole norjalainen?	彼はノルウェー人ではないのですか。

ポイント 6 - 疑問文の作り方(1)

Sinä olet suomalainen. → **Oletko** sinä suomalainen?

Hän on virolainen. → **Onko** hän virolainen?

Sinä et ole norjalainen. → **Etkö** sinä ole norjalainen?

Hän ei ole kiinalainen. → **Eikö** hän ole kiinalainen?

2) 疑問文に対する答え方

ここで学習したような疑問文に返事をする場合には、疑問文が肯定形か否定形かは関係がありません。どちらの尋ね方をされても返事の仕方は2通りです。つまり「～ですか、～しますか」と肯定形で聞かれようと、「～ではないのですか、～しないのですか」と否定形で聞かれようと、「～です、～します」と答えるときには動詞の肯定形で答えるのがふつうです。

{	Oletko sinä saksalainen?	あなたはドイツ人ですか。
	Olen.	はい、ドイツ人です。
{	Etkö sinä ole saksalainen?	あなたはドイツ人ではないのですか。
	Olen.	いいえ、ドイツ人です..

逆にどのように聞かれようと「～ではない、～しない」という返事をするのであれば否定動詞で答えます。

{	Oletko kiinalainen?	あなたは中国人ですか。
	En (ole).	いいえ、中国人ではありません。
{	Etkö ole kiinalainen?	あなたは中国人ではないのですか。
	En (ole).	はい、中国人ではありません。

また肯定の返事をする場合には、**kyllä** という語で答えることもできます。'Kyllä' と一言で答えることもできますが、他の言葉と共に使うこともできます。

{	Oletko ruotsalainen?	あなたはスウェーデン人ですか。
	Kyllä. / Olen kyllä. / Kyllä, olen ruotsalainen.	はい。

ポイント 7 - 疑問文に対する答え方(1)

Oletko sinä suomalainen? - **Olen. / En (ole).**

Etkö sinä ole suomalainen? - **Olen. / En (ole).**

Onko hän kiinalainen? - **On. / Ei (ole).**

Eikö hän ole kiinalainen? - **On. / Ei (ole).**

文法問題 2-1. 否定文と疑問文に書き換えなさい.

- 1) Minä olen suomalainen. 私はフィンランド人だ
- 2) Sinä olet ruotsalainen. あなたはスウェーデン人だ
- 3) Hän on norjalainen. 彼/彼女はノルウェー人だ
- 4) Me olemme kotona huomenna. 私たちは明日家にいる
- 5) Te olette usein täällä. あなたたちはよくここにいる
- 6) He ovat aina poissa. 彼らはいつも出かけている
- 7) Tämä on koira. これは犬だ
- 8) Nämä ovat minun. これらは私のものだ
- 9) Tuo on kissa. あれは猫だ
- 10) Nuo ovat sinun. あれらはあなたのものだ
- 11) Se on kirja. それは本だ
- 12) Ne ovat hänen. それらは彼/彼女のものだ

文法問題 2-2. 疑問文に書き換え、肯定と否定の答えを作りなさい.

- 1) Minä en ole tanskalainen. 私はデンマーク人ではない
- 2) Sinä et ole virolainen (= eestiläinen). あなたはエストニア人ではない
- 3) Hän ei ole venäläinen. 彼/彼女はロシア人ではない
- 4) Me emme ole täällä huomenna. 私たちは明日ここにはいない
- 5) Te ette ole koskaan kotona. あなたたちは決して家にはいない
- 6) He eivät ole nyt täällä. 彼らは今ここにはいない
- 7) Tuo ei ole kissa. あれは猫ではない
- 8) Nuo eivät ole sinun. あれらはあなたのものではない

文法問題 2-3. kuka, mikä, millainen (= minkälainen) のうち適切な語を入れなさい.

- 1) () Helsinki on? - Se on kaupunki. それは都市だ
- 2) () kaupunki Helsinki on? - Se on kaunis kaupunki. それは美しい都市だ
- 3) () sinä olet? - Minä olen Pauli Mäkinen. 私はパウリ・マキネンだ
- 4) () tämä on? - Se on kissa. それは猫だ
- 5) () maa Suomi on? - Se on hyvin kaunis maa. それはとても美しい国だ
- 6) () tuo poika on? - Hän on Mika. 彼はミカだ

第3課－ Kolmas kappale

3-1. 場所格について

3-2. 内格と接格

3-3. 母音調和

3-1. 場所格について

フィンランド語の名詞は活用します。日本語で名詞に「が、を、で、から」というような助詞を付けるのと同じように、フィンランド語では格語尾と呼ばれるものを付けて活用させます。辞書の見出し語となっている形を単数主格と呼びますが、この形はそのままで文の主語として使うことができます。したがって、たとえば **talo** という単数主格の形は「家/家が/家は」という日本語に相当します。

フィンランド語には格と呼ばれるものが 14 から 15 あると言われています。さらにフィンランド語では単数と複数の区別をするので、それぞれの格にも原則として単数形と複数形があることとなります。格の数が多いということで恐怖心を抱かないで下さい。いくつかの格の作り方をしっかり習得すれば、他の格は自動的に作ることができます。まず単数の格を少しずつ勉強していきます。

格の中には「場所格」と呼ばれる格が 6 つあります。日本語の「家に、家から、家へ」などという表現に相当するものです。この課では内格と接格と呼ばれる形を学習しますが、その前に 6 つの格について大まかに説明しておきます。

内部格		外部格	
内格	talo-ssa 家の中に	接格	tuoli-lla 椅子の上に
出格	talo-sta 家の中から	奪格	tuoli-lta 椅子の上から
入格	talo-on 家の中へ	向格	tuoli-lle 椅子の上へ

6 つの場所格は 3 つずつでグループを作ります。表の左側の内格・出格・入格は「内部格」、右側の接格・奪格・向格は「外部格」と呼ばれることがあります。大まかに言うと内部格は「何かの中」という意味を持ち、外部格は「何かの表面」という意味を持ちます。

内格と接格は「...で/に (いる)」という意味を表し、何かが存在していたり活動していたりする場所を表します。出格と奪格は「...から」という意味で出発点を表し、また入格と向格は「...へ」という意味で目的地などを表す形です。また

場所格とは呼んでいますが、それぞれの格は時間に関して使われたり、抽象的な意味を持ったりもします。それらについては少しずつ学習していきます。

それぞれの格の作り方ですが、大まかに言えば、単語の最後にそれぞれの格の印である格語尾をつければよいのです。単語によっては格語尾をつけるときに単語の中の音が変わることがあります。自分で話したり書いたりするときには多少まちがえていても理解してもらえらるでしょうが、格変化に際してどのような変化が起こるのかをしっかりと勉強しておくことは、将来辞書を使いたくなるときに重要になってきます。

3-2. 内格と接格

内格と接格の格語尾は次の通りです。

ポイント 8 – 内格と接格の語尾	
内格 = -ssa / -ssä	Japani-ssa 「日本で/に」, metsä-ssä 「森で/に」
接格 = -lla / -llä	asema-lla 「駅で/に」, hylly-llä 「棚で/に」

内格や接格の語尾が、それぞれ2つずつあるのが気にかかっているかもしれません。2つずつある格語尾をどう使い分けるのかについては、次の「母音調和」の項で説明します。

内格は「...の中で/に」、接格は「...の表面で/に」という意味ですが、実際には内格を使うのか接格を使うのか難しいことがあります。基本的には意味によって決まりますが、たとえば **asema** 「駅」のように覚えなければ分からない場合もあります。

talo	家	Minä olen talo-ssa .	私は家の中にいる
metsä	森	Karhu on metsä-ssä .	熊は森の中にいる
tuoli	椅子	Kissa on tuoli-lla .	猫は椅子の上にいる
hylly	棚	Kirja on hylly-llä .	本は棚の上にある
asema	駅	Hän on asema-lla .	彼女は駅にいる (asemassa ではない)

国名は内格にするのがふつうです。

Me olemme nyt **Japani-ssa**. 私たちは今日本にいます
ただし Venäjä 「ロシア」は接格にします。

Ovatko he **Venäjä-llä**? 彼らはロシアにいるのか

3-3. 母音調和

フィンランド語には、あるグループの母音と別のグループの母音は同じ語の中に出てきてはいけない、という約束があります。これを「母音調和」と呼んでいます。8つの母音は次のように3つのグループに分かれます。

①前母音	②中立母音	③後母音
y	i	u
ö	e	o
ä		a

y, ö, ä を発音しようとする時、u, o, a を発音するときよりも舌が前の方へ動いているのが分かります。このことから前母音や後母音という名前を使います。

フィンランド語には、前母音と後母音がひとつの語の中に同時に現れることはできない、という原則があります。ですからフィンランド語には **kulma** 「かど、すみ」や **kylmä** 「寒い」という語はありますが、**kulmä** や **kylma** というような語はありません。いっぽう中立母音と呼ばれる i と e は、前母音とも後母音とも一緒になることができます。ですから、たとえば **pelastua** 「救われる」という語も **pelästyä** 「おびえる」という語もあります。

単語に格語尾をつける時にも、この約束事を守ることになります。たとえば **pää** 「頭」という語に内格語尾をつける時に **pää-ssa** としてしまうと、この約束事を破ることになってしまいます。ですから内格の語尾には **-ssa** だけではなく **-ssä** という形もあるのです(正しくは **päässä** です)。同様に **tuoli** 「椅子」という語に接格語尾の **-lla** をつけて **tuolilla** とは言えますが、**tuolillä** はまちがいです。1課で学習した疑問付加詞にも **-ko** と **-kö** があつたのも同じ理由からです。

単語の中に中立母音と呼ばれる i や e しかない場合には、原則として前母音を含む語尾(内格であれば **-ssä**、接格であれば **-llä**)をつけます。たとえば **tie** 「道」という語の中には中立母音しかありませんので、接格の形は **tiella** ではなく **tiellä** とします。ですから原則としては次のように覚えておけばよいでしょう。

ポイント 9 - 母音調和

単語の中に **a, o, u** のうちのどれかの音があれば **-ssa, -lla** をつける。もし、それらの音がひとつもない場合には **-ssä, -llä** をつける。

Japani > Japani-ssa, tuoli > tuoli-lla

metsä > metsä-ssä, Venäjä > Venäjä-llä, tie > tie-llä

文法問題 3-1. 次の内格と接格の形の間違いをなおしなさい.

- | | |
|--------------|-------------|
| 1) talossä | 2) tuolilla |
| 3) Japanissä | 4) sohvalla |
| 5) hississa | 6) tiella |

文法問題 3-2. 次の語を内格の形に直しなさい.

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1) talo 「家」 | 2) metsä 「森, 林」 |
| 3) ravintola 「レストラン」 | 4) museo 「博物館, 美術館」 |
| 5) koulu 「学校」 | 6) jäätelö 「アイスクリーム」 |
| 7) kirjasto 「図書館」 | 8) tee 「お茶」 |
| 9) maa 「国」 | 10) hissi 「エレベーター」 |
| 11) puisto 「公園」 | 12) keittiö 「台所」 |
| 13) Norja 「ノルウェー」 | 14) Sveitsi 「スイス」 |

文法問題 3-3. 次の語を接格の形に直しなさい.

- | | |
|----------------|---------------|
| 1) hylly 「棚」 | 2) tuoli 「椅子」 |
| 3) sohva 「ソファ」 | 4) seinä 「壁」 |
| 5) asema 「駅」 | 6) lattia 「床」 |
| 7) tie 「道」 | 8) ikkuna 「窓」 |

文法問題 3-4. ()の中の語を内格か接格になおしなさい.

- 1) Missä hän on? - Hän on (baari). (baari 「軽食堂、バー」)
- 2) Missä Japani on? - Se on (Aasia). (Aasia 「アジア」)
- 3) Missä ravintola on? - Se on (Mannerheimintie).
(Mannerheimintie 「マンネルヘイム通り」)
- 4) Missä sinä olet nyt? - Minä olen (Ruotsi). (Ruotsi 「スウェーデン」)
- 5) Missä kissa on? - Se on (lattia). (lattia 「床」)
- 6) Missä kuva on? - Se on (seinä). (seinä 「壁」)
- 7) Missä te olette? - Me olemme (tavaratalo). (tavaratalo 「デパート」)
- 8) Missä juna on? - Se on (asema). (asema 「駅」)
- 9) Missä kirja on? - Se on (hylly). (hylly 「(本)棚」)
- 10) Missä äiti on? - Hän on (auto). (auto 「自動車」)

第 4 課 — Neljäs kappale

- | |
|------------------------------|
| 4-1. 単数語幹 |
| 4-2. 単数属格と複数主格 |
| 4-3. 形容詞修飾語 |
| 4-4. 指示代名詞と疑問詞の内格・接格・属格・複数主格 |

4-1. 単数語幹

「名詞に格語尾をつける」と勉強しましたが、実際には格語尾は単数語幹と呼ばれる形につけなければなりません。単数語幹が単数主格の形と同じ場合もあれば、そうではない場合もあります。まず重要な変化を3つ勉強します。

① 単数主格 **-i** ⇒ 単数語幹 **-e-**

単数主格が **i** で終わっている語の中には、語幹で **i** が **e** に変わるものがあります。たとえば **Suomi** 「フィンランド」の語幹は **Suome-** となりますので、「フィンランドで/に」という内格の形は **Suomi-ssa** ではなく **Suome-ssa** となります。ただし **i** が必ず **e** に変わるというわけではないので、単語によって覚えていく必要があります。覚えておくといよいことは、比較的新しい外来語では **i** は **e** に変わらないということです。たとえば **kahvi** 「コーヒー」は日本語の「コーヒー」と同じように比較的新しい外来語ですので、語幹は **kahvi-** のままです。

② 単数主格 **-e** ⇒ 単数語幹 **-ee-**

単数主格が **e** で終わる語では、語幹で **e** を **ee** と伸ばします。このことが当てはまらない語はほんの少数ですので、**e** は **ee** に変わると覚えてよいでしょう。ですから **huone** 「部屋」の内格の形は **huonee-ssa** という形になります。

③ 単数主格 **-nen** ⇒ 単数語幹 **-se-**

フィンランド語には **nen** という形で終わる語がたくさんありますが、語幹では **nen** は **se** に変わるという不規則な変化をします。たとえば **lautanen** 「皿」の接格は **lautase-lla** となります。

ポイント 10 - 語幹の変化	
① -i ⇒ -e-	Suomi → Suome-ssa, järvi → järve-ssä 「湖で/に」
② -e ⇒ -ee-	huone → huonee-ssa, rypäle → rypälee-ssä 「房の中で/に」
③ -nen ⇒ -se-	lautanen → lautase-lla, eteinen → eteise-ssä 「玄関で/に」

4-2. 単数属格と複数主格

属格は「～の」という意味で所有者を表す形です。複数主格は「～たちは」という複数の主語について使う形です。単数属格の語尾は **n**，複数主格の語尾は **t** です。これらの語尾を内格や接格と同じ語幹につけます。

ポイント 11 - 属格と複数主格	
単数属格 = -n	järvi → järve-n, huone → huonee-n, lautane → lautase-n
複数主格 = -t	järvi → järve-t, huone → huonee-t, lautanen → lautase-t

4-3. 形容詞修飾語

名詞の前に置かれ、名詞について説明することのできる品詞を形容詞と呼びます。例えば **iso talo** では、**iso** 「大きな」という形容詞が **talo** 「家」という語について説明を加え「大きな家」という表現を作っています。フィンランド語には、「名詞に格語尾がついて変化すると、その名詞の前についている形容詞も同じように変化をする」という重要な約束事があります。ですから「大きな家の中に」と言うときには **talo** 「家」だけでなく **iso** 「大きな」にも内格の語尾がつきます。

iso talo **Me olemme iso-ssa talo-ssa.** 我々は大きな家にいます。

また **tämä talo** では、指示代名詞の **tämä** が「この」という意味で **talo** を説明しているので、やはり形容詞の仲間だと考えます。同様に **mikä talo** 「どの家」、**millainen talo** 「どのような家」などの疑問詞 **mikä**、**millainen** も **talo** についているので形容詞の仲間です。

tämä talo **He ovat tä-ssä talo-ssa.** 彼らはこの家にいます。

mikä talo **Mi-ssä talo-ssa Leena on?** レーナはどの家にいますか。

millainen talo **Millaise-ssa talo-ssa hän on?** 彼はどんな家にいますか。

結果的に形容詞は名詞と全く同じように活用しますので、名詞の活用という場合には形容詞や代名詞も含まれていると思って下さい。指示代名詞や疑問詞の変化には不規則なところがありますので、4-4. でぜひ覚えて下さい。

ポイント 12 – 形容詞修飾語

名詞を修飾する形容詞(代名詞)は、名詞と同じ格に変化する。

tämä järvi → **tä-ssä** järve-ssä 「この湖で/に」

mikä järvi → **mi-ssä** järve-ssä 「どの湖で/に」

millainen järvi → **millaise-ssa** järve-ssä 「どのような湖で/に」

4-4. 指示代名詞と疑問詞の内格・接格・属格・複数主格

ポイント 13 – 指示代名詞・疑問詞の内格・接格・属格・複数主格

主格	tämä	tuo	se	mikä	kuka
内格	tä-ssä	tuo-ssa	siinä	mi-ssä	kene-ssä
接格	tä-llä	tuo-lla	sillä	mi-llä	kene-llä
属格	tämä-n	tuo-n	se-n	mi-n-kä	kene-n
複数主格	nämä	nuo	ne	mi-t-kä	ke-t-kä

ごらんのように代名詞や疑問詞は変化が不規則なところがありますが、どれも非常に重要な語ですのでしっかりと勉強をしてください。

- ① **tämä** は属格以外では、語幹は **tä-** となります。
- ② **se** は不規則な変化をしますが、重要な語ですので覚える必要があります。
- ③ 指示代名詞の複数主格は例外的に、最初の音が **n** に変わります。
- ③ **mikä** の単数属格と複数主格では、格語尾の **-n** と **-t** が **mi-** と **-kä** の間に入ります。それ以外の格では、語幹は **mi-** となります。
- ④ **kuka** の複数主格では、格語尾の **-t** が語の真中に来て非常に不規則な形となります。それ以外の格では、語幹は **kene-** となります。

すでに勉強した **missä** は実は **mikä** の内格の形です。「どこで/に」という質問をするときには必ず **missä** を使い、接格の **millä** は使いません。それに対して、たとえば **mikä tuoli** 「どの椅子」を接格にして「どの椅子の上に」という質問をしたいときには、**tuoli** が接格になるので **mikä** も同じ接格になり **millä** を使うこととなります。

- | | |
|------------------------------------|-----------------|
| Mi-ssä kirja on? | 本はどこにありますか。 |
| Mis-sä huonee-ssa kirja on? | 本はどの部屋にありますか。 |
| Mi-llä tuoli-lla kirja on? | 本はどの椅子の上にありますか。 |

文法問題 4-1. 次の語を内格と属格の形にきなさい。

- | | |
|------------------------|---------------------------------------|
| 1) järvi 「湖」 | 2) lasi 「グラス、ガラス」 |
| 3) kone 「機械」 | 4) eteinen 「玄関」 |
| 5) vanha kirja 「古い本」 | 6) suuri saari 「大きな島」 |
| 7) pieni huone 「小さな部屋」 | 8) italialainen ravintola 「イタリアレストラン」 |
| 9) tämä juna 「この列車」 | 10) tuo puisto 「あの公園」 |
| 11) se kahvila 「その喫茶店」 | 12) mikä laiva 「どの船」 |

文法問題 4-2. 次の語を接格と複数主格の形にきなさい、

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1) alue 「地域」 | 2) lautanen 「皿」 |
| 3) valkoinen seinä 「白い壁」 | 4) millainen sohva 「どのようなソファ」 |
| 5) tämä lattia 「この床」 | 6) tuo tuoli 「あの椅子」 |
| 7) se tie 「その道」 | 8) mikä asema 「どの駅」 |

文法問題 4-3. ()の中の語(句)を内格か接格にきなさい。

- 1) (Mikä maa) hän on nyt? 彼/彼女は今どこの国にいるのか
- 2) Hän on nyt (Suomi). 彼/彼女は今フィンランドにいる
- 3) (Seinä) on kuva. 壁には絵がある
- 4) (Kuva) on tuoli. 絵の中には椅子がある
- 5) (Tuoli) on iso kassi. 椅子の上には大きな鞆がある
- 6) Onko (kassi) sanakirja? 鞆の中には辞書があるか
- 7) Ei ole. (se) on omena. いいえ。その中にはリンゴがある
- 8) Onko (kassi) myös appelsiini? 鞆の中にはオレンジもあるか
- 9) Ei. Appelsiini on (kori). いいえ、オレンジは籠の中にある
- 10) (Kuka) laukku tämä on? これは誰の鞆か
- 11) (Mikä maa) kaupunki Helsinki on? ヘルシンキはどの国の都市か
- 12) (Mikä maa) ovat pohjoismaat? 北欧諸国とはどこの国々か

第 5 課 — Viides kappale

5-1. 子音階程交替 (1)

5-2. 人称代名詞の内格・接格・属格

5-1. 子音階程交替 (1)

単語に格語尾などをつけるときに、語幹のなかの **k, t, p** の 3 つの音に変化する現象を子音階程交替と呼びます。ここでは名詞に内格と接格の語尾をつける場合を例に話をしますが、他の格語尾をつけるときにも、多くの場合は同じような変化が起こります。

たとえば **talo** 「家」という語に内格の語尾をつけると **talo-ssa** となりました。ところが同じように **pata** 「鍋」という語に内格語尾をつけると **pata-ssa** ではなく **pada-ssa** となります。ここでは **pata-** という語の最後の子音である **t** という音が **d** に変化しています。このような変化を子音階程交替と呼んでいます。もとの **t** を強階程、変化した **d** を弱階程と呼んでいます。変化のパターンは 10 以上ありますが、ここでは特に代表的なものだけを学習します。

① **k** → 消失, **t** → **d**, **p** → **v**

強階程	弱階程
k	消失
t	d
p	v

ruoka : **ruoa-ssa** (食事 : 食事の中に)

pöytä : **pöydä-llä** (机 : 机の上に)

leipä : **leivä-n** (パン : パンの)

- 1) **k** は弱階程では完全に消えてしまいます (**ruoka** : **ruoassa**).
- 2) **t** は **d** に変化します (**pöytä** : **pöydällä**).
- 3) **p** は **v** に変わっています (**leipä** : **leivän**).

語幹を区別したいときには、たとえば **ruoka-** を強階程語幹、**ruoa-** を弱階程語幹と呼びます。

② **kk → k, tt → t, pp → p**

強階程	弱階程
kk	k
tt	t
pp	p

kirikko : **kirko-ssa** (教会 : 教会の中に)

katto : **kato-lla** (屋根 : 屋根の上に)

kuppi : **kupi-ssa** (カップ : カップの中に)

kk, tt, pp はそれぞれ **k, t, p** と短くなります。

③ **nk → ng, nt → nn**

強階程	弱階程
nk	ng
nt	nn

kaupunki : **kaupungi-t** (都市 : 諸都市)

Englanti : **Englanni-n** (英国 : 英国の)

- 1) **n** の後にある **k** は綴りの上では **g** に変化しますので, **nk** は **ng** となります。
ただし **ng** は発音上は [ŋ] となります(「文字と発音」の章を参照して下さい)。
- 2) **n** の後の **t** は, 直前の **n** と同じ音になるので, **nt** は **nn** に変化します。

ここで学習している子音階程交替と, 4 課で学習した語幹の作り方との両方を知っておかないと, 単語によっては正しい内格や接格の形が得られない場合があります。たとえば **joki** 「川」という単語に内格語尾 **-ssa** をつけようとする場合には, 語尾の **-i** が **e** に変わりますが, 同時に **-k-** という音は階程交替をします。従って内格の形は **joe-ssa** となります。実際に文章の中で出会うのは, 多くの場合このように変化した形ですので, 子音階程交替を知っていないと辞書に載っている単数主格の形を導き出すのが難しくなります。自分で正しい形が作れるようになるには時間がかかるでしょう。まず出会ったフィンランド語の形から, 辞書に載っている形である単数主格を導き出せるようになることを目標にしてください。

④ **sk, st, sp, tk** では階程交替は起こらない

これらに含まれる **k, t, p** には階程交替は起こりません。

matka 「旅行」 : **matkan** 「旅行の」

ポイント 13 ー子音階程交替(1)			
強階程	弱階程	強階程	弱階程
-k-	消失	ruoka	ruoa-ssa
-t-	-d-	pöytä	pöydä-llä
-p-	-v-	leipä	leivä-n
-kk-	-k-	kirkko	kirko-ssa
-tt-	-t-	katto	kato-lla
-pp-	-p-	kuppi	kupi-ssa
-nk-	-ng-	kaupunki	kaupungi-t
-nt-	-nn-	Englanti	Englanni-n

5-2. 人称代名詞の内格・接格・属格

ポイント 14 ー人称代名詞の内格、接格、属格						
主格	minä	sinä	hän	me	te	he
内格	minu-ssa	sinu-ssa	häne-ssä	mei-ssä	tei-ssä	hei-ssä
接格	minu-lla	sinu-lla	häne-llä	mei-llä	tei-llä	hei-llä
属格	minu-n	sinu-n	häne-n	meidä-n	teidä-n	heidä-n

人称代名詞はもちろん非常に重要なグループですが、やはり不規則なところがありますので、しっかりと勉強してください。

- ① **minä, sinä** では、語幹は **minu-, sinu-** となります。
- ② **hän** の語幹は **häne-** となります。
- ③ **me, te, he** の語幹は **mei-, tei-, hei-** となります。ただし属格では **meidä-, teidä-, heidä-** となります。
- ④ 人称代名詞の内格が使われることはそれほど多くはありません。
- ⑤ 人称代名詞の接格は非常に重要な形ですが、これについては 15 課で学習します。
- ⑥ 人称代名詞の属格はもちろん重要な形です。今の段階では主格と属格をしっかりと覚えておきましょう。

文法問題 5-1. 内格の形にきなさい.

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1) Turku 「トゥルク (地名)」 | 2) paikka 「場所」 |
| 3) Helsinki 「ヘルシンキ」 | 4) viikko 「週」 |
| 5) Islanti 「アイスランド」 | 6) minuutti 「1分」 |
| 7) hytti 「船室」 | 8) asunto 「住居」 |
| 9) itä 「東」 | 10) kylpy 「入浴」 |
| 11) leipä 「パン」 | 12) kauppa 「店」 |

文法問題 5-2. 接格の形にきなさい.

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1) pöytä 「テーブル」 | 2) lentokenttä 「飛行場」 |
| 3) ranta 「岸」 | 4) mäki 「丘」 |
| 5) pysäkki 「停留所」 | 6) seutu 「地域」 |

文法問題 5-3. 次の語を単数属格と複数主格の形に直しなさい..

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1) joki 「川」 | 2) kukka 「花」 |
| 3) kaupunki 「都市」 | 4) katu 「通り」 |
| 5) katto 「屋根」 | 6) ranta 「岸」 |
| 7) lintu 「鳥」 | 8) lupa 「許可」 |
| 9) kauppa 「店」 | 10) suomalainen 「フィンランド人」 |
| 11) huone 「部屋」 | 12) toive 「望み」 |

文法問題 5-4. 次の語を単数主格の形に直しなさい. 4-1.で学習した「単数語幹」における音の変化と、5-1.で扱った「子音階程交替」に注意してください.

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1) Grönlannin | 2) lehdessä |
| 3) tuella | 4) maljakossa |
| 5) tavat | 6) kupissa |
| 7) kortin | 8) hengessä |
| 9) kiireellä | 10) niityllä |
| 11) joulupukin | 12) suunnassa |
| 13) siivellä | 14) lahdessa |
| 15) auringon | 16) ketut |
| 17) laissa | 18) ulkomaalaisella |

第 6 課 — Kuudes kappale

6-1. 動詞のタイプ

6-2. 動詞の現在形 (1)

6-1. 動詞のタイプ

フィンランド語の動詞は主語によって活用しますが、語の最後に主語を表す人称語尾をつけます。動詞は不定詞と呼ばれる形で辞書の見出し語になっていますが、不定詞に人称語尾をつけるのではなく、名詞の場合と同じく「語幹」と呼ばれる形に語尾をつけます。語幹の作り方の違いによって動詞を6つのタイプに分類しますが、ここではまず4つのタイプを勉強します。

動詞は、不定詞の最後の部分を基準にしてタイプに分類しますが、タイプに関わらずフィンランド語の動詞の不定詞は、すべて **a** か **ä** の音で終わっています。

① タイプ 1 (puhua-タイプ)

不定詞の最後の **-a** / **-ä** の前に母音がある動詞をタイプ 1 とします。

puhua 「話す」、sanoa 「言う」、kysyä 「尋ねる」

② タイプ 2 (syödä-タイプ)

不定詞が **-da** / **-dä** で終わっている動詞がタイプ 2 です。

juoda 「飲む」、syödä 「食べる」、voida 「できる」、viedä 「持って行く」

③ タイプ 3 (tulla-タイプ)

不定詞が **-lla** / **-llä**, **-nna** / **-nnä**, **-rra** / **-rrä**, **-sta** / **-stä** で終わる動詞がタイプ 3 です。

tulla 「来る」、mennä 「行く」、purra 「噛む」、pestä 「洗う」

④ タイプ 4 (haluta-タイプ)

不定詞が(母音+)**-ta** / **-tä** で終わる動詞がタイプ 4 です。

haluta 「望む」、herätä 「目覚める」、pelata 「(ゲームなどを)する」

ポイント 15 — 動詞のタイプ

タイプ 1 (puhua-タイプ)	puhua, sanoa, kysyä, asua 「住む」
タイプ 2 (syödä-タイプ)	juoda, syödä, voida, viedä, tuoda 「持って来る」
タイプ 3 (tulla-タイプ)	tulla, opiskella 「勉強する」, mennä, purra, pestä
タイプ 4 (haluta-タイプ)	haluta, herätä, pelata

6-2. 動詞の現在形（1）

ここでは現在形を作るときの出発点となる現在語幹をまず学習し、その後で人称語尾を学習します。

1) 現在語幹の作り方

- ① タイプ1の動詞では、不定詞から最後の **-a / -ä** を取れば語幹になります。

puhua > puhu-, sanoa > sano, kysyä > kysy-

- ② タイプ2の動詞では最後の2文字 **-da / -dä** を取れば現在語幹となります。

juoda > juo-, syödä > syö-

- ③ タイプ3では最後の2文字である **-la / -lä, -na / -nä, -ra / -rä, -ta / -tä** を取り除き、**e** という音を付け加えます。

tulla > tule-, mennä > mene-, purra > pure-, pestä > pese-

- ④ タイプ4では最後から2文字目の **t** を取り除きます。もちろん最後の **-ta / -tä** を取り除いた後で **a / ä** を加えるという考え方でも構いません。

haluta > halua-, herätä > herää-

2) 人称語尾

語幹ができあがれば、あとは主語に合わせて人称語尾をつけるだけです。すべてのタイプに共通の人称語尾の一覧を上げておきます。3人称複数では「母音調和」の原則に従って2通りの語尾がありますので注意して下さい。

ポイント 16 - 動詞の人称語尾			
minä	-n	me	-mme
sinä	-t	te	-tte
hän	} (母音を伸ばす)	he	} -vat / -vät
tämä		nämä	
tuo		nuo	
se		ne	

現在語幹ができあがれば、それに主語に合わせて人称語尾をつければ出来上がりです。たとえば「私は話す」は、puhua の現在語幹 puhu-に、「私」を表す人称語尾である **-n** を付けるだけです。puhu-n という動詞だけで「私が話す」という意味になります。1人称、2人称の主語はしばしば省略されます。

次の活用表で、タイプ別に動詞の活用を確認して下さい。

①タイプ 1

minä	puhu-n	kysy-n	me	puhu-mme	kysy-mme		
sinä	puhu-t	kysy-t	te	puhu-tte	kysy-tte		
hän	}	puhu-u	he	}	puhu-vat		
tämä			kysy-y			nämä	kysy-vät
tuo						nuo	
se			ne				

②タイプ 2

minä	juo-n	syö-n	me	juo-mme	syö-mme
sinä	juo-t	syö-t	te	juo-tte	syö-tte
hän	juo	syö	he	juo-vat	syö-vät

タイプ 2 の動詞の 3 人称単数では母音を伸ばしません。ですから、現在語幹がそのまま「彼/彼女は食べる」という意味で使えることとなります。

③タイプ 3

minä	tule-n	mene-n	me	tule-mme	mene-mme
sinä	tule-t	mene-t	te	tule-tte	mene-tte
hän	tule-e	mene-e	he	tule-vat	mene-vät

タイプ 3 の動詞では、人称語尾はタイプ 1 の動詞の場合と同じです。

④タイプ 4

minä	halua-n	herää-n	me	halua-mme	herää-mme
sinä	halua-t	herää-t	te	halua-tte	herää-tte
hän	halua-a	herää	he	halua-vat	herää-vät

3 人称単数に注意して下さい。haluta では語幹 halua-の最後の a を伸ばしていますが、herätä では語幹 herää-の最後の ä は伸ばしていません。タイプ 4 の動詞で語幹の最後が -aa ~ -ää となる場合には、3 人称単数ではそれ以上母音を伸ばしません。それ以外の場合には原則通り最後の母音を伸ばします。

文法問題 6-1. 次の動詞を 4 つのタイプ (① puhua-タイプ, ② syödä-タイプ, ③ tulla-タイプ, ④ haluta-タイプ) に分けなさい.

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1) ajaa 「運転する」 | 2) asua 「住む」 |
| 3) myydä 「売る」 | 4) nousta 「起きあがる」 |
| 5) panna 「置く」 | 6) avata 「開ける」 |
| 7) vastata 「答える」 | 8) tuoda 「持って来る」 |
| 9) istua 「座る」 | 10) seisoa 「立つ」 |
| 11) opiskella 「勉強する」 | 12) surra 「悲しむ」 |
| 13) siivota 「掃除する」 | 14) käydä 「行って来る, 訪れる」 |

文法問題 6-2. 次の動詞を 6 つの形に活用させなさい.

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1) maksaa 支払う | 2) rakastaa 愛する |
| 3) uskoa 信じる, 思う | 4) kysyä 尋ねる |
| 5) jäädä 残る | 6) tuoda 持ってくる |
| 7) keskustella 会話する | 8) mennä 行く |
| 9) pestä 洗う | 10) avata 開ける |

文法問題 6-3. () の中の動詞を適切な形に活用させなさい.

- 1) Hän (istua) kapakassa ja (juoda). 彼は酒場で座って飲んでている.
- 2) Me (kävellä) puistossa joka aamu. 私たちは毎朝公園を散歩する.
- 3) Sinä (vastata) aina väärin. あなたはいつも間違った答えをする.
- 4) He (opiskella) hyvin ahkerasti. 彼らは非常に熱心に勉強する.
- 5) Te (matkustaa) paljon. あなた方はよく旅行をする.
- 6) Minä (mennä) ulos joka päivä. 私は毎日外へ行く.

文法問題 6-4. 次の文の主語を複数形にして書き換えなさい.

- 1) Minä asun Helsingissä. 私はヘルシンキに住んでいる.
- 2) Sinä syöt ja juot liian paljon. あなたは飲み過ぎ食べ過ぎだ.
- 3) Hän nousee aina kello 6 aamulla. 彼女はいつも朝 6 時に起きる.
- 4) Minä matkustan Euroopassa. 私はヨーロッパを旅行する.
- 5) Sinä hymyilet hyvin kauniisti. あなたは非常に美しくほほえんでいる.
- 6) Hän käy usein Suomessa. 彼はよくフィンランドを訪れる.

第 7 課 — Seitsemäs kappale

7-1. 数詞 — 基数

7-2. 分格

7-1. 数詞 — 基数

ポイント 17 — 基数			
1 yksi	11 yksi toista	21 kaksi kymmentä yksi	100 sata
2 kaksi	12 kaksi toista	22 kaksi kymmentä kaksi	200 kaksi sataa
3 kolme	13 kolme toista	23 kaksi kymmentä kolme	1,000 tuhat
4 neljä	14 neljä toista	24 kaksi kymmentä neljä	2,000 kaksi tuhatta
5 viisi	15 viisi toista	25 kaksi kymmentä viisi	1,000,000
6 kuusi	16 kuusi toista	26 kaksi kymmentä kuusi	miljoona
7 seitsemän	17 seitsemän toista	27 kaksi kymmentä seitsemän	2,000,000
8 kahdeksan	18 kahdeksan toista	28 kaksi kymmentä kahdeksan	kaksi miljoonaa
9 yhdeksän	19 yhdeksän toista	29 kaksi kymmentä yhdeksän	
10 kymmenen	20 kaksi kymmentä	30 kolme kymmentä	

- ① 「1」～「10」をまず覚えるようにして下さい。
- ② 「11」～「19」では、1の位の数の後ろに **toista** をつけます。
- ③ それ以外は日本語と同じように表現します。ただし「10」、「100」、「1,000」、「1,000,000」を表す **kymmenen, sata, tuhat, miljoona** は、「20, 30」のように前に数詞がつくと、それぞれ **kymmentä, sataa, tuhatta, miljoonaa** と形が変わります。
- ④ 「10,000」は「1,000」が「10 個」あると考え、「100,000」は「1,000」が「100 個」あると考えて表現します。「1,000,000」では miljoona という語を使います。
 $10,000 = \text{kymmenen|tuhatta}$, $100,000 = \text{sata|tuhatta}$
- ⑤ その他に次のような語が使われます。
 $0 = \text{nolla}$, $1/2 = 0.5 = \text{puoli}$ (2分の1), $1\ 1/2 = 1.5 = \text{puolitoista}$ (1と2分の1)
- ⑥ 数詞は長くなっても、100万までは一続きに書くのがふつうです。ここでは区切りの記号を入れておきますが、実際には一続きに書きます。

123,456=sata|kaksi|kymmentä|kolme|tuhatta|neljä|sataa|viisi|kymmentä|kuusi

7-2. 分格

数詞を勉強しましたが、フィンランド語では「1」以外の数詞がつくと、名詞は複数形ではなく単数分格という形になります。

1) 分格の作り方

分格を作るときには階程交替は起こりません。分格は多くの他の格とは違った作り方をしますので注意して学習してください。分格は重要な格です。

① 分格語尾 **-a / -ä**

語幹がひとつの母音で終わっている場合には、**-a / -ä** という語尾をつけます。階程交替は起こりません。

Suomi > 語幹 Suome- > 分格 **Suome-a**

joki > 語幹 joke- > 分格 **joke-a**

② 分格語尾 **-ta / -tä**

語幹の最後に母音が2つ並んでいる場合に、この語尾をつけます。

maa > 語幹 maa- > 分格 **maa-ta**

työ > 語幹 työ- > 分格 **työ-tä**

また単数主格が子音で終わる語では、単数主格に直接この語尾をつけます。

mies > 分格 **mies-tä**

kaunis > 分格 **kaunis-ta**

③ 分格語尾 **-tta / -ttä**

単数主格が **e** で終わり、語幹で **ee** となる語だけは、単数主格に直接この語尾をつけます。

huone > 分格 **huone-tta** (語幹 huonee-)

④ **-nen** → **-s-ta / -s-tä**

-nen で終わる語の語幹は **-se-** になりましたが、分格を作るときには **-s-** となります。そこへ **-ta / -tä** という語尾をつけます。ですから **-nen** で終わる語では **-nen** を **-sta / -stä** に変えて分格を作ると覚えてしまうのがよいでしょう。

suomalainen > 分格 **suomalais-ta**

⑤ 例外

単数主格が **i** で終わり、語幹で **i** が **e** に変化する語がありました。こういう語の中でいくつかの語では、分格を特別な方法で作ります。

suuri > 語幹 suure- > 分格 **suur-ta**

pieni > 語幹 piene- > 分格 **pien-tä**

これらの語では語幹の最後の母音である **e** が消えて、子音のあとに **-ta ~ -tä** という分格語尾をつけてあります。こういう語はそれほど多くはないので、分格の形を覚えておくのが良いと思います。

ポイント 18 - 分格の作り方	
① joki > joke-a	④ suomalainen > suomalais-ta
② maa > maa-ta, kaunis > kaunis-ta	⑤ suuri > suur-ta, pieni > pien-tä
③ huone > huone-tta	

2) 分格の用法

① 数詞 + 名詞の分格

名詞に「1」以外の数詞がつくと、名詞は単数分格の形になります。

{	auto	1 台の自動車
	kaksi auto-a	2 台の自動車

そしてこの「数詞 + 名詞の分格」の形は「2 台の自動車が」という主語の働きと、「2 台の自動車を」という目的語の働きを持っています。

{	Kaksi auto-a ajaa tänne.	2 台の自動車がこちらへやって来る
	Minä ostan kaksi auto-a .	私は 2 台の自動車を買う

「数詞 + 分格」の形が文の主語になっているときには、述語動詞は複数形ではなく単数形になります。

Viisi poika-a **kävelee** metsässä. 5 人の少年が森を歩いている

② 目的語

分格は単独で目的語の働きをします。目的語というのは、ほぼ日本語の「...を」に当たるものだと考えて良いでしょう。

{	Minä puhun suome-a .	私はフィンランド語を話す
	Hän juo kahvi-a .	彼はコーヒーを飲む

③ **mikä** と **kuka** の分格

mikä の分格は **mi-tä**, **kuka** の分格は **ke-tä** となります。

{	Mi-tä sinä syöt?	あなたは何を食べますか
	Minä syön leipä-ä .	私はパンを食べます
{	Ke-tä sinä rakastat?	あなたは誰を愛していますか
	Minä rakastan Matti-a .	私はマッティを愛しています

文法問題 7-1. 計算をなさい.

- 1) Yksi plus kolme on _____ .
- 2) Kuusi plus yhdeksän on _____ .
- 3) Kahdeksantoista miinus seitsemän on _____ .
- 4) Neljäkymmentäviisi miinus kaksikymmentäkaksi on _____ .
- 5) Viisikymmentäkuusi kertaa seitsemänkymmentäkahdeksan on _____ .
- 6) Kolmesataaneljäkymmentäviisi kertaa kuusituhattaseitsemänsataakahdeksantoista on _____ .

文法問題 7-2. ()内の語を分格の形になさい.

- 1) Huoneessa on kaksi (pöytä). 部屋にはテーブルが2つある
- 2) Tässä kaupungissa on neljä (ravintola). この町にはレストランが4つある
- 3) Tuolla on seitsemän (kaunis maljakko). あそこに美しい花瓶が7つある
- 4) Ulkona on yhdeksän (poika) ja yksitoista (tyttö).
外には9人の少年と11人の少女がいる
- 5) Tuossa kylässä on kuusi (pitkä joki) ja kuusitoista (iso järvi).
あの村には長い川が6つ、大きな湖が16ある
- 6) Asunnossa on kaksi (mukava makuuhuone).
住居の中には快適な寝室が2つある
- 7) Hän puhuu (suomi) ja (ruotsi).
彼/彼女はフィンランド語とスウェーデン語を話す
- 8) He syövät nyt (lounas) ravintolassa.
彼らは今レストランで昼食を取っている
- 9) Liisa rakastaa (eräs ulkomaalainen mies). リーサはある外国人の男を愛している
- 10) Minä opiskelen (matematiikka). 私は数学を勉強している
- 11) (Mikä kieli) saamelaiset puhuvat? サーミ人たちは何語を話すのか
- 12) (Kuka) sinä odotat? あなたは誰を待っているのか
- 13) Voinko saada kaksi (suuri ruusu)? 大きなバラを2つもらえますか
- 14) Leena kirjoittaa (kirje) kotona. レーナは家で手紙を書いている
- 15) Ostamme (voi) ja (leipä). 我々はバターとパンを買う

第 8 課 — Kahdeksas kappale

- | |
|---------------|
| 8-1. 値段の表現 |
| 8-2. 時刻の表現 |
| 8-3. 数の表現 |
| 8-4. 基本的な挨拶表現 |

8-1. 値段の表現

値段を尋ねるときには次のように言います。

Kuinka paljon (= Paljonko) lippu maksaa? 切符はいくらですか

Se maksaa viisi markkaa kaksikymmentä penniä. それは 5 マルッカ 20 ペンニです
この例文の中の **Kuinka** は「どのくらい」、**paljon** は「たくさん」という意味ですが、**Kuinka paljon** あるいは **Paljonko** で「どのくらいたくさん」という意味になります。また **maksaa** は「(値段がいくらいくら)する」という意味の動詞です。ですから例文の中の **maksaa** は不定詞ではなく 3 人称単数の形です。主語が複数になれば **maksaa** も複数形 **maksavat** になります。

Kuinka paljon (= Paljonko) nuo kynät maksavat? あれらのペンはいくらですか

Ne maksavat kuusi markkaa kappale. それらは一本につき 6 マルッカです

また **Kuinka paljon (= Paljonko)** の代わりに **Mitä** を使うこともできます。

値段以外にも **Kuinka paljon (= Paljonko)** は物の量を尋ねたいときに使いますが、その次に来る名詞は分格になります。

Kuinka paljon (= Paljonko) rahaa täällä on? ここにはどのくらいのお金があるか

Kuinka paljon (= Paljonko) aikaa vielä on? まだどのくらい時間があるか

8-2. 時刻の表現

時刻の表現を見てください。

Kuinka paljon (= Paljonko = Mitä) kello on? 何時ですか

Se (= Kello) on kolme. 1 時です

例文の中の **Kello** は「時計」という意味がありますが、ここでは「時刻」という意味です。やはり **Kuinka paljon = Paljonko = Mitä** を使っています。

Kello on tasan neljä. 時刻はちょうど 4 時です

Kello on **puoli viisi**. 時刻は 4 時半です

Kello on viisitoista (minuuttia) **yli kuusi**. 時刻は 6 時 15 分過ぎです

Kello on kaksikymmentä (minuuttia) **vaille kuusi**. 時刻は 6 時 20 分前です

Kello on jo **paljon**. 時刻はもう遅い

Kello on vielä **vähän**. 時刻はまだ早い

tasan は「ちょうど、ぴったり」という意味です。4 時半のところに注意してください。フィンランド語では **puoli** 「半分」という語の後に **viisi** 「5」が来ています。つまり我々が「4 時半」と言うときに、フィンランド語では「半分 - 5 時」という言い方をします。ですから「... 時半」と言うときには、一つ多い数字を使ってください。**yli** は「... 過ぎ」、**vaille** は「... 前」を表わしますが、「6 時 15 分過ぎ」であれば **yli** の前に「15 分」を、後に「6 時」を持ってきてください。

また kello + 時刻で「... 時に」という表現になります。

Nousen aamulla **kello viisi**. 私は朝 6 時に起きます

8-3. 数の表現

量を尋ねるときには **Kuinka paljon** = **Paljonko** を使いましたが、物の数を尋ねたいときには **Kuinka monta** = **Montako** 「いくつ」という表現を使います。これらの次に来る名詞は分格になります。

Kuinka monta (= **Montako**) ihmistä luokassa on? 教室には何人の人がいるか

Luokassa on kolmekymmentäviisi ihmistä. 教室には 35 人の人間がいる

ポイント 19 - 値段・時刻・数の表現

Kuinka paljon (= **Paljonko** = **Mitä**) se maksaa? それははいくらですか

Kuinka paljon (= **Paljonko** = **Mitä**) ne maksavat? それらはいくらですか

Se maksaa / Ne maksavat kymmenen markkaa. それ/それらは 10 マルッカです

Kuinka paljon (= **Paljonko** = **Mitä**) kello on? 何時ですか

Kello on yksi. 1 時です

Kello on **puoli kaksi**. 1 時半です

Kello on kaksikymmentä (minuuttia) **yli kaksi**. 2 時 15 分過ぎです

Kello on kaksikymmentä (minuuttia) **vaille kaksi**. 2 時 15 分前です

Kuinka monta (= **Montako**) ihmistä huoneessa on? 部屋には何人の人間がいるか

8-4. 基本的な挨拶表現

基本的な挨拶の表現をまとめておきます。

(Hyvää) huomenta! おはよう (Hyvää) päivää! こんにちは

(Hyvää) iltaa!こんばんは Hyvää yötä! おやすみ、さようなら

これらはどれも分格の形になっていますが、たとえば Hyvää päivää は「良い日をお祈りします」というような意味です。

Hei! やあ

Terve! やあ

これらをもっとも一般的な挨拶かもしれません。分かれるときにも使えますが、Hei hei!、Terve terve!と繰り返して言ったりもします。

Tervetuloa! ようこそ

Hauska tutustua. お会いできてうれしい

Onneksi olkoon! おめでとう

- { Mitä kuuluu? 調子はどうですか
- { Kiitos hyvää. ありがとう、順調です
- { Kiitos, ei erikoista. ありがとう、とくに変わったことはありません
- { Kiitos. ありがとう
- { Kiitoksia paljon. どうもありがとう
- { Ei (pä) kestä. どういたしまして

Tuhannet kiitokset 「本当にありがとう(千個の感謝)」などという表現もあります。

- { Ole hyvä. どうぞ(一人の相手に対して)
- { Olkaa hyvät. どうぞ(二人以上の相手に対して)
- { Ei kiitos. いいえ、けっこうです

人に何かをあげたり、あるいは道を譲ってあげたりしたときに Kiitos と言われた場合には、Ole hyvä/Olkaa hyvät と答えることが多いようです。

- { Anteeksi! すみません
- { Ei se mitään. 大丈夫です(何でもありませんよ)
- { Mikä päivä tänään/huomenna on? 今日は/明日は何曜日ですか
- { Tänään/huomenna on maanantai. 今日は/明日は月曜日です

Kippis! 乾杯

Nähdään! さようなら(また会いましょう)

Näkemiin! さようなら

文法問題 8-1. 次の語を使って値段を尋ねなさい

- 1) postimerkki 切手
- 2) postikortti 葉書
- 3) menolippu 片道切符
- 4) menopaluulippu 往復切符
- 5) tuo punainen takki あの赤いジャケット
- 6) tämä sininen hame この赤いスカート
- 7) kengät 靴 (複数形)
- 8) housutズボン (複数形)

文法問題 8-2. 次の時刻をフィンランド語で言いなさい

- 1) 3時です
- 2) 16時です
- 3) ちょうど5時です
- 4) ちょうど18時です
- 5) 3時半です
- 6) 19時半です
- 7) 6時20分過ぎです
- 8) 9時20分前です

文法問題 8-3. ()に適切なフィンランド語を補いなさい

- 1) () () tuo valkoinen ruusu maksaa? あの白いバラはいくらか
- 2) () nuo keltaiset ruusut maksavat? あれらの黄色いバラはいくらか
- 3) () () kello on? 何時か
- 4) () () suomalaista on kaupassa? 店には何人のフィンランド人がいるか

文法問題 8-4. 次の挨拶や質問に答えなさい

- 1) Mitä kuuluu?
- 2) Kiitos.
- 3) Ole hyvä.
- 4) Anteeksi.
- 5) Mikä päivä tänään on?

第 9 課 — Yhdesäs kappale

- | |
|-----------------|
| 9-1. 出格と奪格・向格 |
| 9-2. 入格 |
| 9-3. 場所格のまとめ |
| 9-4. 基本的な疑問詞(2) |

9-1. 出格と奪格・向格

3 課で説明した 6 つの場所格のうち、残りの 4 つの形を学習します。入格だけは作り方に少し違いがあるので、まず出格と奪格・向格をまとめて扱います。

出格は内格に対応し「...(の中)から」という意味を持つ形です。出格の語尾は **-sta/-stä** です。奪格と向格は接格に対応し、それぞれ「...(の表面)から」、「...(の表面)へ」という意味を表します。奪格語尾は **-lta/-ltä**、向格語尾は **-lle** です。これら 3 つの格の作り方は、すでに学習した内格や接格とまったく同じです。4 課で学習した「語幹」における音の変化、5 課で扱った階程交替に注意してください。

ポイント 19 — 出格と奪格・向格

出格 = -sta / -stä	Suome-sta, joe-sta, työ-stä, huonee-sta
奪格 = -lta / -ltä	tuoli-lta, pöydä-ltä
向格 = -lle	tuoli-lle, pöydä-lle

Hän asuu Suome-ssa. [内格] 彼/彼女はフィンランドに住んでいる

Hän tulee Suome-sta. [出格] 彼/彼女はフィンランドから来る

Matti ui joe-ssa. [内格] マッティは川で泳いでいる

Matti tulee pois joe-sta. [出格] マッティは川の中から来る

Kissa istuu pöydä-llä. [接格] 猫はテーブルの上で座っている

Kissa hyppää pois pöydä-ltä. [奪格] 猫はテーブルの上から飛び降りる

Kissa hyppää pöydä-lle. [向格] 猫はテーブルの上へ飛び乗る

Koira on tuoli-lla. [接格] 犬は椅子の上にいる

Koira hyppää pois tuoli-lta. [奪格] 犬は椅子の上から飛び降りる

Koira hyppää tuoli-lle. [向格] 犬は椅子の上へ飛び乗る

9-2. 入格

入格は内格・出格とグループを作り、「...(の中)へ」という意味を持つ形です。ただし作り方が他の格とは少し違っているので気をつけて下さい。

まず入格では階程交替が起こりません。また入格の語尾にはいくつかの種類があり、語幹がどのような形なのかによって使い分けます。この点で入格は分格と似ています。

入格の作り方を3つに分けて学習しますが、入格の作り方の基本は「母音を伸ばして **n** をつける」ということです。

① 語幹の最後の母音を伸ばして **n** をつけます

語幹が長母音や二重母音ではなく、ひとつの母音で終わっている場合には、その母音を伸ばして **n** をつけると入格の形になります。

Suomi > 語幹 Suome- > 入格 Suome-**en** フィンランドへ

eteinen > 語幹 eteise- > 入格 eteise-**en** 玄関へ

また入格を作る場合には階程交替が起こりません。

kirkko > 語幹 kirkko- > 入格 kirkko-**on** (内格 kirkko-**ssa**)

joki > 語幹 joke- > 入格 joke-**en** (内格 joke-**ssa**)

② 長母音や二重母音で終わる1音節の語では、**h** をつけてから母音を伸ばして **n** をつけます(長母音、二重母音については5, 6ページ参照)。

maa > 語幹 maa- > 入格 maa-**han** 国へ

työ > 語幹 työ- > 入格 työ-**hön** 仕事へ

-tai という形で終わる keskiviikko「水曜日」以外の曜日についても、同じように入格を作ります。「...曜日まで」という意味になります。

maanantai > 語幹 maanantai- > 入格 maanantai-**hin** (keskiviikko-**on**)

③ 2音節以上の語で、語幹が長母音で終わる場合には**-seen**という語尾をつけます。これに該当するのは今のところ **e** で終わる語だけです。

huone > 語幹 huonee- > 入格 huonee-**seen** 部屋の中へ

ポイント 20 - 入格

① 母音 + n	Suomi > Suome-en, joki > joke-en
② h + 母音 + n	maa > maa-han, työ > työ-hön, maanantai > maanantai-hin
③ -seen	huone > huonee-seen

9-3. 格のまとめ

作り方からすると、分格と入格以外は必ず同じ語幹を使い、ただ語尾が異なっているだけです。分格と入格では階程交替が起こらないという違いがあり、また語尾に複数の種類があります。kirkko「教会」と joki「川」では階程交替の現れかを確認してください。kieli「言語」、huone「部屋」では分格だけ特別な作り方をしています。分格と入格にはいくつかの語尾がありますので、やはり確認をしてください。

主格	talo	kirkko	joki	kieli	maa	työ	huone
属格	talo-n	kirko-n	joe-n	kiele-n	maa-n	työ-n	huonee-n
分格	talo-a	kirkko-a	joke-a	kiel-tä	maa-ta	työ-tä	huone-tta
内格	talo-ssa	kirko-ssa	joe-ssa	kiele-ssä	maa-ssa	työ-ssä	huonee-ssa
出格	talo-sta	kirko-sta	joe-sta	kiele-stä	maa-sta	työ-stä	huonee-sta
入格	talo-on	kirkko-on	joke-en	kiele-en	maa-han	työ-hön	huonee-seen
接格	talo-lla	kirko-lla	joe-lla	kiele-llä	maa-lla	työ-llä	huonee-lla
奪格	talo-lta	kirko-lta	joe-lta	kiele-ltä	maa-lta	työ-ltä	huonee-lta
向格	talo-lle	kirko-lle	joe-lle	kiele-lle	maa-lle	työ-lle	huonee-lle
複・主	talo-t	kirko-t	joe-t	kiele-t	maa-t	työ-t	huonee-t

9-4. 基本的な疑問詞(2)

missä は「どこで/に」という意味の疑問詞でしたが、**mistä** は「どこから」、**mihin** と **minne** は「どこへ」という意味です。**milloin** は「いつ」、**kuinka** と **miten** は「どのように、どうやって」、そして **miksi** は「なぜ」という意味です。

ポイント 21 - 基本的な疑問詞(2)	
Missä sinä asut?	あなたはどこに住んでいますか
Mistä hän tulee?	彼-彼女はどこから来るのか
Mihin te menette?	あなたたちはどこへ行くのか
Minne me menemme?	私たちはどこへ行くのか
Milloin sinä nouset aamulla?	あなたは朝いつ起きますか
Kuinka (=Miten) matkustat Suomeen?	どのようにフィンランドへ旅行しますか
Miksi he eivät ole kotona?	なぜ彼らは家にいないのか

文法問題 9-1. ()内の語を指示された形に直しなさい.

- 1) Hän ui (joki). [内格] 彼は川で泳いでいる.
- 2) Hän nousee pois (joki). [出格] 彼は川から上がる.
- 3) Hän hyppää taas (joki). [入格] 彼は再び川へ飛び込む.
- 4) Minä olen (työ) pankissa. [内格] 私は銀行で仕事をしている.
- 5) Tulen (työ) kotiin kello 19. [出格] 私は仕事から 19 時に家へ戻る.
- 6) Menen (työ) aina Leenan kanssa. [入格] 私はいつもレーナと仕事へ行く.
- 7) He istuvat (olohuone). [内格] 彼らは居間で座っている.
- 9) Äiti kutsuu (olohuone). [出格] 母は居間から呼ぶ.
- 9) Isä vastaa (olohuone). [入格] 父は居間へ向かって返事をする.
- 10) Pekka seisoo (asema). [接格] ペッカは駅で立っている.
- 11) Juna lähtee (asema). [奪格] 列車は駅から出る.
- 12) Liisa kävelee (asema). [向格] リーサは駅へ歩いている.
- 13) Kissa on (matto). [接格] 猫はマットの上にいる.
- 14) Kissa tulee (matto). [奪格] 猫がマットの上からやって来る.
- 15) Kissa menee (matto). [向格] 猫はマットの上へ行く.
- 16) Matti kävelee (katu). [接格] マッティは通りを歩いている.
- 17) Matti menee (katu) kauppaan. [奪格] マッティは通りから店へ入る.
- 19) Matti tulee kaupasta (katu). [向格] マッティは店から通りへ出てくる.

文法問題 9-2. ()内に適切な疑問詞を入れなさい.

- 1) () nouset aamulla? 朝は何時に起きますか
- 2) () haluat matkustaa Japaniin? 日本へはどのように旅行したいですか
- 3) () sinä olet kotoisin? あなたはどこ出身ですか
- 4) () rakastat tuollaista tyhmää miestä? なぜあんな愚かな男を愛するのか
- 5) () he matkustavat kesällä? 彼らは夏はどこに旅行するのか
- 6) () olet tulossa? あなたはどこから来たところか
- 7) () koira ja kissa nukkuvat? 犬と猫はどこで寝ているのか
- 9) () uusi sanakirja ilmestyy? 新しい辞書はいつ出るのか
- 9) () voin oppia suomea? どうしたらフィンランド語を習得できるか
- 10) () et tule työhön? なぜあなたは仕事へ来ないのか

第 10 課 – Kymmenes kappale

- 10-1. 動詞の現在形 (2) – 否定形
 10-2. 疑問文の作り方と答え方 (2)
 10-3. 接続詞 (1)

10-1. 動詞の現在形 (2) – 否定形

動詞の否定形は、2 課で学習した動詞 olla の場合と同じように、主語によって活用する否定動詞と、6 課で学習した語幹を組み合わせで作ります。

ポイント 22 – 現在否定形					
minä	en	} + {			(puhua 「話す」 = タイプ 1 の動詞)
sinä	et			puhu	(syödä 「食べる」 = タイプ 2 の動詞)
hän	ei			syö	(tulla 「来る」 = タイプ 3 の動詞)
me	emme			tule	(haluta 「目覚める」 = タイプ 4 の動詞)
te	ette			halua	
he	eivät				

10-2. 疑問文の作り方と答え方 (2)

文の動詞が olla 以外の場合でも、疑問文はふつう動詞に **-ko/-kö** をつけて文頭に置くことによって作ります。

Sinä puhut suomea.	あなたはフィンランド語を話す
Puhut-ko sinä suomea?	あなたはフィンランド語を話しますか
Te syötte kalaa.	あなたたちは魚を食べる
Syötte-kö te kalaa?	あなたたちは魚を食べますか
Hän ei asu Turussa.	彼はトゥルクに住んではない
Ei-kö hän asu Turussa?	彼はトゥルクに住んでいないのですか
He eivät tule tänään.	彼らは今日は来ない
Eivät-kö he tule tänään?	彼らは今日は来ないのですか
Minä en saa lähteä.	私は出かけてはならない
En-kö minä saa lähteä?	私は出かけてはいけませんか

答えるときには、肯定の返事であれば動詞の肯定形で、否定の答えであれば否定動詞で答えます。

{	Asut-ko sinä Helsingissä?	あなたはヘルシンキに住んでいますか
	Asun.	はい、住んでいます
{	En (asu).	いいえ、住んでいません
	Ei-kö hän asu Turussa?	彼はトゥルクに住んでいないのですか
{	Asuu.	いいえ、住んでいます
	Ei (asu).	はい、住んでいません

また -ko/-kö は動詞以外につけることもできます。

{	Asut-ko sinä Helsingissä?	あなたはヘルシンキに住んでいるのですか
	Helsingissä-kö sinä asut?	あなたが住んでいるのはヘルシンキなのですか
{	Matkustat-ko sinä Suomeen?	あなたはフィンランドへ旅行するのですか
	Suomeen-ko sinä matkustat?	あなたが旅行するのはフィンランドですか
{	Rakastat-ko sinä Pekkaa?	あなたはペッカを愛しているのですか
	Pekkaa-ko sinä rakastat?	あなたが愛しているのはペッカなのですか

動詞以外に -ko/-kö がついた質問に肯定の返事をする場合には、-ko/-kö のついた語を繰り返すか、Niin 「そうだ」と答えるのがふつうです。

{	Suomea-ko sinä puhut?	あなたが話しているのはフィンランド語ですか
	Suomea./Niin.	はい、そうです

10-3. 接続詞 (1)

すでに ja 「そして」、mutta 「しかし」は出てきましたが、ここではいくつかの重要な接続詞について、主要な働きを解説します。

① **enkä, etkä, eikä, emmekä, ettekä, eivätkä**

ここに上げた形は否定動詞に -kä のついた形です。-kä は否定動詞に結びついて「そして」という接続詞の働きをします。

Minä en laula **enkä** tanssi. 私は歌わないし踊りもしない。

「～ではなくて」と、後ろから訳すとうまくいく場合もあります。

Eikö se ole tiikeri **eikä** kissa? それは猫ではなく虎ではないのか。

また相手の言ったことを強く否定する場合にも使われます。

Minä olen tyhmä. 私はバカだ。 — **Etkä** ole! そんなことはない!

② **tai** あるいは、どちらか

Jari **tai** Sami tulee huomenna. ヤリかサミのどちらかが明日来る。

③ **vai** (原則として疑問文で使われ) それとも

Onko se koira **vai** susi? それは犬か、それとも狼か。

Tuletko tänään **vai** huomenna? あなたは今日来ますか、明日来ますか。

④ **vaan** ~ではなくて

否定文に続いて使われる **vaan** は「...ではなくて」という働きをします。

Hän ei tule tänään **vaan** huomenna. 彼/彼女は今日ではなくて明日来る

⑤ **kun** ~ ~の時に, ~している間に

kun は「~の時に」という意味で使われるのが最も一般的です。

Kun kesäloma alkaa, hän lähtee maalle.

= Hän lähtee maalle, **kun** kesäloma alkaa.

夏休みが始まると、彼は田舎へ出かける。

kun には「~なので」という、理由を表す働きもあります。

Kun koti on köyhä, hän ei pääse kouluun.

= Hän ei pääse kouluun, **kun** koti on köyhä.

家が貧しいので彼/彼女は学校へ行くことができない。

⑥ **jos** ~ もし~なら

Jos hän ei ole huoneessa, hän on varmaan ruokalassa.

= Hän on varmaan ruokalassa, **jos** hän ei ole huoneessa.

もし彼/彼女が部屋にいないのなら、きっと彼女は食堂にいます。

⑦ **vaikka** ~だけれども, たとえ~でも

Vaikka hän on köyhä, hän on onnellinen.

= Hän on onnellinen, **vaikka** hän on köyhä.

彼/彼女は貧しいけれども幸福である。

⑧ **kuin**

「...と同じ、...とは違う」などという表現で、比較の対象を表すのが **kuin** の重要な働きです。

Asun samassa hotellissa **kuin** sinä. 私はあなたと同じホテルに泊まっている

Olet samanlainen (erilainen) **kuin** Leena. あなたはレーナと同じ(違う)ようだ
また ennen kuin ...で「...する前に」という意味になります。

Syön ennen **kuin** alan opiskella. 私は勉強を始める前に食事をする

文法問題 10-1. 次の文を否定文に書き換えなさい.

- 1) Minä asun Suomessa. 私はフィンランドに住んでいる
- 2) Sinä tulet Ruotsista Suomeen. あなたはスウェーデンからフィンランドへ来る
- 3) Hän menee Suomesta Venäjälle. 彼/彼女はフィンランドからロシアへ行く
- 4) Me syömme ravintolassa. 我々はレストランで食事をする
- 5) Te käytte kirjakaupassa. あなた方は本屋へ行って来る
- 6) He heräävät kello 6. 彼らは6時に目を覚ます

文法問題 10-2. 文法問題 10-1.の問題文と解答の両方を疑問文に書き換えなさい.

文法問題 10-3. 例にならって「はい」、「いいえ」と答えなさい.

(例) Asutko sinä Helsingissä? - $\left\{ \begin{array}{l} \text{Asun.} \\ \text{En.} \end{array} \right.$

- 1) Haluatko sinä matkustaa Eurooppaan? あなたはヨーロッパへ旅行したいか
- 2) Tuleeko hän tänään kouluun? 彼/彼女は今日は学校へ来るか
- 3) Istutteko te aina kapakassa? あなた方はいつも酒場で座っているのか
- 4) Juovatko he aina niin paljon? 彼らはいつもそんなにたくさん飲むのか
- 5) Olenko minä oikeassa? 私は正しいか
- 6) Menemmekö me huomenna työhön? 我々は明日仕事へ行くのか

文法問題 10-4. ()内に適切な語を入れなさい.

- 1) Hän on yhtä vanha () minäkin. 彼女は私と同じくらい年を取っている
- 2) Hän ei syö () juo. 彼/彼女は食べも飲みもしない
- 3) Minä opiskelen () () alan syödä lounasta. 私は昼食を食べる前に勉強する
- 4) Voit tulla () haluat. もし来たいのなら来てもよい
- 5) Juotko teetä () kahvia? お茶を飲むか、それともコーヒーを飲むか
- 6) Juotko teetä () kahvia? お茶かコーヒーでも飲むか
- 7) Menen meren rannalle, () on kaunis ilma. 良い天気の時私は海岸へ行く
- 8) Olemme kirjastossa () teatterissa. 我々は図書館か、あるいは劇場にいる
- 10) Hän menee työhön, () hän on sairas. 彼/彼女は病気だが仕事へいく
- 10) En rakasta Pekkaa () Harria. 私はペッカではなくハッリを愛している

第 11 課 — Yhdestoista kappale

11-1. *mikä* と指示代名詞の変化・まとめ(1)

11-2. *kuka* と人称代名詞の変化・まとめ(1)

11-3. 特別な変化をする名詞・形容詞

代名詞は使われる頻度の高い重要な品詞ですが、活用には不規則なところがずいぶんあります。それぞれの語幹をしっかりと学習して、少しずつ覚えていくことになります。

11-1. *mikä* と指示代名詞の変化・まとめ(1)

ポイント 23 — <i>mikä</i> と指示代名詞の変化(1)				
単数主格	<i>mikä</i>	<i>tämä</i>	<i>tuo</i>	<i>se</i>
属格	<i>mi-n-kä</i>	<i>tämä-n</i>	<i>tuo-n</i>	<i>se-n</i>
分格	<i>mi-tä</i>	<i>tä-tä</i>	<i>tuo-ta</i>	<i>si-tä</i>
内格	<i>mi-ssä</i>	<i>tä-ssä</i>	<i>tuo-ssa</i>	<i>sii-nä</i>
出格	<i>mi-stä</i>	<i>tä-stä</i>	<i>tuo-sta</i>	<i>sii-tä</i>
入格	<i>mi-hin</i>	<i>tä-hän</i>	<i>tuo-hon</i>	<i>sii-hen</i>
接格	<i>mi-llä</i>	<i>tä-llä</i>	<i>tuo-lla</i>	<i>si-llä</i>
奪格	<i>mi-ltä</i>	<i>tä-ltä</i>	<i>tuo-lta</i>	<i>si-ltä</i>
向格	<i>mi-lle</i>	<i>tä-lle</i>	<i>tuo-lle</i>	<i>si-lle</i>
複数主格	<i>mi-t-kä</i>	<i>nämä</i>	<i>nuo</i>	<i>ne</i>

- ① ***mikä*** の語幹は多くの場合 ***mi-*** となり ***-kä*** は消えてしまいます。ただし属格と複数主格では ***mi-*** と ***kä-*** の間に語尾がつき、それぞれ ***mi-n-kä***, ***mi-t-kä*** となります。 *missä* は「どこで/に」、*mistä* は「どこから」、*mihin* は「どこへ」という意味で使われますので特に重要です。
- ② ***tämä*** の語幹は ***tä-*** となっていますが、属格だけは ***tämä-*** に語尾がつきます。
- ③ ***tuo*** はそのまま語幹となっています。
- ④ ***se*** は属格ではそのまま語幹となります。内格・出格・入格では ***sii-*** となりま

すが、さらに語尾が不規則な形になりますので、この3つはぜひ暗記する必要があります。それ以外の格では語幹は **si-** となっています。

- ⑤ 「どこで、どこに」と聞くときには **missä** を、「どこから」と聞くときには **mistä** を使います。「どこへ」と聞くときには **mihin** あるいは **minne** という語を使います。これらの意味で **millä, miltä, mille** は使いません。
- ⑥ 指示代名詞の内格・出格・入格は文字通り「この中で、この中から、この中へ」というような意味以外に、比較的狭い場所を指して「ここで、ここから、ここへ」というような意味で使われることもあります。たとえば鞆を持って「この中には辞書が入っている」と言いたいときにはもちろん **tässä** を使って **Tässä on sanakirja.** と言いますが、机の上の辞書を指差して「ここに辞書がある」と言いたいときにも **Tässä on sanakirja.** と言います。

11-2. kuka と人称代名詞の変化・まとめ(1)

ポイント 24 - kuka と人称代名詞の変化(1)							
主格	kuka	minä	sinä	hän	me	te	he
属格	kene-n	minu-n	sinu-n	häne-n	meidä-n	teidä-n	heidä-n
分格	ke-tä	minu-a	sinu-a	hän-tä	mei-tä	tei-tä	hei-tä
内格	kene-ssä	minu-ssa	sinu-ssa	häne-ssä	mei-ssä	tei-ssä	hei-ssä
出格	kene-stä	minu-sta	sinu-sta	häne-stä	mei-stä	tei-stä	hei-stä
入格	kene-en	minu-un	sinu-un	häne-en	mei-hin	tei-hin	hei-hin
接格	kene-llä	minu-lla	sinu-lla	häne-llä	mei-llä	tei-llä	hei-llä
奪格	kene-ltä	minu-lta	sinu-lta	häne-ltä	mei-ltä	tei-ltä	hei-ltä
向格	kene-lle	minu-lle	sinu-lle	häne-lle	mei-lle	tei-lle	hei-lle

- ① **kuka** の語幹は分格では **ke-**、それ以外では **kene-** となります。
- ② **minä** と **sinä** の語幹は **minu-**、**sinu-** となります。
- ③ **hän** の語幹は分格では **hän-**、それ以外では **häne-** となります。
- ④ **me, te, he** の語幹は属格では **meidä-, teidä-, heidä-** となりますが、それ以外の格では **mei-, tei-, hei-** となります。
- ⑤ 「誰に、誰から、誰へ」などというように、場所ではなく人間に関する表現をするときには接格・奪格・向格のグループを使うのがふつうです。特に接格については15課で取り上げますので、そこであらためて学習します。

11-3. 特別な変化をする名詞・形容詞

① aika「時」と poika「少年、息子」

この2つの語は、階程交替が起こって k が消えたときに aia-、poia-となるはずですが、母音には含まれた i が j に変化して **aja-**、**poja-**となります。それ以外は特に不規則なところはありません。

Juna lähtee ajassa. 列車は時間どおりに出発する

Pojan nimi on Mikko. 少年の名前はペッカという

② kevät、mies、sisar、veli、sydän、lämmin、tytär

これらの語は語幹を覚える必要があります。意味の上で重要なものばかりですので、注意して頭に入れてください。veli 以外は子音で終わる語ですので、分格だけは単数主格に -ta/-tä をつけて作ります。

	語幹	分格
kevät 「春」	kevää-	kevät-tä
mies 「男、夫」	miehe-	mies-tä
veli 「兄、弟」	velje-	velje-ä
sisar 「姉、妹」	sisare-	sisar-ta
sydän 「心、心臓」	sydäme-	sydän-tä
tytär 「娘」	tyttäre-	tytär-tä
lämmin 「暖かい」	lämpimä-	lämmin-tä

Matkustan **keväällä** Espanjaan. 春にスペインへ旅行する

Miehet ovat ulkona. 男たちは外にいる

Minulla on kaksi **veljeä**. 私には兄弟が2人いる

'Lanko' on puolison veli tai **sisaren** mies. 'lanko' (「義理の兄弟」) というのは配偶者の兄弟か、あるいは姉や妹の夫のことを指す

Nuoli osuu karhun **sydämeen**. 矢は熊の心臓に命中する

Talon **tyttäret** tanssivat lavalla. 家の娘たちは舞台上で踊っている

Istumme sisällä **lämpimässä**. 我々は屋内の暖かい中で座っている

文法問題 11-1. mikä を適切な形に直して()の中に入れなさい。

- 1) () sinä etsit? - Etsin lompakkoa. 何を捜しているのかー財布を捜している
- 2) () olet menossa? - Olen menossa kotiin. どこへ行くのかー家へ帰るところだ
- 3) () asemalta hän lähtee? どの駅から彼/彼女は出かけるのか
- 4) () asemalle hän saapuu? どの駅へ彼/彼女は到着するのか
- 5) () maasta olet kotoisin? どちらの国の出身ですか
- 6) () maan pääkaupunki on Oslo? オスロはどの国の首都か

文法問題 11-2. kuka を適切な形に直して()の中に入れなさい。

- 1) () tämä sähköposti on? - Se on Leenalta. このメールは誰からかーレーナからだ
- 2) () tämä kirje on? - Se on Pekalle. この手紙は誰宛かーペッカ宛だ
- 3) () sinä etsit? - Etsin Mattia. 誰を捜しているのかーマッティを捜している
- 4) () tuo tietokone on? - Se on Annan. あのコンピュータは誰のかーアンナの

文法問題 11-3. ()内の語を適切な形に直しなさい。

- 1) Takki on (tuo) tuolilla. 上着はあの椅子の上だ
- 2) Onko sanakirja (se) laukussa? 辞書はその鞆の中か
- 3) En osta (tämä) hattua. 私はこの帽子は買わない
- 4) (tämä) luokassa on kaksikymmentäviisi oppilasta. この教室には25名の学生がいる
- 5) Joku tulee (se) huoneesta. 誰かがその部屋の中からやって来る
- 6) Joku menee (tuo) huoneeseen. 誰かがあの部屋の中へ行く

文法問題 11-4. ()内の語を適切な形に直しなさい。

- 1) (kuka) sinä rakastat? - Minä rakastan (sinä). 誰を愛しているのかーあなたをだ
- 2) Keneltä tämä lahja on? - Se on (hän). この贈り物は誰からかー彼/彼女からだ
- 3) Kenelle sinä puhut? - Minä puhun (he). 誰に話しているのかー彼らにだ
- 4) Kenen tuo kynä on? - Se on (minä). あのペンは誰のだー私のだ

文法問題 11-5. 次の語を指示された形に活用させなさい。

- 1) aika[属格] 2) poika[接格] 3) kevät[入格] 4) mies[向格]
- 5) sisar[複数主格] 6) veli[奪格] 7) sydän[出格] 8) lämmin[接格]
- 9) tytär[向格]

第 12 課 — Kahdestoista kappale

12-1. 目的語 (1)

12-2. kuka と人称代名詞の対格

12-3. 副詞-sti

12-1. 目的語 (1)

フィンランド語には目的語を表す格が 2 つあります(日本語の「...を」に相当するのが目的語だと思っていいでしょう)。1 つは分格で、もう 1 つを対格と呼びます。原則として対格は単数では属格と、そして複数では主格と同じ形です。つまり、単数属格には「~の」という働きに加えて「~を」の働きもあり、複数主格には「~たちは」という働きと「~たちを」という働きがあるということです。ですから対格という名前は、今まで学習したような特別な語尾を持った格のことを言うのではなく、分格の形ではない目的語の総称だと考えて下さい。

それでは分格の目的語と対格の目的語をどのように使い分けるかですが、これは非常に難しい問題です。ですから、極端な言い方をすれば「フィンランド語には目的語になる格が 2 つある」ということを知っていればとりあえずは十分だ、と考えてもよいと思います。この問題を完全に習得しなければ先へ進むことができない、ということではありませんし、この問題に頭を悩ましすぎるよりは他のことをたくさん学習した方がよいと思います。ここでは目的語が単数の場合だけ取り上げます。

① 否定文の目的語は必ず分格

フィンランド語を母語としない私達でも、この原則は覚えておけるでしょう。

{ Hän ostaa auto-n. 彼は自動車を買う
Hän ei osta auto-a. 彼は自動車を買わない [否定文一分格]

したがって、分格と対格が問題になるのは肯定文の場合だけです。

② 動詞が「未完了」のことを表していれば、目的語は分格

たとえば「探す」という動詞の表す行為は、「探したら探し終わる」というものではありませんので、それ自体は終わりのない未完了な行為です。それに対して「発見する」という動詞の表す行為は発見したときに終わってしまい、つまり

完了してしまいます。また「待つ」というような動詞も「待ったので待ち終えた」と言えるような完了することを表す動詞ではありません。

ここで説明した動詞のうち「探す」や「待つ」のように、それ自体は未完了な事柄を表す動詞の目的語は分格になります。

Hän etsii **Liisa-a**. 彼/彼女はリーサを探している

Hän odottaa **Liisa-a**. 彼/彼女はリーサを待っている

③ 目的語の表す内容のすべてが影響を受けるのであれば、目的語は分格

たとえば「買う」という動詞を、「自動車を買う」という文で使った場合には、自動車1台まるごと買うことを意味します。それに対して「牛乳を買う」という場合には、牛乳自体が定まった形のないものですから、あくまでも買うのは牛乳の一部だけです。このように一部分だけに動詞の表す行為が影響する場合には、目的語が分格になります。逆に「自動車」のように「買う」という行為が、それ全体に及ぶ場合には目的語が対格(単数では属格の形)になります。液体など定まった形のないものは分格になると考えてよいでしょう。

{ Minä ostan **maito-a**. 私は牛乳を買う [分格]
Minä ostan **auto-n**. 私は自動車を(1台)買う [対格=属格]

④ 感情を表す動詞の目的語は分格

次のような感情や感情的な意見を表す動詞は分格の目的語を取ります。

rakastaa 「愛する」 vihata 「憎む、嫌う」 ihailta 「称賛する」

pelätä 「恐れる」 valittaa 「不満である」

Minä rakastan **sinu-a**. 私はあなたを愛している [分格]

⑤ 目的語についての考え方

ここまでで説明してきたように、目的語が対格になるにはさまざまな条件が整わなければならないので、目的語の最も一般的な格は分格だと考えてよいでしょう。とにかく目的語になる形が2つある、ということだけはしっかりと覚えておきましょう

ポイント 25 - 目的語

- ① 目的語(「...を」)になる格は分格と対格
- ② 単数では属格(-n)が対格の働きを、複数では主格(-t)が対格の働きをする
- ④ 否定文の目的語は必ず分格になる
- ⑤ 感情を表す動詞の目的語は分格になる
- ⑥ 分格が目的語の最も一般的な形

12-2. 人称代名詞と疑問詞 **kuka** の対格

対格は単数では属格と、複数では主格と同じ形だということを勉強しましたが、人称代名詞と疑問詞の **kuka** (単数) だけは属格とは別に、**-t** という語尾のついた特別な対格の形を持っていますので、覚える必要があります。

ポイント 26 - kuka と人称代名詞の対格							
主格	minä	sinä	hän	me	te	he	kuka
分格	minu-a	sinu-a	hän-tä	mei-tä	tei-tä	hei-tä	ke-tä
属格	minu-n	sinu-n	häne-n	meidä-n	teidä-n	heidä-n	kene-n
対格	minu-t	sinu-t	häne-t	meidä-t	teidä-t	heidä-t	kene-t

- Haluan tavata **opettaja-n**. [対格 = 単数属格]
私は先生に会いたい
- Haluan tavata **häne-t**. [対格 = t-対格]
私は彼/彼女に会いたい
- Haluan tavata **opettaja-t**. [対格 = 複数主格]
私は先生たちに会いたい
- Haluan tavata **heidä-t**. [対格 = t-対格]
私は彼らに会いたい

これらの例文で **opettaja** の対格は単数では属格 **opettajan** と同じ形、複数では主格 **opettajat** と同じ形です。それに対して **hän** の対格は **häne-t**、**he** の対格は **heidä-t** という、**-t** という語尾を持つ特別な形です。

12-3. 副詞 **-sti**

形容詞は「速い列車」の「速い」のように名詞を修飾できますが、ここで問題になる副詞は「速く走る」の「速く」のように動詞を修飾することのできる品詞です。多くの形容詞に **-sti** をつけることによって副詞を作ることができます。**-sti** は内格や接格の語尾と同じように語幹につけます。

- nopea** 「速い」 > **nopea-sti** 「速く」
- vapaa** 「自由な」 > **vapaa-sti** 「自由に」
- tavallinen** 「ふつうの」 > **tavallise-sti** 「ふつうは」
- helppo** 「簡単な」 > **helppo-sti** 「簡単に」
- tarkka** 「正確な」 > **tarka-sti** 「正確に」

文法問題 12-1. 次の文を否定文に書き換えなさい(目的語に注意)。

- 1) Haluan saksalaisen auton. 私はドイツ製の自動車がほしい
- 2) Haluan suomalaisen tietokoneen. 私はフィンランド製のコンピュータがほしい
- 3) Haluan meksikolaista kahvia. 私はメキシコ産のコーヒーがほしい
- 4) Haluan ostaa japanilaisen digitaalikameran. 私は日本製のデジタルカメラを買いたい
- 5) Haluan ostaa suuren sanakirjan. 私は大きな辞書を買いたい
- 6) Haluan ostaa intialaista teetä. 私はインド産の紅茶を買いたい

文法問題 12-2. 次の文を肯定文に書き換えなさい(目的語に注意)

- 1) En halua valkoista pöytää. 私は白いテーブルはほしくない
- 2) En halua punaista ruusua. 私は赤いバラはほしくない
- 3) En halua keltaista limsaa. 私は黄色い清涼飲料水はほしくない
- 4) En halua ostaa sinistä polkupyörää. 私は青い自転車は買いたくない
- 5) En halua ostaa vihreää laukkua. 私は緑色の鞆は買いたくない
- 6) En halua ostaa leipää. 私はパンは買いたくない

* pöytä, ruusu, polkupyörä, laukku は定まった形を持っていますが, limsa「清涼飲料水」と leipä「パン」は定まった形を持っていません.

文法問題 12-3. ()内の語(句)を適切な形に直しなさい

- 1) Huomenna kutsun (presidentti). 明日大統領を招待する
- 2) Huomenna kutsun (hän). 明日彼/彼女を招待する
- 3) Rakastan (eräs nuori nainen). ある若い女性を愛している
- 4) Rakastan (hän). 彼/彼女を愛している
- 5) (kuka) sinä rakastat? あなたは誰を愛しているのか
- 6) (kuka) kutsut huomenna? あなたは明日誰を招待するのか

文法問題 12-4. ()内の語を副詞に直しなさい

- 1) Hän oppii suomea (nopea). 彼/彼女は速くフィンランド語を習得している
- 2) Lapset puhuvat aivan (vapaa). 子供たちはまったく自由に話している
- 3) (tavallinen) nousen aamulla kello 7. ふだん私は朝7時に起きる
- 4) Lasi särkyy (helppo). ガラスは簡単に割れる
- 5) Tytöt opiskelevat (ahkera). 少女たちは熱心に勉強している

第 13 課 — Kolmastoista kappale

- 13-1. 動詞の現在形 (3) —タイプ 1 の動詞の階程交替
 13-2. 不定詞の基本的な用法

13-1. 動詞の現在形 (3) —タイプ 1 の動詞の階程交替

1) 強階程語幹と弱階程語幹

タイプ 1 の動詞では不定詞の最後の音である **-a /-ä** を取れば語幹になりました。たとえば **lukea** 「読む」の語幹は **luke-** となります。ところで、**luke-** という語幹の中にある子音のうち最後に出てくる音が **k** ですが、**k** は階程交替が起こると消える音でした。実はタイプ 1 の動詞では、名詞の場合と同じように階程交替が起こります。ですから **luke-** という語幹は、さらに **lue-** という形に変化します。気をつけなければならないことは、現在形の 6 つの形を作るときには **luke-** という形も **lue-** という形も両方とも使うということです。どちらの形を使うかは、主語によって決まっています。**luke-** の方を強階程語幹、**lue-** の方を弱階程語幹と読んで区別します。

不定詞	lukea 「読む」	tietää 「知る」	yöpyä 「泊まる」
強階程語幹	luke-	tietä-	yöpy-
弱階程語幹	lue-	tiedä-	yövy-

2) 2 つの語幹の使い分け

階程交替の起こっていない強階程語幹を使うのは 3 人称単数 (**hän, se** など) と 3 人称複数 (**he, ne** など) の場合だけで、それ以外では弱階程語幹を使います。

ポイント 27 —タイプ 1 の動詞の階程交替								
階程	単数				複数			
弱階程	minä	lue-n	tiedä-n	yövy-n	me	lue-mme	tiedä-mme	yövy-mme
弱階程	sinä	lue-t	tiedä-t	yövy-t	te	lue-tte	tiedä-tte	yövy-tte
強階程	hän	luke-e	tietä-ä	yöpy-y	he	luke-vat	tietä-vät	yöpy-vät

次の表で、動詞の階程交替を確認して下さい。強階程だけ太字にしてあります。

不定詞	aikoa	lähteä	saapua	nukkua	auttaa	oppia
minä	aion	lähden	saavun	nukun	autan	opin
sinä	aiot	lähdet	saavut	nukut	autat	opit
hän	aikoo	lähtee	saapuu	nukkuu	auttaa	oppii
me	aiomme	lähdemme	saavumme	nukumme	autamme	opimme
te	aiotte	lähdette	saavutte	nukutte	autatte	opitte
he	aikovat	lähtevät	saapuvat	nukkuvat	auttavat	oppivat

また否定形で否定動詞と結びつく形は弱階程語幹です。

ポイント 28 - 現在否定形 (階程交替)		
タイプ 1 の動詞で階程交替がある場合、否定形では弱階程語幹		
en	+	aio (aikoa)
et		lähde (lähteä)
ei		saavu (saapua)
emme		nuku (nukkua)
ette		auta (auttaa)
eivät		opi (oppia)

13-2. 不定詞の基本的な用法

1) 不定詞を従える動詞

次のような語は、不定詞を従えることのできる動詞の代表的なものです。不定詞がこれらの動詞の目的語になっている、とも考えられます。

aikoa ...するつもりだ

alkaa ...し始める

haluta ...したい

osata (能力があるので)...できる

saada ...してもよい

tahtoa ...したい

voida (状況が許すので)...できる, ...であり得る

Minä **aion mennä** Suomeen. 「私はフィンランドへ行くつもりだ」
Hän **aikoo mennä** Ruotsiin. 「彼/彼女はスウェーデンへ行くつもりだ」
Poika **alkaa laulaa** ja tyttö **alkaa tanssia**. 「少年は歌い始め少女は踊り始める」
Me **alamme keskustella**. 「我々は話し始める」
Minä **haluan olla** yksin. 「私は一人でいたい」
Lapsi **osaa jo lukea ja kirjoittaa**. 「その子はもう読み書きができる」
Saanko **lähteä** kotiin? 「私は家へ帰ってもよいですか」
Tahdon **päästä ulos**. 「私は外へ出たい」
Et voi **polttaa täällä**. 「ここではたばこを吸ってはいけない」

2) 「～することは... だ」

たとえば「散歩することは楽しい」はフィンランド語では次のようになります。

On hauska kävellä.

ここでは、まず **On hauska** 「楽しい」と先に表現し、そのあとで「散歩することは」の部分をも不定詞で表現しています。この表現では、不定詞が主語の働きをしているとも考えられます。

フィンランド語では **on** という動詞で文が始まることはごくふつうのことです。

On hauska istua metsässä. 「森で座っているのは楽しい」

On kiva syödä ravintolassa. 「レストランで食事をするのはすてきだ」

3) 名詞を修飾する

不定詞は名詞の後ろについて、名詞を修飾することができます。

aika keskustella 話し合うための時間

lupa lähteä 出かけるための許可

これらの例では **keskustella** 「話し合うための」、**lähteä** 「出かけるための」が直前の **aika** 「時間」、**lupa** 「許可」を説明しています。

4) 形容詞を修飾する

不定詞は形容詞の後ろについて、形容詞を修飾することもあります。

Laukku on liian painava kantaa yksin. 鞆は一人で運ぶには重すぎる。

この例文では **kantaa yksin** 「一人で運ぶ」が直前の **painava** 「重い」を説明して、「一人で運ぶには重い」という意味を作っています。

文法問題 13-1. 次の動詞を 6 つの形に活用させなさい.

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1) lukea 読む | 2) alkaa 始まる |
| 3) nukkua 眠る | 4) hankkia 手に入れる |
| 5) lähteä 出かける | 6) tietää 知っている |
| 7) löytää 見つける | 8) vetää 引く |
| 9) auttaa 助ける, 手伝う | 10) odottaa 待つ |
| 11) ottaa 取る | 13) soittaa 電話する |
| 13) antaa 与える | 14) lentää 飛ぶ |
| 15) työntää 押す | 16) saapua 到着する |
| 17) leipoa (パンなどを)焼く | 18) oppia 学ぶ, 習得する |
| 19) loppua 終わる | 20) riippua ぶら下がる |

文法問題 13-2. ()内の動詞を適切な形に直しなさい

- 1) Huomenna minä (lähteä) maalle. 明日私は田舎へ出かける
- 2) Kenelle sinä (soittaa) näin myöhään? こんなに遅く誰に電話するのか
- 3) Hän (lentää) Reykjavikiin. 彼/彼女はレイキャビクへ飛行機で行く
- 4) Me (kirjoittaa) mummolle. 我々はおばあちゃんに手紙を書く
- 5) Ketä te (odottaa)? あなた方は誰を待っているのか
- 6) He (nukkua) rauhassa. 彼らは穏やかに眠っている

文法問題 13-3. 日本語を参考に()内の語を並べ替えなさい.

- 1) (kiva, järvessä, on, uida)
湖で泳ぐのはすてきだ.
- 2) (Suomeen, minä, matkustaa, aion)
私はフィンランドへ旅行するつもりだ
- 3) (on, painava, laukku, kantaa, liian)
鞆は運ぶには重すぎる
- 4) (lähteä, minä, saanko, ulos)
私は出かけてもよいですか
- 5) (metsässä, olla, hauska, on)
森にいるのは楽しい

第 14 課 — Neljästoista kappale

14-1. että

14-2. 間接疑問文

14-3. 場所を表す副詞

14-1. että

että は「...であること, ...だと」などに相当する語ですが, その代表的な使い方を学習します.

1) On hyvä, **että** sinä olet kotona. 「あなたが家にいてよかった。」

「～であることは...だ」というような形式の文をフィンランド語に直すときには, まず「...だ」の部分を on hyvä のように表現し, 「～であることは」の部分を että ではじめて表現します. että の後ろには文が来ます. että の前にはカンマを入れるのがふううです.

2) Minä luulen, **että** hän tulee. 「私は彼/彼女が来ると思います。」

たとえば minä luulen 「私は思う」という文が, 目的語として別の文を取ることがあります. たとえば hän tulee 「彼/彼女が来る」という文を目的語として取って, 「私は—彼/彼女が来る—と思う」というような表現をします. フィンランド語では「彼/彼女が来る」の部分を「私は思う」につける場合に, ただそのままつけるわけにはいきません. 「彼/彼女が来る」の前に, 日本語の「...だと, ...だということ」に相当する **että** という語を必ずつけなければなりません. ですから「私は彼/彼女が来ると思う」は次のようになります. やはり että の前にはカンマを入れるのが普通です.

Minä luulen, **että** hän tulee.

3) että を含むその他の表現

① niin...että~ とても...なので~, ~であるほど...

Kirja on **niin** mielenkiintoinen, **että** kaikki haluavat lukea sen.

その本はとても興味深いので, 皆それを読みたがる

② siksi, että... (~ sen takia, että... ~ siitä syystä, että...) ...なので

Hän ei voi tulla tänne **siksi, että** hän on sairas.

彼/彼女は病気なのでここへは来れない

③ sekä...että~ ...も～も両方とも

Sikä tytöt **että** pojat osallistuvat kilpailuun.

女子たちも男子たちも競技に参加する

④ ... (niin) että~ ~するために..., ~できるように..., ...なので~

Soitan sinulle, **niin että** et unohda asiaa.

あなたがその件を忘れないように、私はあなたに電話する

Pesen tämän, **niin että** voit pitää sitä.

あなたが着られるように、私はこれを洗う

ポイント 29 – että

On hyvä, että sinä olet kotona. あなたが家にいてよかった

Minä luulen, että hän tulee. 彼/彼女が来ると思う
--

14-2. 間接疑問文

minä en tiedä 「私は知らない」という表現に、目的語として **missä hän asuu** 「彼女がどこに住んでいるのか」という表現をつけ「彼女がどこに住んでいるのか、私は知らない」という文を作る場合には、疑問文をそのままつけることができます。

Minä en tiedä, missä hän asuu.

「彼女が来るのかどうか、私は知らない」という場合にも、「私は知らない」という部分に **tuleeko hän** 「彼女は来るか」という疑問文をつけます。

Minä en tiedä, tuleeko hän.

ですから **-ko / -kö** のついている疑問文が別の文の一部になると、「...かどうか」という日本語に相当します。疑問文の前にはカンマをつけるのが普通です。

ポイント 30 – 間接疑問文

Minä en tiedä, missä hän asuu. 彼/彼女がどこに住んでいるのか知らない

Minä en tiedä, tuleeko hän. 彼/彼女が来るのかどうか知らない

14-3. 場所を表す副詞

① täällä - täältä - tänne と tässä - tästä - tähän

どちらも日本語にすれば「ここで/に, ここから, ここへ」と訳せますが, **täällä - täältä - tänne** は比較的広い場所に関して使い, **tässä - tästä - tähän** は狭い場所に関して使います. たとえば, 部屋の中において「ここにはテーブルがある」という場合には **täällä** を使うのが普通ですが, 地図を指さして「ここにフィンランドがある」という場合には **tässä** を使うのが普通です.

Täällä (= Tässä huoneessa) on pöytä. ここにはテーブルがある.

Tässä (= Tässä kartassa) on Suomi. ここにフィンランドがある.

	広い場所			狭い場所		
	ここ	あそこ	そこ	ここ	あそこ	そこ
...で/に	täällä	tuolla	siellä	tässä	tuossa	siinä
...から	täältä	tuolta	sieltä	tästä	tuosta	siitä
...へ	tänne	tuonne	sinne	tähän	tuohon	siihen

② ulkona - ulkoa - ulos

「...で/に」の形で **-na/-nä**、「...から」の形で **-a/-ä** という語尾を持つものがいくつかあります。「...へ」の形は語によって少し違っています.

	外	家	遠く	後ろ
...で/に	ulkona	kotona	kaukana	takana
...から	ulkoa	kotoa	kaukaa	takaa
...へ	ulos	kotiin	kauas	taa ~ taakse

③ ふつうの格語尾を持つもの (文法問題 14-2.の問題文を参考にして下さい)

	中	中	上	下	前	前
...で/に	sisällä	sisässä	ylhällä	alhaalla	edessä	edellä
...から	sisältä	sisästä	ylhältä	alhaalta	edestä	edeltä
...へ	sisälle	sisään	ylös	alas	eteen	edelle

文法問題 14-1. 日本語を参考に並べ替えなさい.

- 1) (missä / tiedätkö / Esko / sinä / asuu) ?
エスコがどこに住んでいるか知っていますか.
- 2) (että / luulen / Esko / minä / Tampereella / asuu)
エスコはタンペレに住んでいると思います.
- 3) (Raijakin / siellä / luuletko / että / sinä / asuu) ?
ライヤもそこに住んでいると思いますか.
- 4) (asuuko / siellä / en / hän / tiedä)
彼女がそこに住んでいるのかどうか私は知りません.

文法問題 14-2. ()に入れるのに適切な語を[]の中から選びなさい.

- 1) Minä olen nyt olohuoneessa. () on myös Tuomas.
[täällä / täältä / tänne / tässä / tästä / tähän]
- 2) Pöydällä on uusi kartta. () on Suomi.
[siellä, sieltä, sinne, siinä, siitä, siihen]
- 3) Huoneessa on kolme opiskelijaa. Kaksi opiskelijaa lähtee pian ().
[siellä, sieltä, sinne, siinä, siitä, siihen]
- 4) Hän ei ole nyt kotona. Hän on nyt ().
[ulkona / ulkoa / ulos]
- 5) Hän on nyt kotona, mutta hän lähtee pian ().
[ulkona / ulkoa / ulos]
- 6) Hän ei ole nyt kotona, mutta hän tulee pian () kotiin.
[ulkona / ulkoa / ulos]
- 7) Hän tulee työstä () aina kello 18.
[kotona / kotoa / kotiin]
- 8) Lapset leikkivät ulkona, mutta he tulevat pian ().
[sisässä, sisästä, sisään]
- 9) En voi ottaa taulua pois seinältä. Se on liian ().
[ylhäällä, ylhäältä, ylös]
- 10) Minä istun takana ja hän istuu ().
[edessä, edestä, eteen]

第 15 課 — Viidestoista kappale

15-1. 関係代名詞

15-1. 関係代名詞

1) 関係代名詞

「私の住んでいる家」という日本語をフィンランド語にすると、まず最初に中心となる語である「家」と言ってから、その後に「私の住んでいる」という説明をつけます。日本語を母語とする者にとっては、この表現の順番が少し難しいかも知れませんが。名詞をまず言ってから、その後ろに説明をつけるときに橋渡しをするのが関係代名詞と呼ばれるものです。

フィンランド語の代表的な関係代名詞は **joka** という語です。**joka** は人間に関しても人間以外のものに関しても使うことができます。たとえば「あそこに立っている少女」をフィンランド語にすると「少女—関係代名詞—あそこに立っている」という表現をすることになりますから、次のようになります。

tyttö, joka seisoo tuolla 「あそこに立っている少女」

こういう表現に出会ったときには「**tyttö**=少女、**joka**=それは、**seisoo tuolla**=あそこに立っている」というように、フィンランド語の語順で理解できるようになるとよいと思います。そうすると自分で関係代名詞を使えるようになってきます。

ravintola, joka on Kaikukadulla = レストラン、それは、カイク通りにある
= 「カイク通りにあるレストラン」

もちろん関係代名詞のついた名詞は、文の 1 要素となるのがふつうですから、上の例のような語句は文の一部として出てきます。

Tyttö, joka seisoo tuolla, on Pekan sisko.

少女、それはあそこに立っているが、ペッカの姉（妹）だ
= あそこに立っている少女はペッカの姉（妹）だ

今までの例の **tyttö** や **ravintola** のように関係代名詞のついている単語を先行詞と呼びますが、先行詞は主格以外の形になっている場合ももちろんあります。

Hän aina syö ravintolassa, joka on Kaikukadulla.

彼/彼女はいつも食べる、レストランで、それはカイク通りにある
= 彼/彼女はいつもカイク通りにあるレストランで食事をする

Hän tulee ravintolasta, joka on Kaikukadulla.

彼/彼女は来る、レストランから、それはカイク通りにある

=彼/彼女は、カイク通りにあるレストランから来る

例文のように関係代名詞 **joka** の前と、それが導いている部分の最後にはカンマを書くのが原則です。

2) 関係代名詞の格変化

今度は「私の住んでいる家」をフィンランド語にしますが、まず日本語をフィンランド語の語順にしましょう。「家—そこに—私は住んでいる」とでもなるでしょう。ここで問題になるのは「そこに」です。「それは」であれば **joka** を使えばよいのですが、「そこに」には場所を表す「に」がついています。ということはフィンランド語でも **joka** に、日本語の「に」に相当する格語尾 (**-ssa / -ssä**) をつけなければなりません。つまり **joka** は他の名詞や代名詞と同じように格変化をすることになります。**joka** は単数属格と複数主格を除いて **jo-** という語幹に格語尾をつけます。

ポイント 31 — 関係代名詞	
主格	joka
属格	jo-n-ka
分格	jo-ta
内格	jo-ssa
出格	jo-sta
入格	jo-hon
接格	jo-lla
奪格	jo-lta
向格	jo-lle
複・主	jo-t-ka

- ① 単数属格と複数主格では格語尾が **jo-** と **-ka** の間についています。
- ② それ以外の格では、**-ka** は完全に消え、**jo-** に格語尾がついています。
- ③ 疑問詞の **mikä** と同じように活用しますので 10 課で **mikä** の活用も復習してください。

結果的に「私の住んでいる家（家—そこに—私は住んでいる）」はフィンランド語では **talo, jossa minä asun** と表現することになります。

同じように「私の愛している少女」は「少女—その人を—私は愛している」と考えて、**tyttö, jota minä rakastan** となります。ここでは「その人を」に相当する関係代名詞は分格の形になっています。

結果的に先行詞も、そして関係代名詞も両方ともが変化している場合もしばしば出てきます。

Hän on työssä ravintolassa, jossa minäkin olen työssä.

彼/彼女は、私も働いているレストランで働いている

3) 関係代名詞と **se**, **ne** について

ある語が関係代名詞の先行詞であることをはっきりさせるために、先行詞に **se** や **ne** をつけることがあります。どの語が先行詞か紛らわしい場合や、先行詞と関係代名詞が離れてしまっている場合にはとくに、**se** や **ne** をつけて先行詞であることをはっきりと示すことがあります。

Se kaupunki, jossa hän asuu, on hyvin kaukana.

彼/彼女の住んでいる町はとても遠い

Ne kaupat, jotka ovat täällä kadulla, ovat auki myös sunnuntaina.

この通りにある店は日曜日でも開店している

4) **mikä**

疑問詞として学習した **mikä** にも関係代名詞としての働きがあります。**mikä** は人間に関しては使うことができません。**mikä** は次のような場合に使います。

① 文全体を受けるとき

Hän myöhästyy koulusta tänään, mikä on harvinaista.

彼/彼女は今日学校に遅刻するが、それは珍しいことだ

この文で **mikä** という関係代名詞は直前の **tänään** 「今日」ではなく、「彼/彼女が学校に遅刻すること」全体をさしています。

② 先行詞が最上級を含んでいるとき(最上級は 51 課で学習します)

Se on paras paikka, minkä tiedän.

それは私の知っている最高の場所だ

この文の中の **paras** は「もっともよい」という意味で、**hyvä** の最上級と呼ばれる形です。

いずれにしても、先行詞が人間であろうとなかろうと、関係代名詞として使われるのは基本的に **joka** の方だと考えて下さい。

文法問題 15-1. 次の日本語をフィンランド語に直しなさい

- 1) 部屋にいる女性
- 2) 私の読んでいる本
- 3) Oulu という名の都市
- 4) 彼の住んでいる家
- 5) 彼女の出身の国
- 6) あなたが引っ越す住居
- 7) 手紙ののっているテーブル
- 8) 列車が発車する駅
- 9) 飛行機の到着する空港
- 10) 外で遊んでいる子供たち

* 「本」 = kirja, 「名前」 = nimi, 「...の出身だ」 = olla kotoisin+出格,
「引っ越す」 = muuttaa, 「住居」 = asunto, 「列車」 = juna,
「飛行機」 = lentokone, 「遊ぶ」 = leikkiä

文法問題 15-2. () に関係代名詞 joka を適切な形にして入れなさい

- 1) Hän odottaa sinua huoneessa, () on oikealla.
彼/彼女は右側の部屋であなたを待っている
- 2) Tunnetko naisen, () nimi on Merja Mikkonen?
あなたはメルヤ・ミッコネンという名前の女性を知っているか
- 3) Tuolla on poika, () annan tämän lahjan.
あそこに、私がこの贈り物をあげる少年がいる
- 4) Haluatko tavata pojan, () minä rakastan?
私の愛している少年に会いたいか
- 5) Käyn kirjastossa, () voin lainata kirjan.
私はその本を借りることのできる図書館へ行ってくる
- 6) Etsin katua, () on elokuvateatteri.
私は映画館のある通りを探している
- 7) Opiskelijat, () keskustelevat huoneessa, tulevat pian ulos.
部屋で話をしている学生たちは、まもなく外へ来る
- 8) Kaupunki, () mummo asuu, on Pohjois-Suomessa.
おばあさんの住んでいる町はフィンランド北部にある
- 9) Missä on pysäkki, () lähtee bussi Hämeenlinnaan?
ハメーンリンナ行きのバスが出る停留所はどこか
- 10) Asumossa, () muutan ensi viikolla, on hyvin mukava olohuone)
私が来週引っ越す住まいには、非常に居心地のよい居間がある

第 16 課 — Kuudestoista kappale

16-1. 所有文と存在文

16-2. 所有文と存在文の注意点

16-1. 所有文と存在文

「私には姉がいる」とか「彼女はカメラを持っている」などというような内容をフィンランド語にするときには、「誰それには何々がある」という表現を使います。「誰それには」の部分は接格で表現し、そのあとには「ある、いる」という意味の動詞 **on** を置きます。

Minulla on kaksi sisarta. 私には 2 人姉妹がいる

Hänellä on uusi kamera. 彼女は新しいカメラを持っている

このような文を所有文と呼ぶことにします。フィンランド語では、日本語の「持つ」に相当する動詞は使わず、この所有文の形で表現するのがふつうです。

また「部屋にテーブルがある」、「テーブルの上に本がある」というような「どこどこに何々がある」というような文を存在文と呼びます。「どこどこに」という場所を表す語を文頭に置き、そのあとに **on** を置きます。

Huoneessa on sohva. 部屋の中にはソファがある

Pöydällä on kirja. テーブルの上には本がある

これらの文では、「ソファ」や「本」が、ここで初めて話題にされています。次の文と比較して下さい。

Sohva on huoneessa. (その) ソファは部屋の中にある

Kirja on pöydällä. (その) 本はテーブルの上にある

これらの文では「ソファ」や「本」はすでに話題にされていて、それらがどこにあるのかを述べています。これらは存在文とは呼びません。

ポイント 32 — 所有文・存在文

Minulla on kaksi sisarta.

私には 2 人姉妹がいる

Hänellä on uusi kamera.

彼/彼女は新しいカメラを持っている

Huoneessa on sohva.

部屋の中にはソファがある

Pöydällä on kirja.

テーブルの上には本がある

16-2. 所有文と存在文の注意点

① 否定文では、所有されていないもの、存在しないものは分格の形で表します。

Hänellä on kamera.	彼女はカメラを持っている
Hänellä ei ole kamera-a .	彼女はカメラを持っていない
Huoneessa on sohva.	部屋の中にはソファがある
Huoneessa ei ole sohva-a .	部屋の中にはソファはない

所有文や存在文以外では、否定文でも主格のままです。

Sohva on huoneessa.	ソファは部屋の中にある
Sohva ei ole huoneessa.	ソファは部屋の中にはない

② 個体名詞と物質名詞

個体名詞というのは、ひとつひとつが定まった形を持っていて「ひとつふたつ」と数えることのできるような名詞です。たとえば、「人間、本、自動車」などが個体名詞です。それに対して物質名詞というのは、本来定まった形を持っていないので「ひとつふたつ」と数えることのできない名詞です。代表的なものは、「水」や「コーヒー」などの液体を表す言葉です。別の言い方をすると個体名詞は分けることができないもの、物質名詞は分けることのできる名詞です。

所有文や存在文では個体名詞は(単数の場合には)主格になりますが、物質名詞は分格の形になります。これはある物の一部分だけがある、ということです。

Minulla on koira.	私は犬を飼っている	[koira - 主格]
Minulla on kahvi-a .	私の所にはコーヒーがある	[kahvi/a - 分格]
Laukussa on kirja.	鞆の中には本が入っている	[kirja - 主格]
Laukussa on raha-a .	鞆の中にはお金が入っている	[raha/a - 分格]

所有文や存在文以外では、主語となる物質名詞は原則として主格です。

Raha on laukussa. お金は鞆に入っている

11-1.で学習した目的語のところで出た「定まった形のあるもの」が個体名詞で、「定まった形のないもの」が物質名詞です。ですから、ここで学習している所有文や存在文の主語と、11-1.で扱った目的語には共通点があります。どちらも物質名詞の場合には分格の形になるのがふつうです。

Minulla on kahvi-a .	私のところにはコーヒーがある	[主語 - 分格]
Minä ostan kahvi-a .	私はコーヒーを買う	[目的語 - 分格]
Minulla on kirja .	私は本を持っている	[主語 - 主格]
Minä ostan kirja-n .	私は本を買う	[目的語 - 属格(対格)]

- ③ 疑問文では、個体名詞も分格になることがしばしばあります。分格を使えば、否定の答えが返ってくることも意外ではない、ということを表します。

Onko hänellä **kamera / kameraa**? 彼女はカメラを持っていますか
 否定の疑問文では、原則通り分格になるのがふつうです。

Eikö hänellä **ole kameraa**? 彼女はカメラを持っていないのですか

ポイント 33 - 所有文と存在文の注意点	
Hänellä ei ole kameraa.	彼/彼女はカメラを持っていない
Minulla on kahvia.	私の所にはコーヒーがある
Laukussa on rahaa.	カバンの中にはお金が入っている
Onko hänellä kamera / kameraa?	彼/彼女はカメラを持っていますか

- ④ 所有文の形を使ってはいますが、厳密に言うと所有を表しているのではない、重要な表現がいくつかあります。

Minulla on **nälkä**. 私は空腹です
 Sinulla on **jano**. あなたは喉が渴いている
 Hänellä on **kylmä**. 彼は寒い
 Meillä on **kuuma**. 私達は暑い
 Teillä on **kiire**. あなた達は急いでいる、忙しい
 Heillä on **paha olla**. 彼らは気分が悪い

これらの表現では、否定文になっても最後の語は分格にしません。

Minulla **ei ole nälkä**. 私は空腹ではありません

ポイント 34 - 所有文を使った重要表現	
Minulla on nälkä.	私は空腹だ
Minulla ei ole nälkä	私は空腹ではない
Sinulla on jano.	あなたは喉が渴いている
Sinulla ei ole jano.	あなたは喉が渴いていない
Hänellä on kiire.	彼/彼女は急いでいる、忙しい
Hänellä ei ole kiire.	彼/彼女は急いでいない、忙しくない
Meillä on kylmä	私たちは寒い
Heillä on paha olla.	彼らは気分が悪い

文法問題 16-1. ()の中から適切なものを選びなさい.

1. Minulla on (auto / autoa).
2. Sinulla ei ole (auto / autoa).
3. Tässä kaupungissa on (yliopisto / yliopistoa).
4. Tuossa kaupungissa ei ole (yliopisto / yliopistoa).
5. (Pöytä / Pöytää) on tuossa huoneessa.
6. (Pöytä / Pöytää) ei ole tuossa huoneessa.
7. Tuossa huoneessa on (pöytä / pöytää).
8. Tuossa huoneessa ei ole (pöytä / pöytää).
9. Meillä on maalla (kesämökki / kesämökkiä).
10. Hänellä on (iso suu / isoa suuta).

文法問題 16-2. ()の中から適切なものを選びなさい.

1. Meillä on (maito / maitoa).
2. Teillä ei ole (maito / maitoa).
3. Hänellä on (aika / aikaa).
4. Heillä ei ole (aika / aikaa).
5. Jääkaapissa on (kahvi / kahvia).
6. Jääkaapissa ei ole (kahvi / kahvia).
7. (Kahvi / Kahvia) on jääkaapissa.
8. (Kahvi / Kahvia) ei ole jääkaapissa.
9. Onko sinulla (raha / rahaa)?
10. Eikö sinulla ole (raha / rahaa)?

文法問題 16-3. ()の中から適切なものを選びなさい.

1. Minulla on (nälkä / nälkää).
2. Sinulla ei ole (jano / janoa).
3. Meillä on (kylmä / kylmää).
4. Teillä ei ole (kuuma / kuumaa).
5. Hänellä on (kiire / kiirettä).
6. Heillä ei ole (kiire / kiirettä).

第 17 課 – Seitsemästoista kappale

17-1. 動詞 olla の補語 (1)

17-2. 時に関する表現 (1)

17-1. 動詞 olla の補語 (1)

ここでは「～です」という意味の動詞 **olla** と結びつく語を補語と呼びます。動詞 **olla** の補語になることのできる格は、主格・属格・分格の 3 つです。属格は「～の(もの)」という意味ですので、特に問題はありません。問題になるのは主格と分格です。ここでは補語になる語が名詞か形容詞かに分けて説明します。

1) 補語が名詞の場合

補語になる名詞が主格になるか分格になるかは、原則としてその名詞自体の性格で決まります。

- ① 補語になる名詞が物質名詞や抽象的なものを表している場合には、分格の形になるのが原則です。

Tämä on kahvi-a. これはコーヒーです

これは 15-2. で学習した所有文や存在文の場合と共通しています。

Minulla on kahvi-a. 私のところにはコーヒーがある

- ② 補語になる名詞が個体名詞であったり、あるいは物質名詞などの場合でも特定のものを指している場合には、主格の形になるのがふつうです。

Tämä on auto. これは自動車です

Tämä on Paulin kahvi. これはパウリのコーヒーです

2) 補語が形容詞の場合

補語になる形容詞が主格になるか分格になるかは、原則として主語になる名詞の性格で決まります。

- ① 主語が物質名詞や抽象的なものを表している場合には、形容詞の補語は分格になるのが原則です。

Kahvi on musta-a. (その) コーヒーは黒い

② 主語が個体名詞の場合には、形容詞の補語は主格になるのがふつうです。

Auto on **musta**. その自動車は黒い

③ 主語に相当するのが不定詞や **että** で始まる節である場合には、形容詞の補語は分格になるのが原則です。また主語のない文でも、補語になる形容詞は分格になります。

On **mahdoton-ta** ymmärtää häntä. 彼を理解することは不可能です

On **mahdollis-ta**, että hän tulee. 彼が来ることもあり得る

Täällä on **kaunis-ta**. ここは美しい

これらの文型で使われたときにも、**hyvä** と **paha** だけは主格になります。

On **hyvä** asua maalla. 田舎に住むのは良いことです

さらに次のような非常によく使われる形容詞は主格になることも分格になることもあります。

helppo 容易だ vaikea 難しい hauska 楽しい

mukava 快適だ kiva 素敵だ ikävä 残念だ

selvä 明白だ kylmä 寒い lämmin 暖かい

On **helppo** / **helppo-a** oppia japania. 日本語を習得することはやさしい

Täällä on **kylmä** / **kylmä-ä**. ここは寒い

ポイント 35 - olla の補語 (所有文や存在文との共通点)	
Mikä se on?	それは何ですか
Tämä on auto.	これは自動車です
Mi-tä se on?	それは何ですか
Tämä on kahvi-a .	これはコーヒーです
Millainen auto on?	(その)自動車はどんなですか
Auto on musta.	(その)自動車は黒い
Millais-ta kahvi on?	コーヒーはどんなですか
Kahvi on musta-a .	コーヒーは黒い
Mikä laukussa on?	カバンの中には何がありますか
Laukussa on kirja.	カバンの中には本がある
Mitä kupissa on?	カップの中には何がありますか
Kupissa on kahvi-a .	カップの中にはコーヒーがある

17-2. 時に関する表現(1)

- ① toissapäivänä 一昨日 eilen 昨日 tänään 今日
huomenna 明日 ylihuomenna 明後日
- ② viikko 週
viime viikolla 先週に tällä viikolla 今週に ensi viikolla 来週に
- ③ aamupäivä 午前 iltapäivä 午後
aamupäivällä 午前中に iltapäivällä 午後
- ④ aamu 朝 päivä 昼 ilta 夕方 yö 夜
aamulla 朝に päivällä 昼に illalla 夕方に yöllä 夜に
- ⑤ vuodenaika 季節
kevät 春 kesä 夏 syksy 秋 talvi 冬
keväällä 春に kesällä 夏に syksyllä 秋に talvella 冬に
- ⑥ kuu 月
tammikuu 1月 helmikuu 2月 maaliskuu 3月 huhtikuu 4月
toukokuu 5月 kesäkuu 6月 heinäkuu 7月 elokuu 8月
syyskuu 9月 lokakuu 10月 marraskuu 11月 joulukuu 12月
tammikuussa 1月に
- ⑦ viikonpäivä 曜日
maanantai 月曜 tiistai 火曜 keskiviikko 水曜 torstai 木曜
perjantai 金曜 lauantai 土曜 sunnuntai 日曜
maanantaina 月曜に
- ⑧ vuosi 年
tämä vuosi 今年 viime vuosi 去年 ensi vuosi 来年
tänä vuonna 今年に viime vuonna 去年に ensi vuonna 来年に

①は「今日～する, 明日～する」というときに使える形ですが, ②～⑧はそのままでは「今週～する, 5月に～する, 去年～した」というときには使えません. それぞれに格語尾をつけなければなりません, ②～⑤は接格の形にし, ⑥の月名は内格にします. ⑦の「曜日」と⑧の「年」には様格(-na / -nä)という32課で学習する語尾をつけます. **vuosi**の様格は不規則で, 規則通りの**vuotena**という形もあります. どれも重要な基本的表現ですので, ぜひ頭に入れて下さい. また「次の」という意味の**ensi**と「この間の」という意味の**viime**は変化しません.

文法問題 17-1. ()内から適切な語を選びなさい.

- 1) Onko tämä (suomalainen maljakko / suomalaista maljakkoa) ?
- 2) Ei. Se ei ole (suomalainen maljakko / suomalaista maljakkoa) .
- 3) Onko tuo (hyvä maito / hyvää maitoa) ?
- 4) Ei. Se ei ole (hyvä maito / hyvää maitoa) .
- 5) (Millainen / Millaista) juusto on?
- 6) Juusto on aika (hyvä / hyvää) .
- 7) (Minkälainen / Minkälaista) uusi sanakirja on?
- 8) Se sanakirja on aika (huono / huonoa) .
- 9) Kahvi on (musta / mustaa) . Tämä kahvikuppi on myös (musta / mustaa) .
- 10) Ruusu on (punainen / punaista) . Viini on myös (punainen / punaista) .
- 11) Koira on (valkoinen / valkoista) . Maito on (valkoinen / valkoista) .
- 12) Kissa ei ole (keltainen / keltaista) . Viini ei ole (keltainen / keltaista) .
- 13) Omena ei ole (sininen / sinistä) . Olut ei ole (sininen / sinistä) .
- 14) On (harvinainen / harvinaista) , että hän myöhästyy koulusta.
- 15) On (tyhmä / tyhmää) mennä ulos, kun sataa näin kovasti.
- 17) On (hyvä / hyvää) nousta aikaisin ja kävellä ulkona.

文法問題 17-2. ()内の語を適切な形に直しなさい。

- 1) Juon kahvia (aamu) .
- 2) Lähdän (tämä viikko) Eestiin ja tulen takaisin ensi (viikko) .
- 3) Matkustan (kesä) Japaniin ja Kiinaan.
- 4) Meille syntyy lapsi (toukokuu) .
- 5) Käyn suomen kielen kurssilla (maanantai) ja (keskiviikko) .
- 6) Opiskelen suomea (tämä vuosi) ja eestiä ensi (vuosi) .
- 7) Lapsi on (päivä) lastentarhassa.
- 8) Suomessa (syksy) sataa paljon.
- 9) Japanissa koulu alkaa (huhtikuu) .
- 10) Kaupat ovat kiinni (lauantai) ja (sunnuntai) .
- 11) Tänään Mikko tulee meille kello 3 (iltapäivä) .
12. (talvi) lapset hiihtävät ja luistelevat.

第 18 課 — Kahdeksastoista kappale

18-1. 格の基本的用法(1) — 内格・出格・入格

18-1. 格の基本的用法(1) — 内格、出格、入格

今まで学習してきた格は、それぞれいろいろな働きを持っています。ここで基本的な働きをまとめますが、たくさんのフィンランド語に接することで少しずつ格の働きが分かってくるとと思います。

1) 内格

- ① 場所に関して使うと「～(の中)に/で」という意味になります。

Hän opiskelee yliopisto-ssa. 彼は大学で勉強している

Me asumme iso-ssa asunno-ssa. 私たちは大きな住居に住んでいる

- ② 時に関して使う場合には「～の間に」という意味になります。

Otat lääkettä neljästi päivä-ssä. 薬は一日の間に4回飲みます

また時間に関して「～で」と所要時間を表します。

Juna saapuu Helsinkiin tunni-ssa. 列車は1時間でヘルシンキに到着します
月の名前には内格語尾をつけます。

Olen syntynyt toukokuu-ssa. 私は5月に生まれました

- ③ **käydä**「行って来る、訪れる」は入格や向格など「～へ」の格ではなく、内格か接格を取ります。

Käyn Helsingi-ssä. 私はヘルシンキに行って来ます

Käyn Venäjä-llä. 私はロシアに行って来ます

ポイント 36 — käydä + 内格/接格

Minä haluan käydä Suome-ssa.

私はフィンランドへ行ってみたい

Minä haluan käydä Venäjä-llä.

私はロシアへ行ってみたい

2) 出格

- ① 場所に関して使えば「～から」という意味になります。

Me lähdemme pois Suome-sta. 私たちはフィンランドから出ていきます

- Muutamme pois **piene-stä asunno-sta**. 私たちは小さな住居から引っ越す
- ② 時に関して使っても「～から」という意味になります。
 Olen työssä **aamu-sta** iltaan. 私は朝から夕方まで仕事です
 Kauppa on auki **maanantai-sta** perjantaihin. 店は月曜から金曜まで開いている
- ③ 「～のうちで、～の中で」という意味を表します。
 Kuka **tei-stä** haluaa tulla mukaan? あなた方のうち誰と一緒に来たいのか
- ④ 「～に関して」という意味を持っています。
 Kaikki puhuvat **sinu-sta**. 皆あなたについて話している
 Haluan tietää **suomalaise-sta** kulttuuri-sta.
 私はフィンランド文化について知りたい
- ⑤ 「～の意見では、～の考えでは」という意味を表すことができます。
Minu-sta olet väärässä. 私の考えでは、あなたは間違っている
- ⑥ **tulla-**動詞の3人称の形と結びついて「～は...になる」という構文を作ります。「～は」に相当する部分を出格で表し、「...に」の部分は主格か分格になります。
Häne-stä tulee varmasti suuri tähti. 彼女はきっと大スターになる
- ⑦ **pitää, tykätä** 「好む、好きだ」という動詞は出格を要求します。
 Pidän **valkoviini-stä**. 「私は白ワインが好きだ。」
- ⑧ **ostaa** 「買う」, **etsiä** 「探す」, **hakea** 「取ってくる」, **löytää** 「見つける」などは「...から」という出格や奪格を取ります。
 Ostan hyvän sanakirjan **kirjakaupa-sta**. 私はよい辞書を本屋で買う

ポイント 37 – 出格の重要な用法	
Kaikki puhuvat sinu-sta.	皆があなたについて話している
Mei-stä sinä olet tyhmä.	私たちの考えでは、あなたは愚かだ
Minu-sta tulee opettaja.	私は教員になる
Kaikki pitävät sinu-sta.	皆あなたのことが好きだ
He etsivät poikaa metsä-stä.	彼らは少年を森で捜す。

3) 入格

- ① 場所に関して使われ「～へ、～まで」という働きをします。
 Matkustan Norjasta **Suome-en**. 私はノルウェーからフィンランドへ旅する

Kirjoitan heti **Turku-un**. 私はすぐトゥルクへ手紙を書く

- ② 時を表す場合には「～まで」という意味を持ちます。

Hän viipyy täällä ensi **perjantai-hin** (asti).

彼は今度の金曜日までここに滞在する

Joulu-un on vielä kaksi viikkoa. クリスマスまでまだ2週間ある

- ③ **uskoa** 「(存在を)信じる」, **luottaa** 「信頼する」は入格を取ることができます。

Tyttö uskoo **joulupukki-in**. 少女はサンタクロース(がいること)を信じている

Emme voi luottaa **häne-en**. 彼/彼女を信頼することはできない

- ④ **kuolla** 「死ぬ」, **päättyä** 「終わる」, **loppua** 「終わる」は入格を取ることができます。

Isä kuolee **syöpä-än**. 父はガンで亡くなる

Tie päättyy **ranta-an**. 道は海岸へ突き当たる

- ⑤ **jäädä** 「残る」, **jättää** 「残す」は入格や向格を取ります。

Hän jää **kaupunki-in**. 彼/彼女は都会へ残る

He jättävät lapset **koti-in**. 彼らは子供たちを家へ残していく

- ⑥ **ruveta** 「始める」, **ryhtyä** 「始める」は入格を取ります。

Hän ryhtyy heti **työ-hön**. 彼/彼女はすぐに仕事に取りかかる

- ⑦ **pystyä** 「できる」, **kyetä** 「できる」は入格を取ります。

Mi-hin sinä pystyt? あなたは何ができるのか

- ⑧ **kuulua** 「属する」は入格や向格を取ります。

Hän kuuluu **sii-hen puoluee-seen**. 彼/彼女はその政党に所属している

ポイント 38 – 入格の重要な用法

Joulu-un on vielä kaksi viikkoa.

クリスマスまでまだ2週間ある

Minä uskon **Jumala-an**.

私は神を信じている

Näytelmä loppuu sankarin **kuolema-an**.

劇は主人公の死で終わる

Me jäämme **kaupunki-in**.

私たちは都会へ残る

Hän rupeaa **työ-hön**.

彼/彼女は仕事を始める

Pystyykö hän **työ-hön**?

彼/彼女は(その)仕事ができるだろうか

Hinta-an kuuluu kaksi ateriala.

値段には2回の食事が含まれている

文法問題 18-1. ()内の語を内格・出格・入格のうち適切な形に直しなさい。

- 1) Kaikki eivät usko (Jumala). 皆が神の存在を信じているわけではない
- 2) Minä pidän (italialainen ruoka). 私はイタリア料理が好きだ
- 3) Voitko käydä (kirjakauppa)? 本屋へ行ってきてくれますか
- 4) Menen (työ) kello 8 aamulla. 私は朝 8 時に仕事へ出かけます
- 5) Tulen (työ) kotiin kello 18. 私は 18 時に仕事から家へ戻ります
- 6) (Hame) jää tahra. スカートにしみが残る
- 7) Lennämme Suomeen (tunti). 私たちはフィンランドへは飛行機で 1 時間で行く
- 8) Keskustelemme (musiikki). 我々は音楽について話している
- 9) Vain yksi (me) voi lähteä sinne. 我々のうち 1 人だけがそこへ出かけられる
- 10) Hän asuu tällä hetkellä (Venäjä). 彼女は現在ロシアに住んでいる
- 11) (Minä) olet aina oikeassa. 私の考えでは、あなたはいつも正しい
- 12) He kuuluvat (jalkapallojoukkue). 彼らはサッカーチームに属している
- 13) Romaani loppuu (tragedia). 小説は悲劇で終わる
- 14) Haluan jäädä (Suomi) ikuisesti. 私は永遠にフィンランドに残りたい
- 15) (sinä) tulee uusi ulkoministeri. あなたは新しい外務大臣になる
- 16) (Pohjanmeri) löytyy öljyä. 北極海で石油が見つかる
- 18) He ryhtyvät (taistelu) vihollista vastaan. 彼らは敵に対して攻撃を始める
- 18) Olen kesätyössä (heinäkuu) (syyskuu). 私は 7 月から 9 月まで夏の仕事をする
- 19) Voitko jättää minut (rauha)? 私をほっておいてくれますか
- 20) Sinä et pysty (se). あなたにはそれはできない
- 21) Etsimme avainta joka (paikka). 我々は鍵をあらゆる場所で探す
- 22) Käytte sairaalassa kaksi kertaa (viikko). あなた方は週に 2 度病院へ通う
- 23) He löytävät lapsen (saari). 彼らは島で子供を発見する
- 24) Pidätkö (jäätelö)? アイスクリームが好きですか
- 25) (mikä) voin ostaa kartan? どこで地図を買うことができるか
- 26) (millainen musiikki) te pidätte? あなたたちはどんな音楽が好きですか
- 27) Matkustatte Suomeen (heinäkuu). あなたたちは 7 月にフィンランドへ旅行する
- 28) Tuleeko (hän) iso tähti? 彼/彼女は大スターになるでしょうか

第 19 課 — Yhdeksästoista kappale

19-1. 格の基本的用法(2) — 接格・奪格・向格

19-2. 子音階程交替(2)

接格・奪格・向格のグループは場所に関してはもちろんですが、人間に関して使われることが多く、また特に奪格は特別な用法もあり重要です。

19-1. 格の基本的用法(2) — 接格・奪格・向格

1) 接格

① 場所に関して「～(の上、表面)で/に」という意味を表します。

Hän istuu **kive-llä**. 「彼女は石の上に座っている。」

② 時を表す次のような語は接格にします。

aamu 「あさ」、**päivä** 「昼」、**ilta** 「夕方、晩」、**yö** 「夜」

viikko 「週」

kevät 「春」、**kesä** 「夏」、**syksy** 「秋」、**talvi** 「冬」

Minä nousen kello 8 **aamu-lla**. 私は朝は 8 時に起きる

Minulla on tentti **tä-llä viiko-lla**. 私は今週テストがある

Muuttolinnut lähtevät Suomesta **syksy-llä**. 渡り鳥は秋にフィンランドを旅立つ

③ 「～には...がある、～は...を持っている」という所有文では所有者は接格で表します。

Minu-lla ei ole nyt rahaa. 私は今お金がない。

④ 道具や手段・方法を表す。

Menemme Kiinaan **lentokonee-lla**. 私たちは中国へ飛行機で行く

Mi-llä tava-lla te vietätte joulua Suomessa?

あなたたちはフィンランドでどのようにクリスマスをお過ごしのか

⑤ käydä は内格か接格を取ります

Käyn kesällä **Venäjä-llä**. 夏にロシアへ行って来る

ポイント 39 — 接格の重要な用法

Minu-lla on kaksi veljeä.

私には 2 人兄弟がいる

Matkustamme juna-lla ja bussi-lla.

我々は列車とバスで旅行する

2) 奪格

- ① 場所に関して「～（の上、表面）から」という意味を表します。

Hän nousee **sohva-lta**. 彼/彼女はソファから立ちあがる

Otan kirjan **pöydä-ltä**. 私はテーブルの上から本を取る

- ② 時間に関して使われると「...時に」という意味になります。

Minä palaan **kolme-lta**. 私は3時に戻る

- ③ 人間に関して使って「～から」という働きをします。

Lahja on **Peka-lta**. その贈り物はペッカからです

- ④ **kysyä**「尋ねる、求める」、**tiedustella**「問い合わせる」、**pyytää**「求める」など尋ねることや依頼することを表す動詞の多くでは、尋ねたり依頼する相手を奪格で表現します。

Kysyn **isäl-tä**. 私はお父さんに聞きます

Mies pyytää **mei-ltä** rahaa. 男は私たちに金を求める

- ⑤ 次のような感覚に関わるような動詞に奪格が結びつきます。

haista ～の臭いがする

kuulua ～のように聞こえる、～のように思われる

kuulostaa ～のように聞こえる、～のように思われる

maistua ～の味がする

näyttää ～のように見える、～のように感じられる

tuntua ～のように感じられる

tuoksua ～の香りがする

vaikuttaa ～のように感じられる

Se **kuulostaa hyvä-ltä ajatukse-lta**. それは良い考えのように思われる

Se **maistuu makea-lta**. それは甘い味がする

Se **näyttää** minusta **helpo-lta**. 私の考えではそれは簡単そうに見える

Hän **tuntuu mukava-lta miehe-ltä**. 彼は良さそうな人だ

ポイント 40 - 奪格の重要な用法

Poika kysyy sitä isä-ltä.	少年はそれを父親に尋ねる
Ruoka maistuu oikein hyvä-ltä.	食事は本当のおいしい
Ruusu tuoksuu makea-lta.	バラは甘い香りがする
Talo vaikuttaa ihan tyhjä-ltä.	家はまったく空っぽのようだ

3) 向格

- ① 場所に関して「～（の上、表面）へ」という意味を表します。

Et saa sylkeä **lattialle**. 「床へ唾を吐いてはいけない。」

- ② 人間に関して「～へ、～のために」という意味を表します。

Ostan **Pekalle** lahjan. 「私はペッカに贈り物を買う。」

- ③ 奪格の⑤で説明した動詞の多くは、向格を取ることもあります。

Ruoka maistuu **hyvälle** ~ hyvältä. 「食事おいしい。」

- ④ kuulua 「...に属する、...のものだ」には、人を表す語は向格でつきます。

Kenelle nämä kengät kuuluvat? この靴は誰の者ですか

Se ei kuulu **sinulle**. それはあなたには関係ない

19-2. 子音階程交替(2)

5-1.で学習した以外の階程交替のパターンをまとめます。

- ① 直前の音と同じ音に変化する場合

強階程	弱階程	
lt	ll	silta : silla-n (橋 : 橋の)
rt	rr	parta : parra-n (ヒゲ : ヒゲの)
mp	mm	kampa : kamma-n (櫛 : 櫛の)

今まで勉強した中では、ntがnnと交替しましたが、同じグループに入ります。そしてnkはつづりの上ではngとなりましたが、発音上は[??]と同じ音が重なりますので、やはりこのグループに入ります。

- ② kが消えずにjになる場合

強階程	弱階程	
lke	lje	jälki (jälke-) : jälje-n (跡 : 跡の)
rke	rje	järki (järke-) : järje-n (理性 : 理性の)

kは消えてしまうのが原則でしたが、kの直前にlかrがあり、さらにkの後にeという母音が来る場合には、kはjと交替します。

- ③ kが消えずにvになる場合

強階程	弱階程	
uku	uvu	luku : luvu-n (年代 : 年代の)
yky	yvy	kyky : kyvy-n (能力 : 能力の)

uやyに挟まれたkはvと交替します。

文法問題 19-1. ()内の語を接格、奪格、向格のうち適切な形に直しなさい。

- 1) Tarjous kuulostaa (houkutteleva). 申し出は魅力的なものに思える
- 2) Kirjoitat (punainen kynä). あなたは赤いペンで書く
- 3) Ruusu tuoksuu (makea). バラは甘い匂いがする
- 4) (kuka) nuo porot kuuluvat? あのトナカイたちは誰のものか
- 5) Tiedustelen (myyjä) tavaran hintaa. 私は店員に品物の値段を聞く
- 6) Onko (Pauli) stipendi? パウリは奨学金をもらっているのか
- 7) He uivat (kesä) ja hiihtävät (talvi). 彼らは夏は水泳をして冬にはスキーをする
- 8) Matti lähettää rakkauskirjeen (Irmeli). マッティはイルメリにラブレターを送る
- 9) Irmeli saa rakkauskirjeen (Matti). イルメリはマッティからラブレターをもらう
- 10) Talo vaikuttaa (tyhjä). 家は空っぽのようだ
- 11) (mikä tapa) vietätte joulua? あなたたちはどうやってクリスマスを過ごすのか
- 12) Pöllö on (yö) valveilla. フクロウは夜目を覚ましている
- 13) Käyn (Tampere) ja (Rovaniemi). タンペレとロバニエミに行ってきます
- 14) Pääset sinne joko (lentokone) tai (laiva). あなたはそこへ飛行機か船で行ける
- 15) On paras kysyä (opettaja)! 先生に聞くのが一番よい
- 16) Tupakka maistuu aika (kitkerä). タバコはかなり苦い味がする
- 17) Se näyttää minusta (epäilyttävä). 私にはそれは疑わしく思われる
- 19) Pyydämme (Raija) apua! 私たちはライヤに助けを求める
- 19) Me ripustamme taulun (seinä). 我々は絵を壁に掛ける

19-2. 階程交替に注意して()内の語を指示された形に直しなさい。

- 1) Hän on työssä (pelto). 彼/彼女は畑で働いている [接格]
- 2) (lampi) vesi on mutaista. 池の水は濁っている [属格]
- 3) Mies on (juhlapuku). 男はめかしこんでいる [内格]
- 4) Poliisi ottaa minulta (sormenjälki). 警察は私の指紋を採る [複数主格=対格]
- 5) Sukan (kärki) on reikä. 靴下の先端に穴があいている [内格]
- 6) Maksan laskun (pankkisiirto). 私は勘定を銀行振込で払う [接格]

第 20 課 — Kahdeskymmenes kappale

- 20-1. -si で終わる名詞・形容詞
 20-2. -e, -as, -äs, -is で終わる名詞・形容詞
 20-3. -os, -ös, -us, -ys で終わる名詞・形容詞
 20-4. -si, -e, -s で終わる語の活用例

20-1. -si で終わる名詞・形容詞

-si で終わる語の中には語幹が **-te-** となるものがあります。さらに **-te-** は階程交替により **-de-** と変化する場合があります。たとえば **vesi** 「水，雨」という語の入格は強階程語幹を使って **vete-en** となります。一方たとえば内格は弱階程語幹を使って **vedessä** という形になります。また，分格だけは **-si** を **-tta** ~ **-ttä** に変えて作ります(理屈の上では分格のときだけ **-si** が **-t-** になり、そこに分格語尾 **-ta** / **-tä** がつきませんが、この分格語尾がつく形は子音 **t** で終わるので、子音語幹と呼びます)。

単数主格	-si	vesi	käsi	uusi	vuosi
強階程語幹	-te-	vete-	käte-	uute-	vuote-
弱階程語幹	-de-	vede-	käde-	uude-	vuode-
単数分格	-t-ta ~ -t-tä	vet-tä	kät-tä	uut-ta	vuot-ta

-si で終わる語がすべて上のように変化をするわけではありません。たとえば **lasi** 「ガラス，グラス」という語は語幹も **lasi-** ですので，入格は **lasi-in**，内格は **lasi-ssa**，分格は **lasi-a** となります。**vesi** のような変化をする語はそれほど多くはありませんが，意味の上で重要な語ばかりですので，出会った順に覚えるのが賢明です。

ポイント 41 — -si で終わる語の活用

Vesi on tärkeää meille. Vede-ssä on kala. Virtahepo menee vete-en . Kupissa on vet-tä .	水は我々にとって重要だ 水の中には魚がいる カバが水の中へ入る カップの中には水が入っている
--	---

20-2. -e, -as, -äs, -is で終わる名詞・形容詞

1) -e, -as, -äs, -is で終わる語の語幹

このグループに共通なことは、語幹に長母音が現れるということです。-e は-ee-に、-as は-aa-に、-äs は-ää-に、そして-is は-ii-になります。単数分格だけは、単数主格に直接-ta/-tä をつけて作ります(すでに学習したように-e で終わる語だけは-tta/-ttä をつけます)。

	-e	-as	-äs	-is
主格	huone	viisas	eräs	kaunis
語幹	huonee-	viisaa-	erää-	kaunii-
分格	huone/tta	viisas/ta	eräs/tä	kaunis/ta

2) -e, -as, -äs, -is で終わる語の階程交替

このグループの語では階程交替がある場合に、今まで学習してきたのとは逆の方向へ階程交替が起こります。つまり単数主格で弱階程が、そして語幹で強階程が現れます。たとえば taide 「芸術」という語では、語幹で最後の-e が-ee-になりますが、同時に-d-という音が-t-に変わります。ですから taide の語幹は taitee-となります。同様に osoite 「住所」の語幹は osoittee-、rikas 「裕福な」の語幹は rikkaa-となります。

	-e	-as	-äs	-is
主格	taide	rikas	nisäkäs	ruis
語幹	taitee-	rikkaa-	nisäkkää-	rukii-
分格	taide/tta	rikas/ta	nisäkäs/tä	ruis/ta

ポイント 42 -e, -as, -äs, -is で終わる語の活用

Taide on minulle tärkeää.	私にとって芸術は重要だ
Voin kuolla taitee -n vuoksi.	私は芸術のために死ぬことができる
Rakastan taide -tta.	私は芸術を愛している
Tuolla on rikas mies.	あそこに裕福な男がいる
Rikkaa -lla miehe-llä on paljon rahaa.	裕福な男はたくさん金を持っている
Rakastan rikas -ta mies-tä.	私は裕福な男を愛している

20-3. -os, -ös, -us, -ys で終わる名詞・形容詞

このグループに入る語の多くでは、語幹が**-okse-, -ökse-, -ukse-, -ykse-**となります。これらの語に関しては階程交替はありません。子音で終わる語ですので、単数分格は単数主格に直接**-ta/-tä**をつけて作ります。

	-os	-ös	-us	-ys
主格	teos	käännös	kokous	kysymys
語幹	teokse-	käännökse-	kokoukse-	kysymykse-
分格	teos/ta	käännös/tä	kokous/ta	kysymys/tä

ポイント 43 -os, -ös, -us, -ys で終わる語の活用

Kokous alkaa kello 8 aamupäivällä.	会議は午前 8 時に始まる
Kokoukse- en tulee viisikymmentä osanottajaa.	会議には 50 人の参加者が来る
Minulla on tänään kaksi kokous- ta.	私には今日は 2 つ会議がある

20-4. -si, -e, -s で終わる語の活用例

主格	vesi	taide	rikas	nisäkäs	teos	kokous
属格	vede-n	taitee- n	rikkaa- n	nisäkkää- n	teokse-n	kokoukse-n
分格	vet-tä	taide-tta	rikas-ta	nisäkäs-tä	teos-ta	kokous-ta
内格	vede-ssä	taitee- ssa	rikkaa- ssa	nisäkkää- ssä	teokse-ssa	kokoukse-ssa
出格	vede-stä	taitee- sta	rikkaa- sta	nisäkkää- stä	teokse-sta	kokoukse-sta
入格	vete- en	taitee- seen	rikkaa- seen	nisäkkää- seen	teokse-en	kokoukse-en
接格	vede-llä	taitee- lla	rikkaa- lla	nisäkkää- llä	teokse-lla	kokoukse-lla
奪格	vede-ltä	taitee- lta	rikkaa- lta	nisäkkää- ltä	teokse-lta	kokoukse-lta
向格	vede-lle	taitee- lle	rikkaa- lle	nisäkkää- lle	teokse-lle	kokoukse-lle
複・主	vede-t	taitee- t	rikkaa- t	nisäkkää- t	teokse-t	kokoukse-t

① **-si** で終わる語では分格の作り方が特別ですが、あとは入格を除けば**-de-**に語尾がつきます。入格だけは**-te-**に語尾がつきます。

② **-e, -as, -äs, -is** で終わる語では語幹で**-ee-, -aa-, -ää-, -ii-**という長母音が出てきますので、入格語尾は**-seen**を使います。

文法問題 20-1. 次の語を単数主格の形に直しなさい.

- | | | | |
|-----------------|------------------|--------------------|-----------------|
| 1) hyökkäykseen | 2) rukiin | 3) liikkeellä | 4) vuodelta |
| 5) hitaaseen | 6) kädellä | 7) lääkkeessä | 8) piirroksessa |
| 9) äänneestä | 10) lahjakkaalta | 11) suomennoksessa | 12) kuukaudessa |

文法問題 20-2. ()内の語句を適切な形に直しなさい.

- 1) Juon aina (ranskalainen vesi). 私はいつもフランスの水を飲む
- 2) Pidän (ranskalainen vesi). 私はフランスの水が好きだ
- 3) Haluan ostaa (uusi tietokone). 私は新しいコンピュータを買いたい
- 4) Kaikki puhuvat (uusi tietokone). みんな新しいコンピュータについて話している
- 5) On helppo tottua (uusi tietokone). 新しいコンピュータに慣れるのは簡単だ

文法問題 20-3. ()内の語(句)を適切な形に直しなさい.

- 1) Lähetät kirjeen (tämä osoite). あなたは手紙をこの住所へ送る
- 2) Olen kiinnostunut (kuvataide). 私は絵画に興味がある
- 3) He opiskelevat (lääketiede). 彼らは医学を勉強している
- 4) (sade) jälkeen tuksuu hyvältä. 雨の後はよい匂いがする
- 5) Menestyt varmasti (koe). あなたはきっと試験でうまくやるでしょう

文法問題 20-4. ()内の語(句)を適切な形に直しなさい.

- 1) Suomessa on noin 5 miljoonaa (asukas). フィンランドの人口は約 5 百万だ
- 2) (tämä munakas) on juustoa. このオムレツにはチーズが入っている
- 3) Opettaja kysyy (innokas opiskelija). 教員は熱心な学生に質問する
- 4) Tämän kylän (asukas) viljelevät maata. この村の住人たちは土地を耕している
- 5) Emme pidä (itseks ihminen). 私たちは利己的な人間は好きではない

文法問題 20-5. ()内の語(句)を適切な形に直しなさい.

- 1) On vaikea vastata (se kysymys). その質問に答えるのは難しい
- 2) Voin sanoa sen (kokemus). 私は経験からそう言える
- 3) Olen tyytyväinen (tulos). 私は結果に満足している
- 4) Seinällä on kolme (maalaus). 壁には 3 つの絵がかかっている
- 5) Käymme (jumalanpalvelus) joka sunnuntai. 私たちは毎週日曜は礼拝へ出かける

第 21 課 – Kahdeskymmenesyhdes kappale

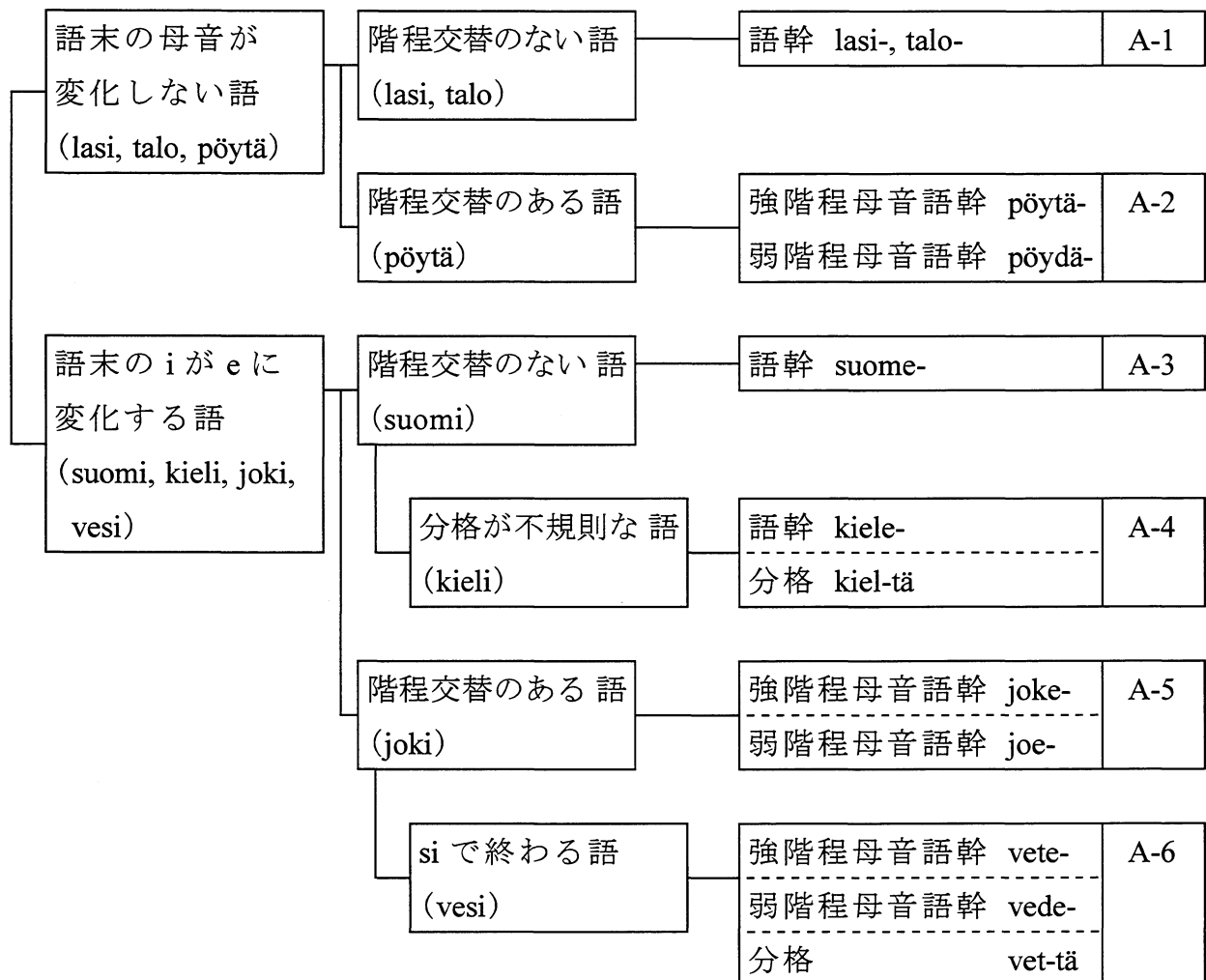
21-1. 名詞・形容詞のタイプーまとめ

21-2. 名詞・形容詞のタイプ別活用例

21-1. 名詞・形容詞のタイプーまとめ

今まで学習してきた名詞・形容詞を活用の点からタイプに分けて整理します。

1) タイプ A (e 以外の短母音で終わる語)



* 今まで学習してきた範囲では、強階程語幹を使うのは入格と分格だけです。それ以外の格では弱階程語幹を使います (A2、A5)。また、分格だけは特別な作り方をする場合 (A4、A6) がありますので注意して下さい。

2) タイプ B (1音節で、長母音か二重母音で終わる語)

長母音・二重母音で終わる語 (maa, työ)	語幹 maa-, työ-	D
	分格 maa-ta, työ-tä	

*単数主格がそのまま語幹になります。分格では-ta/-tä という語尾を、入格では「h + 母音 + n」という語尾をつけます。

3) タイプ C (nen で終わる語)

nen で終わる語 (nainen)	語幹 nais-	C
	分格 nais-ta	

*分格だけは特別な作り方をしますので注意して下さい(-nen → -sta / -stä)。それ以外の格では-se-という語幹を使います。

4) タイプ D (e, as, äs, is)で終わる語)

e, as, äs, is で終わる語 (huone, eräs, tiede, rikas)	階程交替のない語 (huone, eräs)	語幹 huonee-, erää-	D-1
		分格 huone-tta, eräs-tä	
	階程交替のある語 (tiede, rikas)	語幹 tietee-, rikkaa-	D-2
		分格 tiede-ttä, rikas-ta	

*分格だけは単数主格に直接語尾をつけます(eräs-tä, rikas-ta)。また-eで終わる語だけは、分格の語尾が-tta / -ttä であることを確認して下さい(huone-tta, tiede-ttä)。分格以外の格では長母音で終わる語幹を使います(huonee-, erää-)。階程交替のある語では単数主格が弱階程、語幹が強階程になります(tiede>tietee-, rikas>rikkaa-)。

5) タイプ E (os, ös, us, ys で終わる語)

os, ös, us, ys で終わる語 (kokous)	語幹 kokoukse-	E
	分格 kokous-ta	

*分格は単数主格から作ります(kokous-ta)。それ以外の格は語幹から作ります。語幹に-kse-が出てくるのが特徴です。

21-2. 名詞・形容詞のタイプ別活用例

他の格とは違った語幹を使ったり、変化の仕方が特別であったりする格だけ太字にしてあります。分格では-a/-ä, -ta/-tä, -tta/-ttä の3種類の語尾があります。同様に入格では「母音 + n」、「h + 母音 + n」、そして-seen の3種類の語尾があります。

	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6
単数主格	lasi	pöytä	suomi	kieli	joki	vesi
属格	lasi-n	pöydä-n	suome-n	kiele-n	joe-n	vede-n
分格	lasi-a	pöytä-ä	suome-a	kiel-tä	joke-a	vet-tä
内格	lasi-ssa	pöydä-ssä	suome-ssa	kiele-ssä	joe-ssa	vede-ssä
出格	lasi-sta	pöydä-stä	suome-sta	kiele-stä	joe-sta	vede-stä
入格	lasi-in	pöytä-än	suome-en	kiele-en	joke-en	vete-en
接格	lasi-lla	pöydä-llä	suome-lla	kiele-llä	joe-lla	vede-llä
奪格	lasi-lta	pöydä-ltä	suome-lta	kiele-ltä	joe-lta	vede-ltä
向格	lasi-lle	pöydä-lle	suome-lle	kiele-lle	joe-lle	vede-lle
複数主格	lasi-t	pöydä-t	suome-t	kiele-t	joe-t	vede-t

	B	C	D-1	D-2	E
単数主格	maa	nainen	huone	rikas	kokous
属格	maa-n	naise-n	huonee-n	rikkaa-n	kokoukse-n
分格	maa-ta	nais-ta	huone-tta	rikas-ta	kokous-ta
内格	maa-ssa	naise-ssa	huonee-ssa	rikkaa-ssa	kokoukse-ssa
出格	maa-sta	naise-sta	huonee-sta	rikkaa-sta	kokoukse-sta
入格	maa-han	naise-en	huonee-seen	rikkaa-seen	kokoukse-en
接格	maa-lla	naise-lla	huonee-lla	rikkaa-lla	kokoukse-lla
奪格	maa-lta	naise-lta	huonee-lta	rikkaa-lta	kokoukse-lta
向格	maa-lle	naise-lle	huonee-lle	rikkaa-lle	kokoukse-lle
複数主格	maa-t	naise-t	huonee-t	rikkaa-t	kokoukse-t

文法問題 21-1. 次の活用表を完成させなさい

	1) A-1	2) A-2	3) A-3	4) A-4	5) A-5	6) A-6
単数主格	kylä	kauppa	nimi	suuri	mäki	käsi
属格						
分格						
内格						
出格						
入格						
接格						
奪格						
向格						
複数主格						

	7) B	8) C	9) D-1	10) D-2	11) E
単数主格	työ	suomalainen	eräs	tiede	kysymys
属格					
分格					
内格					
出格					
入格					
接格					
奪格					
向格					
複数主格					

第 22 課 – Kahdeskymmeneskahdes kappale

22-1. 後置詞・前置詞

22-1. 後置詞・前置詞

koiran kanssa「犬と一緒に」という表現で使われている **kanssa**「...と一緒に」は、**koiran**「犬」という名詞の後ろに置かれて意味のまとまりを作っているのが、後置詞と呼びます。逆に **ilman rahaa**「金無しで」の **ilman**「...なしで」は、名詞 **rahaa**「金」の前に置かれているので前置詞と呼びます。フィンランド語には後置詞のほうが前置詞よりもたくさんありますが、同じ語が後置詞としても前置詞としても使われることもあります。

ポイント 44 – 後置詞・前置詞

後置詞と結びつく名詞は属格に、前置詞と結びつく名詞は分格になるのが一般的です。ただし例外もあります。

1) 3つの形を持つ代表的な後置詞

	下	上	間	間	そば	そば	表面	周り	もと
..で/に	alla	yllä	välissä	välillä	vieressä	ääressä	päällä	ympärillä	luona
...から	alta	yltä	välistä	väliltä	vierestä	äärestä	päältä	ympäriältä	luota
...へ	alle	ylle	väliin	välille	viereen	ääreen	pälle	ympäriille	luo (kse)

Koira menee puu-n **alle**. 犬は木の下へ行く

Koira on puu-n **alla**. 犬は木の下にいる

Koira lähtee pois puu-n **alta**. 犬は木の下から離れる

Järve-n **yllä** on sumua. 湖の上に霧がかかっている

Koira on pöydä-n ja televisio-n **välissä**. 犬はテーブルとテレビの間にいる

Hän tulee kolme-n ja neljä-n **välillä**. 彼/彼女は3時と4時の間に来る

*「2つの物の間」という場合には **välissä** を、時に関しては **välillä** のグループを使います。また人間関係に関して「誰かと誰かの間」と言う場合や、「これとあれの間の違い」などと抽象的な話をするときにも **välillä** のグループを使います。

Kissa on pöydä-n **vieressä**. 猫はテーブルのそばにいる

Mies on pöydä-n **ääressä**. 男はテーブルについて(食事をして～仕事をして)いる

* pöydän vieressä は「テーブルのそばに」という意味ですが、pöydän ääressä は「テーブルについて食事をしている、仕事をしている」というような意味です。

Kissa on televisio-n **päällä**. 猫はテレビの上にいる

Ilpo on Ritva-n **luona**. イルポはリトバの所にいる

	中心	近く
..で/に	keskellä	lähellä
...から	keskeltä	läheltä
...へ	keskelle	lähelle

この2つは、後置詞としても前置詞としても使われますが、後置詞として使う場合には属格の名詞と、前置詞として使う場合には分格の名詞と結びつきます。

Tavaratalo on kaupunki-n **keskellä**. デパートは街の中心にある

Koira nukkuu **keskellä** lattia-a. 犬は床の真ん中で寝ている

Posti on asema-n **lähellä**. 郵便局は駅の近くにある

Asun **lähellä** Helsinki-ä. 私はヘルシンキの近くに住んでいる

2) 主に場所を表すもの

Auto ajaa toisen auto-n **ohi (tse)**. 自動車は別の自動車のそばを通り過ぎる

Menemme tästä silla-n **yli (tse)**. 私たちはここから橋を超えて行く

Kissa menee aida-n **ali (tse)**. 猫は柵の下を通っていく

He menevät metsä-n **läpi**. 彼らは森を通って行く

Mies kulkee talo-n **ympäri**. 男は家の周りをまわる

Vieraat istuvat **ympäri** pöytä-ä. 客たちはテーブルの周りの座っている

Hän matkustaa Rovaniemelle Oulu-n **kautta**. 彼はオウル経由でロバニエミへ旅行する

Sibelius on kuuluisa **kautta** maailma-n. シベリウスは世界中で知られている

Oikaisemme pello-n **poikki**. 我々は畑を横切って近道をする

Hän kävelee tori-n **halki ~ halki** tori-n. 彼女は市場を通っていく

Auto kulkee **pitkin** tie-tä ~ tie-tä **pitkin**. 自動車は道に沿って進む

Olemme menossa **kohti** Turku-a ~ Turku-a **kohti**. 我々はトゥルクの方へ向かっている

Teatteri on **vastapäätä** kirkko-a ~ kirkko-a **vastapäätä**. 劇場は教会の向かい側にある

3) 主に時を表すもの

Hän lähtee **ennen** joulu-a. 彼はクリスマスの前に出かける

Hän palaa joulu-n **jälkeen**. 彼はクリスマス後に戻ってくる

Tuo kauppa on auki **ympäri** vuorokaude-n. あの店は一日中開いている

Hän tulee takaisin tunni-n **päästä**. 彼女は1時間後に戻ってくる

Soitan taas tunni-n **kuluttua!** 私は1時間後にまた電話します

4) その他

Hän menee naimisiin Leena-n **kanssa**. 彼はレーナと結婚する

Et saa sitä lääkettä **ilman** resepti-ä. 処方箋なしではその薬はもらえません

Sinä toimit **vailla** selkeä-ä päämäärä-ä. あなたは明確な目的もなく行動する

Mi-n-kä **vuoksi** ~ **tähden** ~ **takia** hän tulee tänne? 何のために彼/彼女はここへ来るのか

Mi-tä **varten** matkustat Suomeen? あなたは何のためにフィンランドへ旅行するのか

Käytän maitoa kerma-n **asemesta** ~ **sijasta**. 私はクリームの代わりに牛乳を使う

Säättiedotukse-n **mukaan** tänään sataa lunta. 天気予報によれば今日は雪が降る

Olen si-tä **vastaan**. 私はそれに反対だ.

En ole asia-n **puolesta** enkä si-tä **vastaan**. 私はその件に賛成でも反対でもない

5) 属格や分格以外の名詞と結びつくもの

① 入格や向格と結びつくもの

Raportti on valmis tiistai-hin **mennessä**. 報告は火曜までには完成する

Olen täällä torstai-hin **asti** ~ **saakka**. 私は木曜日までここにいる

Melu kuuluu mei-lle **asti** ~ **saakka**. 騒音は我々の所まで聞こえる

② 出格や奪格と結びつくもの

Tä-stä **lähtien** ~ **alkaen** aion olla varovainen. これからは用心深くしようと思う

Vieras tulee Tamperee-lta **asti** ~ **saakka**. お客はタンペレから来る

文法問題 22-1. 適切な後置詞か前置詞を語群より選んで()の中へ入れなさい.

- 1) Aki muuttaa () Tampereetta. アキはタンペレの近くへ引っ越す
- 2) Talon ja metsän () näkyy järvi. 家と森の間から湖が見える
- 3) Matkustan Suomeen Tanskan (). デンマーク経由でフィンランドへ行く
- 4) Pallo menee maalin (). ボールは的を外れる(的を通り過ぎる)
- 5) Pallo menee maalia (). ボールは的へ向かっていく
- 6) Pöydän () istuu neljä naista. テーブルの周りに4人の女性が座っている
- 7) Tavaratalo on () kaupunkia. デパートは街の真中にある
- 8) Pianisti istuu pianon (). ピアニストは(演奏のために)ピアノの前に座る
- 9) Kuvan () on teksti. 写真の下に文章がある
- 10) Ääni kuuluu seinän (). 壁を通して声が聞こえる

a. keskellä	b. kautta	c. lähellä	d. lähelle	e. väliltä	f. ohi	g. läpi
h. välistä	i. kohti	j. ympärillä	k. viereen	l. ääreen	m. alla	

文法問題 22-2. 適切な後置詞か前置詞を語群より選んで()の中へ入れなさい.

- 1) Satu on vihainen minulle () syytä. サトゥは理由もなく私に腹を立てている
- 2) Mika on poissa koulusta flunssan (). ミカは風邪のために学校を休んでいる
- 3) Menemme koulun () uimahalliin. 私たちは学校の後でプールへ行く
- 4) Kenen () lähdet ulos näin myöhään? こんな遅くに誰と外へ出かけるのか
- 5) Matti käy kävelyllä () ruokaa. マッティは食事の前に散歩に出かける
- 6) Kokous kestää iltaan (). 会議は晩まで続く
- 7) Ohjelma jatkuu viikon (). 番組は1週間後に続く
- 8) Leenan ja Liisan () kehittyy ystävyys. レーナとリーサの間に友情が芽生える
- 9) Jumala on ihmistä (). 神は人間のためにいる
- 10) Laki on voimassa ensi vuoden alusta (). 法は来年はじめから効力を発する

a. asti	b. vuoksi	c. jälkeen	d. mennessä	e. välissä	f. varten
g. kanssa	h. ilman	i. kuluttua	j. ennen	k. välille	l. alkaen

第 23 課 Kahdeskymmeneskolmas kappale

23-1. 所有接尾辞

23-1. 所有接尾辞

名詞に人称代名詞の属格がつく場合には、名詞の後ろにも所有者を表す語尾がつくのが正式な形とされています。ですから、そのまま日本語にすると「私の犬ー私の」というように、「私の」という言葉を2回言うことになります。このように名詞の後ろにつく語尾を「所有接尾辞」と呼びます。

1) 所有接尾辞の形

次に talo「家」という語に人称代名詞の属格と所有接尾辞のついた形を上げますので、それぞれの所有者に対応する所有接尾辞の形を確認して下さい。

ポイント 45 – 所有接尾辞			
minun talo- ni	私の家	meidän talo- mme	私たちの家
sinun talo- si	あなたの家	teidän talo- nne	あなた方の家
hänen talo- nsa	彼/彼女の家	heidän talo- nsa	彼らの家

3人称の所有接尾辞は単数でも複数でも **-nsa/-nsä** です(母音調和に注意)。

2) 所有接尾辞のつけ方

単数主格に所有接尾辞をつけるときには、今まで学習した格語尾と同じように語幹につけます。語幹に階程交替のある場合にも弱階程にはしません。所有接尾辞のすぐ前にある子音は強階程です(このことを頭に入れておいて下さい)。

nimi「名前」> 語幹 nime- > **nime-ni**「私の名前は」

pöytä「机」> 強階程語幹 pöytä- > **pöytä-si**「あなたの机は」

osoite「住所」> 語幹 osoittee- > **osoittee-mme**「私たちの住所」

3) 格変化した語への所有接尾辞のつけ方

所有接尾辞は、単数主格以外の形につくこともあります。たとえば「私たちの店の中には」と言いたいときには、「店」という語の内格の形に所有接尾辞がつくことになります。

① 必ず「語幹＋格語尾＋所有接尾辞」という順番になります。

kauppa > 内格 kauppa-ssa > **kauppa-ssa-mme** 「私たちの店で」

② 格語尾の最後の **n, t** という音は、所有接尾辞をつけると消えてしまいます。つまり属格の **n**，入格の最後の **n**，そして複数主格の **t** は、所有接尾辞がつくと消えてしまいます。kauppa の属格に「私たちの」という所有接尾辞をつけてみます。

kauppa > 属格 kauppa-n > 属格 + 所有接尾辞 kauppa-n + -mme > kaupamme

属格の **n** が消えたので、kaupanmme とはならず **kaupamme** となります。そのため **p** という語幹の子音が所有接尾辞 **-mme** のすぐ前に来ました。ところで所有接尾辞のすぐ前にある子音は強階程という約束がありました。ですから **kauppa** の属格 **kaupan** に所有接尾辞のついた形は次のようになります。

kaupan + -mme > kaupamme > **kauppa-mme**

③ 結果的に所有接尾辞がつくと、単数主格・単数属格・複数主格は同じ形になってしまいます。どの形なのかは文の中で判断することになります。

ポイント 46 – 主格・属格・複数主格＋所有接尾辞		
単数主格	kauppa + -mme > kauppamme	私達の店は
単数属格	kaupan + -mme > kauppamme	私達の店の
複数主格	kaupat + -mme > kauppamme	私達の店々は

4) 3人称の所有接尾辞について

3人称単数，3人称複数の所有接尾辞はどちらも **-nsa/-nsä** ですが，

① 「母音を伸ばして **n**」という形もあります。

② 単数主格には必ず **-nsa/-nsä** の方をつけ，また子音で終わる格語尾(つまり属格・入格・複数主格)の後にも必ず **-nsa/-nsä** をつけます。

③ 母音で終わっている格語尾の後には，もちろん **-nsa/-nsä** をつけることもできますが，最後の母音 (**a / ä** か **e** です) を伸ばして **n** をつける，というやり方で3人称の所有接尾辞をつける方が一般的です。

kirkko 「教会」 > 内格 kirko-ssa > **kirko-ssa-an** (~ kirko-ssa-nsa)

ただし分格語尾 **-a/-ä** がついたために **-aa/-ää** という長母音で終わっている語には、**-nsa/-nsä** をつけます。

pöytä 「テーブル」 > 分格 pöytä-ä > **pöytä-ä-nsä** (pöytä-ä-än ではありません)

ポイント 47 - 3 人称の所有接尾辞	
単数主格	kirkko-nsa , pöytä-nsä,
単数属格	kirkko-nsa, pöytä-nsä
単数入格	kirkkoo-nsa, pöytää-nsä
複数主格	kirkko-nsa, pöytä-nsä
単数分格	kirkkoa-an (kirkkoa-nsa), pöytää-nsä
単数・その他	kirkossa-an (kirkossa-nsa), pöydässä-än (pöydässä-nsä)

5) 人称代名詞の省略

文の主語と所有者が同一人物の場合には、人称代名詞の属格は省略します。

- | | | |
|---|------------------------------------|---------------|
| { | (×) Minä rakastan minun vaimoa-ni. | |
| | (○) Minä rakastan vaimoa-ni. | 私は自分の妻を愛しています |

ですから 3 人称の人称代名詞の属格がつく場合とつかない場合とでは、文の意味が違ってきます

- | | | |
|---|--------------------------------------|--------------------|
| { | Hän rakastaa vaimoa-an. | 彼は(自分の)妻を愛している |
| | Hän rakastaa hänen vaimoa-an. | 彼は(別人である)彼の妻を愛している |

また 1 人称や 2 人称の代名詞の属格は、このような場合以外にもしばしば省略されます。

Koti-mme (~ Meidän koti-mme) on tuolla. 我々の家はあそこにあります

6) 形容詞修飾語

名詞に所有接尾辞がついても、それを修飾している形容詞には所有接尾辞はつきません。

uusi talo > minun **uusi** talo-ni 私の新しい家

7) 後置詞

後置詞にも所有接尾辞がつくことがあります。

Marketta asuu meidän **luona-mme**. マルケッタは我々のところに住んでいる

Onko sinulla aikaa puhua **kanssa-ni**? あなたには私と話す時間がありますか

8) itse 「自分自身」は格変化すると必ず所有接尾辞がつきます(語幹は itse-).

Ostan **itse-lle-ni** lahjan. 私は自分自身のためにプレゼントを買う

文法問題 23-1. 次の語の()内の語を a)単数主格、b)単数属格、c)単数分格、d)単数内格、e)単数入格、f)複数主格の形に変化させ、適切な所有接尾辞をつけなさい。

- 1) minun (käsi) 私の手
- 2) sinun (lehti) あなたの新聞
- 3) hänen (osoite) 彼/彼女の住所
- 4) meidän (maa) 我々の国
- 5) teidän (ehdokas) あなた方の候補者
- 6) heidän (esitys) 彼らの公演

文法問題 23-2. ()内の語を適切な形に直し、[]内で指示された人物の所有接尾辞をつけなさい。

- 1) (Isä) on uusi kamera. [minä] 私の父は新しいカメラを持っている
- 2) (Perhe) on viisi lasta. [te] あなた方の一家には5人子供がいる
- 3) Saamme joulukortin (ystävä). [me] 我々は友人からクリスマスカードをもらう
- 4) Pidän (isoäiti). [sinä] 私はあなたのおばあさんが好きです
- 5) Outi kirjoittaa (veli). [hän] オウティは兄(弟)に手紙を書く
- 6) Vilho rakastaa (vaimo). [hän] ヴィルホは自分の奥さんを愛している
- 7) Esko rakastaa vain (itse). [hän] エスコは自分のことだけを愛している
- 8) Luotan (itse). [minä] 私は自分を信頼している

文法問題 23-3. ()内の語を適切な形に直し、[]内で指示された人物の所有接尾辞をつけなさい。

- 1) Missä on (ranskalainen opas)? [me]我々のフランス人ガイドはどこにいるのか
- 2) (Pieni kesämökki) on kaunis näköala. [te]
あなた方の小さな夏小屋からは美しい眺めが見える
- 3) (harmaa kissa) nimi on Mirri. [minä] 私のグレーの猫の名前はミッリです
- 4) Milloin palaat (rakas kotikaupunki)? [sinä]あなたはいつ愛する故郷へ帰るのか
- 5) Aulikki odottaa (virolainen vieras). [hän]
アウリッキはエストニア人のお客さんを待っている
- 6) Heidän (uusi tietokone) eivät toimi kunnolla. [he]
彼らの新しい(複数の)コンピュータはきちんと動かない

第 24 課 – Kahdeskymmenesneljäs kappale

24-1. 動詞の現在形(4) – nähdä と tehdä

24-2. 動詞の現在形(5) – タイプ 3, 4 の動詞の階程交替

24-1. 動詞の現在形(4) – **nähdä** 「見る, 見える」と **tehdä** 「する, 作る」

この2つの動詞はどちらも **-hdä** という形で終わっています。この2つの動詞だけは語幹の作り方が不規則なので、覚えてしまう以外に方法はありません。これらの動詞にも強階程語幹と弱階程語幹があり、その使い分けはタイプ1の動詞の場合と同じです。もちろん否定形では弱階程語幹が使われます。

ポイント 48 – nähdä と tehdä		
不定詞	nähdä	tehdä
強階程語幹	näke-	teke-
弱階程語幹	näe-	tee-

	肯定形	否定形	肯定形	否定形
minä	näe-n	en	tee-n	en
sinä	näe-t	et	tee-t	et
hän	näke-e	ei	teke-e	ei
me	näe-mme	emme	tee-mme	emme
te	näe-tte	ette	tee-tte	ette
he	näke-vät	eivät	teke-vät	eivät

24-2. 動詞の現在形(5) – タイプ 3, 4 の動詞の階程交替

タイプ3と4の動詞の中にも階程交替が起こる語があります。ただ、タイプ1の場合とは階程交替の起こり方が大きく異なります。

ところで 19-2.で、主格に弱階程が現れ、語幹に強階程が現れる名詞・形容詞について学習しました。たとえば rikas:rikkaa- というような語です。タイプ3と4の動詞に階程交替が起こる場合には、ちょうどこれらの名詞・形容詞と同じように弱階程と強階程が現れます。つまり不定詞に弱階程が、そして語幹に強階程が現れます。具体的に見てみましょう。

1) タイプ 3 (-lla / -llä で終わる動詞)

ここで問題になるのはタイプ 3 の動詞のうち **-lla / -llä** で終わっている動詞です。タイプ 3 では最後の 2 文字を取り、**e** をつけて語幹を作りました。

tulla 「来る」 > tul- > 語幹 **tule-**

同じように **esitellä** 「紹介する」という動詞の語幹を作ってみます。

esitellä > esitel- > **esitele-**

ここで最後から 2 つ目に出てくる子音、つまり **l** の前に出てくる子音を見て下さい。この語では、**l** の前に出てくる子音は **t** です。そして **t** は階程交替の起こる音でした。**-lla / -llä** で終わる動詞では、この部分に階程交替が起こるのです。タイプ 1 の動詞では不定詞が強階程で、それが弱階程になる場合がありました。しかし **-lla / -llä** で終わる動詞では、階程交替の起こり方が逆になります。つまり不定詞にある音が弱階程の音なので、語幹で強階程にしなければなりません。ですから **esitellä** の語幹は次のような形になります。

esitellä > **esitele-** > 語幹 **esittele-**

同様に **tapella** 「喧嘩する」の語幹は次のようになります。

tapella > **tapele-** > 語幹 **tappele-**

この語幹はすべての人称で使われ、また否定形でもこの語幹が使われます。

2) タイプ 4 (-ta / -tä で終わる動詞)

タイプ 4 では最後から 2 文字目の **t** を取って語幹を作りました。

haluta 「望む」 > 語幹 **halua-**

タイプ 4 の動詞にも、タイプ 3 の動詞と全く同じ様な階程交替が起こる語があります。たとえば **tykätä** 「好む」の語幹は次のようになります。

tykätä > **tykkää-** > 語幹 **tykkää-**

つまりタイプ 4 では、**-ta / -tä** の前にある音が階程交替の起こる音である場合に、**-lla / -llä** で終わる動詞の場合と同じ様に階程交替が起こります。すなわち、不定詞にある音が弱階程で、それが語幹で強階程になります。同様に **levätä** 「休息する」、**pudota** 「落ちる」、**maata** 「横になる」の語幹は次のようになります。

levätä > **levää-** > **lepää-**

pudota > **pudoa-** > **putoa-**

maata > **ma|aa-** > **makaa-**

このようにして作られた語幹はすべての人称、そして否定形でも使われます。

ポイント 49 - タイプ 3, 4 の動詞の階程交替

不定詞	esitellä	tapella	kuunnella	ommella	tykätä	levätä	pudota	maata
語幹	esittle-	tappele-	kuuntele-	ompele-	tykkää-	lepää-	putoa-	makaa-

	esitellä		tykätä	
	肯定形	否定形	肯定形	否定形
minä	esittelen	en	tykkään	en
sinä	esittelet	et	tykkäät	et
hän	esittelee	ei	tykkää	ei
me	esittelemme	emme	tykkäämme	emme
te	esittelette	ette	tykkäätte	ette
he	esittelevät	eivät	tykkäävät	eivät

Mitä sinä teet?

Minä vain ajattelen häntä.

Teettekö ruokaa aina kotona?

Emme tee ruokaa kotona.

Mitä hän tekee huoneessaan?

Hän kuuntelee radiota.

He tekevät kovasti työtä.

Haluamme jutella.

Juttelemme kaikenlaista.

Minä haluan kuunnella radiota.

Minä kuuntelen nyt radiota.

He aikovat käsitellä asiaa.

Milloin he käsittelevät asiaa?

Te ette halua tapella.

Te ette koskaan tappele.

Mistä sinä tykkäät?

Tykkään musiikista.

Kirja putoaa hyllyltä lattialle.

Äiti makaa vuoteessa.

何をしているのですか

ただ彼女のことを考えているだけです

あなた達はいつも家で食事を作りますか

私達は家では食事を作りません

彼/彼女は部屋で何をしているのですか

彼/彼女はラジオを聞いている

彼らは仕事を熱心にする-している

私達はおしゃべりしたい

あらゆることをおしゃべりします

私はラジオを聞きたい

私は今ラジオを聞いている

彼らはその件を処理するつもりです

彼らはその件をいつ処理するのですか

あなた達は喧嘩をしたいとは思わない

あなた達は決して喧嘩をしない

あなたは何が好きですか

私は音楽が好きです

本が棚から床へ落ちる

母はベッドで横になっている

文法問題 24-1. tehdä を適切な形にして入れなさい。

- 1) Mitä sinä ()?
- 2) Minä () nyt ruokaa.
- 3) Mitä sinun isäsi ()?
- 4) Hän ei () mitään. Mitä te ()?
- 5) Me () työtä.
- 6) Entä he? () he myös työtä?
- 7) Eivät. He eivät () työtä nyt.

文法問題 24-2. 次の動詞を現在形の6つの形に変化させなさい。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1) esitellä 紹介する | 2) tapella 喧嘩をする |
| 3) työskennellä 仕事をする | 4) kuunnella 聞く |
| 5) tavata 会う | 6) pudota 落ちる |
| 7) maata 横になる | 8) hypätä 跳ねる, |
| 9) hakata 切る, 叩く | 10) mitata 測る |

文法問題 24-3. ()内の動詞を適切な形に直しなさい

- 1) (ajatella) sinä vielä Ainoa? まだアイノのことを考えているのか
- 2) Minä (esitellä) sinut vaimolleni. 私はあなたを妻に紹介する
- 3) Oppilaat (kuunnella) radiota. 学生たちはラジオを聞いている
- 4) Isoisäni (maata) vuoteessa. 私の祖父はベッドで横になっている
- 5) Kirja (pudota) hyllyltä. 本が棚から落ちる
- 6) Kissa (hypätä) alas pöydältä. 猫はテーブルから跳ね降りる
- 7) Työntekijät (työskennellä) tehtaassa. 労働者たちは工場で働いている
- 8) Minä (tavata) sinut huomenna. 私は明日あなたにお会いします
- 9) (tykätä) te kiinalaisesta ruoasta? あなた方は中国料理が好きですか
- 10) Me (jutella) uudesta opettajastamme. 我々は新しい先生について話している
- 11) Presidentti ja pääministeri (kätellä). 大統領と首相は握手をする
- 12) (luvata) sinä lopettaa tupakoimisen? あなたはタバコを止めると約束しますか
- 13) Koira (haudata) luun maahan. 犬は骨を地面に埋める
- 14) Sade (lakata) pian, kun taivas on sininen. 空が青いので雨はじきにやむだろう

第 25 課 — Kahdeskymmenesviides kappale

25-1. sinä に対する命令形 (単数形)

25-2. te に対する命令形 (複数形)

25-3. 命令文の目的語

25-1. sinä に対する命令形

これから学習する形は、「命令形」という言葉から抱くほど強い命令を表すとは限らず、日常頻繁に使われます。sinä に対して使う単数形と、te に対して使う複数形を区別します。複数形を 1 人の相手に対して使うと丁寧になります。

1) sinä に対する命令形・肯定形

動詞の語幹がそのまま 1 人の相手に使う命令の形になります。タイプ 1 の動詞で階程交替のある語、そして tehdä と nähdä のように強階程語幹と弱階程語幹を持つ語では、弱階程語幹が sinä に対する命令形になります。

- ① タイプ 1 puhua > **Puhu!** 話せ
lukea > **Lue!** 読め (Luke!ではありません)
- ② タイプ 2 juoda > **Juo!** 飲め
- ③ タイプ 3 tulla > **Tule!** 来い
esitellä > **Esittele!** 紹介しろ
- ④ タイプ 4 herätä > **Herää!** 目を覚ませ
levätä > **Lepää!** 休息しろ
- ⑤ tehdä > **Tee!** しろ (Teke!ではありません)

結果的にこれらの形は現在形の否定で使う形と同じです。

2) sinä に対する命令形・否定形

肯定の命令の形に älä という語をつけると否定形になります。

- Puhu! 話せ → **Älä puhu!** 話すな
Juo! 飲め → **Älä juo!** 飲むな
Tule! 来い → **Älä tule!** 来るな
Lepää! 休息しろ → **Älä lepää!** 休息するな
Tee! しろ → **Älä tee!** するな

25-2. te に対する命令形

1) te に対する命令形・肯定形

te、つまり複数の相手に対する命令形には**-kaa/-kää**という語尾があります。

① タイプ1の動詞では(強階程)語幹に**-kaa/-kää**をつけます。

lukea > (強階程) 語幹 luke- > **Luke-kaa!**

② タイプ2では語幹に**-kaa/-kää**をつけます。

juoda > 語幹 juo- > **Juo-kaa!**

③ タイプ3では不定詞の最後の2文字を取って**-kaa/-kää**をつけます。

tulla > tul- > **Tul-kaa!** esitellä > esitel- > **Esitel-kää!**

不定詞の最後の2文字を取った形は子音で終わっているのので、子音語幹と呼びます。つまり、タイプ3の動詞では子音語幹に**-kaa/-kää**をつけます。

④ タイプ4では不定詞の最後の**-a / -ä**を取った形に**-kaa/-kää**をつけます。

不定詞から**-a/-ä**を取った形は必ず **t** で終わりますので、この形をやはり子音語幹と呼びます。タイプ4では子音語幹に**-kaa/-kää**をつけます。

herätä > herät- > **Herät-kää!** levätä > levät- > **Levät-kää!**

⑤ **nähdä, tehdä** はタイプ2の動詞と同じように**-dä**を取り語尾をつけます。

tehdä > teh- > **Teh-kää!**

2) te に対する命令形・否定形

肯定の形に **Älkää** という語をつけますが、さらに動詞には**-kaa/-kää**の代わりに**-ko/-kö**という語尾をつけます。

Puhu-kaa! (あなた方) 話しなさい → **Älkää puhu-ko!** (あなた方) 話さないで

ポイント 50 - 命令形					
不定詞		lukea	syödä	esitellä	levätä
命令 単数	肯定	Lue!	Syö!	Esittele!	Lepää!
	否定	Älä lue!	Älä syö!	Älä esittele!	Älä lepää!
命令 複数	肯定	Luke-kaa!	Syö-kää!	Esitel-kää!	Levät-kää!
	否定	Älkää luke-ko!	Älkää syö-kö!	Älkää esitel-kö!	Älkää levät-kö!

25-3. 命令文の目的語

ふつうの文で分格になる目的語は命令文でも分格のままなのですが、ふつうの文で属格の形をした対格の目的語は、命令文では属格の形ではなく主格の形になります。もちろん、否定文では目的語はいつも分格です。

- { Sinä ostat maito-a[分格]. あなたは牛乳を買う
- { Osta maito-a[分格]! 牛乳を買って下さい
- { Sinä ostat **kirja-n**[対格=属格]. あなたは本を買う
- { Osta **kirja**[対格=主格]! 本を買って下さい
- { Sinä et osta kirja-a[分格]. あなたは本を買わない
- { Älä osta kirja-a[分格]! 本を買わないで下さい

ただし属格とは別の形をした対格を持つ人称代名詞と **kuka** の場合には、命令文でも **-t** で終わる対格の形を使います。

- { He ottavat **minu-t** mukaan.[t-対格] 彼らは私を連れていく
- { Ota **minu-t** mukaan![t-対格] 私と一緒に連れて行って下さい

対格について確認しておきましょう。対格は、分格ではない目的語の総称でした。そして対格の働きをするのは、単数では属格、そして複数では主格でした。つまり **kirja-n** という形には「本の」という働きと「本を」という働きがあり、**kirja-t** には「複数の本が」という働きと「複数の本を」という働きがありました。

命令文の場合には、単数対格の目的語になるのは属格ではなく主格です。ですから **kirja** という形は、普通の文では「本が」という主語の働きをしますが、命令文では「本を」という目的語の働きをします。

ポイント 51 - 命令文の目的語	
{ Sinä ostat auto-n.	あなたは自動車を買う
{ Osta auto!	自動車を買いなさい
{ Älä osta auto-a!	自動車を買うな
{ Sinä ostat kahvi-a.	あなたはコーヒーを買う
{ Osta kahvi-a!	コーヒーを買いなさい
{ Älä osta kahvi-a!	コーヒーを買うな
{ Sinä otat minu-t mukaan.	あなたは私を連れて行く
{ Ota minu-t mukaan!	私を連れて行きなさい
{ Älä ota minu-a mukaan!	私を連れて行くな

文法問題 25-1. 次の文を *sinä* に対する命令の形にしてください(属格の形をした対格の目的語は、命令文では主格の形になります)

- 1) *Minä ostan postikortin* 私は葉書を買う
- 2) *Minä kirjoitan kirjeen.* 私は手紙を書く
- 3) *Minä syön leipää.* 私はパンを食べる
- 4) *Minä opiskelen suomea.* 私はフィンランド語を勉強する
- 5) *Minä kuuntelen radiota.* 私はラジオを聞く
- 6) *Minä vastaan kysymykseen.* 私は質問に答える
- 7) *Minä kertaan kielioppia.* 私は文法を復習する
- 8) *Minä teen niin.* 私はそうする
- 9) *Minä ajattelen asiaa.* 私はその事を考える
- 10) *Minä avaan tilin.* 私は口座を開く

文法問題 25-2. 上の問題の答えを否定形にしてください(否定文では目的語は常に分格です)

文法問題 25-3. 次の文を *te* に対する命令の形にしてください(目的語に注意)

- 1) *Me ostamme postimerkin.* 我々は切手を買う
- 2) *Me kirjoitamme kirjan.* 我々は本を書く
- 3) *Me syömme kalaa.* 我々は魚を食べる
- 4) *Me opiskelemme viittomakieltä.* 我々は手話を勉強する
- 5) *Me kuuntelemme musiikkia.* 我々は音楽を聞く
- 6) *Me vastaamme kirjeeseen.* 我々は手紙に返事をする
- 7) *Me kertaamme läksyn.* 我々は課題を復習する
- 8) *Me teemme näin.* 我々はこういうふうにする
- 9) *Me ajattelemme häntä.* 我々は彼の事を考える
- 10) *Me avaamme uuden myymälän.* 我々は新しい店を開く

文法問題 25-4. 上の問題の答えを否定形にしてください(目的語に注意)

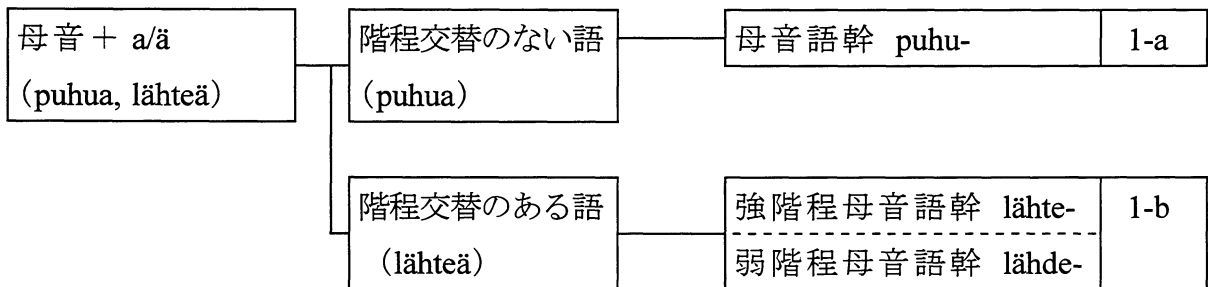
第 26 課 – Kahdeskymmeneskuudes kappale

- | |
|------------------|
| 26-1. 動詞のタイプ–まとめ |
| 26-2. 動詞のタイプ別活用例 |

26-1. 動詞のタイプ–まとめ

今まで学習した動詞をタイプ別にまとめます。語幹が複数ある場合には、どの形でどの語幹を使うのか確認して下さい。23-2.の活用例も参考にして下さい。

1) タイプ 1 (母音 + a/ä で終わる動詞)

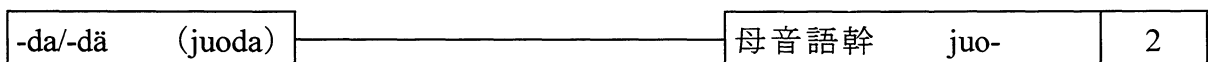


* タイプ 1-a では語幹は 1 つだけですので、すべての形がここから作られます。

* タイプ 1-b では強階程語幹と弱階程語幹があります。

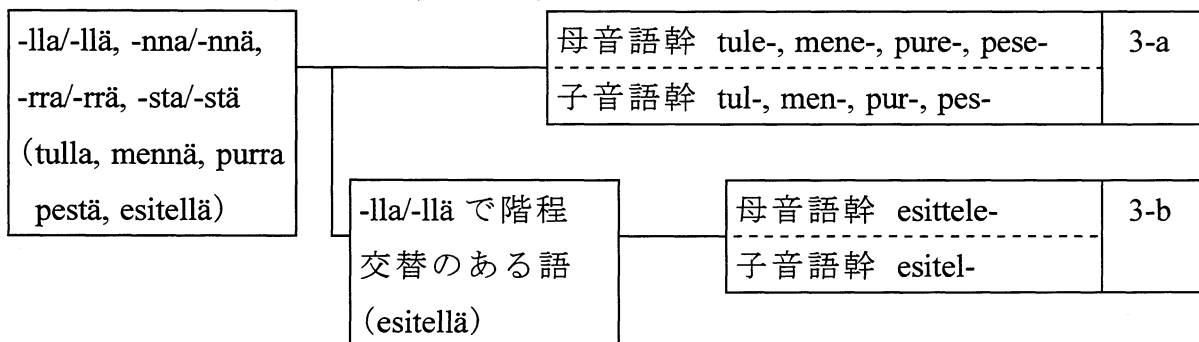
- ① 現在形では、3 人称の単数と複数でだけ強階程語幹が使われます。(hän lähte-e, he lähte-vät)。現在形の他の形では弱階程語幹が使われます(minä lähde-n, sinä lähde-t, me lähde-mme, te lähde-tte)。
- ② 否定形でも弱階程語幹が使われます(en lähde, et lähde, ei lähde...)
- ③ 命令形では、sinä に対する命令形(単数形)では弱階程語幹が(Lähde!)、te に対する命令形(複数形)では強階程語幹を使います(Lähte-kää!)

2) タイプ 2 (-da/-dä で終わる動詞)



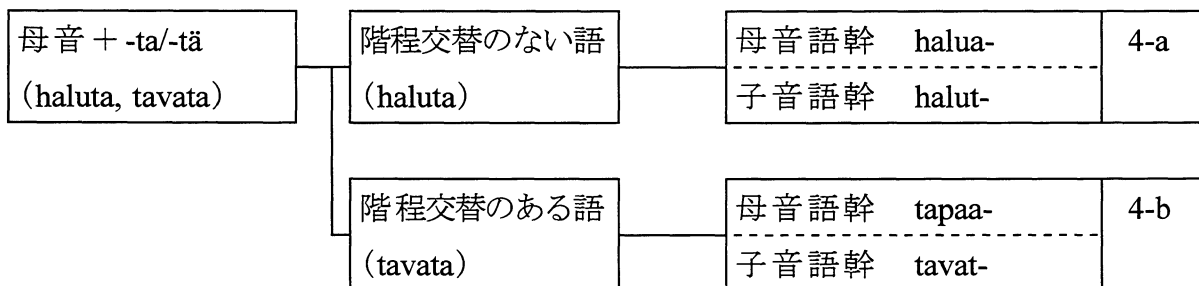
* このタイプでは語幹は 1 つだけですので問題はないでしょう。

3) タイプ 3 (-lla/-llä, -nna/-nnä, -rra/-rrä, -sta/-stä で終わる動詞)



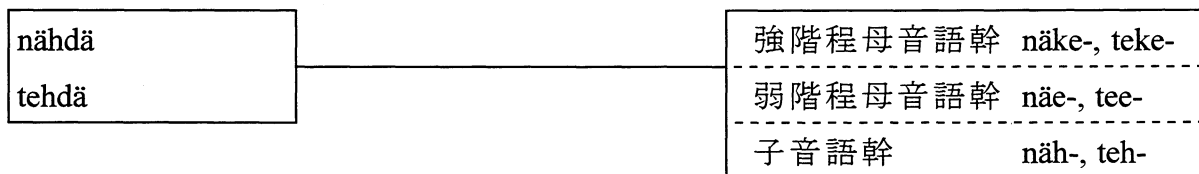
* 今まで学習した中では、te に対する命令形(複数形)でだけ子音語幹を使います (Tul-kaa!, Esitel-kää)。それ以外の形はすべて母音語幹から作られます。

4) タイプ 4 (母音 + -ta/-tä で終わる動詞)



* 今まで学習した中では、te に対する命令形(複数形)でだけ子音語幹が使われま
す (Halut-kaa!, Tavat-kaa!)。それ以外の形はすべて母音語幹から作られます。

5) nähdä と tehdä



* この2つの動詞には語幹が3つあります。

① 強階程語幹を使うのは現在形では3人称の単数と複数だけです (hän teke-e,
he teke-vät)。現在形の他の形は弱階程語幹から作ります (minä tee-n...)

② 否定形では弱階程語幹を使います (en tee, et tee, ei tee...)

③ 命令形では、sinä に対する命令形(単数形)では弱階程語幹が (Tee!)、te に対
する命令形(複数形)では子音語幹が使われます (Teh-kää!)

26-2. 動詞のタイプ別活用例

他の形とは別の語幹を使う部分だけ太字にしてあります。現在・否定形は *minä* の形だけ上げてあります。

	1) 1-a	2) 1-b	3) 2	4) 3-a
不定詞	puhua	lähteä	juoda	tulla
<i>minä</i>	puhu-n	lähde-n	juo-n	tule-n
<i>sinä</i>	puhu-t	lähde-t	juo-t	tule-t
<i>hän</i>	puhu-u	lähte-e	juo	tule-e
<i>me</i>	puhu-mme	lähde-mme	juo-mme	tule-mme
<i>te</i>	puhu-tte	lähde-tte	juo-tte	tule-tte
<i>he</i>	puhu-vat	lähte-vät	juo-vat	tule-vat
現在・否定形	en puhu	en lähde	en juo	en tule
命令(単数)	puhu	lähde	juo	tule
命令(単数)・否定	älä puhu	älä lähde	älä juo	älä tule
命令(複数)	puhu-kaa	lähte-kää	juo-kaa	tul-kaa
命令(複数)・否定	älkää puhu-ko	älkää lähte-kö	älkää juo-ko	älkää tul-ko

	5) 3-b	6) 4-a	7) 4-b	8) -hdä
不定詞	esitellä	haluta	tavata	tehdä
<i>minä</i>	esittele-n	halua-n	tapaa-n	tee-n
<i>sinä</i>	esittele-t	halua-t	tapaa-t	tee-t
<i>hän</i>	esittele-e	halua-a	tapaa	teke-e
<i>me</i>	esittele-mme	halua-mme	tapaa-mme	tee-mme
<i>te</i>	esittele-tte	halua-tte	tapaa-tte	tee-tte
<i>he</i>	esittele-vät	halua-vat	tapaa-vat	teke-vät
現在・否定形	en esittele	en halua	en tapaa	en tee
命令(単数)	esittele	halua	tapaa	tee
命令(単数)・否定	älä esittele	älä halua	älä tapaa	älä tee
命令(複数)	esitel-kää	halut-kaa	tavat-kaa	teh-kää
命令(複数)・否定	älkää esitel-kö	älkää halut-ko	älkää tavat-ko	älkää teh-kö

文法問題 26-1. 次の活用表を完成させなさい。

	1) 1-a	2) 1-b	3) 2	4) 3-a
不定詞	kysyä	lukea	syödä	mennä
minä sinä hän me te he				
現在・否定形	minä	minä	minä	minä
命令(単数) 命令(単数)・否定 命令(複数) 命令(複数)・否定				

	5) 3-b	6) 4-a	7) 4-b	8) -hdä
不定詞	kuunnella	herätä	tykätä	nähdä
minä sinä hän me te he				
現在・否定形	minä	minä	minä	minä
命令(単数) 命令(単数)・否定 命令(複数) 命令(複数)・否定				

第 27 課 — Kahdeskymmenesseitsemäs kappale

27-1. 受動形(1) — 現在形

27-1. 受動形(1) — 現在形

動詞に受動形と呼ばれる形があります。「～される」と訳すことができる場合があるので「受動形」と呼ばれますが、「人々が、みんなが、私たちが、彼らが」あるいは「誰かが」というような主語を持つと思われる内容を表現するときに使います。ただし主語は絶対に表現されません。「日本では夏にたくさんビールを飲む」、「ここでは冬の間スキーで学校へ行く」のように、日本語でも主語を表現しない文がありますが、フィンランド語の受動形はちょうどこのような日本語に相当すると思えばよいでしょう。受動形はいつも「～される」と訳せるわけではないので、「(人々が)～する」という意味だと考えた方がよいでしょう。受動形は不定人称形とも呼ばれます。

1) 受動形の作り方

タイプ 2、3、4 の動詞では、不定詞に **-an/-än** をつけるだけです。

juoda > juoda-**an**, tulla > tulla-**an**, herätä > herätä-**än**

タイプ 1 の動詞では不定詞から **-a/-ä** を取った語幹に **-taan/-tään** をつけます。

puhua > puhu- > puhu-**taan**

階程交替のある語では弱階程語幹になります。

nukkua > nukku- > nuku- > nuku-**taan**

さらに、もし **-taan/-tään** の前に **a/ä** が来ると **e** に変わります。

antaa > anta- > anna- > anne- > anne-**taan**

tietää > tietä- > tiedä- > tiede- > tiede-**tään**

ポイント 52 — 受動形・現在

① puhua > puhu-**taan**, lukea > lue-**taan**, tietää > tiede-**tään**

② juoda > juoda-**an**, syödä > syödä-**än**

③ tulla > tulla-**an**, esitellä > esitellä-**än**

④ herätä > herätä-**än**, tavata > tavata-**an**

2) 受動形・現在の否定

否定形では必ず **ei** を使い、その後に来る動詞は受動形から最後の **-an/-än** を取った形です。結果的にタイプ 2、3、4 では不定詞の形と同じです。

tiede-tään > 否定形 **ei tiedetä** juoda-an > 否定形 **ei juoda**
 tulla-an > 否定形 **ei tulla** herätä-än > 否定形 **ei herätä**

ポイント 53 - 受動形・現在の否定

- | | |
|---|--|
| ① | puhutaan > ei puhuta, luetaan > ei lueta, tiedetään > ei tiedetä |
| ② | juodaan > ei juoda, syödään > ei syödä |
| ③ | tullaan > ei tulla, esitellään > ei esitellä |
| ④ | herätään > ei herätä, tavataan > ei tavata |

3) 受動形の目的語

受動形には主語は絶対につきません。たとえば

Suomessa juodaan paljon kahvia.

という文は「フィンランドではたくさんコーヒーが飲まれる」とコーヒーを主語のように訳すことが可能ですが、フィンランド語ではあくまでも主語は書かれてはいない「人々」であって、「コーヒー」は目的語の扱いを受けます。そして受動形の目的語は命令文の目的語と同じようになります。つまりふつうの文で分格の目的語は受動形でも分格ですが、ふつうの文で属格の形をした対格目的語は、受動形では主格の形になります。

- | | |
|---|--|
| { | He juovat paljon maito-a . [分格] 彼らはたくさん牛乳を飲む |
| | Suomessa juodaan paljon maito-a . [分格] フィンランドではたくさん牛乳を飲む |
| | He tuntevat suomalaise-n arkkitehtuuri-n hyvin. [対格=属格]
彼らはフィンランドの建築を良く知っている |
| | Japanissa tunnetaan suomalainen arkkitehtuuri hyvin. [対格=主格]
日本ではフィンランド建築はよく知られている |

ただし人称代名詞と **kuka** の **-t** で終わる対格は、受動形でもそのままの形です。

- | | |
|---|---|
| { | Me tunnemme sinu-t hyvin. [t-対格] 我々はあなたを良く知っています |
| | Sinu-t tunnetaan hyvin täällä. [t-対格] あなたはここでは良く知られています |

否定文では、原則通り目的語はいつも分格になります。

- | | |
|---|--|
| { | Me emme tunne sinu-a hyvin. [分格] 我々はあなたを良く知らない |
| | Sinu-a ei tunneta täällä hyvin. [分格] あなたはここでは余りよく知られていない |

ポイント 54 - 受動形の目的語

He juovat maito-a.	彼らは牛乳を飲む
Aamulla juodaan maito-a.	朝は牛乳を飲む
Aamulla ei juoda maito-a.	朝は牛乳を飲まない
He tuntevat Leena-n.	彼らはレーナのを知っている
Leena tunnetaan hyvin.	レーナはよく知られている
Leena-a ei tunneta hyvin.	レーナはあまりよく知られていない
He tuntevat sinu-t.	彼らはあなたのことを知ってい
Sinu-t tunnetaan hyvin.	あなたはよく知られている
Sinua ei tunneta hyvin.	あなたはあまりよく知られていない

4) 受動形の働き

① 「(人々は) ~する」

「~される」と受け身に訳すことができる場合もあります。

Talvella **hiihdetään** paljon. 冬には(人々は)たくさんスキーをします

Suomessa **puhutaan** suomea. フィンランドではフィンランド語が話されている

Ruoan kanssa **juodaan** maitoa. 食事と一緒に牛乳を飲みます

Suomalaista kuvataidetta **ei tunneta** kovinkaan paljon Japanissa.

フィンランドの視覚芸術は日本ではあまり知られていません

この用法では、文頭に目的語や場所を表す語などが来るのがふつうです。

② 「~しよう」

受動形には「~しよう」と呼びかけをする働きがあります。

Lähdetään jo! もう出かけよう

Syödään italialaista ruokaa! イタリア料理を食べよう

この働きの際は受動形は文頭に来ます。

③ 1人称複数として

口語では受動形を1人称複数の代わりとして使うことが非常に多くなっているようです。

Me **puhutaan** suomea. = Me puhumme suomea.

私たちはフィンランド語を話します

文法問題 27-1. ()内の動詞を受動形・現在の形にしてください。

- 1) Kesällä (matkustaa) paljon. 夏にはたくさん旅行する
- 2) Suomesta (lentää) Eestiin. フィンランドからエストニアへ飛行機で行く
- 3) Japanissa (syödä) paljon kalaa. 日本ではたくさん魚を食べる
- 4) Sinut (tuntea) koko maailmassa. あなたは世界中で知られている
- 5) Maalla (käydä) saunassa useammin kuin kaupungissa.
田舎では都会よりもしばしばサウナへ入る
- 6) Illalla (kuunnella) radiota ja (katsoa) televisiota.
晩にはラジオを聞きテレビを見る
- 7) Auto (korjata) korjaamossa. 自動車は修理工場で修理される
- 8) Asia (käsitellä) myöhemmin. その件は後ほど扱う
- 9) Pyykki (pestä) joka lauantai. 洗濯物は毎週土曜日に洗う
- 10) (Juoda) olutta! ビールを飲もう
- 11) Televisio (panna) auki, kun vanha filmi alkaa.
古い映画が始まる時テレビをつける
- 12) (lähteä) kouluun! 学校へ出かけよう

文法問題 27-2. 次の文を否定文にしてください(目的語に注意)。

- 1) Suomessa juodaan paljon kahvia. フィンランドではたくさんコーヒーを飲む
- 2) Suomalainen arkkitehtuuri tunnetaan hyvin Japanissa.
フィンランド建築は日本でよく知られている
- 3) Sinut unohdetaan aina. あなたはいつも忘れられている
- 4) Portti avataan kello 10. 門は10時に開かれる
- 5) Katsotaan tämä elokuva! この映画を見よう
- 6) Kesällä matkustetaan etelään. 夏には南へ旅行する
- 7) Talvella hiihdetään ja luistellaan. 冬にはスキーをしてスケートをする
- 8) Maalla vietetään joulua rauhallisesti. 田舎ではクリスマスを静かに過ごす
- 9) Minun nimeni kirjoitetaan näin. 私の名前はこう書きます
- 10) Saunan jälkeen juodaan olutta. サウナの後でビールを飲む
- 11) Uusi museo rakennetaan kirkon lähelle. 新しい美術館は教会のそばに建てられる
- 12) Koulussa opetetaan monta vierasta kieltä. 学校ではいくつもの外国語を教えている

第 28 課 — Kahdeskymmeneskahdeksas kappale

28-1. 格の基本的用法(3) — 属格

28-2. 目的語(2)

28-1. 格の基本的用法(3) — 属格

1) pitää, täytyä, kannattaa などと共に

pitää, täytyä は「...しなければならない」、**kannattaa** は「...する価値がある、...するとよい」という意味の動詞ですが、これらは必ず 3 人称単数の形で使います。そして日本語にしたときに主語に相当する語は属格の形になります。「属格 + pitää / täytyy / kannattaa + 不定詞」の形で使うことになります。

Minun pitää lähteä. 私は出かけなければならない

Sinun ei kannata lähteä. あなたが出かける価値はない

この構文では、命令文や受動形の文の場合のように、人称代名詞と **kuka** を除いて、対格の目的語は主格になります。

Minun täytyy ostaa uusi sanakirja. 私は新しい辞書を買わなければならない
on pakko 「...しなければならない」、**tekee mieli** 「...したい」という表現も同じように使います。

Minun on pakko lähteä. 私は出かけなければならない

Minun tekee mieli lähteä. 私は出かけた

2) **Minun on vaikea ymmärtää sinua.**

13-2. 「不定詞の基本的用法」で学習した「...することは~だ」という形の文には、「誰々にとって」という語を入れるときには属格で入れることができます。

Minun on vaikea ymmärtää sinua.

私には、あなたの言うことを理解するのは難しい

3) 形容詞や副詞の意味を強めたり限定したりするために形容詞をつけるときには、属格でつけます。

Suomalainen musiikki tunnetaan suhteellisen hyvin Japanissa.

フィンランドの音楽は日本で比較的良く知られている

ポイント 55 - 属格の重要な用法

Minu-n täytyy ostaa uusi sanakirja.	私は新しい辞書を買わなければならない
Minu-n on vaikea ymmärtää sinua.	私には、あなたを理解するのが難しい
Maisema on erityise-n kaunis.	景色はとりわけ美しい

28-2. 目的語 (2)

ここでは 11-1. で学習した目的語について補足をします。動詞の意味によっては分格の目的語を取るか、対格の目的語を取るか決まっている場合もありますが、同じ動詞が分格の目的語も対格の目的語も取りうる場合もあります。どちらの形の目的語を取るかによって微妙に意味が異なってきますので、ここで少し解説しますが、もし頭が痛くなるようなら無視して次へ進んでください。そして本書を最後まで学習したときに読み直してみてください。

1) 未完了 (継続) と完了

- { Nyt Pekka ajaa **auto-a**. ペッカは今、車を運転している [分格]
- { Nyt Pekka ajaa **auto-n** kotiin. ペッカは今、家まで車を運転する [対格=属格]

ajaa という動詞は最初の文では分格の目的語を取っているなので、未完了の動作を表しています。ですから英語の進行形を使った文に相当するような、継続を表す意味になっています。下の文では、同じ **ajaa** が対格 (=属格) の目的語を取り、完了する動作を表しているなので、実質的には未来のことを言っていることとなります。次の文も比較してみてください。

- { Hän lukee **kirja-a**. 彼/彼女は本を読んでいる [分格]
- { Hän lukee **kirja-n**. 彼/彼女は本を読む [対格=属格]

最初の文は分格の目的語を取っていますので「読んでいる、読んでいる途中で、途中まで読んでいる」というような、完了していない行為を表します。それに対して、下の対格目的語の文は完了することを表します。

2) 結果

- { Hän ampui **hirve-ä**. 彼はへらじかを撃った [分格]
- { Hän ampui **hirve-n**. 彼はへらじかを撃った (そして倒した) [対格=属格]

この例では動詞が過去形ですが、気にしないで下さい。下の文の **hirvi** 「へら

じか」が対格になっている文では、「撃ち殺した、撃って倒した」ことを意味します。それに対して分格の目的語を取った最初の文では、「撃った」だけで「へらじか」には当たらなかったかもしれません。つまり分格の目的語を取った最初の文は結果をもたらさなかったことを意味し、対格の目的語を取った下の文は結果をもたらしたことを意味します。

3) 部分と全体

{	Hän juo kahvi-a.	彼はコーヒーを飲む	[分格]
	Hän juo kahvi-n.	彼はそのコーヒーを(全部)飲む	[対格=属格]

上の分格目的語をとっている文の中の「コーヒー」は、漠然としたものですが、下のように対格にした場合には、「コーヒー」はただのコーヒーではなく限定された「そのコーヒー」です。ですから「そのコーヒー」はすべて飲むことができるでしょう、つまり対象全体に影響を及ぼすので対格になっています。逆に、漠然と世の中にあるコーヒーすべてを飲むことはできず、飲むのは一部分だけですので、その場合には分格で表されています。結果的に分格は不特定/不定量のことを指し、対格は特定/特定量のことを指しています。

⑤ 再び目的語についての考え方

目的語が難しいと思ったら、「難しいということが分かった」ということで満足して下さい。目的語はフィンランド語の非常に興味深い点ですが、それを完全にマスターしなければどうしようもない、という性格のものではありません。繰り返しますが目的語のことに頭を悩ませすぎるよりは、他に多くのことを学習した方が、フィンランド語を理解できるようになるためには得策です。

ポイント 56 - 目的語 (2)	
Pekka ajaa auto-a.	ペッカは自動車を運転している
Pekka ajaa auto-n kotiin.	ペッカは自動車を家まで運転する
Hän ampui hirve-ä.	彼はヘラジカを撃った(が、命中しなかった)
Hän ampui hirve-n.	彼はヘラジカを撃った(そして倒した)
Hän juo kahvi-a.	彼はコーヒーを飲む/飲んでいる
Hän juo kahvi-n.	彼はそのコーヒーを飲む

文法問題 28-1. 例にならって書き換えなさい(普通の文で属格になっている目的語は、täytyy を使った文では主格になります).

例 : Minä ostan polkupyörän. 私は自転車を買う

→ Minun täytyy ostaa polkupyörä. 私は自転車を買わなければならない

- 1) Sinä luet kirjan. あなたはその本を読む
- 2) Me annamme pojalle lahjan. 我々は少年に贈り物をあげる
- 3) Klemetti myy asunnon. クレメッティは住まいを売る
- 4) Te teette kotitehtävän. あなたたちは宿題をする
- 5) Minä hankin uuden passin. 私は新しいパスポートを手に入れる
- 6) Timo ja Ritva maksavat velkansa. ティモとリトバは借金を支払う
- 7) Lapsi juo maitoa. 子供は牛乳を飲む
- 8) Te ajattelette minua. あなた方は私のことを考える
- 9) Täällä puhut vain suomea. あなたはここではフィンランド語だけを話す
- 10) Minä maksan laskun. 私は勘定を払う

文法問題 28-2. ()内の語を適切な形に直しなさい.

- 1) (me) on helppo saada ajokortti. 私たちには運転免許を取ることはやさしい
- 2) Talo on (kaunis) sininen. 家は美しい青色である
- 3) Erkki lukee (kirja) huoneessaan. エルッキは自分の部屋で本を読んでいる
- 4) Mikko lukee (kirja) kolmessa päivässä. ミッコは3日でその本を読む
- 5) Tänään on (poikkeuksellinen) lämmin. 今日は普通でないほど暖かい
- 6) (sinä) on tyhmää luottaa häneen. 彼を信頼するとはあなたは愚かだ
- 7) Maisema on (harvinainen) kaunis. 眺めは珍しいほど美しい
- 8) (sinä) kannattaa lukea se. あなたはその本を読む価値がある

文法問題 28-3. 日本語を参考に()内の語を適切な形に直しなさい.

- 1) Petri kirjoittaa (kirje) huoneessaan. ペトリは今部屋で手紙を書いている
- 2) Petri kirjoittaa (kirje) joka päivä. ペトリは毎日手紙を書く
- 3) Ensi vuonna he rakentavat (silta) joen yli. 来年彼らは川に橋を架ける
- 4) He rakentavat (silta) joen yli. 彼らは川に橋を架けようとしている

第 29 課 — Kahdeskymmenesyhdeksäs kappale

29-1. 格の基本的用法 (4) — 分格

29-2. 不定代名詞

29-1. 格の基本的用法 (4) — 分格

1) **minua suututtaa** 私を怒らせる → 私は怒っている

フィンランド語では「彼は怒っている」という精神状態を表す場合や「私は眠い」というような肉体的状態を表すときに、しばしば「私を怒らせる」、「私を眠くさせる」というような表現をします。日本語で主語になる「彼」や「私」は目的語として分格で表し、多くの場合文頭に來ます。「怒らせる」「眠くさせる」は動詞の 3 人称単数の形にします。

Häntä suututtaa. 彼は怒っている (彼を怒らせる)

Minua nukuttaa. 私は眠い (私を眠くさせる)

また主語がつく場合ももちろんあります。

Suomi kiinnostaa minua. / Minua kiinnostaa Suomi.

私はフィンランドに関心がある (フィンランドは私に関心を起こさせる)

Mikä sinua surettaa?

何を悲しんでいるのか (何があなたを悲しませるのか)

主語が不定詞の場合、不定詞は動詞の後ろに來ます。

Minua pelottaa mennä yksin. 一人で行くのは怖い

(一人で行くことが私を怖がらせる)

また文が主語になる場合には *se, että* をつけ、やはり後ろに來ます。

Minua suututtaa se, että olet aina myöhässä.

あなたはいつも遅れるので、私は怒っている

2) **monta, paljon, vähän**

これら 3 つの語に結びつく名詞は分格になります。

Kadulla on monta auto-a. 通りにはたくさんの自動車がある

Minulla on paljon aika-a. 私には時間がたくさんある

Minulla on hyvin vähän raha-a. 私にはほんの少ししかお金がない

3) **lasi vettä**

「グラス一杯の水」、「1 リットルの水」などは「容器/単位+中身」という表現をしますが、中身は分格で表します。

kuppi **kahvi-a** コーヒー 1 杯, litra **vet-tä** 1 リットルの水
 文中では必要があれば「容器/単位」の方が活用します。

Saanko **kupi-n** kahvia? コーヒーを一杯もらえますか

Minä juon kaksi **lasi-a** vettä. 私はグラス 2 杯の水を飲む

4) **mennä** 「行く」, **kulkea** 「行く, 行き来する」, **lähestyä** 「近づく」などの動詞は分格を取ることができます。

Bussi kulkee **tois-ta tie-tä**. バスは別の道を走っている

ポイント 57 - 分格の重要な用法	
Hän-tä suututtaa.	彼/彼女は怒っている
Minu-a nukuttaa.	私は眠い
Minulla on monta hyvä-ä ystävä-ä.	私にはたくさんの良い友人がいる
Sinulla on paljon raha-a.	あなたはたくさんお金を持っている
Minulla on hyvin vähän aika-a.	私には少ししか時間がない
Saanko kupin kahvi-a?	コーヒーを一杯下さい

29-2. 不定代名詞

不定代名詞と呼ばれるもののうち、重要なものを学習します。また変化が不規則なものがありますので、表で活用を確認して下さい。

1) **kaikki** 「すべて(の)」

Kaikki (ihmiset) ovat läsnä. すべての人々が出席している

Kaikki ponnistelu on turhaa. すべての努力は無駄である

2) **jokainen** 「すべて(の), それぞれ(の)」

Jokainen (ihminen) on läsnä. すべての人々が出席している

3) **joku** 「ある(人), 誰か」

Huoneessa on joku (ihminen). 部屋に誰かがいる

- 4) jokin 「ある(もの)、何か」
 Jokin liikahtaa heinikossa. 何かが芝生で動く
- 5) kukin 「それぞれの(人)、すべての(人)」
 Kukin menee kotiinsa. それぞれが自分の家へ帰る
- 6) kukaan 「(否定文で)誰も、(疑問文で)誰か」
 Kukaan ei osaa vastata. 誰も答えられない
 Osaako kukaan vastata? 誰か答えられるか
- 7) mikään 「(否定文で)何も、(疑問文で)何か」
 Mikään ei voi estää häntä. 何も彼女を止められない

主格	kaikki	joku	jokin	kukin	kuka-an	mikä-än
属格	kaiken	jo-n-ku-n	jo-n-kin	ku-n-kin	kene-n-kään	mi-n-kään
分格	kaikkea	jo-ta-ku-ta	jo-ta-kin	ku-ta-kin	ke-tä-än	mi-tä-än
内格	kaikessa	jo-ssa-ku-ssa	jo-ssa-kin	ku-ssa-kin	kene-ssä-kään	mi-ssä-än
出格	kaikesta	jo-sta-ku-sta	jo-sta-kin	ku-sta-kin	kene-stä-kään	mi-stä-än
入格	kaikkeen	jo-hon-ku-hun	jo-hon-kin	ku-hun-kin	kene-en-kään	mi-hin-kään
接格	kaikella	jo-lla-ku-lla	jo-lla-kin	ku-lla-kin	kene-llä-kään	mi-llä-än
奪格	kaikelta	jo-lta-ku-lta	jo-lta-kin	ku-lta-kin	kene-ltä-kään	mi-ltä-än
向格	kaikelle	jo-lle-ku-lle	jo-lle-kin	ku-lle-kin	kene-lle-kään	mi-lle-kään
複・主格	kaikki	jo-t-ku-t	jo-t-kin	ku-t-kin	ke-t-kä-än	mi-t-kä-än

- ① kaikki は語幹で-i が-eに変わります。複数主格は例外的に kaikki です。規則どおりの kaike-t が使われることはまれです。
- ② joku では jo-の部分と ku-の部分と両方に語尾がつきます。
- ③ jokin と kukin はそれぞれ jo-, ku-の部分に語尾がつきます。
- ④ kukaan, mikään はそれぞれ kuka, mikä の部分が活用します(10 課を参照して下さい)。また -an/-än がつく格と -kään がつく格とがあります。

文法問題 29-1. ()内の語を適切な形に直しなさい.

- 1) (minä) kyllästyttää katsoa televisiota. 私はテレビを見るのに飽きた
- 2) Luentosalissa on monta (kuulija). 講堂にはたくさんの聴衆がいる
- 3) Linja-auto kulkee (tämä tie). バスはこの通りを行き来している
- 4) Tee niin kuin (sinä) haluttaa. やりたいようにやりなさい
- 5) Otan kupin (kahvi). コーヒーを1杯もらいます
- 6) Kiinnostaako tämä aikakauslehti (hän)? 彼はこの雑誌に興味を持つだろうか
- 7) Pelottaako (sinä) tulla kanssani? 私と来るのが怖いですか
- 8) (me) epäilyttää Mikan rehellisyys. 我々はミカの正直さを疑わしく思う
- 9) Minä juon kaksi (lasi) appelsiinimehua. 私はオレンジジュースを2杯飲む
- 10) Älä lähesty (vauva). 赤ん坊に近づくな

文法問題 29-2. ()内の語を適切な形に直しなさい.

- 1) (jokainen) heistä on sanakirja mukana. 彼らのそれぞれが辞書を持っている
- 2) Kysy (joku) muulta. 誰か他の人に聞きなさい
- 3) En rakasta (kukaan) enkä (mikään). 私は誰も、そして何も愛していない
- 4) (kukin) annetaan sata markkaa. それぞれに100マルッカずつ与えられる
- 5) Kirjakauppa on (jokin) lähellä asemaa. 本屋は駅の近くのどこかにある
- 6) (kukaan) ei ole tietoa siitä. 誰にもそれに関する情報はない
- 7) Kirjaa ei löydy (mikään). 本はどこにも見つからない
- 8) (jokin syy) juna on myöhässä. 何かの理由から列車は遅れている
- 9) Hän onnistuu (kaikki). 彼はあらゆることにおいて成功する
- 10) En nyt voi luottaa (kukaan). 今や誰のことも信頼できない
- 11) Haluan syödä (jokin). 私は何か食べたい
- 12) Kaikki puhuvat (jokin uusi kone). 皆が何か新しい機械について話している
- 13) Et saa antaa tätä (kukaan). あなたはこれを誰にもあげてはいけない
- 14) Minulla ei ole (mikään) sitä vastaan. 私はそれに対して何の異議もない
- 15) En tykkää (kukaan) enkä (mikään). 私は誰も、そして何も好きではない
- 16) Meidän pitää hankkia rahat (jokin tapa).

私たちは何らかの方法で金を集めなければならない

- 17) (joku) pitävät klassisesta musiikista, (joku) eivät.

クラシック音楽が好きな人たちもいれば、そうではない人たちもいる

第 30 課 — Kolmaskymmenes kappale

- 30-1. 第 3 不定詞 (1)
- 30-2. 第 3 不定詞・内格 (-massa/-mässä)
- 30-3. 第 3 不定詞・出格 (-masta/-mästä)
- 30-4. 第 3 不定詞・入格 (-maan/-mään)
- 30-5. 第 3 不定詞・接格 (-malla/-mällä)
- 30-6. 第 3 不定詞・欠格 (-matta/-mättä)
- 30-7. 名詞・形容詞のタイプ (-in, -ut/-yt)

30-1. 第 3 不定詞 (1)

フィンランド語では動詞にも格語尾をつけることが可能だと言われることがあります。ただし不定詞の形にそのまま格語尾つけることはできません。ここで学習するのは第 3 不定詞と呼ばれる形で、動詞に **-ma/-mä** という第 3 不定詞の印をつけた後で内格、出格、入格、接格、そして欠格という格の語尾をつけることができます。まず **-ma/-mä** のつけかたを学習します。

-ma/-mä は(母音)語幹につけますが、タイプ 1 の動詞で階程交替がある場合は強階程語幹につけます。

lukea > 強階程語幹 luke- > **luke-ma-**

syödä > 語幹 > **syö-mä-**

mennä > 母音語幹 > **mene-mä-**

tappella > 母音語幹 tappele- > **tappele-ma-**

levätä > 母音語幹 lepää- > **lepää-mä-**

これらの形に内格、出格、入格、接格、欠格の語尾をつけます。結果的に第 3 不定詞内格、出格、入格、接格、そして欠格の形は次のようになります。

ポイント 58 — 第 3 不定詞		
第 3 不定詞・内格	-ma-ssa/-mä-ssä	luke-ma-ssa, syö-mä-ssä
第 3 不定詞・出格	-ma-sta/-mä-stä	luke-ma-sta, syö-mä-stä
第 3 不定詞・入格	-ma-an/-mä-än	luke-ma-an, syö-mä-än
第 3 不定詞・接格	-ma-lla/-mä-llä	luke-ma-lla, syö-mä-llä
第 3 不定詞・欠格	-ma-tta/-mä-ttä	luke-ma-tta, syö-mä-ttä

30-2. 第3不定詞・内格(-massa/-mässä)

この形は **olla**-動詞と結びつくのが最も一般的です。その場合には「...しているところだ、...ている途中だ、...しようとしている」というような意味を持ちます。

Hän on **syömässä** ravintolassa. 彼/彼女はレストランで食事中だ

Hän on **hiihtämässä** 彼/彼女はスキーをしている

また olla olemassa「存在する、実在する」というよく使われる表現もあります。

Onko lumimies olemassa? 雪男は存在するのだろうか

käydä「行って来る、訪れる」と結びつくと、「～しに、～するために」という意味を表します。

Minä **käyn ostamassa** maitoa. 私は牛乳を買いに行ってくる

その他「座っている、立っている」などのように静止している状態を表す動詞と結びついて「～しながら」というような意味を表します。

He istuvat **katsomassa** televisiota. 彼らは座ってテレビを見ている

30-3. 第3不定詞・出格(-masta/-mästä)

動きを表す動詞と結びつくと「～してから、～し終えてから」という意味を表します。

Hän tulee **syömästä** ravintolasta. 彼/彼女は食事を終えてレストランから来る

Hän tulee pian **hiihtämästä**. 彼/彼女はまもなくスキーから戻ってくる

30-4. 第3不定詞・入格(-maan/-mään)

動きを表す動詞と結びつくと「～しに、～するために」という意味を表します。

Hän menee **syömään** ravintolaan. 彼/彼女はレストランへ食事へ出かける

Hän lähtee **hiihtämään**. 彼/彼女はスキーへ出かける

人の性質などを表す形容詞と結びついて、何に関してそうなのかを表します。

Olen huono **laulamaan**. 私は歌を歌うのが下手だ

Olet laiska **kirjoittamaan**. あなたは筆無精だ

30-5. 第3不定詞・接格(-malla/-mällä)

この形は「～することによって」という意味で、方法や手段を表します。

Elämme **syömällä**. 我々は食べることによって生きている

Te opitte paljon **lukemalla**. あなた方は読むことによって多くを学ぶ

30-6. 第3不定詞・欠格(-matta/-mättä)

欠格という格はまだ勉強していませんが、**-tta/-ttä** という語尾を持つ、「...なしで」という意味を持つ格です。第3不定詞は**-matta/-mättä** という形になりますが、「...せずに」という意味を表します。

Emme voi elää **syömättä**. 我々は食べずには生きることができない

On mukava olla **tekemättä** mitään. 何もせずにいることは愉快だ

Hän lähtee sanaakaan **sanomatta**. 彼/彼女は一言も言わずに出ていく

ポイント 59 – 第3不定詞の基本的な用法	
Hän on syömässä .	彼/彼女は食べている途中だ
Hän tulee syömästä .	彼/彼女は食べてから来る
Hän menee syömään .	彼/彼女は食べに行く
Elämme syömällä .	我々は食べることによって生きている
Emme voi elää syömättä .	我々は食べずには生きることができない

30-7. 名詞・形容詞のタイプ(-in, -ut/-yt)

ここでは2つの比較的重要な名詞・形容詞のタイプをまとめておきます。

1) タイプ F (-in → -ime-)

-in で終わる語の多くでは、語幹で**-in** が**-ime-**と変化します。**-in** で終わる語の多くは道具を表す意味を持っています。

avain 「鍵」 > 語幹 **avaim-**

puhelin 「電話」 > 語幹 **puhelime-**

階程交替がある場合には単数主格で弱階程、語幹で強階程が現れます。

CD-soitin 「CDプレイヤー」 > 語幹 **CD-soittime-**

2) タイプ G (-ut → -ue-, -yt → -ye-)

-ut/-yt で終わる語の多くでは、語幹は**-ue-/ye-**となります。

olut 「ビール」 > 語幹 **olue-**

ohut 「薄い」 > 語幹 **ohue-**

lyhyt 「短い」 > 語幹 **lyhye-**

kevyt 「軽い」 > 語幹 **kevye-**

どちらのタイプでも単数分格は、子音語幹(=単数主格)に**-ta/-tä**をつけて作ります。

soitin > 単数分格 **soitin-ta**

lyhyt > 単数分格 **lyhyt-tä**

文法問題 30-1. () 内の動詞を第 3 不定詞の適切な形に直しなさい.

- 1) Menen postiin (hakea) pakettia. 私は小包を受け取りに郵便局へ行く
- 2) Olen postissa (hakea) pakettia. 私は郵便局で小包を受け取っている
- 3) Tulen postista (hakea) pakettia. 私は郵便局で小包を受け取って戻る
- 4) Voit matkustaa Sveitsiin (lentää). あなたはスイスへ飛行機で旅行できる
- 5) Et opi mitään (lukea). 勉強せずには何も学べない
- 6) He käyvät usein täällä (syödä). 彼らはよくここへ食事に来る
- 7) Lähdetäänkö (syödä)? 食事に出かけましょうか
- 8) Me vietämme talvet (pelata) jääkiekkoa. 我々はアイスホッケーをして冬を過ごす
- 9) Milloin palaat kapakasta (juoda)? いつ酒場から飲んで戻ってくるのか
- 10) On hauska käydä yökerhossa (tanssia). ナイトクラブへ踊りに行くのは楽しい
- 11) Hän on hyvin ahkera (lukea). 彼女はとても読書熱心だ
- 12) Nainen lähtee ravintolasta (maksaa). 女性は支払いをせずにレストランを出る
- 13) Isoäiti istuu (ommella). 祖母は座って縫い物をしている
- 14) Tulkaa (auttaa) minua. 私を助けに来て下さい
- 15) Sinä olet hyvä (soittaa) pianoa. あなたはピアノを弾くのが上手だ
- 16) Olemme menossa rannalle (uida). 我々は海岸へ泳ぎに行くところだ
- 17) Pojat palaavat (hiihtää). 少年たちはスキーをして戻ってくる
- 18) Mene makuuhuoneeseen (nukkua). 寝室へ行って寝なさい
- 19) Isäni on keittiössä (tehdä) ruokaa. お父さんは台所で食事を作っている
- 20) (katsella) tv:tä pysymme ajan tasalla. テレビを見ることで時代についていく

文法問題 30-2. () 内の語を適切な形に直しなさい.

- 1) Pääset huoneeseen (tämä avain). この鍵であなたは部屋へ入ることができる
- 2) Tykkään (kevyt musiikki). 軽い音楽が好きだ
- 3) Tilaan kaksi (mieto olut). 私は苦味の少ないビールを 2 杯注文する
- 4) Hän oppii suomea (lyhyt aika). 彼/彼女は短期間でフィンランド語を覚える
- 5) Vastaa heti (puhelin)! すぐ電話に出なさい
- 6) Hänellä on (ohut huuli). 彼/彼女は唇が薄い
- 7) Haluan hankkia (uusi CD-soitin). 新しい CD-プレイヤーを手に入れたい

第 31 課 — Kolmaskymmenesyhdes kappale

31-1. 動詞の現在形 (6) — タイプ 5 の動詞

31-2. tarvita 「必要とする」の使い方

31-3. 動名詞

31-1. 動詞の現在形 (6) — タイプ 5 の動詞

いままでタイプ 1 から 4 までの動詞の現在形と命令形を勉強しました。そしてタイプごとの語幹の形を 25 課でまとめました。すでにお話したように、動詞は 6 つのタイプに分けることができます。ここでは新たにタイプ 5 の動詞を勉強します。不定詞が **-ita/-itä** で終わっている動詞の多くが、語幹では **-ita/-itä** が **-itse-** という形に変わりますが、こういう動詞をタイプ 5 としてまとめます。タイプ 5 では階程交替はなく、人称語尾はタイプ 1 の動詞と全く同じです。また命令形の作り方の点ではタイプ 4 の動詞と同じように、te に対する複数の命令形は、最後の **-a/-ä** を取った子音語幹に **-kaa/-kää** をつけて作ります。たとえば **valita** 「選ぶ」の 1 人称単数形は **valitse-n**、複数の命令形は **valit-kaa** となります。このグループに属する代表的な動詞には **ansaita** 「稼ぐ、値する」、**tarvita** 「必要とする」、**merkitä** 「しるしを付ける；意味する」、**häiritä** 「邪魔をする」、**iloita** 「喜ぶ」、**harkita** 「検討する」、**hallita** 「支配する」などがあります。

不定詞	tarvita	valita	merkitä	häiritä
minä	tarvitse-n	valitse-n	merkitse-n	häiritse-n
sinä	tarvitse-t	valitse-t	merkitse-t	häiritse-t
hän	tarvitse-e	valitse-e	merkitse-e	häiritse-e
me	tarvitse-mme	valitse-mme	merkitse-mme	häiritse-mme
te	tarvitse-tte	valitse-tte	merkitse-tte	häiritse-tte
he	tarvitse-vat	valitse-vat	merkitse-vät	häiritse-vät
命令・単数	Tarvitse!	Valitse!	Merkitse!	Häiritse!
否定形	Älä tarvitse!	Älä valitse!	Älä merkitse!	Älä häiritse!
命令・複数	Tarvit-kaa!	Valit-kaa!	Merkit-kää!	Häirit-kää!
否定形	Älkää tarvit-ko!	Älkää valit-ko!	Älkää merkit-kö!	Älkää häirit-kö!

ポイント 60 – タイプ 5 の動詞				
不定詞	tarvita	valita	merkitä	häiritä
母音語幹	tarvitse-	valitse-	merkitse-	häiritse-
子音語幹	tarvit-	valit-	merkit-	häirit-

31-2. tarvita 「必要とする」の使い方

tarvita は名詞を目的語として取るときには、主語によって人称変化します。

Minä **tarvitsen** apua. 私は助けを必要としている

Talo **tarvitsee** uuden katon. 家は新しい屋根を必要としている

しかし tarvita に別の動詞をつけて「～する必要がある、～しなければならない」という場合には、前に勉強した **pitää, täytyä, kannattaa** などと同じように、つまり「属格 + tarvitsee + 不定詞」の形で使います。

Sinun **tarvitsee** vain tulla. あなたは来さえすればよい

Tarvitseeko minun lähteä? 私は出かける必要があるか

Sinun **ei tarvitse** lähteä. あなたは出かける必要はない

ポイント 61 – tarvita の使い方	
Sinä tarvitset apua.	あなたは助けを必要としている
Minä tarvitsen uuden sanakirjan.	私は新しい辞書が必要だ
Sinun tarvitsee vain tulla.	あなたはただ来さえすればよい
Tarvitseeko minun lähteä?	私は出かける必要があるか

31-3. 動名詞

動詞に **-minen** という接辞をつけると動名詞と呼ばれる形になります。 **-minen** は(強階程)母音語幹につけます。

1) 動名詞の作り方

antaa 「与える」 > 強階程語幹 anta- > 動名詞 **anta-minen**

juoda 「飲む」 > 語幹 juo- > 動名詞 **juo-minen**

tapella 「喧嘩する」 > 母音語幹 tappel- > 動名詞 **tappele-minen**

levätä 「休息する」 > 母音語幹 leppä- > 動名詞 **leppä-minen**

valita 「選ぶ」 > 母音語幹 valitse- > 動名詞 **valitse-minen**

2) 動名詞の働き

「～すること」という意味を持つのが動名詞ですが、文の主語、目的語、補語などになり、ふつうの名詞と同じ様な働きをします。動名詞が文の主語になると形容詞の補語は分格になります。

Opiskeleminen on hauska-a. 勉強することは楽しい

Hiihtäminen voi olla vaarallis-ta. スキーをすることは危険なこともある

これらの文は、以前に勉強した不定詞を使った次の文とほぼ同意ですが、それぞれの文の語順が違うのに注意して下さい。

- { **Opiskeleminen** on hauskaa.
- { On hauska **opiskella**.
- { **Hiihtäminen** voi olla vaarallista.
- { Voi olla vaarallista **hiihtää**.

動名詞は名詞ですが、動詞と同じ様な修飾語をつけることができます。

- { On hauskaa **uida järvessä**. 湖で泳ぐのは楽しい
- { **Järvessä uiminen** on hauskaa. 湖で泳ぐのは楽しい
- { Voi olla vaarallista **hiihtää yksin**.
- { **Yksin hiihtäminen** voi olla vaarallista.

動名詞は名詞ですから必要があれば格変化をします。動名詞は **-nen** で終わるふつうの名詞や形容詞と同じように変化します。

- { Minä pidän suklaa-**sta**. 私はチョコレートが好きだ [出格]
- { Minä pidän järvessä **uimise-sta**. 私は湖で泳ぐのが好きだ
- { Minä pelkään lentokone-**tta**. 私は飛行機が怖い [分格]
- { Minä pelkään **lentämis-tä**. 私は飛行機に乗るのが怖い
- { Minä käytän rahaa uhkapeli-**in**. 私はギャンブルに金を使う [入格]
- { Minä käytän rahaa **syömise-en**. 私は食べることに金を使う

ポイント 62 - 動名詞	
Uiminen on hauskaa.	泳ぐことは楽しい
Järvessä uiminen on hauskaa.	湖で泳ぐことは楽しい
Minä pidän uimisesta.	私は泳ぐことが好きだ
Minä pidän järvessä uimisesta.	私は湖で泳ぐことが好きだ

文法問題 31-1. ()内の動詞を適切な形に直しなさい

- 1) Anteeksi että (häiritä). じゃまをして申し訳ありません
- 2) Mitä tämä sana (merkitä)? この語はどういう意味ですか
- 3) (Harkita) asiaa! その件を検討してください
- 4) (Häiritä) minua! あなた方、私をじゃましないで下さい
- 5) Hän (valita) timanttisormuksen. 彼女はダイヤモンドの指輪を選ぶ
- 6) Kukat (tarvita) vettä. 花は水を必要としている
- 7) (tarvita) sinun lähteä? あなたは出かけなければなりませんか
- 8) Minun (tarvita) lähteä. 私は出かける必要はない

文法問題 31-2. 例にならって動名詞を使って書き換えなさい.

例 : On hauska kävellä. 散歩するのは楽しい

→ Käveleminen on hauskaa. 散歩するのは楽しい

→ Pidän kävelemisestä. 私は散歩するのが好きだ

- 1) On hauska matkustaa. 旅行するのは楽しい
- 2) On hauska uida. 泳ぐのは楽しい
- 3) On hauska ajaa polkupyörällä. 自転車で走るのは楽しい
- 4) On hauska istua metsässä. 森で座っているのは楽しい
- 5) On hauska maata sohvalla. ソファで横になるのは楽しい
- 6) On hauska työskennellä tehtaassa. 工場で働くのは楽しい

文法問題 31-3. 例にならって動名詞を使って書き換えなさい

例 : Minä en pidä kävelemisestä. 私は散歩するのが好きではない

→ Minä pelkään kävelemistä. 私は散歩するのが怖い

- 1) Hän ei pidä lentämisestä. 彼女は飛行機に乗るのが好きではない
- 2) Minä en pidä hiihtämisestä. 私はスキーをするのが好きではない
- 3) Sinä et pidä järvessä uimisesta. あなたは湖で泳ぐのが好きではない
- 4) Me emme pidä kaupungissa asumisesta. 我々は都会に住むのが好きではない
- 5) Te ette pidä lääkärissä käymisestä. あなた方は病院へ行くのが好きではない
- 6) He eivät pidä katolle kiipeämisestä. 彼らは屋根に登るのが好きではない

第 32 課 – Kolmaskymmeneskahdes kappale

32-1. 様格

32-2. 変格

32-1. 様格

1) 様格の作り方

様格の語尾は **-na/-nä** ですが、やはり語幹につけます。階程交替のある語では必ず強階程語幹につけます。

lapsi 「子供」 > 語幹 lapse- > 様格 **lapse-na**

joki 「川」 > 強階程語幹 joke- > 様格 **joke-na**

tiede 「科学」 > 語幹 tietee- > 様格 **tietee-nä**

2) 様格の用法

- ① 曜日や祝日などを表す語につけます。「～に」に相当します。

Tule **lauantai-na!** 土曜日に来なさい

Joulupukki saapuu **jouluaatto-na.** サンタクロースはクリスマスイブにやってくる
また「朝」、「昼」などの語や季節名も限定されると様格になります。

{ Talvella sataa paljon lunta. 冬にはたくさん雪が降る
{ **Ensi talve-na** sataa paljon lunta. 今度の冬にはたくさん雪が降る

- ② 場所に関する語で、様格語尾のついているものがいくつかありますが、「...で/に」という内格と接格に相当する意味を持っています。

koto-na 家に/で、**ulko-na** 外に/で、**kauka-na** 遠くに/で

これらの語に対応して「...から」の意味を持つ語は分格の形をしています。

「...へ」の形は語によって形が異なっています。

kotona 家で/に	ulkona 外で/に	kaukana 遠くで/に
kotoa 家から	ulkoa 外から	kaukaa 遠くから
kotiin 家へ	ulos 外へ	kauas 遠くへ

- ③ 「...として、...の状態で、...の様子で」などの意味を表します。

Veljeni on Turussa **opettaja-na.** 私の兄は教員としてトゥルクにいる

Juon kahvini **musta-na.** 私はコーヒーはブラックで飲む

Hän elää **onnellise-na**. 彼/彼女は幸せに暮らしている

Hän käyttää juomalasia **tuhkakuppi-na**. 彼はグラスを灰皿として使う

- ④ 日本語にすると「...の時には」、「もし...なら」などさまざまな表現に相当する場合があります。

piene-nä 小さい頃は、**iso-na = suure-na** 大きくなったら、

sinu-na (< **sinä**) もし(私が)あなただったら

Iso-na hänestä tulee varmasti hyvä laulaja.

大きくなったら彼女はきっと良い歌手になる

- ⑤ **pitää** は様格を従えて「...とみなす」という意味を持ちます。

He pitävät minua **typerä-nä**. 彼らは私を馬鹿だと思っている

ポイント 63 ー 様格	
Veljeni on opettaja-na Turussa.	私の兄/弟は教員としてトゥルクにいる
Hän elää onnellise-na.	彼/彼女は幸福に暮らしている
Iso-na hänestä tulee lääkäri.	大きくなったら彼/彼女は医者になる
Suomea pidetään hyvinvointivaltio-na.	フィンランドは福祉国家とみなされている

32-2. 変格

1) 変格の作り方

変格の語尾は **-ksi** です。やはり語幹につきますが、単数主格に強階程の現れている語では弱階程語幹につけます。

lapsi > 語幹 > lapse- > 変格 **lapse-ksi**

joki > 弱階程語幹 joe- > 変格 **joe-ksi**

tiede > 語幹 > tietee- > 変格 **tietee-ksi**

変格語尾は、その後ろに所有接尾辞がつくときには **-kse-** という形になります。

lapseksi > **lapse-kse-ni**

2) 変格の用法

- ① 変化を表す動詞、あるいは変化を引き起こす意味を持つ動詞に結びついて「...に (なる、変わる、変える...)」という働きをします。tulla という動詞は変格と結びつくと「...になる」という意味を持つことができます。

Jos syöt niin paljon, tulet **sairaa-ksi**. あなたは、そんなに食べると病気になる

Syksy alkaa muuttua **talve-ksi**. 秋は冬に変わり始める

Teen työn **valmii-ksi**. 私は仕事を仕上げます

Haluamme maalata talon **punaise-ksi**. 私たちは家を赤く塗りたい

Hän osoittautuu **syllise-ksi**. 彼/彼女は有罪だと判明する

Hän tekee työnsä **valmii-ksi**. 彼/彼女は自分の仕事を仕上げる

- ② 時に関して使われることがあります。いくつかの働きがありますが、「...までに」、「...の間 (の予定で)」などの意味を持つことがあります。

Tulen sinne **neljä-ksi**. 私はそこに4時までには行きます

Hän matkustaa Ouluun **kolme-ksi viiko-ksi**.

彼は3週間の予定でオウルへ旅行する

- ③ 言語の名前を変格にすると「～語で」という意味になります。

Mitä 'auto' on **japani-ksi**? 「auto」は日本語では何と言いますか

Kirjoitan hänelle aina **suome-ksi**.

私は彼女へ、いつもフィンランド語で手紙を書く

- ④ ふつう olla-動詞のある文の中で「...にしては」という働きをします。

Hän on **piene-ksi miehe-ksi** aika väkevä.

彼は小さな男のわりには、かなり力がある

- ⑤ luulla「思う」、tuntea「感じる」、kutsua「呼ぶ」、nimittää「名付ける」、sanoa「言う」、nähdä「考える」、ehdottaa「提案する、推薦する」、julistaa「宣言する」、määrätä「任命する」などの動詞は変格を従えることがあり、その場合に変格は「...だと」、「...として」という日本語に相当します。

Leena luulee minua **kiinalaise-ksi**. レーナは私を中国人だと思っている

Hän tuntee itsensä **typerä-ksi**. 彼/彼女は自分が愚かだと感じている

Häntä kutsutaan **Mati-ksi**. 彼はマッティと呼ばれている

He näkevät **tarpeellise-ksi** lähteä. 彼らは出かける必要があると思っている

ポイント 64 – 変格

Tulet sairaa-ksi .	あなたは病気になる
Tulen sinne neljä-ksi .	私はそこへ4時までに行く
Mitä 'kotoba' on suome-ksi ?	「言葉」はフィンランド語では何ですか
Hän luulee minua kiinalaise-ksi .	彼/彼女は私を中国人だと思っている
Helsinkiä kutsutaan Itämeren neido-ksi .	ヘルシンキはバルト海の乙女と呼ばれる

文法問題 32-1. ()内の語を適切な形に直しなさい.

- 1) Mitä tämä sana on (suomi)? この語はフィンランド語では何と言いますか
- 2) Meillä on naapuri (vieras). 我々のところには隣人が客として来ている
- 3) (aikuinen) sinusta tulee tanssija. 大人になったらあなたはダンサーになる
- 4) Helsinkiä kutsutaan Itämeren (neito). ヘルシンキはバルト海の乙女と呼ばれる
- 5) Matkustan Tukholmaan (viikko). 1週間の予定でストックホルムへ旅行します
- 6) En mene työhön (viikonloppu). 週末は仕事へ行きません
- 7) Kaupunki muuttuu (uudenaikainen). 街は現代的なものに変わる
- 8) Hän tuntee itsensä (nälkäinen). 彼は空腹だと感じる
- 9) Kaikki pitävät häntä (lapsellinen). 皆が彼女を子供じみていると考えている
- 10) Sano minua (Vilho). 私をヴィルホと呼んでください
- 11) Tyttö tulee (surullinen) kotiin. 少女は悲しそうに家へ帰る
- 12) Luuletko minua (tyhmä)? 私を馬鹿だと思っているのか
- 13) Pidätkö minua (tyhmä)? 私を馬鹿だと思っているのか
- 14) Poika tulee (sairas). 少年は病気になる
- 15) Poika on (sairas) vuoteessa. 少年は病気でベッドに入っている
- 16) Työ on valmiina (huominen). 仕事は明日までには出来上がる
- 17) Hänet nimitetään (presidentti). 彼女は大統領に任命される
- 18) Koira on (japani) 'Inu'. Koira は日本語で「犬」です
- 19) Minä pidän sinua (ystävä). 私はあなたを自分の友人だと思っている
- 20) Kai käyttää lasia (tuhkakuppi). カイはグラスを灰皿として使っている
- 21) Esko tulee aina (iloinen) kesällä. エスコは夏になるといつもうれしくなる
- 22) Ulla työskentelee (opettaja) lukiossa. ウッラは教員として高校で働いている
- 23) Nainen jää (leski). その女性は未亡人になってしまう
- 24) Käännä tämä lause (saksa). この文をドイツ語に訳しなさい
- 25) Maalataan ovi (sininen). 扉は青く塗ろう
- 26) Mies osoittautuu (syyllinen). 男は有罪だと判明する
- 27) Jätämme Leenan (lapsenvahti). 私たちはレーナを子守りとして置いていきます
- 28) Ehdotamme häntä (puheenjohtaja). 私たちは彼/彼女を議長に推薦する
- 29) Mika määrätään (kirjeenvaihtaja) Tokioon. ミカは東京の特派員に任命される

第 33 課一 Kolmaskymmeneskolmas kappale

33-1. 第 3 不定詞 (2) – 出格・入格・欠格の用法

33-1. 第 3 不定詞 (2) – 出格・入格・欠格の用法

ここでは第 3 不定詞の出格・入格・欠格の重要な用法を学習します。

1) 第 3 不定詞・出格 (-masta ~ -mästä)

結果的に「何かをしなくなる」という意味合いを持つ動詞は第 3 不定詞の出格を要求することがあります。たとえば「...するのを禁じる」という動詞の場合には、結果的には「...しない」ということを前提としています。また「溺れるところを助かる」という場合にも「溺れない」という意味を含んでいます。具体的には次の例文に出てくるような動詞が代表的なものです。

lakata ...するのをやめる (語幹は *lakkaa*-です)

Hän *lakkaa polttamasta*. 彼/彼女はたばこを吸うのをやめる

luopua ...するのをやめる、あきらめる

Hän *luopuu yrittämästä*. 彼/彼女はやってみるのをあきらめる

kieltää ...することを禁じる

Hän *kieltää* minua *polttamasta*. 彼/彼女は私がたばこを吸うのを禁じる

kieltäytyä ...することを拒む

Hän *kieltäytyy polttamasta*. 彼/彼女はたばこを吸うことを拒否する

estää ...することを妨げる

Hän *estää* minua *polttamasta*. 彼/彼女は私がたばこを吸うのをじゃまする

varoittaa ...しないように警告する

Hän *varoittaa* minua *polttamasta*. 彼/彼女は私にタバコを吸わないよう警告する

pelastaa ...することから救う

Mies *pelastetaan hukkumasta*. 男は溺れるところを救われる

pelastua ...するところを助かる

Mies *pelastuu hukkumasta*. 男は溺れるところを助かる

また **löytää** 「見つける」、**löytyä** 「見つかる」も第 3 不定詞出格を取ります。

Hän *löytää* minut *nukkumasta*. 彼は私が眠っているところを見つける

2) 第3不定詞・入格(-maan ~ -mään)

次に挙げるような動詞は第3不定詞の入格を要求します。

oppia 学ぶ, ...できるようになる

*Opit nopeasti **hihtämään**.* あなたは急速にスキーができるようになる

opettaa 教える

*Opetan sinua **hihtämään**.* あなたがスキーができるように教えてあげます

jäädä 残る

*Jään **hihtämään**.* 私は残ってスキーをします

päästä (うまいことに)...できる

*Pääsetkö **käymään** Suomessa?* フィンランドを訪れることができますか

joutua ...せざるを得なくなる, (気持ちに反して)...することになる

*He **joutuvat** **jonottamaan**.* 彼らは行列に並ぶことになる

ruveta, ryhtyä ...し始める

*Lapset **ryhtyvät** **luistelemaan**.* 子供たちはスケートをし始める

kyetä, pystyä ...できる

*Vauva ei vielä **pysty** **kävelemään**.* 赤ん坊はまだ歩けない

pyrkä ...しようとする, ...する傾向にある

*Hinnat **pyrkivät** **nousemaan**.* 物価は上がる傾向を見せている

sattua たまたま...する

*Minulla ei **satua** **olemaan** rahaa mukana.* 私はたまたま持ち合わせがない

innostua ...することに熱中する

*Mikko **innostuu** **pelaamaan** jalkapalloa.* ミッコはサッカーをするのに熱中する

また **-ua ~ -yä** で終わる動詞の多くが第3不定詞・入格を要求します。

kyllästyä ...するのに飽きる

*Hän **kyllästyy** **puhumaan** suomea.* 彼/彼女はフィンランド語を話すのに飽きる

tottua ...するのに慣れる

*Pian **totut** **puhumaan** suomea.* 君はじきにフィンランド語を話すのに慣れる

innostua ...するのに熱中する

*Hän **innostuu** **pelaamaan** lentopalloa.* 彼女はバレーボールをするのに熱中する

suostua ...することに同意する

*En **suostu** **menemään** yksin.* 私は1人で行くことには同意しない

さらに「...させる」というような意味合いを含む動詞は第 3 不定詞・入格を要求する場合があります。

lähettää (...させるために人を)送る

Lähetämme hänet etsimään rahaa. 我々は彼/彼女を金を探しに行かせる

saada ...させる(ことに成功する)

Saamme hänet tunnustamaan. 我々は彼/彼女に告白させることができる

jättää ...させるために残す, ...させておく

Jätämme lapset ulos leikkimään. 我々は子供たちを外で遊ばせておく

panna ...させる

Mikä panee sinut ajattelemaan niin? あなたはなぜそう考えるのか

(何があなたにそう考えさせるのか)

pyytää ...するように頼む

Täällä pyydetään olemaan hiljaa. ここでは静かにしているように求められる

3) 第 3 不定詞・欠格 (-matta ~ -mättä)

ei voi olla ...せずにはいられない

En voi olla nauramatta. 私は笑わずにはいられない

jäädä ...されないままになる

Kirja jää häneltä lukematta.

彼は本を読まずにおく(彼から本は読まれないうままになる)

jättää ...しないままにしておく

Hän jättää kirjan lukematta. 彼は本を読まずにおく

ポイント 65 - 第 3 不定詞 (2)

Hän lakkaa polttamasta.

彼/彼女はたばこを吸うのをやめる

Hän kieltää minua polttamasta.

彼/彼女は私がたばこを吸うのを禁じる

Hän kyllästyy puhumaan suomea.

彼/彼女はフィンランド語を話すのに飽きる

Saamme hänet etsimään rahaa.

我々は彼/彼女に金を探させることができる

Kirja jää lukematta.

本は読まれないうままになる

Jätän kirjan lukematta.

私は本を読まずにおく

文法問題 33-1. ()内の動詞を第3不定詞の適切な形に直しなさい.

- 1) Hän joutuu (jättää) kotimaansa. 彼は故国を捨てざるを得なくなった
- 2) He kutsuvat minut (syödä). 彼らは私を食事に招待する
- 3) Hän seisoo (odottaa) tyttöystävänsä. 彼はガールフレンドを待って立っている
- 4) Pian lakkaa (sataa). まもなく雨は降り止むだろう
- 5) Pian rupeaa (sataa). まもなく雨が降り始めるだろう
- 6) Se jää minulta (huomata). 私はそれに気づかないままになる
- 7) Jään (odottaa) vielä häntä. 私はまだ彼女を待っています
- 8) Opit joskus (pitää) musiikista. あなたはいつか音楽が好きになるだろう
- 9) Nälkä pakottaa hänet (varastaa). 空腹が彼に盗みを強いる
- 10) Pyydän teitä (kokoontua) ensi kuussa. あなた方が来月集合するようお願いします
- 11) Hänet lähetetään (hakea) lääkäriä. 彼を医者を呼びにやる
- 12) Hän jättää kirjeen (viedä) postiin. 彼女は手紙を郵便局へ持っていかない
- 13) Vältän (mennä) keskustaan autolla. 私は中心街へ自動車で行くのを避ける
- 14) Lääkäri kehottaa sinua (nukkua) hyvin. 医師はあなたが良く眠るよう勧める
- 15) Oletko valmis (lähteä)? あなたは出かける準備ができていますか
- 16) Emme voi olla (itkeä). 我々は泣かずにはいられない
- 17) Pääsetkö (tulla) mukaan? 一緒に来れますか
- 18) He panevat minut (vakoilla). 彼らは私にスパイをさせる
- 19) Äiti kieltää minua (seurustella) kanssasi. 母は私があなたと付き合うのを禁じる
- 20) Voit matkustaa (lentää) mukavasti. 飛行機で快適に旅行できます
- 21) Pystytkö (juosta) yhtä nopeasti kuin minä? 私と同じくらい速く走れますか
- 22) Hän sattuu (olla) poissa. 彼女はたまたま外出中です
- 23) Kokoonnutaan (pohtia) asiaa! その事柄を検討するために集まろう
- 24) Vanhemmat auttavat lasta (pukeutua). 両親は少年が服を着るのを助ける
- 25) Kieltäydyn (kuunnella) sellaista puhetta. そんな話を聞くことは断る
- 26) Jätetään asia (levätä)! その件は棚上げしておこう
- 27) Jätetään asia (käsitellä)! その件は扱わずにおこう
- 28) Hän pelastuu (hukkua). 彼は溺れるところを助かる

第 34 課 – Kolmaskymmenesneljäs kappale

34-1. 動詞の過去形(1) – タイプ 1 の動詞

34-1. 動詞の過去形(1) – タイプ 1 の動詞

現在形では語幹に人称語尾をつけましたが、過去形では語幹にまず過去を表す標識である **-i-** をつけ、その後には人称語尾をつけます。たとえば現在形 **sano-n** 「私は言う」に対して、過去形は **sano-i-n** 「私は言った」という形になります。

今まで動詞の語幹と呼んでいた形は、厳密には現在語幹と呼ぶことにします。それに対して過去形で使う **-i-** をつけた形を過去語幹と呼ぶことにします。

ポイント 66 – 過去形

過去語幹 = 現在語幹 + **-i-**

過去形 = 過去語幹 + 人称語尾

sanoa > 現在語幹 sano- > 過去語幹 sano-i-
minä sano-i-n 「私は言った」

1) 過去語幹の作り方

タイプ 1 の動詞では **-i-** をつけるときに、語幹の最後の母音が消えたり、別の母音に変化する場合があります。

① **o, ö, u, y** は変化しません

これら 4 つの音は、どれも唇を丸めて発音する音ですが、これらは過去を表す **-i-** をつけても何も変化しません。

sanoa > 現在語幹 sano- > 過去語幹 **sano-i-**

kysyä > 現在語幹 kysy- > 過去語幹 **kysy-i-**

② **e, i, ä** は消えてしまいます

これら 3 つの音は、過去の **-i-** の前では必ず消えてしまいます。

lähteä > 現在語幹 lähte- > 過去語幹 **läht-i-**

oppia > 現在語幹 oppi- > 過去語幹 **opp-i-**

pitää > 現在語幹 pitä- > 過去語幹 **pit-i-**

③ **a** は 3 音節以上の動詞では必ず、そして 2 音節の動詞でも多くの場合消えてしまいます(音節については 10 頁を参照して下さい)。

kirjoittaa > 現在語幹 kirjoitta- > 過去語幹 **kirjoitt-i-**

ostaa > 現在語幹 osta- > 過去語幹 **ost-i-**

④ 2音節の動詞のうち、語の最初の母音が **a** (まれに **i, e**) である場合には、過去の **-i** の前で **a** は **o** に変わるのが原則です。

ajaa > 現在語幹 aja- > 過去語幹 ajo-i-

alkaa > 現在語幹 alka- > 過去語幹 alko-i-

antaa > 現在語幹 anta- > 過去語幹 anto-i-

⑤ タイプ1の動詞に関しては、もう一つ注意すべきことがあります。過去の **-i** をつけたときに **-ti-** というつながりができると、それが **-si-** に変わる場合があります。多くの単語でこの変化が起きます。

tietää > 現在語幹 tietä- > tiet-i- > 過去語幹 tiesi-

tuntea > 現在語幹 tunte- > tunt-i > 過去語幹 tuns-

しかしこの変化が起きない語もあります。

pitää > 現在語幹 pitä- > 過去語幹 pit-i-

ポイント 67 - 過去の標識 **-i** をつけるときの母音変化 (タイプ 1)

母音	変化	例
o, ö, u, y	変化しない	sano- > sanoi-, kysy- > kysyi-
e, i, ä	消える	lähte- > lähti-, oppi- > oppi-, pitä- > piti-
a	消える	kirjoitta- > kirjoitti-, osta- > osti-
	o に変化する	aja- > ajoi-, anta- > antoi-
└── 2音節の動詞で最初の母音が a の場合		
過去の -i をつけて -ti- となった場合 -si- になることが多い		
tietä- > tieti- > tiesi-, tunte- > tunti- > tuns-		

2) 階程交替

階程交替のある語では、強階程と弱階程の現れ方は現在形の場合と全く同じです。つまり3人称で強階程が、1人称と2人称で弱階程が現れます。ただし **-ti-** が **-si-** に変化する語では階程交替は起こりません。

3) 人称語尾

人称語尾も現在形の場合と同じです。ただし過去形では、3人称単数の場合に最後の母音を伸ばすことはしません。つまり過去語幹がそのまま3人称単数の形になります。

4) 活用例

不定詞	sanoa	lähteä	ostaa	antaa	tietää
minä	sano-i-n	lähd-i-n	ost-i-n	anno-i-n	ties-i-n
sinä	sano-i-t	lähd-i-t	ost-i-t	anno-i-t	ties-i-t
hän	sano-i	läht-i	ost-i	anto-i	ties-i
me	sano-i-mme	lähd-i-mme	ost-i-mme	anno-i-mme	ties-i-mme
te	sano-i-tte	lähd-i-tte	ost-i-tte	anno-i-tte	ties-i-tte
he	sano-i-vat	läht-i-vät	ost-i-vat	anto-i-vat	ties-i-vät

過去標識-iをつけることによって語幹の音が消えたり変化したりするので、少し難しく感じるかも知れませんが、ここで学習したことは名詞の複数形を学習するときにも重要になってきます。要点をまとめておきます。

ポイント 68 - 動詞の過去形 - タイプ 1

1. 過去形の標識は-i-

- ① -o-, -u-, -y-, -ö-は変化なし
sano- > sano-i-, kysy- > kysy-i-, puhu- > puhu-i-
- ② -e-, -i-, -ä-は消える
lähte- > läht-i-, oppi- > opp-i-, pitä- > pit-i-
- ③ -a-も多くの場合消える
osta- > ost-i-, otta- > ott-i-, kirjoitta- > kirjoitt-i-
- ④ 語の最初の母音が-a-のときには、-a-は-o-に変化する
anta- > anto-i-, aja- > ajo-i-, alka- > alko-i-

2. 階程交替のある語では、強階程と弱階程の現れ方は現在形と同じ
(3人称で強階程、1人称と2人称で弱階程)

3. 人称語尾は現在形と同じ。ただし3人称単数では人称語尾はない

4. 過去の標識-iがついて-ti-という形になると、-si-に変わる場合が多い
その場合には階程交替はない

tietää > tieti- > tiesi-, tuntea > tunti- > tuns-

文法問題 34-1. 次の動詞の過去語幹を作り 6つの人称に活用させなさい.

- 1) asua
- 2) hakea
- 3) rakastaa
- 4) odottaa
- 5) auttaa
- 6) lentää

文法問題 34-2. 次の文の動詞を過去形にしなさい.

- 1) Hän puhuu hyvin suomea. 彼は上手にフィンランド語を話す
- 2) Kerrotko kaiken? あなたはすべてのことを話しますか
- 3) Lompakko löytyy taskusta. 財布はポケットの中から見つかる
- 4) Näytelmä loppuu sankarin kuolemaan. 劇は主人公の死で終わる
- 5) Kieltäydytkö hyväksymästä tarjousta? 申し出を受け入れるのを断りますか
- 6) Mitä hän etsii? 彼女は何かを探していますか
- 7) Me pidämme sinusta. 我々はあなたが好きです
- 8) Luetko tenttiin kovasti? テストのために一生懸命勉強しますか
- 9) He lähtevät uimahalliin uimaan. 彼らはプールへ泳ぎに出かける
- 10) Matka kestää kaksi tuntia. その旅行は2時間かかる
- 11) Ketä te odotatte? あなた方は誰を待っていますか
- 12) Muistatko minut? 私を覚えていますか
- 13) Hän soittaa usein minulle. 彼はよく私に電話してきます
- 14) Otatko taksin? あなたはタクシーに乗りますか
- 15) Ostamme uuden matkapuhelimen. 我々は新しい携帯電話を買う
- 16) Kenelle hän kirjoittaa niin ahkerasti? 彼女は誰にそんなに熱心に手紙を書くのか
- 17) Kenelle he antavat lahjan? 彼らは誰に贈り物をあげるのですか
- 18) Auttaako se? それは役に立ちますか
- 19) Ajan pyörällä Tampereelle saakka. 私は自転車でタンペレまで行く
- 20) Milloin luento alkaa? 講義はいつ始まりますか
- 21) Sinä laulat hyvin kauniisti. あなたはとても美しく歌う
- 22) Tauti tappaa hänet. 病気が彼を殺す
- 23) Tunnen itseni terveeksi. 私は自分が健康だと感じる
- 24) Tiedämme asian. 我々はその件は知っている
- 25) Lennätkö Kööpenhaminaan? コペンハーゲンへは飛行機で行きますか
- 26) He ymmärtävät espanjaa. 彼らはスペイン語を理解する
- 27) Te löydätte perille ilman karttaa. あなた方は地図なしで目的地へ行けます
- 28) Hän rakentaa uuden asunnon. 彼女は新しい住居を建てる

第 35 課 — Kolmaskymmenesviides kappale

- 35-1. 動詞の過去形 (2) — タイプ 2 の動詞
- 35-2. 動詞の過去形 (3) — タイプ 3, 4, 5 の動詞
- 35-3. 動詞の過去形 (4) — nähdä と tehdä
- 35-4. 過去形の活用例

35-1. 動詞の過去形 — タイプ 2 の動詞

タイプ 2 の動詞は -da/-dä で終わり、その前には母音が 2 つ並んでいました。過去標識の -i- をつけるときに、この母音に変化が起こります。

- ① 長母音は短母音になります

saada > 現在語幹 saa- > 過去語幹 **sa-i-**

myydä > 現在語幹 myy- > 過去語幹 **my-i-**

- ② **i** は消えます (つまり現在語幹と同じです)

voida > 現在語幹 voi- > 過去語幹 **vo-i-**

uida > 現在語幹語幹 ui- > 過去語幹 **u-i-**

- ③ **uo, yö, ie** では最初の音が消えます

juoda > 現在語幹 juo- > 過去語幹 **jo-i-**

syödä > 現在語幹 syö- > 過去語幹 **sö-i-**

viedä > 現在語幹 vie- > 過去語幹 **ve-i-**

- ④ **käydä** の過去語幹は例外的に **kävi-** となります

ポイント 69 — 動詞の過去形 (タイプ 2)

タイプ 2 の動詞

- ① 長母音は短母音に変化

saa- > sa-i-, myy- > my-i-

- ② -i- は消える (現在語幹と同じになる)

voi- > vo-i-, tupakoi- > tupako-i-

- ③ -uo-, -yö-, -ie- では、最初の音が消える

juo- > jo-i-, syö- > sö-i-, vie- > ve-i-

- ④ **käydä** の過去形は **kävi-**

35-2. 動詞の過去形(3) – タイプ 3, 4, 5 の動詞

1) タイプ 3

タイプ 3 の現在語幹は必ず **e** で終わりますが、その **e** は過去形では必ず消えてしまいます。

tulla > 現在語幹 **tule-** > 過去語幹 **tul-i-**

mennä > 現在語幹 **mene-** > 過去語幹 **men-i-**

pestä > 現在語幹 **pese-** > 過去語幹 **pes-i-**

-lla/-llä で終わる動詞で階程交替の起こる語では、過去語幹でも階程交替が起こって強階程になります。

tapella > 現在語幹 **tappele-** > 過去語幹 **tappel-i-**

kuunnella > 現在語幹 **kuuntele-** > 過去語幹 **kuuntel-i-**

2) タイプ 4

タイプ 4 は **-ta/-tä** で終わっていますが、その **-ta/-tä** をまとめて **-si-** に変えてしまうのが、一番簡単な過去語幹の作り方です。

haluta > 過去語幹 **halusi-** (現在語幹 **halua-**)

herätä > 過去語幹 **heräsi-** (現在語幹 **herää-**)

現在語幹を作るときに階程交替の起こった語では、過去形を作るときにも同じように階程交替が起こり強階程になります。

tykätä > 過去語幹 **tykkäsi-** (現在語幹 **tykkää-**)

tavata > 過去語幹 **tapasi-** (現在語幹 **tapaa-**)

3) タイプ 5

タイプ 5 の現在語幹は **-itse-** となり必ず **e** で終わりますが、過去形では **e** は消えてしまいます。タイプ 5 の動詞には階程交替はありませんでした。

tarvita > 現在語幹 **tarvitse-** > 過去語幹 **tarvits-i-**

valita > 現在語幹 **valitse-** > 過去語幹 **valits-i-**

merkitä > 現在語幹 **merkitse-** > 過去語幹 **merkits-i-**

タイプ 2, 3, 4, 5 の動詞の場合も、人称語尾は現在形の場合とまったく同じです。ただし 3 人称単数では母音を伸ばしません。過去語幹がそのまま単数 3 人称の形になります。

35-3. 動詞の過去形(4) – nähdä と tehdä

現在語幹に-iをつけて作ります。現在語幹の最後の-eは消えてしまいます。

nähdä > 現在語幹 näke-: näe-> 過去語幹 **näk-i- : nä-i-**

tehdä > 現在語幹 teke- : tee-> 過去語幹 **tek-i- : te-i-**

ポイント 70 – 動詞の過去形(タイプ 3, 4, 5, nähdä と tehdä)

- | | | |
|---|--|--|
| ① | タイプ 3 | tulla > tule- > tuli-, tapella > tappele- > tappeli- |
| ② | タイプ 4 | haluta > (halua-) > halusi-, tavata > (tapaa-) > tapasi- |
| ③ | タイプ 5 | tarvita > tarvitse- > tarvitsi- |
| ④ | nähdä > näke- > näki-, tehdä > teke- > teki- | |

35-4. 過去形の活用例

	タイプ 1		タイプ 2		タイプ 3	
不定詞	lukea	tuntea	voida	juoda	olla	tapella
minä	luin	tunsin	voin	join	olin	tappelin
sinä	luit	tunsit	voit	joit	olit	tappelit
hän	luki	tunsi	voi	joi	oli	tappeli
me	luimme	tunsimme	voimme	joimme	olimme	tappelimme
te	luitte	tunsitte	voitte	joitte	olitte	tappelite
he	lukivat	tunsivat	voivat	joivat	olivat	tappelivat

	タイプ 4		タイプ 5	nähdä と tehdä		käydä
不定詞	haluta	tykätä	tarvita	nähdä	tehdä	käydä
minä	halusin	tykkäsin	tarvitsin	näin	tein	kävin
sinä	halusit	tykkäsit	tarvitsit	näit	teit	kävit
hän	halusi	tykkäsi	tarvitsi	näki	teki	kävi
me	halusimme	tykkäsimme	tarvitsimme	näimme	teimme	kävimme
te	halusitte	tykkäsitte	tarvitsitte	näitte	teitte	kävitte
he	halusivat	tykkäsivät	tarvitsivat	näkivät	tekivät	kävivät

文法問題 35-1. 次の動詞の過去語幹を作り 6つの人称に活用させなさい.

- 1) myydä 2) tupakoida 3) luoda 4) lyödä 5) viedä 6) käydä
- 7) olla 8) ajatella 9) mennä 10) purra 11) päästä
- 12) maalata 13) levätä 14) pudota 15) maata 16) häiritä
- 17) tehdä 18) nähdä

文法問題 35-2. 次の文の動詞を過去形に直しなさい.

- 1) Minä saan luvan lähteä matkalle. 私は旅行へ出かける許可を得る
- 2) He myyvät varastonsa alennuksella. 彼らは在庫品を値下げして売る
- 3) Mitä me voimme tehdä? 我々に何ができるだろうか
- 4) Hän analysoi poliittista tilannetta. 彼女は政治的状況を分析する
- 5) Te juotte viskiä raakana. あなた方はウイスキーをストレートで飲む
- 6) Jumala luo maailman. 神は世界を創る
- 7) He tuovat ksyylitolia Suomesta. 彼らはフィンランドからキシリトールを輸入する
- 8) Sinä syöt itsesi sairaaksi. あなたは食べ過ぎて具合が悪くなる
- 9) Aallot lyövät rantaan. 波が海岸に打ち寄せる
- 10) Kirjastonhoitaja vie kirjat kirjastoon. 司書は本を図書館へ持っていく
- 11) Minusta tulee kuuluisa näyttelijä. 私は有名な役者になる
- 12) Siihen menee paljon aikaa. それにはたくさんの時間がかかる
- 13) Hyttynen puree häntä. 蚊が彼女を刺す
- 14) Sinä pääset pian vankilasta. あなたはまもなく刑務所を出て行ける
- 15) Lääkäri kuuntelee sydäntä. 医師は心臓の音を聞く
- 16) Haukottelen kyllästyksestä. 私は退屈であくびをする
- 17) Juontaja haastattelee asiantuntijaa. 司会者は専門家にインタビューする
- 18) Heräämme herätyskellon soittoon. 我々は目覚まし時計の音に目を覚ます
- 19) Hän vastaa heti kirjeeseen. 彼はすぐに手紙に返事を書く
- 20) Sinä haluat asianajajaksi. あなたは弁護士になりたい
- 21) Tapaan sattumalta vanhan tuttavani. 私は偶然に古い知り合いに会う
- 22) Kaikki tykkäävät laulustasi. 皆あなたの歌が好きだ
- 23) Häneltä putoaa kaulahuivi. 彼女はスカーフを落とす
- 24) He makaavat selällään. 彼らは仰向けに横になっている

第 36 課 — Kolmaskymmeneskuudes kappale

36-1. 動詞の過去形(5) — 否定形

36-2. 能動過去分詞

36-1. 動詞の過去形(5) — 否定形

過去の否定形の作り方は、今まで学習した過去形の作り方とはまったく違います。過去の否定形でも、現在の否定形で使った否定動詞(en、et、ei、emme、ette、eivät)を使いますが、それと結びつく動詞は能動過去分詞と呼ばれる形になります。

過去の否定形 = 否定動詞 + 能動過去分詞

36-2. 能動過去分詞

能動過去分詞の印は、基本的には**-nut/-nyt** ですが、動詞のタイプによっては少し違う形になる場合もあります。

① タイプ 1

タイプ 1 では(強階程)語幹に**-nut/-nyt** をつけます。つまり不定詞の最後の-a/-äを取って**-nut/-nyt** をつければ出来上がりです。

puhua > 過去分詞 **puhu-nut**

kysyä > 過去分詞 **kysy-nyt**

lukea > 過去分詞 **luke-nut**

lähteä > 過去分詞 **lähte-nyt**

例外的に **tietää** には、過去分詞に2つの形があります。どちらを使ってもかまいません。

tietää > 過去分詞 **tietä-nyt ~ tien-nyt**

② タイプ 2

タイプ 2 でも不定詞から **-da/-dä** を取った語幹に**-nut/-nyt** をつけます。

juoda > 過去分詞 **juo-nut**

syödä > 過去分詞 **syö-nyt**

③ タイプ 3

タイプ 3 では不定詞から最後の 2 文字を取った形、つまり子音語幹に **-nut/-nyt** を直接つけます。現在語幹では **e** という音を加えましたが、過去分詞を作るときには加えません。

さらにタイプ 3 では、過去分詞の **-nut/-nyt** の最初の音である **n** が、必ず直前の音と同じになってしまいます。

tulla > tul-nut > 過去分詞 **tul-lut**

kuunnella > kuunnel-nut > 過去分詞 **kuunnel-lut**

mennä > 過去分詞 **men-nyt**

purra > pur-nut > 過去分詞 **pur-rut**

pestä > pes-nyt > 過去分詞 **pes-syt**

④ タイプ 4 と 5

タイプ 4 と 5 では、不定詞の最後の **-ta/-tä** をとり、**-nnut/-nnyt** をつけます。

haluta > 過去分詞 **halu-nnut**

tykätä > 過去分詞 **tykä-nnyt**

tavata > 過去分詞 **tava-nnut**

tarvita > 過去分詞 **tarvi-nnut**

⑤ nähdä と tehdä

タイプ 2 と同じように **-dä** を取って **-nyt** をつけます。

nähdä > 過去分詞 **näh-nyt**

tehdä > 過去分詞 **teh-nyt**

⑥ 過去分詞の複数形

以上で学習した過去分詞を、否定動詞 (**en, et, ei, emme, ette, eivät**) と組み合わせれば過去の否定形が作れるわけです。ただし文の主語が複数の場合には、過去分詞が複数形になります。過去分詞の最後の **-ut/-yt** を **-eet** に変えることによって、過去分詞を複数形にすることができます。

過去分詞 puhunut > 過去分詞の複数形 puhuneet

過去分詞 nähnyt > 過去分詞の複数形 nähneet

ポイント 71 - 動詞の過去否定形

1. 過去否定 = 否定動詞 (en, et, ei, emme, ette, eivät) + 能動過去分詞
2. 能動過去分詞の作り方 (-nut/-nyt)
 - ① タイプ 1 puhua > puhu-nut, lähteä > lähte-nyt
 - ② タイプ 2 juoda > juo-nut, syödä > syö-nyt
 - ③ タイプ 3 tulla > (tul-nut) > tul-lut, pestä > (pes-nyt) > pes-syt
 - ④ タイプ 4, 5 tavata > tava-nnut, tykätä > tykä-nnyt, tarvita > tarvi-nnut
 - ⑤ nähdä > näh-nyt, tehdä > teh-nyt
3. 過去分詞の複数形 (-ut/-yt ⇒ -eet)

puhu-nut > 複数形 puhu-neet, syö-nyt > 複数形 syö-neet

⑦ 活用例 - 動詞の過去否定形

以上で学習した能動過去分詞を、現在否定形でも使った否定動詞と結びつけば過去否定形が出来上がります。注意する点は、過去分詞に単数形と複数形があるということです。主語が複数形の場合には過去分詞を複数形にすることになります。また実際に文章を読むと否定動詞と過去分詞は離れて出てくることもありますので注意してください。

	lähteä	tulla	tavata
minä	en	en	en
sinä	et	et	et
hän	ei	ei	ei
me	emme	emme	emme
te	ette	ette	ette
he	eivät	eivät	eivät
	lähte-nyt	tul-lut	tava-nnut
	lähte-neet	tul-leet	tava-nneet

⑧ 1人の相手に Te を使う場合

1人の相手に対して Te を使うと丁寧な表現になりました。このように丁寧な表現をするために Te を使う場合には、否定動詞はもちろん ette を使いますが、相手が1人ですから過去分詞は単数形のままにします。

- Te ette puhu-neet suomea. あなた方はフィンランド語を話さなかった
- Te ette puhu-nut suomea. あなたはフィンランド語をお話しにならなかった

文法問題 36-1. 次の過去形の動詞を不定詞の形に直し過去分詞を作りなさい.

- | | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|--------------------|
| 1) kysyin | 2) kerroitte | 3) lähdimme | 4) luki |
| 5) oppivat | 6) päätti | 7) otit | 8) soitimme |
| 9) kirjoittivat | 10) ajoitte | 11) autoin | 12) annoimme |
| 13) ymmärsi | 14) tiesivät | 15) lensitte | 16) tunsi |
| 17) saimme | 18) myitte | 19) voi | 20) joivat |
| 21) loin | 22) söit | 23) löitte | 24) vei |
| 25) tulimme | 26) menitte | 27) surivat | 28) pesin |
| 29) pääsit | 30) kuuntelimme | 31) tappelite | 32) työskentelivät |
| 33) esitteli | 34) halusit | 35) heräsimme | 36) avasin |
| 37) makasivat | 38) tapasitte | 39) tykkäsit | 40) putosi |
| 41) näin | 42) teimme | 43) valitsin | 44) harkitsitte |

文法問題 36-2. 次の文を否定文に直しなさい(否定文の目的語は分格です).

- 1) Sinä kerroit kaiken. あなたはすべてを話した
- 2) Minä luin kirjan Euroopan Unionista. 私は欧州連合に関する本を読んだ
- 3) Hän kirjoitti mielenkiintoisen kirjan politiikasta. 彼は政治について興味深い本を書いた
- 4) Etsivä ajoi rikollista takaa. 刑事は犯罪者を追跡した
- 5) Lintu rakensi pesän puun latvaan. 鳥は木のてっぺんに巣を作った
- 6) Saimme hänet lähtemään. 我々は彼を去らせることができた
- 7) He söivät purukumia ruoan jälkeen. 彼らは食事の後でガムを噛んだ
- 8) Te kävitte tupakalla. あなた方はタバコを吸いに行ってきた
- 9) Hän opiskeli hammaslääkäriksi. 彼女は歯医者になる勉強をした
- 10) Pääsit pois sairaalasta eilen. あなたは昨日病院を退院した
- 11) Odottelin bussia kauan. 私は長いことバスを待った
- 12) He erosivat viime syksynä. 彼らはこの間の秋に離婚した
- 13) Työnantaja takasi hänelle hyvän palkan. 雇用者は彼に良い給料を保証した
- 14) Me valitsimme hänet tasavallan presidentiksi. 我々は彼女を共和国大統領に選んだ
- 15) Näin heidät eilen kaupungilla. 私は昨日彼らと街で会った
- 16) He tekivät romaanista elokuvan. 彼らはその小説を映画にした

第 37 課 — Kolmaskymmenesseitsemäs kappale

37-1. 動詞の現在完了形と過去完了形

37-2. 付加詞

37-1. 動詞の現在完了形と過去完了形

今まで学習した現在形と過去形に加えて、現在完了形、過去完了形と呼ぶ形があります。はじめに完了形の作り方を勉強し、その後で用法について学びます。

1) 完了形の作り方

完了形は動詞 **olla** と、過去分詞の形を結びつけて作ります。**olla** は主語によって人称変化をしますが、過去分詞は過去の否定形の場合と同様に単数と複数の区別をするだけです。**olla** が現在形であれば現在完了形、**olla** が過去形であれば過去完了形と呼ばれます（過去分詞の作り方については 35-2.を見直して下さい）。

	現在完了形	過去完了形
minä	olen	olin
sinä	olet	olit
hän	on	oli
me	olemme	olimme
te	olette	olitte
he	ovat	olivat
	} puhunut	} puhunut
	} puhuneet	} puhuneet

1 人の相手に対して Te を使う場合には、過去分詞は単数形になります。

{ Te olette puhunut suomea. あなたはフィンランド語をお話しになった
 { Te olette puhuneet suomea. あなた方はフィンランド語を話した

完了形を否定にするときには、**olla** だけを否定形にします。現在完了であれば **olla** を現在の否定形に、過去完了であれば **olla** を過去の否定形にします。結果的に、現在完了の否定形は「否定動詞 + ole + 過去分詞」、過去完了の否定形は「否定動詞 + olla の過去分詞 (ollut~olleet) + 過去分詞」という形になります。

	現在完了・否定形	過去完了・否定形
minä	en ole	en ollut
sinä	et ole	et ollut
hän	ei ole	ei ollut
me	emme ole	emme olleet
te	ette ole	ette olleet
he	eivät ole	eivät olleet
	} puhunut	} puhunut
	} puhuneet	} puhuneet

2) 現在完了形の用法

現在形や過去形と現在完了形をどう使い分けるかは、じつは難しいところもあります。次のような内容を表したいときに現在完了を使う、と覚えておけば十分でしょう。

- ① 「(もう、すでに) ...してしまった、...してしまっている」というように、何かをやり終えてしまっていると言いたいとき。

Olen jo ostanut uuden sanakirjan. 私は新しい辞書をもう買いました

- ② 「(以前、何度か、今までに) ...したことがある」と経験を表したいとき。

Hän on ennen käynyt Japanissa. 彼は以前日本を訪れたことがある

- ③ 「(ずっと、～の間) ...している」と現在まで何かが継続していることを表現したいとき。

Olemme olleet täällä viime kuusta asti. 私たちは先月からずっとここにいる

3) 過去完了の用法

過去完了の働きは現在完了と同じだと思ってよいでしょう。ただ話の中心が過去になるので、「(その時にはすでに) ...してしまっていた、...したことがあった、ずっと...していた」というような日本語に相当します。

Juna oli jo lähtenyt, kun tulin asemalle.

私が駅に来たとき、列車はすでに出てしまっていた

He olivat käyneet Suomessa sitä ennen monta kertaa.

彼らはそれ以前に何度もフィンランドを訪れたことがあった

Oli satanut jo kolme päivää, kun me saavuimme sinne.

我々がそこへ着いたときには、もう3日間雨が降っていた

ポイント 72 - 現在完了形と過去完了形

現在完了形 = 「olla の現在形 + 過去分詞」 (olen puhunut, olemme puhuneet)

過去完了形 = 「olla の過去形 + 過去分詞」 (olin puhunut, olimme puhuneet)

否定形では動詞 olla だけが否定形になる

現在完了の否定形 = 「否定動詞 + ole + 過去分詞」

(olen puhunut ⇔ en ole puhunut, olemme puhuneet ⇔ emme ole puhuneet)

過去完了の否定形 = 「否定動詞 + olla の過去分詞 (ollut~olleet) + 過去分詞」

(olin puhunut ⇔ en ollut puhunut, olimme puhuneet ⇔ emme olleet puhuneet)

37-2. 付加詞

疑問文を作るのに -ko/-kö を使いましたが、このように必ず別の語について出てくるものを付加詞と呼ぶことにしましょう。

① -kin~-kaan/-kään

-kin は「...も」という意味で、否定文では -kaan/kään という形になります。-kin は「予想と違って、意外にも」という意味合いを表す働きもあります。

Hän on **kin** työssä, vaikka on sunnuntai.

彼/彼女は日曜日だというのに仕事をしているんですよ

② -han/-hän

-han/-hän は「あなたも当然知っているように」、「だって...じゃないか」というようなニュアンスを加えることができます。

Hän ei ole tänään työssä. Tänään **hän** on sunnuntai.

彼/彼女は今日は仕事をしていない。だって今日は日曜日じゃないか

③ -pa(s)/-pä(s)

-pa(s)/-pä(s) は命令形につくと、親しげな印象を与えます。

Tule **pa**(s) tänne! こっちへ来なさいよ

④ -s

-s は口語において疑問詞や、疑問文を作る -ko/-kö につくことがしばしばありますが、特別な意味があるわけではありません。

Kuka **s** sinä olet? あなたは誰ですか

Oletko **s** sinä suomalainen? あなたはフィンランド人ですか

文法問題 37-1. 例にならって現在完了形で返事をしなさい。

例： Juo maitoa! 牛乳を飲みなさい

→ Olen jo juonut. もう飲みました

- 1) Kirjoita kirje! 手紙を書きなさい
- 2) Soittakaa isällemme! (あなた方)お父さんに電話しなさい
- 3) Vie paketti postiin! 小包を郵便局へ持っていきなさい
- 4) Käykää saunassa! (あなた方)サウナに入ってきたなさい
- 5) Kuuntele tarkkaan! 注意して聞きなさい
- 6) Menkää nukkumaan! (あなた方)寝なさい
- 7) Avaa ikkunat! 窓を開けなさい
- 8) Vastatkaa kysymykseen! (あなた方)質問に答えてください
- 9) Harkitse asiaa! その件を検討してください
- 10) Tehkää ruokaa! (あなた方)食事を作ってください

文法問題 37-2. 次の文に対して否定の返事をしなさい。

- 1) Oletko ennen syönyt karjalanpiirakkaa? カレリアパイを食べたことがありますか
- 2) Onko hän jo pessyt pyykin? 彼はもう洗濯物を洗いましたか
- 3) Oletteko jo korjanneet tietokoneen? あなた方はもうコンピュータを直したか
- 4) Ovatko he jo julkaisseet kirjan? 彼らはもうその本を出版したか

文法問題 37-3. ()内の動詞を過去完了形にして文を完成させなさい。

- 1) Te (saapua), kun minä palasin. 私が戻るとあなた方は到着していた
- 2) Kun saavuin asemalle, juna (lähteä). 私が駅に着くと列車は出てしまっていた
- 3) He (syödä), kun tulin kotiin. 私が家に帰ると彼らは食事をしてしまっていた
- 4) Tapasin tuttavani, jota en (nähdä) pitkään aikaan.
私は長いこと会っていなかった知り合いに会った
- 5) Isä ja äiti eivät (tulla) kotiin, kun soitin heille.
私が電話をしたときに、父と母は帰ってきていなかった
- 6) Hän ei tiennyt tätä, koska me emme (kertoa) sitä hänelle.
我々が話しておかなかったのも、彼女はこのことを知らなかった

第 38 課 — Kolmaskymmeneskahdeksas kappale

38-1. se の用法

38-2. 接続詞 (2)

38-1. se の用法

1) 文に格をつけるための se

たとえば「...について」という意味を表すためには、名詞は出格になりました。

Kaikki puhuvat jalkapallo-sta. 皆サッカーについて話している。

ところで日本語で「...について」の前には「サッカー」というような名詞だけではなく、たとえば「彼がフィンランドへ出かけたこと」というような文に相当するものが来て、「彼がフィンランドへ出かけたことについて話している」のように言う場合もあります。しかし文に格語尾をつけることはできません。それではどうするのかというと、まず文が平叙文であれば **että** をつけて「...だということ」という名詞に相当する形にします。そして、それに「...について」という意味を加えるために、**se** という語を出格の形にして **että** の前に置きます。

Kaikki puhuvat siitä, että hän on lähtenyt Suomeen.

皆、彼がフィンランドへ出かけたことについて話している。

ここでは **se** は、「それ」という意味を持つのではなくて、**että** 以下の部分（「彼がフィンランドへ出かけたということ」）が出格になって「...について」という意味を持っていることを示す働きをしています。また日本語で「彼はなぜフィンランドへ行ったのか」というような疑問文が「...について」の前に来る場合もあります。疑問文の場合には、すぐその前に **siitä** を置いて、出格であることを示します。

Kaikki puhuvat siitä, miksi hän on lähtenyt Suomeen.

皆、なぜ彼がフィンランドへ出かけたのかについて話している。

たとえば **luottaa** 「信頼する」は入格を取る動詞でしたが、同じように平叙文であれば **että** をつけ、さらに入格であることを示すために **se** の入格形である **siihen** を置くことになります。疑問文の場合には **että** をつける必要はありません。

Älä luota liikaa siihen, mitä lehdet sanovat.

新聞や雑誌が言っていることを信頼しすぎてはいけない

2) 文が目的語になる場合

文に相当するものが動詞の目的語になる場合には、原則として *se* をつける必要はありません。平叙文であれば *että* だけをつけ、疑問文であれば何もせずにそのまま目的語になることができます。

Kaikki sanovat, että hän on lähtenyt Suomeen.

皆、彼がフィンランドへ出かけたと言っている

Kaikki haluavat tietää, miksi hän on lähtenyt Suomeen.

皆、なぜ彼がフィンランドへ出かけたのか知りたがっている

Kukaan ei tiedä, tuleeko hän takaisin.

彼が戻ってくるのかどうか誰も知らない

3) 文が主語になる場合

- ① 文全体の動詞が目的語を取るような他動詞である場合には、主語になる文が平叙文であれば *se että* をつけ、動詞の後ろに置くのが普通です。疑問文であれば *se* だけを付けます。

Minua suututtaa se, että tein niin. 私は自分がそうしたことに腹が立つ
ただし *se* をつけない場合もあります。

Minua ihmetyttää (se), että hän teki niin. 彼/彼女がそうしたのに私は驚いている

- ② 文全体の動詞が目的語を取らない自動詞である場合には、主語になる文に相当する部分には *että* だけをつけ *se* をつける必要はありません。もちろん疑問文であれば *että* もつける必要はありません。

On hauskaa, että sinäkin olet täällä. あなたもここにいてくれて良かった

Ongelmana on, milloin aloitamme. 問題となっているのは、いつ始めるかだ
この場合にも、もし主語が文頭に置かれるときには *se* をつけます。

Se, että Mika ei tullut, johtui auto-onnettomuudesta.

ミカが来なかったのは、自動車事故のせいだった

38-2. 接続詞(2)

1) 否定動詞と融合した接続詞

次のように、接続詞と否定動詞が融合して1つになってしまっている形があります。もちろん否定動詞は主語によって6つの形に変化します。

- ① ett-en, ett-et, ett-ei, ett-emme, ett-ette, ett-eivät
 = että en, että et, että ei, että emme, että ette, että eivät
- ② ell-en, ell-et, ell-ei, ell-emme, ell-ette, ell-eivät (もし...でなければ)
 = joll-en, joll-et, joll-ei, joll-emme, joll-ette, joll-eivät
 = jos en, jos et, jos ei, jos emme, jos ette, jos eivät
- ③ jott-en, jott-et, jott-ei, jott-emme, jott-ette, jott-eivät (...しないように)
 = jotta en, jotta et, jotta ei, jotta emme, jotta ette, jotta eivät
- ④ vaikk-en, vaikk-et, vaikk-ei, vaikk-emme, vaikk-ette, vaikk-eivät (...ではないが)
 = vaikka en, vaikka et, vaikka ei, vaikka emme, vaikka ette, vaikka eivät

Luulen, **ettei** hän osaa suomea eikä ruotsia.

彼女はフィンランド語もスウェーデン語もできないと思います

Minä myöhästyn, **jollet** ~ **ellet** vie minua autolla.

もしあなたが自動車で連れていってくれなければ、私は遅れてしまう

2) kun を含むもの

Voimme puhua **samalla**, **kun** kävelemme. 我々は歩きながら話ができるでしょう

Lähdemme maalle **sen jälkeen**, **kun** ~ **sitten**, **kun** koulu loppuu.

我々は学校が終わった後で田舎へ出かける

Odota tässä **siihen asti (saakka)**, **kun** tulen takaisin.

私が戻るまでずっとここで待っていなさい

Olen ostanut leivän samasta kaupasta **siitä asti (saakka)**, **kun** muutin kaupunkiin.

私は街に引っ越してからずっと同じ店でパンを買っている

3) että を含むもの

Menin sinne **sen takia**, **että** (~ **siitä syystä**, **että**) halusin tavata Mikon.

ミッコに会いたかったので、私はそこへ行った

Ruoka paloi pohjaan **siksi**, **että** olin puhelimessa.

私が電話をしていたので、料理は黒こげになってしまった

Menin kokoukseen **siitä huolimatta**, **että** vaimoni oli sairaana.

妻が病気だったのにもかかわらず、私は会議へ出かけた

Ole hiljaa, **niin että** (~ **jotta**) vauva voi nukkua.

赤ん坊が眠れるように静かにしなさい

文法問題 38-1. ()内に se を入れる必要がある場合に適切な形にして入れなさい.

- 1) Se riippuu (), paljonko lippu maksaa. それは切符がいくらするかによる
- 2) Se johtuu (), että meiltä puuttuu rahaa. それは我々にお金がないことが原因だ
- 3) Olen tottunut (), että olet myöhässä. 私はあなたが遅れるのには慣れている
- 4) Minusta näyttää (), että kohta tulee sade. 私はまもなく雨になるように思う
- 5) Hän on jo kyllästynyt (), että hänen miehensä tulee humalaan joka ilta.
彼女は夫が毎晩酔っ払うのに飽き飽きしている
- 6) Olen ihan tyytyväinen (), että olen saanut työni valmiiksi.
私は仕事を完成させたことに充分満足している
- 7) Olet kiinnostunut (), miten Suomi itsenäistyi.
あなたはフィンランドがどのように独立したのかに関心がある
- 8) Luulen (), että pian lakkaa satamasta. 私はじきに雨は降り止むと思う
- 9) Tiedätkö (), kenestä on tullut presidentti? 誰が大統領になったか知ってますか
- 10) Asiaa ei paranna (), että olet palannut. 君が戻ったことは事態を改善しはしない
- 11) On ikävää (), että et voi tulla. あなたが来られないのは残念です
- 12) () että hän ei suostunut, johtui kiireestä. 彼が同意しなかったのは忙しいせいだ

文法問題 38-2. ()内に適切な語を入れなさい.

- 1) Poika alkoi syödä () () () äiti oli lähtenyt. 母親が出かけた後少年は食べ始めた
- 2) Sytytä valot () et kompastu. つまづかないように明かりをつけなさい
- 3) Pidän hänestä () () () hän on meidän vihollisemme.
彼女が我々の敵であるにもかかわらず、私は彼女が好きだ
- 4) Tulen huomenna () voi tulla tänään. 私はもし今日伺えなければ明日伺います
- 5) Jäin kotiin siitä () () olin sairas. 病気だったので私は家に残った
- 6) Tule jo () () ehdimme junalle. 列車に間に合うように、もう来なさい
- 7) Odotetaan sisällä () () () sade lakkaa. 雨が止むまで中で待ちましょう
- 8) Tuntuu ikävältä, () enää tapaa. 我々がもう会うことがないのは残念だ
- 9) Luin () () söin. 私は食事をしながら本を読んだ
- 10) Tulit vasta () () muut olivat lähteneet.
他の人たちが出かけてしまってからやっと、あなたは来た

第 39 課 — Kolmaskymmenesyhdeksäs kappale

39-1. 時に関する表現の復習

39-2. 時の表現 (2)

39-1. 時に関する表現の復習

1) 様格になる語

① 曜日

maanantai 月曜日 → maanantai-na 月曜日に

② 年

tämä vuosi 今年 → tä-nä vuon-na (vuote-na) 今年に

2) 接格になる語

① 「朝、昼...」

aamu 朝 → aamu-lla 朝に aamupäivä 午前 → aamupäivä-llä 午前中に

② 季節名

kevät 春 → keväällä 春に

③ 週

tämä viikko 今週 → tä-llä viiko-lla 今週に

3) 内格になる語

① 月の名前

tammikuu 1月 → tammikuu-ssa 1月に

39-2. 時の表現 (2)

1) 様格

曜日は様格になりましたが、さらに祝日なども様格になります。

Olen **joulu-na** aina poikani luona. 私はクリスマスにはいつも息子のもとにいる
また季節名や「朝、昼...」なども限定されると様格になります。

{ Olemme illalla aina kotona. 私たちは晩はいつも家にいる
Emme ole kotona **tä-nä ilta-na**. 私たちは今晚は家にはいない

viime は「この間の」、ensi は「今度の」という意味ですが変化をしない語です。

{ **Viime talve-na** satoi paljon lunta. この間の冬はたくさん雪が降った
Ensi talve-na lähden Lappiin. 今度の冬はラップランドへ出かける

2) 対格と分格

「3 日間」、「4 週間」など期間を表す場合には、目的語と同じ形になるのが一般的です。つまり肯定文では対格、そして否定文では分格です。

{ **Matka kestää tunnin.** 旅行は 1 時間かかる
Matka ei kestä tuntia. 旅行は 1 時間はかからない

3) 内格

月の名前は内格になりましたが、限定された場合も内格のままです。

Menemme naimisiin ensi helmikuu-ssa. 我々は今度の 2 月に結婚します
また内格は所要時間などを表すときに使われます。

Luin tämän kirjan tunni-ssa. 私はこの本を 1 時間で読みました

4) 出格

出格は単独でも「...から」という意味を表しますが、「...からずっと」と言う場合には **lähtien**、**alkaen**、**asti**、**saakka** などと結びつけることがあります。

Viime kevää-stä lähtien olen opiskellut saksaa.

この間の春からドイツ語を勉強しています

5) 入格

入格は単独でも「...まで」という意味を表すことができますが、やはり **asti~saakka** と結びつくことがあります。

Juhani oli täällä eilise-en saakka. ユハニは昨日までここにいた

入格は **mennessä** と結びついて「...までには」と期限などを表します。

Saat vastaukseni tiistai-hin mennessä. 火曜日までにはご返事します

また、通常行われていることが行われない場合には、入格を使って「...間」という意味を表します。

En ole nähnyt häntä pitkä-än aika-an. 私は長いこと彼女に会っていない

厳密に「何時に」と聞きたいときには **mi-hin aika-an** (入格 < **mikä aika**) を使います。

Mi-hin aika-an nouset aamulla? 朝は何時に起きますか

6) 奪格

奪格は時刻に関して使って「...時に」という働きをします.

Nousen aamulla **kuude-lta** ~ **kello kuusi**. 私は朝は6時に起きます

7) 変格

変格は「...までには」という意味を表すことができます.

Saat vastaukseni **tiistai-ksi**. 火曜日までにはご返事します

Työ on valmiina **huomise-ksi**. 仕事は明日までにはできあがっています

また変格は「...週間の予定で」などと言うときに使われます.

Matkustamme Espanjaan **viiko-ksi**. 我々は1週間スペインへ旅行します

8) joka + 主格

「毎日、毎週」の「毎」に相当する **joka** と結びつく語は主格のままです.

Matkustamme **joka kesä** maalle. 我々は毎年夏には田舎へ旅行する

Käyn **joka keskiviikko** kiinan kurssilla. 毎週水曜日は中国語講座へ通っています

9) koko

「1日中、夏の間ずっと」の「...中、...の間ずっと」に相当する **koko** と結びつく語は原則として対格になります. ただし季節名は様格になります.

Hän puhuu **koko ajan**. 彼はたえずしゃべっている

En ole nähnyt häntä **koko kesänä**. 私は夏の間ずっと彼女に会っていない

10) **sitten** は主格と結びついて「...前」, **kuluttua~perästä** は属格と結びついて「...後」という意味を表します..

Juna lähti jo viisi minuuttia **sitten**. 列車はもう5分前に出発した

Juna lähtee viide-n minuuti-n **kuluttua**. 列車は5分後に出発する

11) -(i) **sin** は曜日、季節名などについて、「毎」に相当する働きをする接辞です.

Saunomme tavallisesti **lauantaisin**. 我々はふつう毎週土曜日にサウナへ入る

Kesäisin matkustelemme paljon. 毎年夏に我々はたくさん旅行してまわる

文法問題 39-1. ()内の語を必要があれば適切な形に変えなさい.

- 1) (jouluatto) kaikki ovat kotona. 皆クリスマスイブには家にいる
- 2) He olivat Belgiassa kesämatkalla (viikko). 彼らは夏休みで1週間ベルギーにいた
- 3) Auton nopeus oli yli 80 km (tunti). その自動車の速度は80キロ以上だった
- 4) Olet ollut viime (talvi) lähtien sairaana. あなたは昨冬からずっと病気である
- 5) Se on valmiina (huominen) mennessä. それは明日までには完成している
- 6) En ole juonut viiniä (kuukausi). 私は1ヶ月もワインを飲んでいない
- 7) Nousen aina kello kuusi (aamu). 私はいつも朝6時に起きる
- 8) Heräsin jo kello viisi (tämä) (aamu). 今朝は5時にはもう目が覚めました
- 9) Matkustan Viroon (viikko). 私は1週間の予定でエストニアへ旅行します
- 10) Hän käy vanhainkodissa joka (viikko). 彼は毎週老人ホームに行っている
- 11) Hän palasi (moni) (vuosi) kuluttua. 彼女は何年もして戻ってきた
- 12) (Syksy) sataa melko paljon Suomessa. フィンランドは秋にはかなり雨が降る
- 13) Minusta tulee opettaja ensi (syksy). 私は今度の秋に教員になる
- 14) En jaksanut odottaa (viikko). 私は1週間は待てなかった
- 15) Olen syntynyt (maaliskuu). 私は3月に生まれました
- 16) Haluan olla Suomessa (keskiviikko) asti. 私は水曜日までフィンランドにいたい
- 17) (mikä) (aika) menet työhön? あなたは何時に仕事へ行きますか
- 18) Menen työhön jo (neljä). 私は4時には仕事へ行きます
- 19) Tapaan hänet ensi (viikko). 私は彼女に来週会います
- 20) Viime (vuosi) oli presidentinvaalit. 昨年は大統領選挙があった
- 21) He kävivät täällä (kuukausi) sitten. 彼らは1ヶ月前にここに来た
- 22) Te olitte siellä (tiistai) (torstai). あなた方はそこに火曜日から木曜日までいた
- 23) Hän palaa ensi (perjantai). 彼女は今度の金曜日には戻ります
- 24) (Juhannus) poltetaan kokkoa. 夏至祭の日にはかがり火を燃やす
- 25) Suomen kurssi on (maanantai). フィンランド語の講座は毎週月曜日にある

第 40 課 — Neljäskymmenes kappale

40-1. 複数語幹の作り方

40-2. 複数標識-iと過去標識-iの引き起こす変化

40-1. 複数語幹の作り方

フィンランド語の名詞や形容詞には単数と複数の区別があります。格変化に関しては、単数形でも複数形でも格語尾は原則として同じです。また階程交替の現れ方も原則として単数、複数とも同じです。ただ格語尾の前に複数を示す標識が入るか入らないか、という違いがあるだけです。今まで語幹と呼んでいたものは厳密には単数語幹で、複数標識-iがついた形を複数語幹と呼びます。

複数の格の中で主格だけは単数語幹から作ることができました。しかし他の格はすべて-iのついた複数語幹から作ることになります。

名詞や形容詞に複数標識-iをつけると、ちょうど動詞に過去標識-iをつけたときと同じ様な変化が起こります。それでは単数語幹に複数標識である-iをつけて複数語幹を作ります。次のうち①から④をとくにしっかりと学習してください。

① **o, ö, u, y** は変化しません(タイプ 1 の動詞の過去形の場合と同じです)

talo 「家、建物」 > 単数語幹 talo- > 複数語幹 **talo-i-**

koulu 「学校」 > 単数語幹 koulu- > 複数語幹 **koulu-i-**

② **e, ä** は消えます(タイプ 1 の動詞の過去形の場合と同じです)

joki 「川」 > 単数語幹 joke- > 複数語幹 **jok-i-**

kylä 「村」 > 単数語幹 kylä- > 複数語幹 **kyl-i-**

③ **i** は **e** に変わります(これは動詞の過去形の場合と違います)

i で終わる単語には、語幹で **i** が **e** に変わる語がありましたが、**i** のままの語もありました。語幹が **i** で終わる語では、複数でその **i** は **e** に変わります。

äiti 「母」 > 単数語幹 äiti- > 複数語幹 **äite-i-**

tuoli 「椅子」 > 単数語幹 tuoli- > 複数語幹 **tuole-i-**

④ **a** も消えるのがふつうです(タイプ 1 の動詞の過去形の場合と同じです)

koira 「犬」 > 単数語幹 koira- > 複数語幹 **koir-i-**

opettaja 「教員」 > 単数語幹 > 複数語幹 **opettaj-i-**

⑤ 語幹が **a** で終わる 2 音節の語で、語の最初の母音が **a, e, i** (つまり唇を丸めない音) の場合には、**a** は **o** に変わります (これもタイプ 1 の動詞の過去形の場合と同じです)

aika 「時」 > 単数語幹 aika- > 複数語幹 **aiko-i-**

kissa 「猫」 > 単数語幹 kissa- > 複数語幹 **kisso-i-**

⑥ 長母音は短母音になります (タイプ 2 の動詞の過去形に相当します)

maa 「国、地方」 > 複数語幹 **ma-i-**

osoite 「住所」 > 単数語幹 osoittee- > 複数語幹 **osoitte-i**

kaunis 「美しい」 > 単数語幹 kaunii- > 複数語幹 **kauni-i-**

⑦ **uo, yö, ie** では最初の母音が消えます (タイプ 2 の動詞の過去形に相当します)

suo 「湖沼」 > 複数語幹 **so-i-**

työ 「仕事」 > 複数語幹 **tö-i-**

tie 「道」 > 複数語幹 **te-i-**

⑧ **-i-** で終わる二重母音では、**-i-** が消えます。結果的には単数語幹と同じ形になります (タイプ 2 の動詞の過去形に相当します)。

hai 「鮫」 > 複数語幹 **ha-i-**

⑨ **vesi** や **käsi** のように、**-si** で終わる語で単数語幹が **-te-** となる語では、複数語幹は **-si-** となります (つまり単数主格と同じ形になります)。

vesi 「水、雨」 > 単数語幹 vete- > 複数語幹 **vesi-**

käsi 「手」 > 単数語幹 käte- > 複数語幹 **käsi-**

⑩ 3 音節以上の語で **-a/-ä** が **-o/-ö-** に変わる場合があります。具体的には **-la/-lä**、**-kka/-kkä**、**-na/-nä**、**-ra** で終わる語、また **-ija / -ijä** 終わる行為者を表す名詞、そして **-ia / -iä** で終わる語でも、**-a/-ä** は **-o/-ö-** に変わります。

ravintola 「レストラン」 > 複数語幹 **ravintolo-i-**

lusikka 「スプーン」 > 複数語幹 **lusikko-i-**

tekijä 「行為者」 > 複数語幹 **tekijö-i-**

asia 「物事」 > 複数語幹 **asio-i-**

⑪ また **-a** が **-o-** に変わる形と、**-a** が消える形の両方が可能な語もあります

omena 「リンゴ」 > 複数語幹 **omeno-i- ~ omen-i-**

ただし形容詞では **-a/-ä** が消えるのがふつうです。

ahkera 「勤勉な」 > 複数語幹 **ahker-i-**

40-2. 複数標識-iと過去標識-iの引き起こす変化

34 課と 35 課で学習した過去標識-iと、この課で学習した複数標識-iは共通の変化を引き起こす場合が多いので、まとめて学習するとよいでしょう。次に過去標識の-iと複数標識の-iがつくときに、その前の音がどのように変化するかをまとめておきますので、共通点と異なっている点を確認してください。

ポイント 73 - 複数標識-iと過去標識-iの引き起こす変化			
-iの前にある音		複数形	過去形
短 母 音	-o, -ö, -u, -y	変化しない	
		talo > talo-i-	sanoa > sano- > sano-i-
		koulu > koulu-i-	puhua > puhu- > puhu-i-
		läksy > läksy-i-	kysyä > kysy- > kysy-i-
	-e, -ä	消える	
joki > joke- > jok-i-		lukea > luke- > luk-i-	
音	-a	2音節の語で、最初の母音が a, e, i の場合には -o- に変化	
		aika > aiko-i-	ajaa > aja- > ajo-i-
	上の場合以外は消える		
	koira > koir-i-	ostaa > osta- > ost-i-	
-i (ここだけ違う)	-e に変化	消える	
	äiti > äite-i-	oppia > oppi- > opp-i-	
長 母 音 二 重 母 音	長母音	短母音に変化	
		maa > ma-i-	saada > saa- > sa-i-
	-uo, -yö, -ie	最初の音が消える	
		suo > so-i-	juoda > juo- > jo-i-
työ > tö-i-		syödä > syö- > sö-i-	
	tie > te-i-	viedä > vie- > ve-i-	
-i で終わる 二重母音	-i が消える		
	hai > ha-i-	voida > voi- > vo-i-	

異なっているのは-iという音の所だけです。過去形の時には-iは消えましたが、複数形では-iは-eに変化しています。

文法問題 40-1. 次の語の単数語幹と複数語幹を作りなさい.

- ① 1) auto 「自動車」 2) hylly 「棚」 3) tyttö 「少女」
4) katu 「通り」 5) tieto 「情報」
- ② 6) nimi 「名前」 7) lehti 「雑誌」 8) suuri 「大きな」
9) nainen 「女性」 10) ihminen 「人間」 11) kerros 「階」
12) sopimus 「契約、条約」
13) pöytä 「テーブル」 14) metsä 「森」 15) myyjä 「販売者」
- ③ 16) lasi 「グラス、ガラス」 17) tunti 「時間」 18) tuoli 「椅子」
19) turisti 「旅行者」 20) kaupunki 「都市」 21) pankki 「銀行」
- ④ 22) poika 「少年」 23) ostaja 「買い手、客」 24) vaikea 「難しい」
25) satama 「港」 26) mukava 「快適な」
- ⑤ 27) vanha 「古い」 28) kirja 「本」 29) hauska 「楽しい」
30) kissa 「猫」 31) laiva 「船」
- ⑥ 32) maa 「国、地方」 33) pää 「頭」 34) luu 「骨」
35) osoite 「住所」 36) rikas 「豊かな、裕福な」 37) asukas 「住人」
- ⑦ 38) suo 「沼地、湖沼」 39) työ 「仕事」 40) yö 「夜」
41) tie 「道」
- ⑧ 42) hai 「鮫」 43) maanantai 「月曜日」
- ⑨ 44) kausi 「期間」 45) uusi 「新しい」 46) vuosi 「年」
47) käsi 「手」 48) vesi 「水」
- ⑩ 49) kahvila 「喫茶店」 50) kattila 「ヤカン」 51) kapakka 「酒場」
52) mansikka 「イチゴ」 53) ikkuna 「窓」 54) tavara 「品物」
55) kamera 「カメラ」 56) urheilija 「スポーツ選手」 57) näyttelijä 「俳優」
58) asia 「物事」 59) astia 「容器、食器」 60) omena 「りんご」

第 41 課 — Neljäskymmenesyhdes kappale

41-1. 複数形

41-2. 複数入格

41-3. 複数形のまとめ(1)

41-1. 複数形

複数の格のうち入格、分格、属格については、さらに勉強しなければならないことがあるので、別に取り上げます。それ以外の格については、次のポイントでまとめてあるように、原則として格語尾は単数でも複数でも同じ形です。また階程交替の起こる語については、階程交替の現れ方も単数と複数では原則として同じです。

ポイント 74 — 複数形

- ① 格語尾は単数でも複数でも同じ
- ② 主格以外では、単数で強階程が現れている格では複数でも強階程、単数で弱階程が現れている格では複数でも弱階程
- ③ -si で終わる語で、単数語幹が -te-/-de- と変化する語では、複数語幹は -si- となり、階程交替は起こらない

たとえば *pöytä* の単数接格は *pöydä-llä* ですが、複数接格でも同じ -llä という語尾を使います。また単数接格では階程交替が起こって t が d に変化していますので、複数接格でも同じように階程交替が起こります。したがって複数接格の形は *pöyd-i-llä* となります。 *rikas* の単数内格は *rikkaa-ssa* ですので、複数内格を作る場合にも -ssa という語尾を使いますし、また階程交替によって k が kk となっていますから、複数内格でも同じ階程交替が起こります。 *rikas* の複数内格は結果的に *rikka-i-ssa* という形になります。

käsi のように単数語幹が *käte-:käde-* となる語では、複数語幹が *käs-i-* となり、単数主格と同じ形に戻りました。これらの語では、単数では階程交替がありますが、複数では階程交替はありません。いつも *käs-i-* を使うこととなります。 *käsi* の単数内格は *käde-ssä*、そして複数内格は *käs-i-ssä* となります。

41-2. 複数入格

単数入格の作り方には3つありましたが、複数入格も原則として単数入格と同じように作ります。

① 母音を伸ばして-n

単数入格のもっとも一般的な作り方は、語幹の最後の母音を伸ばして-nをつけるといったものでした。複数入格も原則として、最後の母音(つまり i)を伸ばし n をつけて作ります。つまり複数入格は **-iin** で終わることになります。単数の場合と同じく複数の場合も、入格では語幹は原則として強階程になります。

{ kukka > 単数語幹 kukka- > 単数入格 kukka-an
kukka > 複数語幹 kukk-i- > 複数入格 **kukk-i-in**

② -h-をつけてから母音を伸ばして-n

複数の i をつけたことにより、複数語幹が二重母音で終わる場合が多くなります。二重母音の後では **-hin** という入格の形が使われることになります。

{ kirkko > 単数語幹 kirkko- > 単数入格 kirkko-on
kirkko > 複数語幹 kirkko-i- > 複数入格 **kirkko-i-hin**

③ -siin

-e, -as, -äs, -is で終わる語では単数語幹が **-ee-, -aa-, -ää-, -ii-** と長母音になりました。これらも含め2音節以上で単数語幹が長母音で終わる語では、単数入格を作るときには **-seen** という特別な語尾がありました。単数入格で **-seen** を使う語では、複数入格の語尾は **-siin** となります。

{ osoite > 単数語幹 osoittee- > 単数入格 osoittee-seen
osoite > 複数語幹 osoitte-i- > 複数入格 **osoitte-i-siin**

④ 階程交替について

入格は単数でも複数でも強階程が現れるのが原則です。ただし **kapakka** や **mansikka** など **-kka/-kkä** で終わる語や **muusikko** 「音楽家」のような **-kko/-kkö** で終わる語では弱階程が現れることもあります。

kapakka > 複数入格 **kapakko-i-hin** ~ **kapako-i-hin**

muusikko > 複数入格 **muusikko-i-hin** ~ **muusiko-i-hin**

これで属格と分格を除いた複数形は作れることになります。実際に正しい形を作れるようになるには時間がかかるでしょうが、次のページの活用表で確認をして、少しずつ練習してください。

ポイント 75 - 複数入格

作り方は基本的に単数・入格と同じ

- ① 母音を伸ばして-n(短母音の後で)

kukka > 複数語幹 kukki- > 複数入格 kukki-in

- ② -h-をつけてから, 母音を伸ばして-n(二重母音の後で)

kirkko > 複数語幹 kirkkoi- > 複数入格 kirkkoi-hin

- ③ 単数入格で-seen をつける語では, 複数入格は-siin

osoite > 複数語幹 osoittei- > 複数入格 osoittei-siin

41-3. 複数形のまとめ(1)

	単数	複数	単数	複数	単数	複数
主格	aika	aja-t	käsi	käde-t	osoite	osoittee-t
内格	aja-ssa	ajoi-ssa	käde-ssä	käsi-ssä	osoittee-ssa	osoittei-ssa
出格	aja-sta	ajoi-sta	käde-stä	käsi-stä	osoittee-sta	osoittei-sta
入格	aika-an	aikoi-hin	käte-en	käsi-in	osoittee-seen	osoittei-siin
接格	aja-lla	ajoi-lla	käde-llä	käsi-llä	osoittee-lla	osoittei-lla
奪格	aja-lta	ajoi-lta	käde-ltä	käsi-ltä	osoittee-lta	osoittei-lta
向格	aja-lle	ajoi-lle	käde-lle	käsi-lle	osoittee-lle	osoittei-lle
様格	aika-na	aikoi-na	käte-nä	käsi-nä	osoittee-na	osoittei-na
変格	aja-ksi	ajoi-ksi	käde-ksi	käsi-ksi	osoittee-ksi	osoittei-ksi

- ① 複数主格だけは単数語幹から作ります。
- ② 単数主格で強階程が、単数内格で弱階程が現れる語では、入格と様格だけが強階程になります(aika)。
- ③ käsi タイプの語では単数形だけ階程交替がありますが、やはり入格と様格だけが強階程となります。
- ④ 単数主格で弱階程が、単数内格で強階程が現れる語では、単数主格以外はすべて強階程になります(osoite)。

文法問題 41-1. 下の注意を参考にして、次の活用表を完成させなさい。

	単数	複数	単数	複数	単数	複数	単数	複数
主格	1) tyttö		2) lehti		3) lasi		4) vesi	
内格								
出格								
入格								
接格								
奪格								
向格								
様格								
変格								

	単数	複数	単数	複数	単数	複数	単数	複数
主格	5) hinta		6) työ		7) rikas		8) kapakka	
内格								
出格								
入格								
接格								
奪格								
向格								
様格								
変格								

* lehti, lasi, vesi はどれも i で終わりますが、lehti の単数語幹は lehte-, lasi の単数語幹は lasi-, そして vesi の単数語幹は vete- です。

* hinta は a で終わる語ですが、最初の母音が i です。

* työ の -yö が複数でどのように変化するかに注意してください。

* rikas は osoite と同じタイプの語です。

* kapakka の最後の a は複数では o に変化します。

第 42 課 — Neljäskymmeneskahdes kappale

42-1. 複数分格

42-2. 複数分格の用法

42-1. 複数・分格

単数分格は他の格とは違って 3 種類の語尾があり、作り方も他の多くの格とは少し異なっていました。まず 7-2. で単数分格を復習することをお勧めします。

複数分格の語尾は原則として単数の場合と同じですし、階程交替の現れ方も同じです(つまり原則として常に強階程です)。それでも分格では単数と複数で別の語尾を使ったり、あるいは 2 つの形が可能であったり、と面倒なところもあります。まず次の解説の①と②の部分をしっかりと頭に入れて、あとは少しずつ慣れていくのが賢明だと思います。一度にすべてを習得しようとするは大変だと思います。複数形では分格が基本となる形と考えられており、しばしば複数分格の形を覚えることが望ましいと言われます。

① 単数分格で -a/-ä をつける語では複数分格でも -a/-ä をつける

kukka > 単数語幹 kukka- > 単数・分格 kukka-a

kukka > 複数語幹 kukki- > 複数・分格 **kukki-a**

ただし複数標識である **i** は、母音と母音に挟まれると **j** に変化します。

kirkko > 単数語幹 kirkko > 単数・分格 kirkko-a

kirkko > 複数語幹 kirkkoi- > 複数・分格 **kirkkoj-a**

② 単数分格で -ta/-tä、-tta/-ttä をつける語では、複数分格は -ta/-tä をつける

maa > 単数語幹 maa- > 単数・分格 maa-ta

maa > 複数語幹 mai- > 複数・分格 **mai-ta**

osoite > 単数・分格 osoite-tta

osoite > 複数語幹 osoittei- > 複数・分格 **osoittei-ta**

③ 単数分格では -ta/-tä をつけるのに、複数分格では -a/-ä をつける語.

a) 子音で終わる語

子音で終わる語では単数主格 = 子音語幹に直接 -ta/-tä をつけて単数分格を作りました。子音で終わる語のうち -as, -äs, -is で終わる語、つまり単数語幹

が-aa-, -ää-, -ii-と長母音になる語を除いて、複数分格は-a/-äをつけて作ります。

sisar > 単数語幹 sisare- > 複数語幹 sisari- > 複数分格 sisari-a

(rikas > 単数語幹 rikkaa- > 複数語幹 rikkai- > 複数分格 rikkai-ta)

また-os, -ös, -us, -ys で終わる語もこのグループに入ります。これらの語では単数語幹で-s が-kse-に変化しました。

vastaus > 単数語幹 vastaukse- > 複数語幹 vastauksi- > 複数分格 vastauksi-a

(vastaus > 子音語幹 vastaus- > 単数分格 vastaus-ta)

b) suuri-タイプ、vesi-タイプの語

i で終わる語の中には、単数語幹で i が e に変わる語がありました。さらに単数分格ではその e が消えた形、つまり子音語幹に-ta/-tä をつける語がありました。これらの語の複数語幹は必ず i で終わり結果的には単数主格と同じ形になります。このような語では-a/-äをつけて複数分格を作ります。

suuri > 単数語幹 suure- > 複数語幹 suuri- > 複数分格 suuri-a

(suuri > 子音語幹 suur- > 単数分格 suur-ta)

vesi > 単数語幹 vete- > 複数語幹 vesi- > 複数分格 vesi-ä

(vesi > 子音語幹 vet- > 単数分格 vet-tä)

c) nen で終わる語

nen で終わる語の単数分格も、nen を s に変えた子音語幹に-ta/-tä をつけて作りましたが、複数分格は複数語幹-si-に-a/-äをつけて作ります。

nainen > 単数語幹 naise- > 複数語幹 naisi- > 複数分格 naisi-a

(nainen > 子音語幹 nais- > 単数分格 nais-ta)

④ 単数分格では-a/-äをつけるのに、複数分格では-ta/-täをつける語

a) -ea/-eä で終わる語

-ea/-eä で終わる語の単数分格は-a/-ä, -ta/-tä のどちらの語尾もつけることができますが-a/-äの方が一般的です。複数分格では必ず-ta/-täをつけます。

vaikea > 単数語幹 vaikea- > 複数語幹 vaikei- > 複数分格 vaikei-ta

(vaikea > 単数分格 vaikea-a ~ vaikea-ta)

b) 3音節以上の長い語で、複数語幹が-oi/-öi-で終わる語

40-1.の⑩で解説しましたが、-a/-ä で終わる語では複数語幹が-oi/-öi-となる場合があります。これらの語では複数分格の語尾として-ta/-täを使います。

ravintola > 複数語幹 ravintoloi- > 複数分格 ravintoloi-ta

tekijä > 複数語幹 tekijöi- > 複数分格 tekijöi-tä

また -kka/-kkä, -kko/-kkö で終わる語では弱階程となり kk は k となります。

sammakko > 複数語幹 sammakkoi- > 複数分格 sammakoi-ta

(ただし -kka/-kkä, -kko/-kkö で終わる語では -a/-ä をつけることも可能です。しかし、その場合には強階程のままになります)

sammakko > 複数語幹 sammakkoi- > 複数分格 sammakkoj-a

以上のことを別の角度からまとめなおすと次のようになります。

- A. 単数語幹が1つの母音で終わる語には、複数分格では -a/-ä をつける
解説の①と③に該当します
- ① kukka- > 複・分 kukki-a, kirkko- > 複・分 kirkkoj-a
 - ③ sisare- > 複・分 sisari-a, suure- > 複・分 suuri-a, naise- > 複・分 naisi-a
- B. 単数語幹が2つの母音で終わる語には、複数分格では -ta/-tä をつける
解説の②と④-a に該当します
- ② maa- > 複・分 mai-ta, osoittee- > 複・分 osoittei-ta
 - ④-a vaikea- > 複・分 vaikei-ta
- C. ただし3音節以上の長い語で、複数語幹が -oi/-öi- となる場合には、
複数分格では -ta/-tä をつける。解説の④-b に該当します
- ④-b ravintoloi- > 複・分 ravintoloi-ta, sammakkoi- > 複・分 sammakoi-ta

42-2. 複数分格の用法

複数分格の用法については 44 課で改めて触れることとなりますが、原則的なことだけ解説しておきます。

- ① 主語が複数のときに、動詞 olla の補語は原則として複数分格になる
He ovat **suomalais-i-a**. 彼らはフィンランド人だ
- ② 所有文や存在文で、主語が複数の場合には主格ではなく分格になる
Minulla on **kisso-j-a**. 私は何匹か猫を飼っている
Pöydällä on **kirjo-j-a**. テーブルの上には何冊か本がある
動詞は単数のままです
- ③ paljon, vähän と結びつく個体名詞は分格になる
Kaupungissa asuu paljon **ulkomaalais-i-a**. 都市には多くの外国人が住んでいる
物質名詞は単数の分格になります。
Jääkaapissa on paljon **mehu-a**. 冷蔵庫にはたくさんジュースがある

文法問題 42-1. 次の語句を複数分格の形に直しなさい.

- 1) iso kirkko 「大きな教会」
- 2) kesy karhu 「慣れた熊」
- 3) suuri joki 「大きな川」
- 4) ikävä kylä 「退屈な村」
- 5) soma poika 「かわいい少年」
- 6) siisti baari 「きれいなバー」
- 7) vanha kissa 「年老いた猫」
- 8) kaunis maa 「美しい国」
- 9) raskas työ 「きつい仕事」
- 10) pitkä tie 「長い道」
- 11) uusi lukukausi 「新しい学期」
- 12) oikea vastaus 「正しい答え」
- 13) suomalainen nainen 「フィンランド人の女性」
- 14) makea mansikka 「甘いイチゴ」
- 15) ahkera lukija 「熱心な読者」

文法問題 42-2. 次の分の下線部を複数に変えて文全体を書き換えなさい.

- 1) Tuo mies on virolainen. あの男はエストニア人だ
- 2) Tämä kactus on suuri. このサボテンは大きい
- 3) Tuo ihminen on vanha. あの人は年を取っている
- 4) Tämä harjoitus on vaikea. この練習問題は難しい
- 5) Tie on pitkä. 道は長い
- 6) Tuo sanakirja on uusi. あの辞書は新しい
- 7) Tämä tietokone on kallis. このコンピュータは高価だ
- 8) Tuo saari on pieni. あの島は小さい

文法問題 42-3. 次の文の下線部を複数にして書き換えなさい

- 1) Minulla on kaunis sormus. 私は美しい指輪を持っている
- 2) Satamassa on ulkomaalainen laiva. 港には外国の船がいる
- 3) Kaupungissa on hyvä ravintola. 街には良いレストランがある
- 4) Hotellissa on siisti huone. ホテルにはきれいな部屋がある
- 5) Hänellä on kiva kissa. 彼女は素敵な猫を飼っている
- 6) Metsässä on vihreä puu. 森には緑色の木がある
- 7) Kapakassa on komea mies. 酒場にハンサムな男がいる
- 8) Maalla on savusauna. 田舎にはスモークサウナがある

第 43 課 - Neljäskymmeneskolmas kappale

43-1. 複数属格

43-2. 複数形のまとめ(2)

43-1. 複数属格

単数と複数で最も違いがあるのが属格です。複数属格は複数分格から作るのが最も簡単です。

① 複数分格 **-a/-ä** ⇒ 複数属格 **-en**

複数分格で **-a/-ä** という語尾をつけた場合には、その語尾を **-en** に変えると複数属格になります。

kukka > 複数分格 kukkia > 複数属格 **kukkien**

kirkko > 複数分格 kirkkoja > 複数属格 **kirkkojen**

② 複数分格 **-ta/-tä** ⇒ 複数属格 **-den** (~ **-tten**)

複数分格で **-ta/-tä** という語尾をつけた場合には、その語尾を **-den** あるいは **-tten** に変えると複数属格になります。

maa > 複数分格 maita → 複数属格 **maiden** (~ **maitten**)

③ 単数語幹が **-i** で終わる語

単数主格が **i** で終わる語で、単数語幹でも **i** が **i** のままである語では、複数語幹が **-ei-** となるので複数分格は **-eja/-ejä** となりました。このグループの語では複数属格は複数分格から作らずに、単数語幹 (= 単数主格) から作るのがふつうです。単数語幹に **-en** をつけると複数属格になります。

{ pankki > 複数語幹 pankkei- > 複数分格 pankkej-a
pankki > 単数語幹 pankki- > 複数属格 **pankki-en**

④ 子音語幹を持つ語

子音語幹を持つ語、別の言い方をすると単数分格が「子音 + **-ta/-tä**」という形になる語では、子音語幹に **-ten** という語尾を直接つけて複数属格を作ることができます。言い換えると、このグループの語では単数分格の **-ta/-tä** を **-ten** に変えると複数属格になります。もちろん上で解説した原則どおりに複数分格から作る複数属格の形もあるのですが、子音語幹から作る形のほうが一般的である場合が多いようです。具体的には次のような語が問題となります。

a) 単数主格が子音で終わる語

- mies > 複数語幹 **miehi-** > 複数分格 **miehi-ä**
- mies > 単数分格 **mies-tä**
- mies > 子音語幹 **mies-** > 複数属格 **mies-ten** (~miehi-en)

b) **-nen** で終わる語

- nainen > 複数語幹 **naisi-** > 複数分格 **naisi-a**
- nainen > 単数分格 **nais-ta**
- nainen > 子音語幹 **nais-** > 複数属格 **nais-ten** (~naisi-en)

c) **suuri**-タイプの語

- kieli > 複数語幹 **kieli-** > 複数分格 **kieli-ä**
- kieli > 単数分格 **kiel-tä**
- kieli > 子音語幹 **kiel-** > 複数属格 **kiel-ten** (~kieli-en)

ポイント 76 – 複数属格

- ① 複数分格 **-a/-ä** → 複数属格 **-en**
複数分格 **kukki-a** → 複数属格 **kukki-en**
- ② 複数分格 **-ta/-tä** → 複数属格 **-den ~ -tten**
複数分格 **mai-ta** → 複数属格 **mai-den** (~ mai-tten)
- ③ 単数語幹が **i** で終わる語では複数属格 = 「単数主格 + **-en**」
pankki > 単数語幹 **pankki-** > 複数属格 **pankki-en**
- ④ 子音語幹を持つ語では複数属格 = 「子音語幹 + **-ten**」
suuri > 子音語幹 **suur-** > 複数属格 **suur-ten** (~suuri-en)

これで今まで学習している格の複数形をすべて扱ったこととなります。特に複数分格と複数属格は難しいところもあると思いますが、理屈を学習することと、多くのフィンランド語に実際に当たってみるものの両方が大切です。解説だけを読んで正しい形が作れるようにならなくても、フィンランド語をたくさん読んでいくうちに自然に分かってくることもあります。まずフィンランド語を読んだときに、出会った形が何の形なのかが分かるようになることを目標にしてください。

43-2. 複数形のまとめ(2)

いくつかの語を活用させてみます。階程交替のある語では強階程の現れているところだけ太字にしてあります。

	単数	複数	単数	複数	単数	複数
主格	kirkko	kirko-t	maa	maa-t	rikas	rikkaa-t
属格	kirko-n	kirkkoj-en	maa-n	mai-den	rikkaa-n	rikas-ten/ rikkai-den
分格	kirkko-a	kirkkoj-a	maa-ta	mai-ta	rikas-ta	rikkai-ta
内格	kirko-ssa	kirko-i-ssa	maa-ssa	mai-ssa	rikkaa-ssa	rikkai-ssa
出格	kirko-sta	kirko-i-sta	maa-sta	mai-sta	rikkaa-sta	rikkai-sta
入格	kirkko-on	kirkko-i-hin	maa-han	mai-hin	rikkaa-seen	rikkai-siin
接格	kirko-lla	kirko-i-lla	maa-lla	mai-lla	rikkaa-lla	rikkai-lla
奪格	kirko-lta	kirko-i-lta	maa-lta	mai-lta	rikkaa-lta	rikkai-lta
向格	kirko-lle	kirko-i-lle	maa-lle	mai-lle	rikkaa-lle	rikkai-lle
様格	kirkko-na	kirkko-i-na	maa-na	mai-na	rikkaa-na	rikkai-na
変格	kirko-ksi	kirko-i-ksi	maa-ksi	mai-ksi	rikkaa-ksi	rikkai-ksi

	単数	複数	単数	複数	単数	複数
主格	kieli	kiele-t	teos	teokse-t	suomalainen	suomalaise-t
属格	kiele-n	kiel-ten/ kieli-en	teokse-n	teos-ten/ teoksi-en	suomalaise-n	suomalais-ten/ suomalaisi-en
分格	kiel-tä	kieli-ä	teos-ta	teoksi-a	suomalais-ta	suomalaisi-a
内格	kiele-ssä	kieli-ssä	teokse-ssa	teoksi-ssa	suomalaise-ssa	suomalaisi-ssa
出格	kiele-stä	kieli-stä	teokse-sta	teoksi-sta	suomalaise-sta	suomalaisi-sta
入格	kiele-en	kieli-in	teokse-en	teoksi-in	suomalaise-en	suomalaisi-in
接格	kiele-llä	kieli-llä	teokse-lla	teoksi-lla	suomalaise-lla	suomalaisi-lla
奪格	kiele-ltä	kieli-ltä	teokse-lta	teoksi-lta	suomalaise-lta	suomalaisi-lta
向格	kiele-lle	kieli-lle	teokse-lle	teoksi-lle	suomalaise-lle	suomalaisi-lle
様格	kiele-nä	kieli-nä	teokse-na	teoksi-na	suomalaise-na	suomalaisi-na
変格	kiele-ksi	kieli-ksi	teokse-ksi	teoksi-ksi	suomalaise-ksi	suomalaisi-ksi

文法問題 43-1. 次の活用表を完成させなさい.

	単数	複数	単数	複数	単数	複数
主格	1) kauppa		2) työ		3) taide	
属格						
分格						
内格						
出格						
入格						
接格						
奪格						
向格						
様格						
変格						

	単数	複数	単数	複数	単数	複数
主格	4) suuri		5) vastaus		6) hevonen	
属格						
分格						
内格						
出格						
入格						
接格						
奪格						
向格						
様格						
変格						

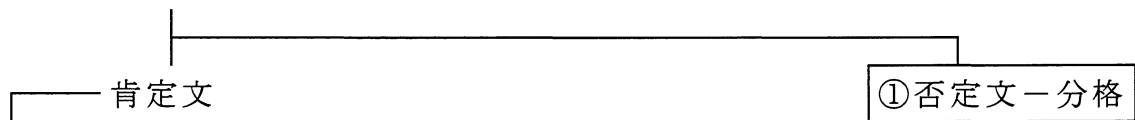
第 44 課 — Neljäskymmenesneljäs kappale

- 44-1. 目的語 (3) — まとめ
 44-2. 動詞 olla の補語 (2) — まとめ
 44-3. 所有文と存在文の主語 — 複数の場合

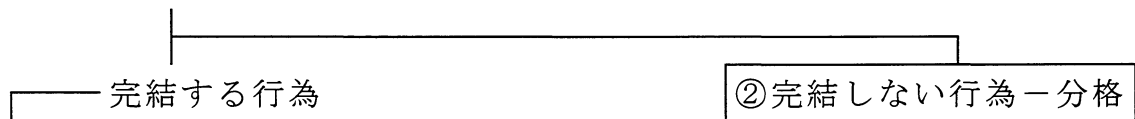
44-1. 目的語 (3) — まとめ

ポイント 77 — 目的語のまとめ — 対格か分格か

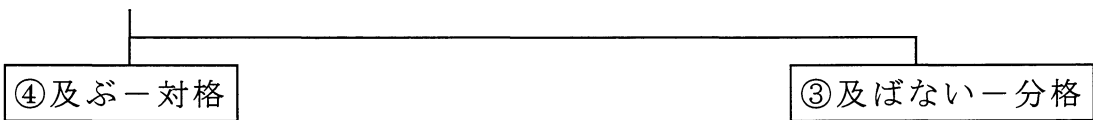
I. 肯定文か否定文(あるいは, それに準ずる文)か



II. 完結する(結果をもたらす)行為を表しているか



III. 目的語の表す対象すべてに行為が及ぶかどうか



目的語が対格になるか分格になるかを定める条件は 3 つ(ポイントの中の I, II, III)ありますが, その 3 つがすべて満たされた場合にだけ目的語は対格になるので, 目的語のより一般的な形は分格だと思ってよいでしょう. 上のポイントの中の①、②、③、④について解説し, その後で対格の形について⑤～⑨で補足をします.

① 否定文や, それに準ずる文では目的語は分格になります

En osta **kirja/a**. 私は本を買わない

② 行為が完結しないような場合には目的語は分格になります

否定文ではもちろん行為は完結しません. たとえば「買う」は完結する行為を表しますが, 「買っているところだ」では完結するかどうかは不明です.

Ostan **kirja/a**. 私は本を買おうしているところだ

③ 行為が対象全体に及ぶのでなければ目的語は分格になります

漠然と「コーヒーを買う」とか「何冊か本を買う」と言う場合には, 世の中

にある「コーヒーのすべて」や「本のすべて」を買うわけではありません。「コーヒー」や「複数の本」の一部分を買うので、「買う」という行為はコーヒーや複数の本のすべてに及ぶわけではありません。この場合には目的語は分格になります。ここで問題になるのは、物質名詞などの分けることのできる名詞と、複数名詞です。それに対して「1冊本を買う」場合には、「本を丸ごと1冊すべて」買う、つまり「買う」という行為が「1冊の本」すべてに及ぶことになるので、目的語は対格になります。つまり分格は「部分」を、対格は「全体」を表します。

Ostan kahvi/a. 私はコーヒーを買う

Ostan kirjo/j/a. 私は何冊か本を買う

- ④ 肯定文で完結する行為を表し、なおかつ目的語の表す対象すべてに行為が及ぶときにだけ、目的語は対格になります。

Ostan kirja/n. 私は本を1冊買う

Ostan kirja/t. 私はそれらの本を全部買う

- ⑤ 単数の対格目的語は、単数属格の形と同じです

Ostan kirja/n. 私は本を1冊買う

- ⑥ 人称代名詞と **kuka** だけは語尾-tを持つ特別な対格の形がありました

Minä tunnen häne/t. 私は彼/彼女を知っている

- ⑦ 複数の対格目的語は、複数主格と同じ形です

Ostan kirja/t. 私はそれらの本を買う

- ⑧ 「数詞+単数分格」の形は、そのまま対格目的語となります

Ostan kaksi kirjaa. 私は本を2冊買う

- ⑨ 主格の形をした主語が現れないような文では、単数の対格目的語は主格の形になります。具体的には命令文、受動文、そして **pitää** や **täytyy** のように義務などを表し、主語に相当する人物が属格で表される文です

Osta kirja! 本を買いなさい

Kirja ostetaan huomenna. その本は明日買う

Minun pitää ostaa kirja. 私は本を買わなければならない

また不定詞の対格目的語も単数では主格の形になります。

- | | | |
|---|--|---------|
| { | Ostan uude-n kirja-n. 私は新しい本を買う | [対格=属格] |
| | On jo aika ostaa uusi kirja. もう新しい本を買う時期だ | [対格=主格] |

44-2. 動詞 olla の補語(2)－まとめ

① 主語が複数の場合、補語は原則として複数分格の形にします

Te olette **suomalaisia**. あなた達はフィンランド人だ

② 主語が複数形の形をしていても、1つのまとまりを作るものを指しているとき、たとえば **silmälasit** は複数主格の形をしていますが、「めがね」という意味で1つの「めがね」を指していますが、このような語が主語になっている場合には、補語は複数主格の形にします

Silmälasit ovat uudet. (その)めがねは新しい

肯定文か否定文かは、補語の形には影響しません。

Silmälasit eivät ole uudet. その眼鏡は新しくない

ポイント 78 - 補語の形 (まとめ)

主語の種類		補語の形	例文
単数	① 個体名詞	単数主格	Kissa on valkoinen. その猫は白い
	② 物質名詞 抽象名詞	単数分格	Kahvi on musta-a. コーヒーは黒い Elämä on ihana-a. 人生は素晴らしい
複数	① ②以外の場合	複数分格	Kissat ovat valkois-i-a. その猫たちは白い
	② 複数で一つのまとまりを作る	複数主格	Silmälasit ovat uude-t. その眼鏡は新しい Housut ovat sinise-t. そのズボンは青い

44-3. 所有文と存在文の主語－複数の場合

所有文や存在文の主語は、複数の時には複数分格にするのがふつうです。

Minulla on **kissa**. 私は猫を一匹飼っている

Minulla on **kisso-j-a**. 私は猫を何匹か飼っている

ただし1つのまとまりを作っている場合には、やはり複数主格になります。

Hänellä on **sinise-t silmä-t**. 彼/彼女は青い目をしている

Hänellä on **uude-t silmälas-i-t**. 彼/彼女は新しい眼鏡をかけている

原則どおり、存在しないものは分格です。

Hänellä ei ole **uus-i-a silmälas-e-j-a**. 彼/彼女は新しい眼鏡をかけていない

文法問題 44-1. ()内の語を適切な形に直しなさい(目的語)

- 1) En osta (tietokone). 私はコンピュータを買わない
- 2) Ostan (kahvi). 私はコーヒーを買う
- 3) Ostan (tietokone). 私はコンピュータを買う
- 4) Ostan (tietokone). 私はコンピュータを何台か買う
- 5) Ostan (tietokone). 私はそれらのコンピュータを買う

文法問題 44-2. ()内に uusi sanakirja を単数の適切な形にして入れなさい(対格)

- 1) Oletko jo hankkinut ()? もう新しい辞書を手に入れましたか
- 2) En ole vielä hankkinut (). まだ新しい辞書を手に入れていません
- 3) Hanki heti (). 新しい辞書をすぐに手に入れなさい
- 4) Pitääkö minun hankkia ()? 私は新しい辞書を手に入れなければいけませんか
- 5) On jo aika hankkia (). もう新しい辞書を手に入れるべき時期です
- 6) Hankitaan ()! 新しい辞書を手に入れよう

文法問題 44-3. ()内の語を必要に応じて適切な形に直しなさい (補語)

- 1) Tuo poika on (söpö). あの少年はかわいらしい
- 2) Tämä viini on (espanjalainen). このワインはスペイン産だ
- 3) Tuo tyttö ei ole (tyhmä). あの少女は馬鹿ではない
- 4) Tuo kahvi ei ole (meksikolainen).
- 5) Nuo pojat ovat (ilkeä). あの少年たちは意地悪だ
- 6) Vauvan kädet ovat (pieni). 赤ちゃんの手は小さい
- 7) Vaimoni hiukset ovat (vaalea). 私の妻の髪はブロンドだ
- 8) Mieheni kengät eivät ole (kallis). 私の夫の靴は高価ではない

文法問題 44-4. ()内の語を複数形の適切な形に直しなさい(所有文と存在文)

- 1) Torilla on (ihminen). 市場には人々がいる
- 2) Hänellä on (CD-levy). 彼女は何枚か CD レコードを持っている
- 3) Sinulla on (ruskea silmä). あなたは茶色の目をしている
- 4) Kaapissa on (sininen sukka). たんすの中に青い靴下が1足ある
- 5) Minulla ei ole (punainen kenkä). 私は赤い靴は持っていない
- 6) Meillä ei ole (japanilainen saks). 我々のところには日本製のハサミはない

第 45 課 — Neljäskymmenesviides kappale

45-1. 条件法・現在形

45-2. 条件法・完了形

45-1. 条件法・現在形

今まで学習してきた動詞の形は、命令形を除くとすべて直説法と呼ばれるものでした。フィンランド語には他に条件法、可能法と呼ばれる形があります。ここでは条件法について学習します。条件法は事実とは逆の仮定をしたり、また表現を丁寧にしたたりする形です。まず条件法の形を勉強しましょう。

1) 条件法・現在形の作り方

-isi-という条件法の標識を語幹につけ条件法語幹を作り、その後には今まで通り人称語尾をつけます。**-isi-**をつける語幹は強階程語幹です。**-isi-**をつける時には、過去標識の **-i-** や複数標識の **-i-** をつけるときと同じような変化が起こりますが、異なった点もありますので注意してください。

① **-isi-**の前で **a, ä, o, ö, u, y** は変化しません

antaa > (強階程語幹) anta- > 条件法語幹 **anta-isi-**

tietää > (強階程) 語幹 tietä- > 条件法語幹 **tietä-isi-**

puhua > 語幹 puhu- > 条件法語幹 **puhu-isi-**

haluta > (母音) 語幹 halua- > 条件法・語幹 **halua-isi-**

② **-isi-**の前で **e, i** は消えてしまいます

lukea > (強階程) 語幹 luke- > 条件法語幹 **luk-isi-**

oppia > (強階程) 語幹 oppi- > 条件法語幹 **opp-isi-**

voida > 語幹 voi- > 条件法語幹 **vo-isi-**

olla > (母音) 語幹 ole- > 条件法語幹 **ol-isi-**

tapella > (母音) 語幹 tappele- > 条件法語幹 **tappel-isi-**

tehdä > (強階程) 語幹 teke- > 条件法語幹 **tek-isi-**

nähdä > (強階程) 語幹 näke- > 条件法語幹 **näk-isi-**

tarvita > (母音) 語幹 tarvitse- > 条件法語幹 **tarvits-isi-**

③ 長母音は短母音になります

- saada > 語幹 saa- > 条件法語幹 **sa-isi-**
 myydä > 語幹 myy- > 条件法語幹 **my-isi-**
 tavata > (母音)語幹 tapaa- > 条件法語幹 **tapa-isi-**

④ **uo, yö, ie** では最初の母音が消えてしまいます

- juoda > 語幹 juo- > 条件法語幹 **jo-isi-**
 syödä > 語幹 syö- > 条件法語幹 **sö-isi-**
 viedä > 語幹 vie- > 条件法語幹 **ve-isi-**

⑤ **käydä** の条件法語幹は **käv-isi-** となります

条件法の語幹ができれば、今まで学習した人称語尾をつけるだけです。ただし3人称単数では何もつけません。また否定形では、否定動詞と条件法語幹を組み合わせます。tietää を例に活用を上げておきます。

	肯定形	否定形	
minä	tietäisi-n	en	} tietäisi
sinä	tietäisi-t	et	
hän	tietäisi	ei	
me	tietäisi-mme	emme	
te	tietäisi-tte	ette	
he	tietäis-ivät	eivät	

ポイント 79 ー 条件法・現在形 (-isi-)

① a, ä, o, ö, u, y は変化しない

tietää > tietä- > tietä-isi-, haluta > halua- > halua-isi-

② e, i は消える

lukea > luke- > luk-isi-, voida > voi- > vo-isi-, tulla > tule- > tul-isi-

③ 長母音は短くなる

saada > saa- > sa-isi-, tavata > tapaa- > tapa-isi-

④ **uo, yö, ie** では最初の音が消える

juoda > juo- > jo-isi-, syödä > syö- > sö-isi-

⑤ **käydä** の条件法・現在形は **kävisi**

2) 条件法・現在形の代表的な用法

- ① 現在の事実と逆の仮定をします。

Minä sanoisin sen, jos tietäisin. 私は知っていれば、それを話すのですが

- ② 未来に関して、起こる可能性の少ない話をするときに使われます。

Mitä sinä tekisit, jos saisit hirveän paljon rahaa?

もしとてつもなくたくさんのお金が手に入ったら何をしますか

- ③ 丁寧な依頼をしたり質問をしたりするときに、また控えめな表現をしたいときに使われます。

Saisinko kahvia? コーヒーをいただけますか

Haluaisin tietää, missä asut. あなたがどこ住んでいるのか知りたいのですが

45-2. 条件法・完了形

1) 条件法・完了形の作り方

今まで勉強したように、完了形は動詞 **olla** と過去分詞を組み合わせて作ります。条件法の完了形では動詞 **olla** が条件法の形になり、過去分詞は主語が単数か複数かによって形が変わります。

	肯定形		否定形		
minä	olisin	}	en	}	
sinä	olisit		et		olisi tiennyt
hän	olisi		ei		
me	olisimme	emme	olisi tienneet		
te	olisitte	ette			
he	olisivat	eivät			

2) 条件法・完了形の代表的な用法

条件法・完了形は、過去の事実に対して逆の仮定をするときに使うのがもっとも代表的な働きです。

Olisin kirjoittanut sinulle, jos olisin muistanut osoitteesi.

あなたの住所を覚えていたら手紙を書いたのですが

Meidän olisi pitänyt lähteä aikaisemmin.

私たちはもっと早く出るべきだったのに

文法問題 45-1. ()内の動詞を条件法の現在形にして文を完成させなさい.

1) Jos minulla (olla) lomaa, niin (matkustaa) Suomeen.

もし休暇があれば、私はフィンランドへ旅行するのですが

2) Minä (ostaa) uuden tietokoneen, jos minulla (olla) rahaa.

もしお金があれば、新しいコンピュータを買うのですが

3) Jos (tietää) hänen osoitteensa, niin (ottaa) yhteyttä häneen.

もし彼女の住所を知っていれば、彼女に連絡を取るのですが

4) Mitä sinä (tehdä), jos (voittaa) lotossa miljoona markkaa?

もし宝くじで百万マルッカ当たったら、あなたは何をしますか

文法問題 45-2. ()内の動詞を条件法にして、1人の相手に対する丁寧な表現に
しなさい.

1) (voida) sanoa, missä posti on?

郵便局がどこか教えていただけますか

2) (Tietää), milloin juna saapuu Helsingin asemalle?

列車がいつヘルシンキ駅に到着するかご存知ですか

3) (Viedä) tämän kirjeen postiin?

この手紙を郵便局へ持って行っていただけますか

4) (kertoa) minulle, miten pääsen lentokentälle?

どうしたら空港へ行くことができるか教えていただけますか

文法問題 45-3. ()内の動詞を条件法の完了形にして文を完成させなさい.

1) (Ostaa) uuden asunnon, jos se ei (maksaa) niin paljon.

そんなに高くなければ、私は新しい住居を買ったのだが

2) (Ymmärtää) häntä, jos hän (puhua) suomea.

もし彼がフィンランド語を話してくれれば、私は理解できたのに

3) Jos meillä (olla) varaa, niin (hankkia) uuden auton.

もし我々に余裕があれば、新しい自動車を買ったのだが

4) (lentää) Suomeen, jos en (pelätä) lentämistä.

もし飛行機が怖くなければ、飛行機でフィンランドへ行ったのだが

第 46 課 — Neljäskymmeneskuudes kappale

- 46-1. 受動形 (2) — 過去の肯定形
- 46-2. 受動形 (3) — 過去の否定形
- 46-3. 受動過去分詞の作り方
- 46-4. 受動形 (4) — 完了形

46-1. 受動形 (2) — 過去の肯定形

26 課で受動形 (不定人称形) の現在形を学習しました。ここではその過去形を学習します。受動形過去は受動形現在から作るのがもっとも容易ですので、まず 26 課を復習することが重要です。

① 受動形現在 **-taan/-tään** ⇒ 受動形過去 **-ttiin**

受動形現在が **-taan / -tään** で終わっている場合には、その部分を **-ttiin** に変えることによって受動形過去の形になります。結果的にはタイプ 1 とタイプ 4, そしてタイプ 5 の動詞が問題となります。

tietää > 受動形現在 **tiedetään** > 受動形過去 **tiedettiin**

tavata > 受動形現在 **tavataan** > 受動形過去 **tavattiin**

valita > 受動形現在 **valitaan** > 受動形過去 **valittiin**

タイプ 3 の動詞の中で不定詞が **-sta / -stä** で終わる動詞は、受動形現在は **-staan / -stään** で終わりますが、このタイプの動詞は次のグループに入ります。

② 受動形現在 **-taan/-tään** 以外 ⇒ 受動形過去 **-tiin**

受動形現在が **-taan/-tään** 以外の形で終わっている場合、具体的には **-daan/-dään, -laan/-lään, -naan/-nään, -raan/-rään** で終わっている場合と、**-staan/-stään** で終わっている場合には、最後の 4 文字を **-tiin** に変えると過去形になります。問題となるのはタイプ 2, 3 の動詞です。

juoda > 受動形現在 **juodaan** > 受動形過去 **juottiin**

tulla > 受動形現在 **tullaan** > 受動形過去 **tultiin**

mennä > 受動形現在 **mennään** > 受動形過去 **mentiin**

purra > 受動形現在 **purraan** > 受動形過去 **purttiin**

pestä > 受動形現在 **pestään** > 受動形過去 **pestiin**

ポイント 80 - 受動形過去

- ① 受動形現在 -taan/-tään ⇒ 受動形過去 -tiin
- ② 受動形現在 -taan/-tään 以外と -staan/-stään ⇒ 受動形過去 -tiin
 - antaa > 受動形現在 anne-taan > 受動形過去 anne-ttiin
 - syödä > 受動形現在 syö-dään > 受動形過去 syö-ttiin
 - tulla > 受動形現在 tul-laan > 受動形過去 tul-ttiin
 - pestä > 受動形現在 pes-tään > pes-tiin
 - tykätä > 受動形現在 tykä-tään > 受動形過去 tykä-ttiin

46-2. 受動形(3) - 過去の否定形

36-1.で学習した過去形の否定では、否定動詞と能動過去分詞を結びつけました。受動形過去の否定の場合も理屈は全く同じです。ただし否定動詞は必ず **ei** を使い、また過去分詞は受動過去分詞という形になります。

受動形過去の否定 = **ei** + 受動過去分詞

46-3. 受動過去分詞

受動過去分詞は、受動形過去の形から作るのがもっとも簡単な方法です。受動形過去の最後の **-iin** を **-u/-y** に変えれば受動過去分詞の形になります。

tietää > 受動形過去 tiedettiin > 受動過去分詞 tiedetty

juoda > 受動形過去 juotiin > 受動過去分詞 juotu

こうして得られた受動過去分詞を **ei** と結びつけば受動形過去の否定形になります。

- tietää > 受動形過去の肯定形 tiedettiin
- tietää > 受動形過去の否定形 **ei tiedetty**
- juoda > 受動形過去の肯定形 juotiin
- juoda > 受動形過去の否定形 **ei juotu**

ポイント 81 - 受動形過去の否定(受動過去分詞)

- ① 受動形過去の否定 = **ei** + 受動過去分詞
- ② 受動形過去 -iin ⇒ 受動過去分詞 -u/-y
 - 受動形過去 annettiin > 受動過去分詞 annettu
 - 受動形過去 syötiin > 受動過去分詞 syöty

46-4. 受動形(4)－完了形

37-1.で現在完了と過去完了を勉強しましたが、受動形にも完了の形があります。その作り方は、やはり 37-1.で勉強したように「**olla**-動詞+過去分詞」です。ただし受動形の場合には、**olla**-動詞は必ず **on** あるいは **oli** という形で、また過去分詞は 46-3.で学習した受動過去分詞の形になります。次に **antaa** という動詞を例に、受動の現在完了と過去完了の形をまとめます。能動では6つの人称に変化します。受動ではそれぞれ1つの形しかありません。左の欄の能動の形と、右の欄の受動の形をよく比べてください。

現在完了形

		能動	受動			能動	受動
肯	olen	} antanut	on annettu	否	en	} ole antanut	ei ole annettu
	olet				et		
	on				ei		
定	olemme	} antaneet		定	emme	} ole antaneet	
	olette				ette		
	ovat				eivät		

過去完了形

		能動	受動			能動	受動
肯	olin	} antanut	oli annettu	否	en	} ollut antanut	ei ollut annettu
	olit				et		
	oli				ei		
定	olimme	} antaneet		定	emme	} olleet antaneet	
	olitte				ette		
	olivat				eivät		

ポイント 82－受動形・完了

受動形・完了 = on ~ oli + 受動過去分詞

antaa > 受動形・現在完了 on annettu > 否定形 ei ole annettu

> 受動形・過去完了 oli annettu > 否定形 ei ollut annettu

文法問題 46-1. 次の流れ図にしたがって下の6つの動詞を活用させなさい

不定詞	①受動現在	②受動過去	③受動過去分詞
auttaa	autetaan	autettiin	autettu
syödä	syödään	syötiin	syöty
変化の規則	(-taan-tään ⇒ -ttiin/その他 ⇒ -tiin) ; (-iin ⇒ -u/-y)		

④受動過去・否定	⑤受動現在完了	⑦受動過去完了
ei annettu ei syöty	on annettu on syöty	oli annettu oli syöty
	⑥受動現在完了・否定	⑧受動過去完了・否定
	ei ole annettu ei ole syöty	ei ollut annettu ei ollut syöty

[1) lentää 2) viedä 3) olla 4) juosta 5) tavata 6) häiritä]

文法問題 46-2. ()内の動詞を①受動の過去形に直して文を完成させなさい。

またその解答を②受動過去の否定形、③現在完了の肯定形と④否定形、そして⑤過去完了の肯定形と⑥否定形に直しなさい。

- 1) Tässä kylässä (puhua) saamea. この村ではサーミ語が話されていた
- 2) Kristinusko (tuoda) Suomeen 1100-luvulla.
キリスト教は1100年代にフィンランドにもたらされた
- 3) Venäjälle (mennä) junalla. 列車でロシアへ行った
- 4) Ennen (ajatella), että suomi on sukua japanille.
以前フィンランド語は日本語と親戚の言語だと考えられていた
- 5) Kun ei ollut vielä autoja, niin (kävellä) ja (ajaa) hevosella.
まだ自動車のない頃には歩いたり馬で移動したりした
- 6) Työ (tehdä) valmiiksi jo toissapäivänä.
その仕事はもう一昨日出来上がった

第 47 課 – Neljäskymmenesseitsemäs kappale

47-1. 基数の格変化

47-2. 基数の格変化一覧

47-1. 基数の格変化

「2」以上の基数が名詞につく場合に、名詞は単数分格の形になることを勉強しました。この「基数＋単数分格」の形は主格の働きと対格の働きをします。つまり文の主語や目的語になることができます。

Kaksi poikaa juoksee pihalla. 2人の少年が庭で走っている

Ostan **kaksi kirjaa**. 私は2冊本を買う

しかし基数のついている名詞が、他の格に変化する場合もあります。その場合には、名詞を修飾する形容詞が名詞と同じ格に変化するように、基数も名詞と同じ格に変化をします。ですから主格と対格の働きを持つ「基数＋単数分格」という形が、むしろ例外的なものだと考えておきましょう。次に基数の語幹をまとめます。不規則なところがずいぶんありますが、気をつけて確認して下さい。yksi と kaksi, viisi と kuusi, そして seitsemän, kahdeksan, yhdeksän, kymmenen が、活用の点では同じグループを作ります。複数はまだ気にする必要はないでしょう。

1) 「1~10」の語幹

単数主格	(強階程)語幹	(弱階程)語幹	複数語幹	単数分格
yksi	yhte-	yhde-	yksi-	yh/tä
kaksi	kahte-	kahde-	kaksi-	kah/ta
kolme	kolme-		kolmi-	kolme/a
neljä	neljä-		nelji-	neljä/ä
viisi	viite-	viide-	viisi-	viit/tä
kuusi	kuute-	kuude-	kuusi-	kuut/ta
seitsemän	seitsemä-		seitsemi-	seitsemä/ä
kahdeksan	kahdeksa-		kahdeksi-	kahdeksa/a
yhdeksän	yhdeksä-		yhdeksi-	yhdeksä/ä
kymmenen	kymmene-		kymmeni-	kymmen/tä

- ① yksi, kaksi, viisi, kuusi は vesi や käsi と同じタイプに属します。yksi と kaksi については、単数語幹で -k- が -h- に変化します。
- ② kolme と neljä はそのまま単数語幹となります。kolme の語幹は kolmee- とはなりませんから、その意味では例外的な単語です。
- ③ seitsemän, kahdeksan, yhdeksän, kymmenen の単数語幹は、単数主格から最後の -n を取った形です。ですから単数属格は単数主格と同じ形になります。kymmenen の単数分格は例外的に kymmen-tä となります。

2) 「11」から「19」

「11」から「19」の基数は1の位の数詞に **-toista** をつけて作りましたが、格変化するとき **-toista** の部分は変化しません。つまり **-toista** の前にある1の位の数字のみ変化します。ですから「1」～「9」の変化ができれば問題はありません。

yksi|toista > 内格 yhde-ssä|toista

viisi|toista > 入格 viite-en|toista

3) sata, tuhat, miljoona

単数主格	(強階程)語幹	(弱階程)語幹	複数語幹	単数分格
sata	sata-	sada-	satoi- : sadoi-	sata-a
tuhat	tuhante-	tuhanne-	tuhansi-	tuhat-ta
miljoona	miljoona-		miljooni-	miljoona-a

tuhat は単数語幹で tuhante- : tunanne-、そして複数語幹で tuhansi- と不規則な変化をしますので、特に注意が必要です。

4) 基数の変化について

いくつもの部分から成る基数が格変化するときには、最後の部分だけを変化させればよいともされているが、すべての部分を変化させることが多いと思います。ですから、たとえば

kaksi|tuhatta|kolme|sataa|viisi|kymmentä|kahdeksan markkaa 「2,358 マルッカ」
を接格にして、「2,358 マルッカで」という意味にしたいときには

kahde-lla|tuhanne-lla|kolme-lla|sada-lla|viide-llä|kymmene-llä|kahdeksa-lla marka-lla
と、すべての数詞を変化させるのがふつうです。

47-2. 基数の格変化一覧

	単数	複数	単数	複数	単数	複数
主格	yksi	yhde-t	viisi	viide-t	seitsemän	seitsemä-t
属格	yhde-n	yksi-en	viide-n	viisi-en	seitsemä-n	seitsemi-en
分格	yh-tä	yksi-ä	viit-tä	viisi-ä	seitsemä-ä	seitsemi-ä
内格	yhde-ssä	yksi-ssä	viide-ssä	viisi-ssä	seitsemä-ssä	seitsemi-ssä
出格	yhde-stä	yksi-stä	viide-stä	viisi-stä	seitsemä-stä	seitsemi-stä
入格	yhte-en	yksi-in	viite-en	viisi-in	seitsemä-än	seitsemi-in
接格	yhde-llä	yksi-llä	viide-llä	viisi-llä	seitsemä-llä	seitsemi-llä
奪格	yhde-ltä	yksi-ltä	viide-ltä	viisi-ltä	seitsemä-ltä	seitsemi-ltä
向格	yhde-lle	yksi-lle	viide-lle	viisi-lle	seitsemä-lle	seitsemi-lle
様格	yhte-nä	yksi-nä	viite-nä	viisi-nä	seitsemä-nä	seitsemi-nä
変格	yhde-ksi	yksi-ksi	viide-ksi	viisi-ksi	seitsemä-ksi	seitsemi-ksi

	単数	複数	単数	複数	単数	複数
主格	kymmenen	kymmene-t	sata	sada-t	tuhat	tuhanne-t
属格	kymmene-n	kymmeni-en	sada-n	satoj-en	tuhanne-n	tuhansi-en
分格	kymmen-tä	kymmeni-ä	sata-a	satoj-a	tuhat-ta	tuhansi-a
内格	kymmene-ssä	kymmeni-ssä	sada-ssa	sadoi-ssa	tuhanne-ssa	tuhansi-ssa
出格	kymmene-stä	kymmeni-stä	sada-sta	sadoi-sta	tuhanne-sta	tuhansi-sta
入格	kymmene-en	kymmeni-in	sata-an	satoi-hin	tuhante-en	tuhansi-in
接格	kymmene-llä	kymmeni-llä	sada-lla	sadoi-lla	tuhanne-lla	tuhansi-lla
奪格	kymmene-ltä	kymmeni-ltä	sada-lta	sadoi-lta	tuhanne-lta	tuhansi-lta
向格	kymmene-lle	kymmeni-lle	sada-lle	sadoi-lle	tuhanne-lle	tuhansi-lle
様格	kymmene-nä	kymmeni-nä	sata-na	satoi-na	tuhante-na	tuhansi-na
変格	kymmene-ksi	kymmeni-ksi	sada-ksi	sadoi-ksi	tuhanne-ksi	tuhansi-ksi

kaksi は yksi と、kuusi は viisi と、そして kahdeksan, yhdeksän は seitsemän と同じように変化します。

文法問題 47-1. ()内の基数を属格にして文を完成させなさい..

- 1) Lähden täältä (kaksi) päivän kuluttua. 私は2日後にここを出発します
- 2) Lähden täältä (kuusi) päivän kuluttua.
- 3) Lähden täältä (kahdeksan) päivän kuluttua.
- 4) Lähden täältä (viisitoista) päivän kuluttua.
- 5) Lähden täältä (kolmekymmentä) päivän kuluttua.
- 6) Lähden täältä (viisisataa) päivän kuluttua.

文法問題 47-2. ()内の語を分格にして文を完成させなさい.

- 1) Lähden täältä ennen (yksi). 私は1時前にここを出発します
- 2) Lähden täältä ennen (neljä).
- 3) Lähden täältä ennen (viisi).
- 4) Lähden täältä ennen (yhdeksäntoista).
- 5) Lähden täältä ennen (kymmenen).
- 6) Lähden täältä ennen (kaksikymmentäkolme).

文法問題 47-3. ()内の語(句)を適切な形に変化させ文を完成させなさい.

必要があれば 39 課の「時の表現(2)」を参考にしなさい.

- 1) Luin kirjan (kaksi tunti). 私はその本を2時間で読んだ
- 2) Ostin lipun (viisisataa markkaa). 私は切符を500マルッカで買った
- 3) Soita uudelleen (seitsemän) jälkeen. 7時以後にまた電話してください
- 4) Kauppa on auki (yhdeksän) (kahdeksantoista). 店は9時から18時まで開いている
- 5) Matka ei kestänyt (kuusi tuntia). 旅は6時間はかからなかった
- 6) Hän palaa (yksi) mennessä. 彼女は1時までには戻る
- 7) Olemme odottaneet häntä (kymmenen) asti. 我々は10時から彼を待っている
- 8) Nousen aamulla aina (viisi). 私はいつも5時に起きる
- 9) Työ on valmiina (neljä). 仕事は4時までには出来上がっています
- 10) En ole syönyt (kaksi päivää). 私は2日間何も食べていない

第 48 課 – Neljäskymmeneskahdeksas kappale

48-1. 受動形 (5) – 条件法現在形

48-2. 受動形 (6) – 条件法完了形

48-3. 受動形のまとめ

48-1. 受動形 (5) – 条件法現在形

1) 受動形・条件法現在形 (肯定形) の作り方

受動形にも条件法の形があります。受動の条件法現在形は受動の過去形から作るのがもっとも簡単です。受動形過去の最後の **-iin** を **-aisiin/-äisiin** に変えると、受動形の条件法現在形となります。

tietää > 受動形現在 tiedetään

> 受動形過去 tiedettiin

> 受動形の条件法現在形 tiedettäisiin

また否定形では **ei** と、肯定形の最後の **-in** を取った形を組み合わせます。

tiedettäisiin > 否定形 **ei tiedettäisi**

ポイント 83 – 受動の条件法現在形

受動過去形 **-iin** ⇒ 受動の条件法 **-aisiin/-äisiin**

puhuttiin ⇒ puhuttaisiin, tiedettiin ⇒ tiedettäisiin

受動の条件法現在形の否定

puhuttaisiin ⇔ ei puhuttaisi, tiedettäisiin ⇔ ei tiedettäisi

Olisi hauskaa, jos kaikkialla **puhuttaisiin** suomea.

もしあらゆるところでフィンランド語が話されれば素敵なのに

Jos **mentäisiin** pohjoiseen, niin **voitaisiin** vieläkin hiihtää.

もし北へ行けば、まだスキーができるのだが

Jos tietokone **korjattaisiin**, **voitaisiin** kirjoittaa sillä.

もしコンピュータが修理されれば、皆それで書くことができるだろうに

48-2. 受動形(6)－条件法完了形

完了形は動詞 **olla** と過去分詞を組み合わせて作る、という原則は変わりません。ここでは動詞 **olla** が **olisi** という条件法の形になり、受動過去分詞と結びつきます。受動過去分詞は、受動形過去の最後の **-iin** を **-u/-y** に変えて作りました。

tietää > 受動過去分詞 tiedetty > 受動形の条件法完了形 **olisi tiedetty**
否定形では動詞 **olla** だけが変化しますから、次の形になります。

olisi tiedetty > 否定形 **ei olisi tiedetty**

Jos tietokone **olisi korjattu**, **olisi voitu** kirjoittaa sillä.

もしコンピュータが修理されていれば、皆それで書けたらうに

Olisi ollut parempi, jos kokous **olisi järjestetty** kesällä.

もし会合が夏に催されていたとしたら、もっと良かったであろうに

48-3. 受動形のまとめ

受動形については現在形を 27 課で学習しました。そして過去形と現在完了形、過去完了形を 46 課で学習しました。過去形は現在形から次のようにして作りました。

- ① 受動現在形の最後が **-taan/-tään** であれば、それを **-ttiin** に変えました。

annetaan > annettiin, tiedetään > tiedettiin

- ② 受動現在形の最後が **-taan/-tään** 以外であれば、それを **-tiin** に変えました。

juodaan > juotiin, tullaan > tultiin, pestään > pestiin

(**-staan/-stään** は②のグループに入りました)

過去の否定を作るために受動の過去分詞の形が必要でした。

- ③ 受動過去形の最後の **-iin** を **-u/-y** に変えれば受動過去分詞の形になりました

annettiin > annettu, tiedettiin > tiedetty, juotiin > juotu

- ④ 「**ei** + 受動の過去分詞」で受動過去形の否定形になりました

ei annettu, ei tiedetty, ei juotu

さらに受動過去分詞は **on**, **oli**, **olisi** と結ぶついで完了形を作ります

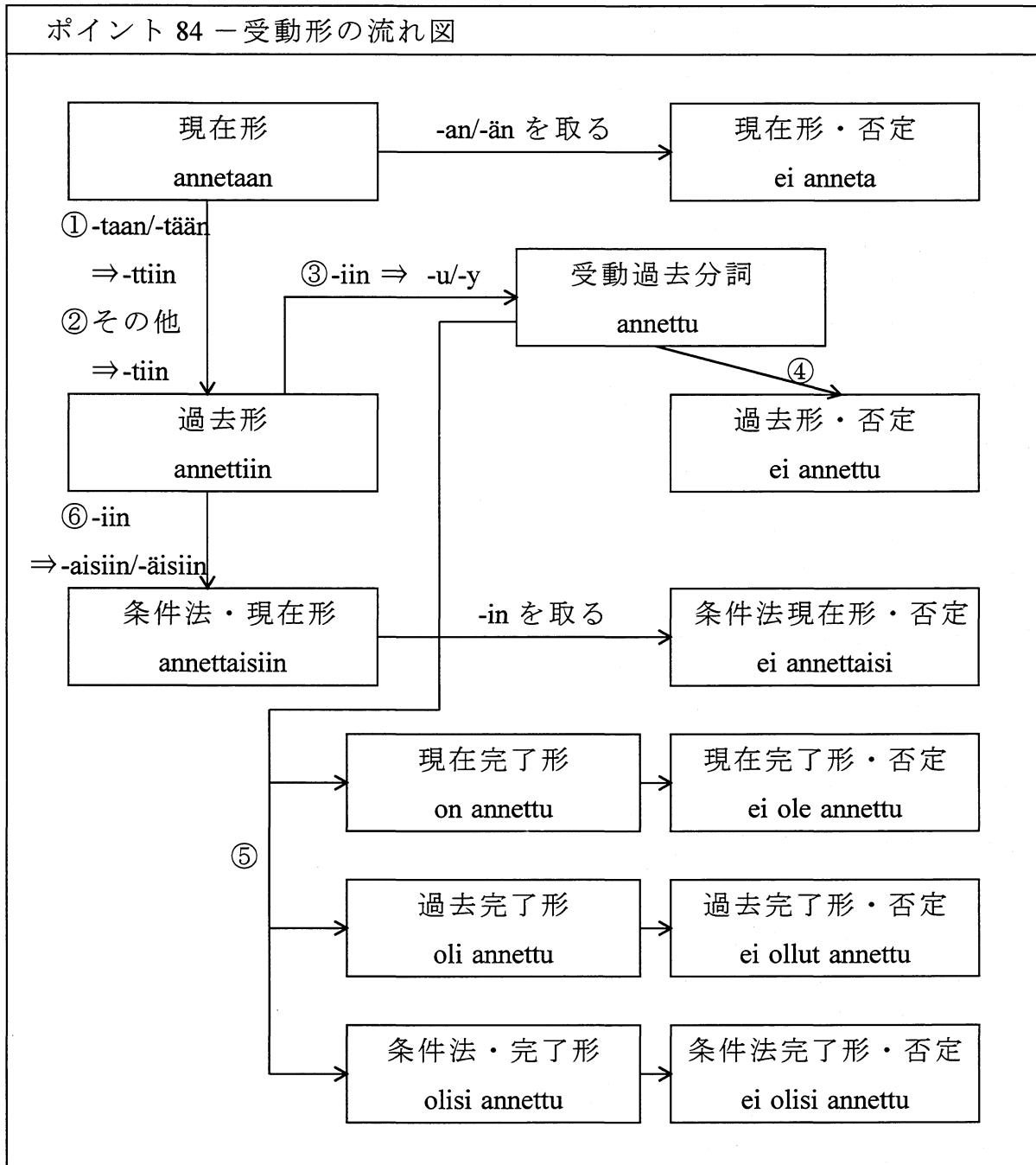
- ⑤ 「**on/oli/olisi** + 受動の過去分詞」で完了形になります

on annettu, oli annettu, olisi annettu

- ⑥ 受動過去形の最後の **-iin** を **-aisiin/-äisiin** に変えると受動の条件法になります

annettiin > annettaisiin, tiedettiin > tiedettäisiin

次の流れ図で受動形の作り方を確認してください。とにかく一番重要なのは受動現在形の作り方ですので、それに関しては 26 課で復習をしてください。次の流れ図の中の①、②などの数字は、前のページの解説に対応しています。



文法問題 48-1. ()内の動詞を受動の条件法現在の形に下さい.

- 1) Jos (tilata) ulkomaalaisia lehtiä, (voida) oppia vieraita kieliä.
もし外国の新聞を取れば、外国語を覚えるであろうに
- 2) Jos (muuttaa) maalle, (ulkoilla) paljon.
もし田舎へ引っ越せば、たくさん外で過ごすだろうが
- 3) Jos alkoholijuomia ei (myydä), niitä (valmistaa) salaa.
もしアルコール飲料が販売されなければ、それらは密造されるだろう
- 4) Jos ei (katsoa) televisiota niin paljon, (keskustella) enemmän.
もしそれほどたくさんテレビを見なければ、もっと話し合うだろう

文法問題 48-2. 次の文を完了形に書き換えなさい.

- 1) Mitä tehtäisiin, jos voitettaisiin lotossa?
もし宝くじで当たったら何をするだろう
- 2) Sotatoimet lopetettaisiin, jos rauhansopimus allekirjoitettaisiin.
もし和平条約が調印されれば軍事行動は終わるのに
- 3) Jos matkustettaisiin kesällä, lähdettäisiin pohjoiseen.
もし夏に旅行するのであれば北へ行くのだが
- 4) Jos osattaisiin japania, viihdyttäisiin Japanissa hyvin.
もし日本語ができれば、日本で楽しく過ごせるであろうが

文法問題 48-3. 次の受動形の活用表を完成させなさい.

	1) tietää		2) juoda		3) kuunnella	
	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定
現在	①	⑦	①	⑦	①	⑦
過去	②	⑧	②	⑧	②	⑧
条件法・現在	③	⑨	③	⑨	③	⑨
現在完了	④	⑩	④	⑩	④	⑩
過去完了	⑤	⑪	⑤	⑪	⑤	⑪
条件法・完了	⑥	⑫	⑥	⑫	⑥	⑫

第 49 課 — Neljäskymmenesyhdeksäs kappale

49-1. 序数

49-2. 序数の格変化

49-3. 動詞の活用—まとめ

49-1. 序数

今まで学習してきた「1, 2, 3...」のような数詞を「基数」と呼びます。ここで学習する「序数」というのは「1 番目の, 2 番目の...」というように順番を表現するための数詞です。基数と似ているものが多いのですが、活用に関して不規則なところがありますので注意して学習してください。

1	ensimmäinen	11	yhdes toista
2	toinen	12	kahdes toista
3	kolmas	13	kolmas toista
4	neljäs	20	kahdes kymmenes
5	viides	21	kahdes kymmenes yhdes
6	kuudes	22	kahdes kymmenes kahdes
7	seitsemäs	30	kolmas kymmenes
8	kahdeksas	100	sadas
9	yhdeksäs	101	sadas yhdes
10	kymmenes	1000	tuhannes

1) 「1」～「10」

ensimmäinen と **toinen** は基数とは全く別の形なので覚える必要があります。「3」以上は基数の(弱階程)語幹に-sをつけて作られています。ただし「3」の序数 **kolmas** は不規則なところがあります。

2) 「11」～「19」

基数の場合と同様に, 1 の位の序数に **-toista** をつけます。ただし「11」と「12」の序数は **yhdes|toista, kahdes|toista** という形になり、**ensimmäinen, toinen** は使われません。また **-toista** は絶対に変化しません。

3) 「20」、「30」、「40」...

たとえば「20」は日本語と同じように「2-10」と言えばよいのですが、原則としてどちらも序数の形になります。また「20」は **toinen|kymmenes** ではなく、**kahdes|kymmenes** となります。

4) 「21」、「22」、「23」...

「21」であれば「2-10-1」と順番に、すべてを序数で言いますが、「21」、「31」というときの「1」は、**kahdes|kymmenes|yhdes** というように、ふつう **yhdes** という形を使います (**ensimmäinen** が使われることもあります)。同じように「22」は **kahdes|kymmenes|kahdes** というように、1の位の「2」は **kahdes** と言います (**toinen** も使われることがあります)。

5) 「100」、「1000」

「100」の序数は **sadas**, 「1000」の序数は **tuhannes** となります。

6) **mones** は **kuinka mones** あるいは **monesko** の形で使われ「何番目の」という意味になります。他の **-s** で終わる序数と同じように変化します。

49-2. 序数の格変化

ensimmäinen と **toinen** は、多くの **-nen** で終わる語と同じように変化しますので問題はないでしょう。**-s** で終わる序数の変化は少しやっかいです。

序数	強階程語幹	弱階程語幹	複数語幹	単数分格
-s	-nte-	-nne-	-nsi-	-t-ta / -t-tä
kolmas	kolmante-	kolmanne-	kolmansi-	kolmat-ta

単数分格は **-s** を **-tta/-ttä** に変えると覚えてしまうのがよいでしょう。

Minä asun **kolmanne-ssa** kerrokse-ssa. 私は3階に住んでいる

Minä menen **kolmante-en** kerrokse-en. 私は3階へ行く

Meillä ei ole **kolmat-ta** vaihtoehto-a. 我々には3つめの選択肢はない

ポイント 85 - 序数の変化

「3」以上の序数は **-s** で終わる

序数の **-s** は単数語幹で **-nte-/-nne-**、複数語幹で **-nsi** と変化する

序数の単数分格は **-s > -tta/-ttä**

49-3. 動詞の活用一まとめ

	現在	過去	条件法・現在	現在完了	過去完了	条件法・完了	
能	肯定	annan annat antaa annamme annatte antavat	annoin annoit antoi annoimme annoitte antoivat	antaisin antaisit antaisi antaisimme antaisitte antaisivat	olen olet on olemme olette ovat	olin olit oli olimme olitte olivat	olisin olisit olisi olisimme olisitte olisivat
	否定	en et ei emme ette eivät	en et ei emme ette eivät	en et ei emme ette eivät	en et ei emme ette eivät	en et ei emme ette eivät	en et ei emme ette eivät
動	肯定	annetaan	annettiin	annettaisiin	on annettu ei ole	oli annettu ei ollut	olisi annettu ei olisi
	否定	ei anneta	ei annettu	ei annettaisi	ei annettu	ei annettu	ei annettu

動詞の活用に関して重要なことはほとんど学習しました。 antaa を例にした上の表を参考に、ぜひ復習をしてください。上の表をざっと見ると頭が痛くなりそうですが、どの形にどのような特徴があるか確認することは役に立つことだと思います。

① 過去分詞だけ大文字で示してあります。能動では能動過去分詞が、受動では受動過去分詞が使われていますが、どこに過去分詞が現れているか確認をすると次のことに気づくと思います。つまり能動でも受動でも、同じ形で過去分詞が現れているということです。

② 具体的には過去形の否定、そして完了形で過去分詞が現れています。過去形の否定では否定動詞と、完了形では動詞 olla と過去分詞が結びついています。

③ 以上のように過去形の否定と完了形は同じ理屈で作られていますから、残りの現在形の肯定と否定、過去形の肯定、そして条件法の現在形をしつかり復習する必要があります。

文法問題 49-1. ()内の序数を内格の形に変化させなさい.

- 1) Minä asun (toinen) kerroksessa. 私は2階に住んでいる
- 2) Sinä asut (kolmas) kerroksessa. あなたは3階に住んでいる
- 3) Hän asuu (viides) kerroksessa. 彼/彼女は5階に住んでいる
- 4) Me asumme (seitsemäs) kerroksessa. 我々は7階に住んでいる
- 5) Te asutte (yhdestoista) kerroksessa. あなた方は11階に住んでいる
- 6) Kuinka (mones) kerroksessa asut? あなたは何階に住んでいるか

文法問題 49-2. ()内の序数をそれぞれ出格と入格に変化させなさい.

- 1) Menen (kolmas) kerroksesta (neljäs) kerrokseen. 私は3階から4階へ行く
- 2) Menet (neljäs) kerroksesta (viides) kerrokseen.
- 3) Hän menee (viides) kerroksesta (kahdeksas) kerrokseen.
- 4) Menemme (kahdeksas) kerroksesta (kahdestoista) kerrokseen.
- 5) Menette (kahdestoista) kerroksesta (yhdeksästoista) kerrokseen.
- 6) He menevät (yhdeksästoista) kerroksesta (kolmaskymmeneskuudes) kerrokseen.
- 7) Kuinka (mones) kerroksesta ja kuinka (mones) kerrokseen menet?
あなたは何階から何階へ行くのか

文法問題 49-3. 205 ページの「動詞の活用一まとめ」を参考に、次の活用表にしたがって 1) syödä, 2) kuunnella, 3) tavata, 4) häiritä を活用させなさい(能動では6つの人称に変化させます).

		現在	過去	条件法・現在	現在完了	過去完了	条件法・完了
能動	肯定	①	③	⑤	⑦	⑨	⑪
	否定	②	④	⑥	⑧	⑩	⑫
受動	肯定	⑬	⑮	⑰	⑲	21	23
	否定	⑭	⑯	⑱	⑳	22	24

第 50 課 — Viideskymmenes kappale

50-1. 接辞について

50-2. 名詞接辞

50-3. 形容詞接辞

50-4. 動詞接辞

50-1. 接辞について

たとえば **matkustaa** は「旅行する」という意味ですが、**matkustella** は「何度も旅行する」とか「旅行して回る」というような意味を持ちます。一方 **opiskella** は「勉強する」ですが、**opiskelu** は「勉強」という意味になります。最初の例では **matkustaa** に **-ella** がついていますが、後の例では **opiskella** に **-u** がついていると考えます。このように、ある語に付加されて別の語を作る働きをするものを接辞と呼ぶことにします。接辞の知識を持つことで、初めて見た単語の意味が推測できたり、さらには自分で語を作り出すこともできます。語彙力を高める上で接辞の知識は非常に役に立つと思います。ここでは接辞をつける細かい規則は気にせずに、重要な接辞のだいたいの働きを勉強します。

50-2. 名詞接辞

1) 行為者 **-ja / -jä**

matkustaja 旅行者 (matkustaa 旅行する) **myyjä** 販売員・店員 (myydä 売る)

opettaja 教員 (opettaa 教える) **opiskelija** 学生 (opikella 勉強する)

tekijä 作者 (tehdä 作る) **lukija** 読者 (lukea 読む)

2) 人 **-lainen / -läinen**

apulainen 補助者 (apu 援助) **työläinen** 労働者 (työ 仕事)

eläkeläinen 年金生活者 (eläke 年金) **ulkomaalainen** 外国人 (ulkomaa 外国)

3) 道具 **-in : -ime-**

avain 鍵 (avata 開ける) **suodatin** フィルター (suodattaa 濾す)

4) 行為 **-nti**

myynti 販売 (myydä 売る) **pysäköinti** 駐車 (pysäköidä 駐車する)

tuonti 輸入 (tuoda 輸入する) **vienti** 輸出 (viedä 輸出する)

- 5) 行為や結果 **-os / -ös, -us / -ys**
käännös 翻訳 (kääntää 訳す) **tulos** 結果 (tulla 来る)
alennus 値下げ (alentaa 値を下げる) **edellytys** 前提 (edellyttää 前提とする)
- 6) 行為や結果 **-mus / -mys**
kysmys 質問 (kysyä 尋ねる) **aikomus** 意図 (aikoa するつもりだ)
näkemy 見方・考え (nähdä 見る) **anomus** 応募 (anoa 応募する)
- 7) 行為 **-o / -ö, -u / -y**
meno 行くこと・支出 (mennä 行く) **tulo** 来ること、収入 (tulla 来る)
lähtö 出発 (lähteä 出発する) **teko** 行為 (tehdä する)
alku 始め、始まり (alkaa 始まる、始める) **käskey** 命令 (käskeä 命令する)
ajattelu 考え (ajatella 考える) **kävely** 散歩 (kävellä 歩く)
- 8) 場所 **-la / -lä**
kahvila 喫茶店 (kahvi コーヒー) **ruokala** 食堂 (ruoka 食事)
- 9) 場所・集合 **-sto / -stö**
kirjasto 図書館 (kirja 本) **ympäristö** 環境 (ympäri 周りを)
oikesito 右派 (oikea 右の) **vasemmisto** 左派 (vasen 左の)
- 10) 抽象名詞 **-us / -ys, -uus / -yys**
vapaa 自由な (vapaus 自由) **pimeys** 暗さ、暗闇 (pimeä 暗い)
ahkeruus 勤勉さ (ahkera 勤勉な) **yksinäisyys** 孤独 (yksinäinen 孤独な)

50-3. 形容詞接辞

- 1) **-inen**
kivinen 石の (kivi 石) **kultainen** 黄金の (kulta 黄金)
- 2) **-llinen**
onnellinen 幸運な (onni 幸運) **vaarallinen** 危険な (vaara 危険)
laillinen 合法的な (laki 法律) **suullinen** 口頭の (suu 口)
- 3) **-lainen**
toisenlainen 別の種類の (toinen 別の) **samanlainen** 同じような (sama 同じ)
jonkinlainen ある種の (jokin 何か) **monenlainen** 様々な (moni 多くの)
- 4) **-isa / -isiä**
kalaisa 魚の豊富な (kala 魚) **valoisa** 明るい (valo 光、灯り)
- 5) **-ton : -ttoma- / -tön -ttömä-** (名詞について欠如を表す)

onneton 不運な (onni 幸運)

työtön 失業した (työ 仕事)

活用が不規則なので注意してください。

6) **-maton : -mattoma- / -mätön- / -mättömä-** (動詞について欠如を表す)

kuolematon 不死の (kuolla 死ぬ)

näkymätön 目に見えない (näkyä 見える)

50-4. 動詞接辞

1) **-ella / -ellä , -illa / illä** (繰り返される行為、継続する行為)

katsella 何度も見る、ずっと見ている (katsoa 見る)

matkustella 旅行して回る、旅行ばかりしている (matkustaa 旅行する)

kysellä 何度も尋ねる、尋ね回る (kysyä 尋ねる)

hypellä 跳ね回る (hypätä 跳ねる)

再帰の意味(「自分を... する」)を持つ場合もあります。

harjoitella 練習する、自分を鍛える (harjoittaa 訓練する、鍛える)

huvitella 楽しむ (huvittaa 楽しませる)

また名詞から動詞を作る場合もあります。

palloilla ボール遊びをする、ボール競技をする (pallo ボール)

pyöräillä サイクリングする (pyörä 自転車)

-ntella / -ntellä, -skella / -skellä というような形もあります。

juoksennella 走り回る (juosta : juokse- 走る)

istuskella ずっと座っている (istua 座る、座っている)

ammuskella 撃ちまくる (ampua 撃つ)

2) **-ttaa / -ttää** (... させる)

huolestuttaa 心配させる (huolestua 心配する)

syöttää 食べさせる (syödä 食べる)

3) **-ua- / -yä-**

受動や再帰の意味を持ちます。

jatkua 続く (jatkaa 続ける)

kaatua 倒れる (kaataa 倒す)

löytyä 見つかる (löytää 見つける)

siirtyä 移る (siirtää 移す)

kehittyä 発展する (kehittää 発展させる)

parantua 直る (parantaa 直す)

alentua 下がる (alentaa 下げる)

tuntua 感じられる (tuntea 感じる)

hidastua 遅くなる (hidastaa 遅くする)

pelastua 助かる (pelastaa 助ける)

vähentyä 減る (vähentää 減らす)

yhdistyä 結びつく (yhdistää 結びつける)

文法問題 50-1. []内の接辞を使って名詞を作りなさい。

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1) ostaa 買う > 買い手 [-ja] | 2) ajaa 運転する > 運転者 [-ja] |
| 3) keittää 調理する > 調理人 [-jä] | 4) ammatti 職業 > プロ [-lainen] |
| 5) puhella 話す > 電話 [-in] | 6) pakastaa 凍らせる > フリーザー [-in] |
| 7) epäröidä 躊躇する > 躊躇 [-nti] | 7) ostaa 買う > 買い物 [-os] |
| 9) päättää 決める > 決定 [-ös] | 10) ehdottaa 提案する > 提案 [-us] |
| 11) metsästää 狩りをする > 狩り [-ys] | 12) luottaa 信頼する > 信頼 [-mus] |
| 13) kieltää 禁じる > 禁止 [-o] | 14) epäillä 疑う > 疑い [-y] |
| 15) kylpy 入浴 > 入浴場 [-lä] | 16) korkea 高い > 高さ [-us] |
| 17) nopea 速い > 速度 [-us] | 18) nuori 若い > 青春 [-uus] |

文法問題 50-2. []内の接辞を使って形容詞を作りなさい。

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1) jää 氷 > 氷の [-inen] | 2) lasi ガラス > ガラス製の [-nen] |
| 3) hyöty 利益 > 有益な [-llinen] | 4) ystävä 友人 > 親切的な [-llinen] |
| 5) eräs ある > ある種の [-lainen] | 6) aihe 根拠 > 根拠のない [-ton] |
| 7) äly 知能 > 愚かな [-tön] | 8) moraali 道徳心 > 道徳心のない [-ton] |
| 9) odottaa 待つ、予想する、期待する > 予想していない [-maton] | |
| 10) väsyä 疲れる > 疲れを知らない [-mätön] | |
| 11) sopia 適する > 不適切的な [-maton] | |
| 12) sietää 耐える > 耐えられない [-mätön] | |

文法問題 50-3. []内の接辞を使って動詞を作りなさい。

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------------|
| 1) odottaa 待つ > ずっと待つ [-ella] | 2) soittaa 電話する > 何度も電話する [-ella] |
| 3) ajaa 乗る > 乗り回す [-ella] | 4) ostaa 買う > 買って回る [-ella] |
| 5) lämmittää 暖める > 暖まる [ellä] | 6) etsiä 探す > 探し回る [-skellä] |
| 7) lukea 読む > 読ませる [-ttaa] | 8) nukkua 眠る > 眠らせる [-ttaa] |
| 9) syntyä 生まれる > 生む [-ttää] | 10) kasvaa 育つ > 育てる [-ttaa] |
| 11) kääntää 回す > 回る [-yä] | 12) vaihtaa 換える > 換わる [-ua] |
| 13) särkeä 壊す > 壊れる [-yä] | 14) estää 妨げる > 妨げられる [-yä] |

第 51 課 — Viideskymmenesyhdes kappale

- 51-1. 形容詞の比較級
- 51-2. 形容詞の最上級
- 51-3. 不規則な比較変化をする語
- 51-4. 比較表現

51-1. 形容詞の比較級

フィンランド語の形容詞は比較変化をします。つまり「より...だ」、「もっとも...だ」という形に変化します。形容詞のもとの形を原級、「より...だ」の形を比較級、「もっとも...だ」の形を最上級と呼びます。比較級や最上級も、今まで学習した格と同じように、語幹に語尾をつけて作ります。

1) 比較級の作り方

- ① **-mpi** という語尾を(母音)語幹につけます

nuori > 母音語幹 nuore- > 比較級 **nuore-mpi**

rikas > 母音語幹 rikkaa- > 比較級 **rikkaa-mpi**

母音語幹に階程交替のある場合には弱階程語幹につけます。

heikko > 弱階程語幹 heiko- > 比較級 **heiko-mpi**

つまり単数属格の語尾 **-n** を **-mpi** に変えると比較級が作れます。

hidas > 単数属格 hitaa-n > 比較級 **hitaa-mpi**

- ② **-mpi** をつけるときに特別な変化が起こる場合があります。2音節の語で語幹の最後が **-a/-ä** の場合に、その **-a/-ä** は **-e** に変わります(動詞の受動形を作るときも同じ様な変化が起こりました)

halpa > 弱階程語幹 halva- > halve- > 比較級 **halve-mpi**

kylmä > 語幹 > kylmä- > kylme- > 比較級 **kylme-mpi**

51-2. 形容詞の最上級

- ① **-in** という語尾を(母音)語幹につけます

iso > 語幹 iso- > 最上級 **iso-in**

階程交替のあるときは、やはり弱階程になります。

heikko > 弱階程母音語幹 heiko- > 最上級 **heiko-in**

また最上級の語尾は-i-という音で始まりますが、多くの場合この-i-は次のように、複数標識の-i-や過去標識の-i-と同じような変化を引き起こします。

② 長母音は短母音になります

rikas > 母音語幹 rikkaa- > 最上級 **rikka-in**

③ 語幹の最後の-a, -ä, -e は消えます

halpa > 弱階程語幹 halva- > 最上級 **halv-in**

kylmä > 語幹 kylmä- > 最上級 **kylm-in**

nuori > 語幹 nuore- > 最上級 **nuor-in**

④ 語幹の最後に-i, -ii がある場合には、それらは-e-に変わります(これは過去形の-i-の場合にはない変化です)

siisti > 語幹 siisti- > 最上級 **siiste-in**

kaunis > 母音語幹 kaunii- > 最上級 **kaune-in**

ポイント 86 — 形容詞の比較級と最上級

① 比較級 -mpi, 最上級 -in

原級 nuori — 比較級 nuore-mpi — 最上級 nuor-in

② 2音節の語の比較級で、-a/-ä は-e-に変化する

hauska > hauske-mpi, kylmä > kylme-mpi

③ 最上級で、-i-と-ii-は-e-に変化する

siisti > siiste-in, kaunis > kaunii- > kaune-in

51-3. 不規則な比較変化をする語

次の語の比較級、最上級の形は不規則な部分がありますので注意してください。

原級	比較級	最上級
hyvä	pare-mpi	paras
pitkä	pite-mpi	pis-in
lyhyt	lyhye-mpi ~ lyhe-mpi	lyhy-in ~ lyh-in
uusi	uude-mpi	uus-in

51-4. 比較表現

1) 原級を使った比較表現

Haluaisin olla **yhtä** rohkea **kuin** sinä. あなたと同じくらい美しければよいのに

Minä **en ole yhtä** ~ **niin** kaunis **kuin** sinä. 私はあなたほど美しくない

Poikani on **samannäköinen kuin** mieheni. 私の息子は私の主人によく似ている

Tyttösi on **samanikäinen kuin** poikani. あなたの娘さんは私の息子と同じ年だ

2) 比較級を使った比較表現

比較の対象は **kuin** という語を使って表すのが一般的ですが、**kuin** を使わずに比較の対象を分格にして表すこともできます。その場合比較の対象は比較級の前に置くのがふつうです。

Sinä olet pitempi kuin minä. = Sinä olet minua pitempi.

あなたは私よりも背が高い

比較級を強めるのに **paljon** という語が使われます。

Sinä olet paljon pitempi kuin minä. あなたは私よりもずっと背が高い

比較級を使った表現で「**mitä** + 比較級, **sitä** + 比較級」という重要なものがあります。「...すればするほど, ますます~だ」, 「...であればあるほど, ますます~だ」というような意味を表します。

Mitä kalliimpi, sitä parempi. 高ければ高いほどよい

3) 最上級を使った比較表現

最上級に序数の変格の形をつけると「...番目に~」という意味になります。

Tampere on kolmanne-ksi suurin kaupunki Suomessa.

タンペレはフィンランドで3番目に大きい都市です

kaikkein は「すべてのうちで」という意味で最上級と結びつきます。

Harri on kaikkein pisin. ハッリは皆の中で一番背が高い

出格に「...のうちで」という働きがあり、最上級と結びつきます。

Harri on meistä pisin. ハッリは私たちの中で一番背が高い

最上級に **mitä** がついて「非常に...だ」という意味を表す場合があります。

Tämä maljakko on mitä kaunein. この花瓶はそれはそれは美しい

文法問題 51-1. 例にならって比較級と最上級を使った文を作りなさい.

例 : se, tämä, tuo (iso) ⇒ Se on isompi kuin tämä, mutta tuo on isoin.

それはこれよりも大きい、あれが最も大きい

- 1) televisio, radio, tietokone (kallis)
- 2) Matti, Pekka, Pauli (vanha)
- 3) Helena, Aulikki, Merja (pitkä)
- 4) autoni, autosi, hänen autonsa (hyvä)
- 5) hän, sinä, minä (rikas)
- 6) koira, kissa, tiikeri (painava)
- 7) bussimatka, junamatka, lentomatka (hauska)
- 8) äiti, isoäiti, tyttö (nuori)
- 9) matematiikka, biologia, kemia (vaikea oppiaine)
- 10) Vaasa, Turku, Rovaniemi (pohjoinen kaupunki)

文法問題 51-2. ()内の語を必要があれば適切な形に直しなさい.

- 1) Helsinki on (suuri) kaupunki kuin Turku.
ヘルシンキはトゥルクよりも大きな都市だ
- 2) Helsinki ei ole yhtä (vanha) kuin Turku.
ヘルシンキはトゥルクほど古くはない
- 3) Tampere on (kolmas) suurin kaupunki Suomessa.
タンペレはフィンランドで3番目に大きな都市である
- 4) Helsinki on (iso) ja Turku on (vanha) kaupunki Suomessa.
ヘルシンキはフィンランドで最大の、トゥルクは最古の都市である
- 5) Tanska on (pohjoismaat) pienin.
デンマークは北欧諸国のうちではもっとも小さい
- 6) Suomi on (Norja) isompi mutta (Ruotsi) pienempi
フィンランドはノルウェーより大きい、スウェーデンよりは小さい
- 7) Mitä (uusi) tietokone on, sitä (nopea) se on.
コンピュータは新しければ新しいほど速い
- 8) Espoo on toiseksi (suuri) kaupunki Suomessa.
エスポーはフィンランドでは2番目に大きな都市である

第 52 課 — Viideskymmeneskahdes kappale

- 52-1. 比較級と最上級の語幹
 52-2. 比較級と最上級の格変化一覧
 52-3. -mpi で終わる疑問詞と不定代名詞

52-1. 比較級と最上級の語幹

比較級や最上級は語幹の作り方が不規則なので注意して下さい。

	単数		複数	
	強階程語幹	弱階程語幹	強階程語幹	弱階程語幹
比較級 -mpi	-mpa-/-mpä-	-mma-/-mmä-	-mpi-	-mmi-
最上級 -in	-impa-/-impä-	-imma-/-immä-	-impi-	-immi-

① 比較級の語幹

比較級の -mpi は単数では -mpa-/-mpä- というように、最後の -i が -a-/-ä- に変化するのが特徴です。さらに階程交替で -mp- は -mm- に変化することがあります。複数では -mpi- となり、結果的に単数主格と同じ形になります。複数でも階程交替が起これば -mmi- となります。

② 最上級の語幹

最上級の -in は語幹では大きく変化します。単数語幹は -impa-/-impä- となりますが、やはり階程交替が起これば -imma-/-immä- となります。複数語幹は -impi- となり、階程交替が起これば -immi- となります。

③ 比較級と最上級の見分け方

最上級の語幹は、比較級の語幹と非常によく似てきます。ですから格変化をすると、比較級と最上級の区別をするのが難しくなります。たとえば nuori 「若い」の比較級 nuore-mpi と、最上級 nuor-in の接格はそれぞれ次のようになります。

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{nuore-mpi} > \text{単数接格 } \mathbf{nuore-mma-lla} \\ \text{nuor-in} > \text{単数接格 } \mathbf{nuor-imma-lla} \end{array} \right.$$

ほとんどの場合は -mp- : -mm- という音の前に -i があれば最上級、なければ比較級と判断すれば大丈夫です。ただ kaunis : kaunii-, siisti : siisti- のように語幹が -ii- か -i- で終わる語の場合には、比較級でも最上級でも -mp- : -mm- の前には -i が来ます。

kaunis	{	比較級 kaunii-mpi > 単数接格 kaunii-mma-lla
		最上級 kaune-in > 単数接格 kaune-imma-lla
siisti	{	比較級 siisti-mpi > 単数接格 siisti-mmä-llä
		最上級 siiste-in > 単数接格 siiste-immä-llä

このタイプでは **-ipm-:-imm-** の前に **-e-** があれば最上級、なければ比較級ということになります。ただ多くの場合、比較級か最上級は前後関係や、文の他の部分から判断できると思いますので、それほど心配する必要はないでしょう。

hyvä の最上級 paras は例外的な語です。単数語幹は parhaa-、複数語幹は parhai- となります。

ポイント 87 - 比較級と最上級の語幹		
	単数語幹	複数語幹
比較級 -mpi	-mpa-/-mpä- : -mma-/-mmä-	-mpi- : -mmi-
最上級 -in	-impa-/-impä- : -imma-/-immä-	-impi- : -immi-
paras	parhaa-	parhai-

52-2. 比較級と最上級の格変化一覧

halpa 「安い」を例に、その比較級と最上級の形を格変化させます。強階程の **-mp-** が現れているところだけ太字にしておきます。

	比較級		最上級	
	単数	複数	単数	複数
主格	halvempi	halvemma-t	halvin	halvimma-t
属格	halvemman	halvempi-en	halvimman	halvimpi-en
分格	halvempa-a	halvempi-a	halvin-ta	halvimpi-a
内格	halvemmassa	halvemmissa	halvimmassa	halvimmissa
出格	halvemmalta	halvemmilta	halvimmalta	halvimmilta
入格	halvempa-an	halvempi-in	halvimpa-an	halvimpi-in
所格	halvemmillä	halvemmillä	halvimmillä	halvimmillä
離格	halvemmillä	halvemmillä	halvimmillä	halvimmillä
向格	halvemmillä	halvemmillä	halvimmillä	halvimmillä
様格	halvempa-na	halvempi-na	halvimpa-na	halvimpi-na
変格	halvemmillä	halvemmillä	halvimmillä	halvimmillä

52-3. -mpi で終わる疑問詞と不定代名詞

次に上げる疑問詞や不定代名詞は-mpi で終わっていますが、変化するときには比較級と同じように変化をします。

① kumpi 「どちらが...ですか」

Kumpi on parempi? どちらの方がよいですか
Kumma-sta sinä pidät? どちらが好きですか
Kumpa-an maahan sinä matkustat? どちらの国へ旅行しますか

② kumpikin (kumpikaan) 「どちらも」

kumpi の部分が変化をします。否定文では-kin は-kaan に変わります。

Minä pidän **kumma-sta-kin**. どちらも好きです
Minä en pidä **kumma-sta-kaan**. どちらも好きではありません

③ jompikumpi 「どちらかが」

jompi-の部分と kumpi-の部分がどちらも比較級と同じように変化します。

Kysy jomma-lta-kumma-lta heistä. 彼らのどちらかに尋ねなさい
Olen siellä jompa-na-kumpa-na päivänä. 私はどちらかの日にそこにいます

④ molemmat 「両方とも」

molemmat は実は molempi の複数形です。ふつう複数形で使いますが、比較級の複数形と同じように変化をします。

Anna omena molemmi-ille. 両方にリンゴをあげなさい
En tarvitse molempi-a. 私は両方は必要ではない

ポイント 88 – 比較級と同じ変化をする語

次の語は比較級と同じように変化をします

kumpi	「どちらが...ですか」
kumpikin (kumpikaan)	「どちらも」
jompikumpi	「どちらか」
molemmat	「両方とも」

文法問題 52-1. ()内の語を比較級の適切な形に直しなさい.

- 1) Asun (suuri) kaupungissa kuin sinä. 私はあなたよりも大きな都市に住んでいる
- 2) Pidän (pieni) kaupungista. 私はもっと小さな都市が好きだ
- 3) Rakastan (pieni) kaupunkia. 私はもっと小さな都市が好きだ
- 4) Haluaisin muuttaa (pieni) kaupunkiin. 私はもっと小さな都市へ引っ越したい
- 5) Monet asuvat (pieni) kaupungeissa. 多くの方がもっと小さな都市にすんでいる
- 6) Monet muuttavat (suuri) kaupunkiin. 多くの方がより大きな都市へ引っ越す

文法問題 52-2. ()内の語を最上級の適切な形に直しなさい.

- 1) Asun Suomen (suuri) kaupungissa. 私はフィンランド最大の都市に住んでいる
- 2) En halua muuttaa (suuri) kaupungista. 私は最大の都市から引っ越したくない
- 3) Ihailen (suuri) kaupunkia. 私は最大の都市を賞賛している
- 4) Muuta sinäkin (suuri) kaupunkiin. あなたも最大の都市へ引っ越しなさい
- 5) Tokio on yksi maailman (suuri) kaupungeista. 東京は世界の大都市の1つだ
- 6) Tokio kuuluu maailman (suuri) kaupunkiin. 東京は世界の大都市の1つだ

文法問題 52-3. ()内の語を適切な形に直しなさい.

- 1) (kumpi) naista sinä rakastat? あなたはどちらの女性を愛しているのか
- 2) En rakasta (kumpikin). 私はどちらも愛していない
- 3) (kumpi) maahan haluat matkustaa? どちらの国へ旅行したいのですか
- 4) En halua matkustaa (kumpikin). どちらへも旅行したくない
- 5) (kumpi) taulusta tykkäät? どちらの絵が好きですか
- 6) En tykkää (kumpikin). どちらも好きではない
- 7) Sain kirjeen (jompikumpi) heistä. 私は彼らのどちらかから手紙をもらった
- 8) Hän muuttaa (jompikumpi) kaupunkiin. 彼女はどちらかの都市へ引っ越す
- 9) Rakastan (molemmat) poikia. 私は両方の少年を愛している
- 10) Pidän (molemmat) tytöistä. 私は両方の少女が好きだ
- 11) Heillä (molemmat) on oma talo. 彼らの両方とも自分の家を持っている
- 12) Käyn (molemmat) kaupoissa. 私は両方の店へ行って来る

第 53 課 — Viideskymmeneskolmas kappale

53-1. 副詞の比較変化

53-2. 注意すべき副詞の比較級と最上級

53-3. 注意すべき最上級の表現

53-1. 副詞の比較変化

形容詞の比較変化については 51 課と 52 課で学習しましたが、ここでは副詞の比較変化を学習します。形容詞は名詞を修飾する語ですが、ここで問題となる副詞は動詞を修飾する語です。たとえば「速い電車」の「速い」は形容詞ですが、「速く走る」の「速く」が副詞です。

12 課で形容詞に **-sti** をつけると副詞を作ることができることを勉強しました。たとえば **nopea** 「速い」から **nopeasti** 「速く」という語を作ることができました。ここで勉強するのは、この **nopeasti** 「速く」の比較級と最上級の形です。

ところで **nopeasti** の比較級と最上級は **nopeasti** からは作ることはできません。もっとも簡単な作り方は **nopea** という形容詞の比較級や最上級をもとにする方法です。まず、51 課で形容詞の比較級と最上級の作り方を復習してください。

たとえば **nopea** 「速い」の比較級は **nopeampi**、最上級は **nopein** となりました。これらの形ができれば、**nopeasti** 「速く」の比較級や最上級を作るのは簡単です。

1) 副詞の比較級

形容詞の比較級の印 **-mpi** を **-mmin** に変えれば副詞の比較級になります。

helppo	{	形容詞の比較級	helpo-mpi	より簡単な
		最上級の比較級	helpo-mmin	より簡単に
nopea	{	形容詞の比較級	nopea-mpi	より速い
		副詞の比較級	nopea-mmin	より速く
hidas	{	形容詞の比較級	hidaa-mpi	より遅い
		副詞の比較級	hidaa-mmin	より遅く

2) 副詞の最上級

形容詞の最上級の印 **-in** を **-immin** に変えれば副詞の最上級になります。

helppo	{	形容詞の最上級	helpo-in	もっとも簡単な
		副詞の最上級	helpo-immin	もっとも簡単に

nopea	{	形容詞の最上級 nopea-in	もっとも速い
		副詞の最上級 nope-immin	もっとも速く
hidas	{	形容詞の最上級 hita-in	もっとも遅い
		副詞の最上級 hita-immin	「もっとも遅く」

ポイント 89 - 副詞の比較変化 (形容詞との比較)					
原級		比較級		最上級	
形容詞	nopea	-mpi	nopea-mpi	-in	nope-in
副詞	nopeasti	-mmin	nopea-mmin	-immin	nope-immin

3) 比較の対象

比較の対象は **kuin** を使って表しますが、分格を使う場合もあります。

Ennen elettiin rauhallisemmin **kuin** nyt. = Ennen elettiin **nykyistä** rauhallisemmin.

以前は今より穏やかに暮らしていた。

Tämä kesä on kuumempi **kuin** tavallisesti. = Tämä kesä on **tavallista** kuumempi.

この夏は例年に比べて暑い。

53-2. 注意すべき副詞の比較級と最上級

原級		比較級		最上級	
hyvin	上手に	paremmin		parhaiten (~ parhaimmin)	
kauan	長い間	kauemmin		kauimmin	
aikaisin	早く	aikaisemmin		aikaisimmin	
myöhään	遅く	myöhemmin		myöhimmin	
harvoin	まれに	harvemmin		harvimmin	
usein	しばしば	useammin		useimmin	
paljon	たくさん	enemmän		eniten	
vähän	少し	vähemmän		vähiten	

また次の語にも注意してください。

原級		比較級		最上級	
mielillään	{ 喜んで	mielummin	どちらか というと	mieluiten	{ もっとも 好んで
mieluusti				mieluimmin	
pian	まもなく	pikemmin		pikimmin	

次の語は形の上では kova の分格です。

原級	比較級	最上級
kovaa 激しく	kovempaa	kovimpaa

53-3. 注意すべき最上級の表現

1) 形容詞の最上級 + -taan/-tään

いくつかの形容詞の最上級には **-taan/-tään** をつけた、「早くとも」・「遅くとも」・「多くとも」というような表現があります。

Tulen takaisin **aikaisintaan** tiistaina. 早くとも私が戻ってくるのは火曜日です
Hakijoiden pitää jättää hakemukset **viimeistään** perjantaina.

応募者は遅くとも金曜日には願書を提出しなければならない

Siellä oli **korkeintaan** kolmesataa ihmistä.

そこにはせいぜい（最高でも）300 人の人しかいなかった

Palkka riitti **enintään** asuntoon ja ruokaan.

給料はせいぜい（最大でも）住居費と食費に足りるくらいのものであった

Tässä tarvitaan **vähintään** kirvestä. ここでは少なくとも斧が必要だ

2) 形容詞の最上級の複数接格 + 所有接尾辞

形容詞の最上級の複数接格（**-immilla**）に所有接尾辞がついて、「もっとも～の状態に」というような意味を表します。

Tunnelma on **korkeimmillaan**. 雰囲気は最高潮に達している

Matkustan pohjoiseen kesällä, jolloin luonto on **kauneimmillaan**.

自然がもっとも美しい夏に北へ旅行する

Kesäpäivänseisaus on ajankohta, jolloin aurinko on **pohjoisimmillaan**.

夏至は、太陽がもっとも北にある時のことだ

Lama oli silloin **pahimmillaan**. 不況はその時期が最悪だった

ポイント 90 - 注意すべき最上級の表現

Tulen takaisin **aikaisintaan** tiistaina. 早くとも私が戻ってくるのは火曜日です

Tässä tarvitaan **vähintään** kirvestä. ここでは少なくとも斧が必要だ

Tunnelma on **korkeimmillaan**. 雰囲気は最高潮に達している

Lama oli silloin **pahimmillaan**. 不況はその時期が最悪だった

文法問題 53-1. 次の語を比較級と最上級に変化させなさい。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1) hitaasti 遅く | 2) laiskasti 怠けて |
| 3) varovaisesti 用心して | 4) ystävällisesti 親切に |
| 5) rumasti 卑劣に | 6) hauskasti 楽しく |
| 7) runsaasti 豊富に | 8) vilkkaasti 活発に |

文法問題 53-2. 例にならって、副詞の比較級を使って文を作りなさい。

例 : Älä aja niin hitaasti. そんなにゆっくり運転するな。

⇒ Aja hiukan nopeammin. ⇒もう少し早く運転しろ。

- 1) Älä puhu niin epäkohteliaasti.
- 2) Älä puhu niin epäselvästi.
- 3) Älä kirjoita niin epäsiististi.
- 4) Älä kirjoita niin tyhmästi.

文法問題 53-3. ()内の語を適切な形に直しなさい。

- 1) Hän osasi läksynsä (hyvin) kuin muut. 他の人たちより課題がうまくできた
- 2) Sympanssi on apinoista (paljon) ihmisen kaltainen.
チンパンジーは類人猿の中でいちばん人間に似ている
- 3) Haluatko (mieluusti) teetä kuin kahvia? コーヒーよりもお茶の方がいいか
- 4) Mitä (pian), sitä parempi. 早ければ早いほどよい
- 5) Puhu (kovaa)! もっと大きな声で話せ
- 6) Saavuimme (aikaisin) kuin muut. 我々は他の人たちよりも早く着いた
- 7) Käymme teatterissa (usein) kuin kerran kuukaudessa. 1ヶ月に1回以上劇場に行く
- 8) Käymme elokuvissa entistä (harvoin). 映画に行くのは以前よりもまれだ
- 9) Viivyn (korkea) tunnin. せいぜい1時間だけとどまる
- 10) Tuo kone maksaa (vähän) 1000 euroa. あの機械は少なくとも千ユーロはする
- 11) Se on valmis (aikainen) huomenna. それが出来上がるのは早くとも明日だ
- 12) Kesä on nyt (heleä). 夏は今もっとも青々としている時期だ
- 13) Lapissa ruska on (kaunis). ラップランドでは紅葉がいちばん美しい時期だ

第 54 課

Viideskymmenesneljäs kappale

54-1. 第 1 不定詞長形

54-2. 複数形で使われる語

54-1. 第 1 不定詞長形

第 1 不定詞長形と呼ばれる形は、不定詞（厳密には第 1 不定詞短形）に **-kse-** をつけて作ることができますが、その後には必ず所有接尾辞をつけます。したがって、たとえば *juoda* という動詞の第 1 不定詞長形の形は次のようになります。

{ *juoda-kse-ni*, *juoda-kse-si*, *juoda-kse-en/juoda-kse-nsa*,
juoda-kse-mme, *juoda-kse-nne*, *juoda-kse-en/juoda-kse-nsa*

次に第 1 不定詞長形の働きを学習します。

- 1) もっとも代表的な働きは目的を表す、というものです。

Emme elä syödäksemme, vaan syömmе elääksemme.

我々は食べるために生きるのではなく、生きるために食べる

Hän tuli lähemmäksi nähdäkseen tarkemmin.

彼/彼女はもっと良く見るために近くへ来た

- 2) 「～しそうなくらい」という意味を持つことがあります。

Nauroin ihan kuollakseni. 私は死にそうなくらい笑った

- 3) 「～するには」という働きをします。

Tehtävä oli vaikea toteuttaaksesi.

その仕事は、あなたが成し遂げるには難しかった

Paketti on liian painava kantaakseni yksin.

包みは私が一人で運ぶには重すぎる

- 4) 「～する限りでは」というような意味を持つ重要な表現がいくつかあります。

käsittääkseni 私の理解するところでは **luullakseni** 私の思うところでは

muistaakseni 私の覚えている限りでは **nähdäkseni** 私の知る(見る)限りでは

tietääkseni 私の知る限りでは **niin sanoakseni** 私に言わせれば、いわば

toden sanoakseni 正直に言えば、本当のことを言えば

たとえば **tietääkseni** は *mikäli tiedän* 「私の知る限りでは」とも言えます。

ポイント 90 – 第 1 不定詞長形

Emme elä **syödäksemme**, vaan syömmе **elääksemme**.

我々は食べるために生きるのではなく、生きるために食べる

Nauroin ihan **kuollakseni**. 私は死にそうなくらい笑った

Tehtävä oli vaikea **toteuttaaksesi**.

その仕事は、あなたが成し遂げるには難しかった

käsittääkseni 私の理解するところでは

muistaakseni 私の覚えている限りでは

tietääkseni 私の知る限りでは

54-2. 複数形で使われる語

次のような語は複数形で使うのがふつうです。複合語の第 1 要素となるような場合には単数形が現れる場合がありますが、それ以外の場合には原則として複数形しか使われません。

1) aivot 「脳」、kasvot 「顔」

Ajattele omilla **aivoillasi**. 自分の頭で考えろ

2) housut 「ズボン」、sakset 「はさみ」、silmlälasit 「メガネ」

Leikkaa **saksilla**. はさみで切りなさい

3) 儀式や集会

häät 「結婚式」、kilpailut 「競技会」、kutsut 「パーティー」、

olympialaiset 「オリンピック」、pidot 「宴会、パーティー」、

valtiopäivät 「議会、議会の会期」、hautajaiset 「葬儀」、ristiäiset 「洗礼式」

Tapasin hänet eräillä **kutsuilla**. あるパーティーで彼/彼女に会った

Eduskunta kokoontuu **valtiopäiville**. 議会は会期のため集まる

4) 「兄弟」、「姉妹」など

veljekset 「兄弟」、sisarukset 「兄弟姉妹」、serkukset 「いとこ」、

naapurukset 「隣人」

veli 「兄、弟」、sisar 「姉、妹」、serkku 「いとこ」、naapuri 「隣人」に対して、ここに挙げた語は「たがいに」という意味を含んでいて複数形で使うのがふつうです。ただ、たとえば数詞がついた場合には単数分格になります（それぞれ単数主格は veljes、sisarus、serkus、naapurus です）。

He ovat **veljekset** (**veljeksia**). 彼らは兄弟だ

Me olemme **serkukset** (**serkuksia**). 我々はいとこどうしだ

Perheessä oli seitsemän **sisarusta**. その一家には7人の兄弟姉妹がいた

5) 内格・出格・入格で現れるもの

eksyksissä「迷って」、hämmästyksissä「驚いて」、juovuksissa「酔っ払って」、
jännityksissä「緊張して」、kadoksissa「行方不明で」、kateissa「行方不明で」、
kihloissa「婚約して」、naimisissa「結婚して」、tekemisissä「関係して」、
uuvuksissa「疲れ果てて」

Lapset joutuivat **eksyksiin**. 子どもたちは迷ってしまった

Hän on **naimisissa** työnsä kanssa. 彼/彼女は仕事と結婚しているようだ

6) 所有接尾辞のつくもの

epätoivoissani「絶望して」、hädissäni「驚き慌てて」、ihmeissäni「驚いて、不思議
そうに」、innoissani「夢中になって」、kauhuissani「怖くて」、
raivoissani「怒って」、riemuissani「喜んで」、tosissani「真剣に、本気で」、
vakavissani「真面目に」、vihoissani「怒って」

Olin asiasta ihan **innoissani**. 私はそのことに夢中だった、興奮した

Pakenin **kauhuissani**. 私は恐怖で逃亡した

Oletko **tosissasi** vai lasketko leikkiä? 本気なのか、それとも冗談を言っているのか

7) 接格・奪格・向格で現れるもの

hereillä「目覚めて、起きて」、valveilla「目覚めて、起きて」

Yritin ravistaa häntä **hereille**. 彼/彼女を起こそうと揺すった

8) 内格・出格・入格と接格・奪格・向格の形のあるもの

kuuluvissa「聞こえる範囲に」、näkyvissä「見える範囲に」、

Päästään pois toisten **kuuluvilta**! 他の人たちに聞こえないところへ行こう

Metsän takaa tuli **näkyviin** talo. 森の向こうから家が見えてきた

Pysyttele poissa muiden **näkyvistä/näkyviltä**. 他の人たちの見えないところにいる

ポイント 92 - 複数形で使われる語

Tapasin hänet eräillä **kutsuilla**. あるパーティーで彼/彼女に会った

Perheessä oli seitsemän **sisarusta**. その一家には7人の兄弟姉妹がいた

Lapset joutuivat **eksyksiin**. 子どもたちは迷ってしまった

Oletko **tosissasi** vai lasketko leikkiä? 本気なのか、それとも冗談を言っているのか

Metsän takaa tuli **näkyviin** talo. 森の向こうから家が見えてきた

文法問題 54-1. 例にならって書き換えなさい。

例 : Menin kurssille; opin jotakin uutta.

→ Menin kurssille oppiakseni jotakin uutta.

何か新しいことを学ぶために、その講座へ出かけた

- 1) Ajoin huoltoasemalle; otin bensiiniä.
- 2) Kirjoitit lehteen; vaikutit toisten mielipiteisiin.
- 3) Hän avasi radion; kuunteli musiikkiohjelmia.
- 4) Luin koulussa paljon; pärjäsin paremmin kuin muut.
- 5) Olimme kesällä työssä; saimme rahaa opiskelua varten.
- 6) Soititte heille; kutsuite heidät saunaan.
- 7) Monet juovat; he unohtavat surunsa.
- 8) Tein tämän; autoin sinua.
- 9) Siskoni ajoi autonsa pihalle; hän pesi sen.
- 10) Opiskelemme; pääsemme eteenpäin elämässä

文法問題 54-2. 下線部を第 1 不定詞長形を使って言い換えなさい。

- 1) Mikäli tiedän, suomi ja unkari ovat sukulaiskieliä.
- 2) Mikäli ymmärrän, ne ovat kaukaisia sukulaisia.
- 3) Mikäli muistan, eestin kieli on läheistä sukua suomella.
- 4) Mikäli voin nähdä, ne ovat hyvin erilaisia kieliä kuin useimmat muut Euroopan kielet.

文法問題 54-3. ()内に入れるのに適切な語を下より選びなさい。

- 1) Meidät on kutsuttu hänen (). 我々は彼/彼女の葬儀に呼ばれている
- 2) Onnettomuuden uhreista on puolet (). 自己の犠牲者のうち半数は行方不明だ
- 3) Sillä ei ole mitään () tämän kanssa. それはこれとは何の関係もない
- 4) Hän joi itsensä (). 彼/彼女は酔いつぶれるまで飲んだ
- 5) He olivat kovin () tapahtuneesta. 彼らは起こったことにひどく驚いている
- 6) Hän uskoi () horoskooppeihin. 彼/彼女は真面目にホロスコープを信じている
- 7) Kukaan ei ollut (). 誰も見えなかった
- 8) Sain ääneni (). 私は自分の声を聞かせることができた

[a. tekemistä, b. juovuksiin, c. kuuluviin, d. näkyvissä, e. hautajaisiin, f. kateissa,
g. ihmeissään, h. vakavissaan]

第 55 課 — Viideskymmenesviides kappale

55-1. 動詞のタイプ 6

53-2. toinen の使い方

53-3. 数の表現

55-1. 動詞のタイプ 6

動詞の最後のタイプを学習しますが、タイプ 6 の動詞と呼ぶことにします。タイプ 6 の動詞はタイプ 4 や 5 と同じく **-ta/-tä** で終わります。そのうちタイプ 5 の動詞の多くは、**-ita/-itä** で終わるものでした (**-ita/-itä** で終わっていてもタイプ 4 に入る動詞もあります)。

タイプ 6 に入る動詞の多くは **-eta/-etä** で終わっています。しかし、たとえば **parata** 「良くなる」のような例外もあります。逆に **haljeta** 「裂ける」のように **-eta/-etä** で終わっていてもタイプ 4 に入るものもあります。

タイプ 6 に入る動詞の多くは形容詞から派生していて、「より～になる」というような意味を持ち、たとえば **suureta** は「(より)大きくなる」という意味です。

タイプ 6 の動詞の現在語幹は **-ta/-tä** を **-ne-** に変えて得られます。

suureta > 現在語幹 **suurene-** > 過去語幹 **suureni-**

さらに階程交替のある語では、不定詞に弱階程が、そして現在語幹や過去語幹に強階程が現れます(つまりタイプ 4 の動詞と同じです)。

pidetä 「(より)長くなる」> 現在語幹 **pitene-** > 過去語幹 **piteni-**

vaieta 「黙る」> 現在語幹 **vaikene-** > 過去語幹 **vaikeni-**

過去分詞の作り方や、命令法の形の作り方など他の点では、タイプ 6 の動詞はタイプ 4 の動詞と同じです。

ポイント 93 —タイプ 6 の動詞		
不定詞	現在語幹	過去語幹
suureta 「大きくなる」	suurene-	suureni-
pienetä 「小さくなる」	pienene-	pieneni-
pidetä 「長くなる」	pitene-	piteni-
vaieta 「黙る」	vaikene-	vaikeni-

55-2. toinen の使い方

toinen を複数形にして所有接尾辞をつけると、「おたがい」という意味で使うことができます。あるいは単数の **toinen** をふたつつなげる表現もあります。その場合には最初の **toinen** は単数主格、ふたつめの **toinen** は単数の必要な形に変化させ、所有接尾辞をつけます。

Autamme toisiamme/toinen toistamme. 我々はたがいに助け合う

Auttakaa toisianne/toinen toistanne. あなた方はたがいに助け合いなさい

He auttavat toisiaan/toinen toistaan. 彼らはたがいに助け合う

Pidämme toisistamme/toinen toisestamme. 我々はたがいに好き合っている

He ovat luodut toisilleen. 彼らはたがいのために生まれてきた（造られている）

Missä te tutustuitte toisiinne? あなた方はどこで知り合ったのか

Veljekset ovat aivan toistensa näköiset. その兄弟はたがいにそっくりだ
また **toinen** は「一方、もう一方」というような意味で使われます。

Veljeksistä toinen on naimisissa, toinen eronnut.

兄弟のうち一方は結婚していて、もう一方は離婚している

ポイント 94 – toinen
Auttakaa toisianne/toinen toistanne. あなた方はたがいに助け合いなさい
Pidämme toisistamme/toinen toisestamme. 我々はたがいに好き合っている
Missä te tutustuitte toisiinne? あなた方はどこで知り合ったのか
Veljekset ovat aivan toistensa näköiset. その兄弟はたがいにそっくりだ
Veljeksistä toinen on naimisissa, toinen eronnut.
兄弟のうち一方は結婚していて、もう一方は離婚している

55-3. 数の表現

1) **ykkönen, kakkonen, kolmonen, nelonen, など**

次に挙げる数字は順位、成績、あるいはバスや路面電車の番号などに関して使います。

ykkönen, kakkonen, kolmonen, nelonen, viitonen, kuutonen, seitsemän (seiska),

kahdeksikko (kasi), yhdeksikkö (ysi), kymppi

Hän on kilpailussa ykkönen ja olin kakkonen.

彼/彼女は競技で1位だったが、私は2位だった

Hänellä on **kymppi** suomessa, mutta **viitonen** matematiikassa.

彼/彼女はフィンランド語の成績は 10 だったが、数学は 5 だった

Kolmosen raitiovaunu menee Kauppatorille.

3 番の路面電車はカウッパトリで行く

2) yksiö, kaksio, komio, neliö

yksiö は一部屋のアパート、kaksio は 2 部屋のアパート、kolmio は 3 部屋あるアパートを指します。kolmio にはまた「三角形」という意味もあります。neliö は「四角形」、「平方メートル（正確には neliömetri）」という意味です。

3) 少数・分数

少数点のことは pilkku と言いますので、たとえば 5,7% は viisi pilkku seitsemän prosenttia と読みます。

分数の分子は基数で表します。分母を表す一般的な表現は、序数に osa 「部分」という語をつけるというものです。たとえば「3 分の 1」の分子の「1」は yksi ですが、分母の「3 分の」は kolmasosa です。したがって「3 分の 1」は yksi kolmasosa という言い方になります（ただし yksi はしばしば省略します）。「3 分の 2」は kaksi kolmasosaa となります（kaksi がついたので、分母は kolmasosa-a と分格になっています）。また kolmannes 「3 分の 1」、neljännes 「4 分の 1」、viidennes 「5 分の 1」という言い方もあります。これらは序数の弱階程語幹に -s をつけたものです。これを使えば kaksi kolmannesta 「3 分の 2」、kolme neljännestä 「4 分の 3」、neljä viidennestä 「5 分の 4」というような表現になります。また neljännes は「15 分」という意味で時刻に関して使われます。「1 と 2 分の 1」には puolitoista という特別な語がありますが、もちろん yksi ja puoli という表現も可能です。「7 と 6 分の 3」は seitsemän ja kolme kuudesosaa (kuudennesta) となります。

4) yksinkertainen, kaksinkertainen, kolminkertainen, nelinkertainen など

これらは「2 倍の、2 重の」というような意味になります。

yksinkertainen, kaksinkertainen, kolminkertainen, nelinkertainen, viisinkertainen,

kuusinkertainen, seitsenkertainen, kahdeksankertainen, yhdeksänkertainen, kymmenkertainen

5) kolmisen, nelisen, viitisen, kuutisen など

これらは「約 3、およそ 4」というような意味です。

kolmisen, nelisen, viitisen, kuutosen, seitsemisen, kahdeksisen, yhdeksisen, kymmenisen

6) kymmenkunta, satakunta, tuhatkunta

「約 10、約 100、約 1000」というような意味になります。

文法問題 55-1. () 内の動詞を適切な形に直しなさい。

- 1) Menot lisääntyvät, kun tulot (suureta). [現在形]
収入が拡大すれば支出も増加する。
- 2) Vanhan tavaran kysyntä (pieneta), kun uusi tavara ilmestyy. [現在形]
新しい商品が現れると、古い商品に対する需要は縮小する。
- 3) Yö (pidetä) päivästä päivään. [現在形] 日に日に夜が長くなる。
- 4) Hän (vaieta) kesken puheensa. [過去形] 彼/彼女は話の途中で黙ってしまった。
- 5) Passini on päässyt (vanheta). [第3不定詞入格]
私のパスポートは古くなってしまった(失効してしまった)。
- 6) Rikollinen (paeta) rikospaikalta autolla. [過去形]
犯罪者は現場から自動車で逃走した。
- 7) (rohjeta) astua sisään. [過去・否定形] 私は中に入る勇気がなかった。
- 8) (tarjeta) noissa vaatteissa? [現在形] そんな服で、あなたは暖かいですか。

文法問題 55-2. toinen を適切な形にして入れなさい。

- 1) He tykkäävät (). 彼らは好き合っている
- 2) Me rakastamme (). 私たちは愛し合っている
- 3) Te tutustuitte () eräänä päivänä. あなた方はある日知り合いになった
- 4) Saimme kirjeitä (). 我々はおたがいから手紙を受け取った
- 5) He antavat lahjoja (). 彼らはおたがいに贈り物を贈り合う
- 6) Luut liittyvät () nivelillä. 骨は関節でおたがいにつながっている
- 7) Aika on etäännyttänyt luokkatoverit (). 時が級友をたがいから遠ざけた
- 8) Heidän kätensä hakivat (). 彼らの手はおたがいを求め合った
- 9) Sisarukset olivat luonteeltaan () vastakohtia. 兄弟は性格的に正反対だった
- 10) He ovat kaukaista sukua (). 彼らはたがいに遠い親戚だ

文法問題 55-3. () に適切な語を入れなさい。

- 1) Hän saapui maaliin (). 彼/彼女は2位でゴールした
- 2) Asun () ja sinä asut (). 私は1部屋、君は2部屋の住居に住んでいる
- 3) Vienti on kasvanut (). 輸出は2倍に成長した
- 4) Siitä on () viikkoa. それからおよそ3週間だ
- 5) Putkassa yöpyi () poliisin asiakasta. 刑務所には10名ほどの連中が泊まった

第 56 課

Viideskymmeneskuudes kappale

- 56-1. 分詞について
- 56-2. 能動現在分詞
- 56-3. 能動過去分詞
- 56-4. 名詞として使われる形容詞

56-1. 分詞について

動詞には「動名詞」と呼ばれる形がありましたが、それは名詞の働きをする動詞の形です。それに対して「分詞」は、形容詞の働きをする動詞の形です。形容詞の働きをするということは、名詞の前について名詞を修飾する、ということだと考えて下さい。日本語では「少年は走る」という文の動詞「走る」を、そのままの形で名詞につけて「走る少年」と言うことができますが、フィンランド語では前者の場合には現在形を使い、後者のように名詞につく場合には現在分詞という別の形を使わなければなりません。同様に「木が倒れた」という文の「倒れた」はフィンランド語では過去形や現在完了形になりますが、「倒れた木」というふうに名詞につける場合には過去分詞と呼ばれる形を使うこととなります。このように、形容詞と同じように名詞を修飾できる動詞の形を分詞と呼びます。

56-2. 能動現在分詞

1) 能動現在分詞の作り方

能動現在分詞は「～する、～している」という意味で、名詞につく形です。現在分詞の印は **-va / -vä** で、(強階程母音) 語幹につけますが、簡単な作り方は、3人称複数の現在形から最後の **-t** を取るという方法です。

- lentää 「飛ぶ」 > (強階程) 語幹 **lentä-** > 現在分詞 **lentä-va**
- lentää > 3人称複数・現在形 **lentävät** > 現在分詞 **lentävä**
- tehdä > (強階程母音) 語幹 **teke-** > 現在分詞 **teke-va**
- tehdä > 3人称複数・現在形 **tekevät** > 現在分詞 **tekevä**

2) 能動・現在分詞の格変化

分詞は形容詞ですから、修飾する名詞が格変化すれば分詞自体も格変化します。

能動現在分詞では、もとの形である単数主格**-va / -vä**がそのまま単数語幹になり、階程交替ありません。複数語幹は**-vi-**となります。特に3人称複数の現在形と、現在分詞の複数主格は同じ形になりますので注意して下さい。

Ulkomaalaiset opiskeijat **asuvat** Suomessa. (3人称複数・現在形)

その外国の学生たちはフィンランドに住んでいる。

Suomessa **asuvat** opiskelijat ovat kotoisin monista eri maista. (現在分詞の複数主格)

フィンランドに住んでいる外国の学生たちは、様々な国の出身だ。

Tässä koulussa on paljon Suomessa **asuvia** ulkomaalaisia. (現在分詞の複数分格)

この学校にはフィンランドに住んでいる外国人がたくさんいる。

3) 能動現在分詞の働き

「～する、～している」という意味で名詞を修飾します。つまり関係代名詞の代わりをすることができます。

vauva, joka nukkuu = **nukkuva** vauva 眠っている赤ん坊

papukaija, joka puhuu = **puhuva** papukaija 話をするオウム

分詞には、その目的語やそれを修飾する副詞などをつけることができますが、その場合には必ず分詞の前におきます。

poika, joka soittaa pianoa = **pianoa soittava** poika ピアノを弾く少年

tyttö, joka istuu tuolla = **tuolla istuva** tyttö あそこに座っている少女

結果的に分詞を使ったフィンランド語の表現は、日本語と同じ語順になるのがふつうです。

ポイント 95 – 能動現在分詞
vauva, joka nukkuu = nukkuva vauva 眠っている赤ん坊
poika, joka soittaa pianoa = pianoa soittava poika ピアノを弾く少年

56-3. 能動過去分詞

1) 能動過去分詞の格変化

能動過去分詞の作り方については 36 課で学習しましたので、そこを復習して下さい。過去分詞の単数主格は**-ut/-yt**で終わりますが、母音語幹では**-ee-**に変化します。つまり単数の格変化をさせる場合には**-ut/-yt**を**-ee-**に変えてから格語尾をつけます。ただし単数分格だけは単数主格に直接**-ta/-tä**をつけて作りますので、**-ut-ta/-yt-tä**という形になります。複数語幹は**-ei-**となります。

2) 能動過去分詞の働き

現在分詞とちがい、過去分詞は「～した、～してしまった」という意味を持って、名詞を修飾します。ですから、たとえば現在分詞を使って **palava talo** と言えば「(今) 燃えている家」という意味ですが、過去分詞を使って **palanut talo** と言えば「(もうすでに) 燃えてしまった家」という意味になります。

palanut talo = talo, joka on palanut (~ paloi ~ oli palanut)

燃えてしまった家

pudonnut omena = omena, joka on pudonnut (~ putosi ~ oli pudonnut)

落ちてしまったリンゴ

また、目的語や場所を表す副詞などを過去分詞の前につけることができる、というのも現在分詞の場合と同じです。

kirjoja ostanut mies = mies, joka on ostanut (~ osti ~ oli ostanut) kirjoja

本を買った男

maahan pudonnut omena = omena, joka on pudonnut (~ putosi ~ oli pudonnut) maahan

地面に落ちてしまったリンゴ

ポイント 96 – 能動過去分詞
pudonnut omena = omena, joka on pudonnut (~ putosi ~ oli pudonnut)
落ちてしまったリンゴ
maahan pudonnut omena = omena, joka on pudonnut (~ putosi ~ oli pudonnut) maahan
地面に落ちてしまったリンゴ

56-4. 名詞として使われる形容詞

フィンランド語では、形容詞はそのまま名詞として使うことができます。

Kaikki hyödyllinen ei ole kaunista. 便利なものが必ずしも美しいわけではない

Nuoret eivät aina ymmärrä vanhoja. 若者は必ずしも年配の者を理解しない

分詞は形容詞に相当するものですから、やはりそのまま名詞として使うことができます。

Tampereelle **matkustavia** pyydetään siirtymään koneeseen.

タンペレへ旅行の方は機内へ移動してください

Oulusta **tulleet**, olkaa hyvä ja näyttäkää matkalippunne.

オウルから来た方々、切符をお見せください

文法問題 56-1. 例にならって分詞を使った表現を作りなさい。

例 : Lintu laulaa. 鳥が歌っている ⇒ laulava lintu 歌っている鳥

- 1) Kaupunki kasvaa.
- 2) Lapsi leikkii.
- 3) Nukke tanssii.
- 4) Aika sopii.
- 5) Lumi sulaa.
- 6) Asia kiinnostaa.
- 7) Kissa juo maitoa.
- 8) Koululainen tulee elokuvista.
- 9) Poika tarvitsee apua.
- 10) Tyttö tekee kotitehtäviä.

文法問題 56-2. 各文を、関係代名詞の代わりに分詞を使って書き換えなさい。

- 1) Asun kaupungissa, joka kasvaa.
- 2) Tuolla on kaksi miestä, jotka puhuvat norjaa.
- 3) Tämä on sopiva lahja henkilölle, joka tupakoi.
- 4) Elämme maailmassa, joka muuttuu.
- 5) Kylässä on paljon ihmisiä, jotka ovat eläkkeellä.
- 6) Nousemme junaan, joka menee Jyväskylään.

文法問題 56-3. 例にならって分詞を使った表現を作りなさい。

例 : Talo on palanut. 家は燃えてしまった ⇒ palanut talo 燃えてしまった家

- 1) Lompakko on kadonnut.
- 2) Lintu kuoli.
- 3) Kokous on päättynyt.
- 4) Puu kaatui.
- 5) Laiva on lähtenyt Turkuun.
- 6) Lentokone laskeutui lentokentälle.
- 7) Taiteilija maalasi tämän taulun.
- 8) Opiskelija on opiskellut suomea kaksi vuotta.
- 9) Nuori mies rakastui naapurityttöön.
- 10) Lehtimies on matkustanut paljon.

文法問題 56-4. 各文を、関係代名詞の代わりに分詞を使って書き換えなさい。

- 1) Oliko kirjeessä, joka tuli aamulla, mitään erikoista?
- 2) Oletko nähnyt lompakkoani, joka on kadonnut?
- 3) Maa oli märkää lumesta, joka oli sulanut.
- 4) Voit kertoa tästä kaikille, jotka ovat kiinnostuneet asiasta.
- 5) On vaikea matkustaa lasten kanssa, jotka ovat väsyneet.
- 6) Joko löysitte lapsen, joka oli eksynyt metsään?

第 57 課

Viideskymmenesseitsemäs kappale

57-1. 受動現在分詞

57-2. 受動過去分詞

57-1. 受動現在分詞

ここでは受動の分詞を学習します。能動の分詞と同じように、受動の分詞にも現在分詞と過去分詞があります。能動の分詞に対して受動の分詞は「～される、～された」というような意味を表します。

1) 受動現在分詞と受動過去分詞の作り方

受動の分詞は、受動の過去形から作るのが一番簡単です。受動形については 48 課でまとめましたので復習して下さい。受動形過去の最後の **-iin** を **-u/-y** に変えると受動の過去分詞になりましたが、**-iin** を **-ava/-ävä** に変えると受動現在分詞になります。

kirjoittaa > 受動形現在 kirjoitetaan

> 受動形過去 kirjoitettiin

{ > 受動過去分詞 kirjoitettu

{ > 受動現在分詞 kirjoitettava

2) 受動現在分詞の格変化

-ava/-ävä をつけた単数主格の形がそのまま単数語幹となります。複数語幹では **-avi/-ävi-** となります。その他には何の変化も起こりません。

3) 受動現在分詞の用法

この分詞は、それが修飾する名詞との関係からすると、「～される、～されている」という受動の意味を持ちます。

Ei tämä ole mikään **pelättävä koir**a. (pelätä 「怖がる」)

これは怖い犬なんかではない (犬＝怖がられる)

Onko teillä **tarvittava pääoma**? (tarvita 「必要とする」)

あなた方には必要な資本があるのか (資本＝必要とされる)

受動現在分詞にはしばしば、「～されるべき」という意味が含まれます。

Nämä ovat **pestävät astiat**. (pestä 「洗う」)

これらは洗わなければならない食器だ (食器＝洗われる)

Viimeinen **suoritettavista töistä** on vaikein.

やるべき仕事のうち最後のがもっとも難しい (仕事＝なされる)

さらに「～されることのできる」という意味を持つこともあります。

Tämä ei ole **syötävä sieni**.

これは食べることのできるキノコではない (キノコ＝食べられる)

On **ymmärrettävää, että hän on vihainen meille**.

彼/彼女が我々に腹を立てているのは理解できることだ

(彼/彼女が我々に腹を立てている＝理解される)

受動現在分詞の特別な働きとして「on + 受動現在分詞」という形に注意して下さい。この形は「～しなければならない」という意味を表します。そして日本語にしたときに、主人公になる人物などは属格の形にします。

Nyt **minun on syötävä**. さあ私は食事をしなければならない

Onko sinun lähdettävä? あなたは出かけなければならないのか

Teidän on muistettava tämä. あなた方はこれを覚えておかなければならない

また形容詞が単独で名詞として使われるのと同じように、分詞も単独で名詞として使われることがあります。とくに受動現在分詞には、単独で名詞として使われるものが多くあります。

Minulla ei ole muuta **sanottavaa**. 私には他に言うべきことはない

Haluaisitko juotavaa? 何か飲むものをお望みですか

Anna minulle jotakin **luettavaa**. 私に何か読むものをください

Lapsilla ei ole mitään **tehtävää**. 子どもたちには何もすることがない

ポイント 97 - 受動現在分詞

Onko teillä tarvittava pääoma? あなた方には必要とされている資本があるのか

Nämä ovat **pestävät astiat**. これらは洗わなければならない食器だ

Tämä ei ole **syötävä sieni**. これは食べることのできるキノコではない

Nyt **minun on syötävä**. さあ私は食事をしなければならない

Onko sinun lähdettävä? あなたは出かけなければならないのか

Haluaisitko juotavaa? 何か飲むものをお望みですか

57-2. 受動過去分詞

1) 受動過去分詞の格変化

受動過去分詞は**-ttu/-tty**、あるいは**-tu/-ty** で終わっています。したがって階程交替が起こる場合があります。

	単数語幹	複数語幹
sanottu	sanottu-/sanotu-	sanottui-/sanotui-
syöty	syöty-/syödy-	syötyi-/syödyi-
tultu	tultu-/tullu-	tultui-/tullui-
menty	menty-/menny-	mentyi-/mennyi-
purtu	purtu-/purru-	purtui-/purru-
pesty	pesty-	pesty-
tavattu	tavattu-/tavatu-	tavattui-/tavatui-

2) 受動過去分詞の用法

この形は「～された、～されてしまった」という意味で形容詞としての働きをします。もちろん名詞の前について名詞を修飾したり、あるいは単独で現れることもあります。

Tuolla on syksyllä **rakennettu** talo.

あそこに秋に建てられた家がある

He muuttivat syksyllä **rakennettuun** taloon.

彼らは秋に建てられた家へ引っ越した

He nyt asuvat syksyllä **rakennetussa** talossa.

彼らは秋に建てられた家に住んでいる

Meille tarjotaan uunissa **paistettuja** perunoita.

私たちには、オーブンで焼いたジャガイモが出される

Eilen **syödyt** piirakat eivät olleet hyviä.

昨日食べたパイはおいしくなかった

ポイント 98 – 受動過去分詞

Tuolla on syksyllä **rakennettu** talo. あそこに秋に建てられた家がある

He muuttivat syksyllä **rakennettuun** taloon. 彼らは秋に建てられた家へ引っ越した

He nyt asuvat syksyllä **rakennetussa** talossa. 彼らは秋に建てられた家に住んでいる

文法問題 57-1. 例にならって分詞を使った表現を作りなさい。

例 : kokous, joka järjestetään Brysselissä ブリュッセルで催される会議

⇒ Brysselissä järjestettävä kokous

- 1) kirja, joka käännetään suomeksi
- 2) kirje, joka kirjoitetaan tietokoneella
- 3) tavara, joka ostetaan kaupasta
- 4) lahja, joka annetaan isälle
- 5) filmi, joka esitetään elokuvateatterissa
- 6) paketti, joka lähetetään Helsinkiin

文法問題 57-2. 各文を、関係代名詞の代わりに分詞を使って書き換えなさい。

- 1) Tämä on sieni, jonka voi syödä.
- 2) Tässä on kirje, johon täytyy vastata.
- 3) Rahausumma, joka tarvitaan, on 100 euroa.
- 4) Teksti, joka täytyy lukea, on pitkä.

文法問題 57-3. ()内の動詞を受動現在分詞の適切な形に直しなさい。

- 1) Metsässä on paljon (syödä) sieniä.
- 2) (myydä) taulun hinta on 200 000 euroa.
- 3) Osallistun Tampereella (järjestää) kilpailuun.
- 4) Onko teillä jotakin (syödä)?
- 5) Kirjoita (muistaa) asiat aina paperille.
- 6) (lukea) tekstien aihe on ihmisoikeudet.

文法問題 57-4. 次の文を受動現在分詞を使って書き換えなさい。

- 1) Milloin minun täytyy tulla?
- 2) Veljeni täytyy soittaa kotiin.
- 3) Kaikki kotitehtävät täytyy tehdä.
- 4) Täytyykö sinun käydä suihkussa?

文法問題 57-5. 例にならって分詞を使った表現を作りなさい。

例 : kokous, joka on järjestetty Brysselissä ブリュッセルで催された会議

⇒ Brysselissä järjestetty kokous

- 1) kirja, joka on käännetty suomeksi
- 2) kirje, joka kirjoitettiin tietokoneella
- 3) tavara, joka on ostettu kaupasta
- 4) lahja, joka annettiin isälle
- 5) filmi, joka esitettiin elokuvateatterissa
- 6) paketti, joka on lähetetty Helsinkiin

文法問題 57-6. 各文を、関係代名詞の代わりに分詞を使って書き換えなさい。

- 1) Pane kupit, jotka on pesty, tuolle hyllylle.
- 2) En pidä laukuista, jotka on tehty muovista.
- 3) Matti vaihtoi autonsa, joka oli käytetty, uuteen.
- 4) Tässä on viisi puseroa, jotka on silitetty.

第 58 課

Viideskymmeneskahdeksas kappale

58-1. 行為者分詞

58-2. 分詞のまとめ

58-1. 行為者分詞

1) 行為者分詞と他の分詞との違い

56 課、57 課で 4 つの分詞を勉強しました。

Suomessa asuva **asukas** ulkomaalainen (能動現在分詞)

「フィンランドに住んでいる外国人」

kultamitalin voittanut **urheilija** (能動過去分詞)

「金メダルを勝ち取った選手」

postiin vietävä **kirje** (受動現在分詞)

「郵便局へ持って行かねばならない手紙」

suomeksi kirjoitettu **kirje** (受動過去分詞)

「フィンランド語で書かれた手紙」

上の例で太字の部分が分詞ですが、その前の斜字体の部分を見て下さい。分詞の前には場所を表す語 (*Suomessa* や *postiin*)、分詞の目的語に相当する語 (*kultamitalin*) などをつけることができました。ところが次のように、今まで学習した分詞の前に、分詞の主語に相当する語をつけることはできません。

urheilijan voittanut **kultamitali** (×) 選手の勝ち取った金メダル

これから学習する行為者分詞は、その前に主語に相当する語をつけることができるのが特徴です。「選手の勝ち取った金メダル」は次のように表現できますが、**voittama** が行為者分詞と呼ばれる形です。

urheilijan voittama **kultamitali** (○) 選手の勝ち取った金メダル

2) 行為者分詞の作り方

行為者分詞の印は **-ma/-mä** ですが、動詞の母音語幹につけます。階程交替がある場合には強階程になります。つまり 30 課で学習した第 3 不定詞の **-ma/-mä-** のつけ方と同じです。

kirjoittaa > 強階程語幹 kirjoitta- > 行為者分詞 kirjoitta-**ma**

syödä > 語幹 syö- > 行為者分詞 **syö-mä**

tulla > 母音語幹 tule- > 行為者分詞 **tule-ma**

tavata > 母音語幹 tapaa- > 行為者分詞 **tapaa-ma**

tarvita > 母音語幹 tarvitse- > 行為者分詞 **tarvitse-ma**

suureta > 母音語幹 suurene- > 行為者分詞 **suurene-ma-**

3) 行為者分詞の用法

すでにご説明した通り、行為者分詞には「誰が、何が」という主語に相当する行為者を表す語をつけます。行為者は属格の形でつきます。

Auliki-n lähettä-mä kirje

= kirje, jonka Aulikki lähetti Aulikki の送った手紙

行為者が人称代名詞で表されるときには、行為者分詞に所有接尾辞がつきます。

hänen saa-ma-nsa lahja

= lahja, jonka hän sai 彼女のもらった贈り物

1 人称、2 人称の代名詞はしばしば省略されます。

(minun) **hankki-ma-ni vene**

= vene, jonka olen hankkinut 私の手に入れたボート

行為者分詞の主語に相当するものと、文全体の主語が同じ場合には、行為者分詞には所有接尾辞だけがついて、属格の語はつけません。

Mika avasi saa-ma-nsa lahjan.

= Mika avasi lahjan, jonka oli saanut ミカはもらった贈り物を開けた

またフィンランド語では形容詞はそのまま名詞としても使われますので、形容詞の働きをする分詞も、しばしば単独で名詞として使われます。行為者分詞も単独で現れて、「(誰それの) ~したもの」という働きをします。

"Sietsemän veljestä" on Kiven kirjoitta-ma.

『7人の兄弟』はキビィの書いた作品です

"Finlandia" on Sibeliuksen säveltä-mä.

『フィンランディア』はシベリウスの作曲したものだ

3) 行為者分詞の格変化

行為者分詞も必要があれば格変化をします。単数語幹は単数主格と同じ **-ma/-mä-** で、階程交替も何もありません。複数語幹は **-mi-** となります。

Tuolla on ostamani talo. あそこに私の買った家がある

Ostamassani talossa on kolme huonetta. 私の買った家には3部屋ある

Äitini muuttaa **ostamaani** taloon. 母は私の買った家へ引っ越してくる
 Hän pitää **ostamastani** talosta. 彼/彼女は私の買った家が気に入っている
 Talossa on paljon **ostamiani** tauluja. 家には私の買った絵がたくさんある

ポイント 99 – 行為者分詞

Aulikin **lähettämä** kirje Aulikki の送った手紙

hänen **saamansa** lahja 彼/彼女のもらった贈り物

hankkimani vene 私の手に入れたボート

Mika avasi **saamansa** lahjan. ミカはもらった贈り物を開けた

"Sietsemän veljestä" on Kiven **kirjoitta-ma**. 『7人の兄弟』はキビィの書いた作品だ

Ostamassani talossa on kolme huonetta. 私の買った家には3部屋ある

58-2. 分詞のまとめ

5つの分詞がありますが、次の例文でそれぞれの働きを確認してください。

Tuolla on vuokraa **maksava** mies. [能動現在分詞]

あそこに部屋代を払おうとする男がいる

Maksettava vuokra on 1000 euroa. [受動現在分詞]

払われるべき部屋代は1000ユーロだ

Tuolta menee vuokran **maksanut** nainen. [能動過去分詞]

あそこから部屋代を支払った女性が出て行く

Maksettu vuokra on 1000 euroa. [受動過去分詞]

支払われた部屋代は1000ユーロだ

Naisen **maksama** vuokra on 1000 euroa. [行為者分詞]

女性の支払った部屋代は1000ユーロだ

とくに次の2つの文を比較してください。

Hän on äidin **hylännyt** lapsi. [能動過去分詞]

彼/彼女は母親を見捨てた子どもだ

Hän on äidin **hylkäämä** lapsi. [行為者分詞]

彼/彼女は母親が捨てた子どもだ

行為者分詞の前には行為者をつけますので、2つ目の文の äidin 「母親」は見捨てた人です。現在分詞や過去分詞には行為者をつけれませんので、最初の文の hylännyt の前にある äidin 「母親」は「見捨てる」の目的語に相当します。

文法問題 58-1. 例にならって分詞を使った表現を作りなさい。

例 : kaupunki, jonka Kustaa Vaasa perusti クスター・バーサの築いた町

⇒ Kustaa Vaasan perustama kaupunki

- 1) teksti, jonka äiti käänsi 2) romaani, jonka Kivi kirjoitti
- 3) ruoka, jota isä teki aamulla 4) sinfonia, jonka Sibelius on säveltänyt
- 5) pusero, jonka sinä olet tehnyt 6) taulu, jonka minä olen maalannut
- 7) valokuva, jonka hän on ottanut 8) pöytä, jonka me olemme hankkineet
- 9) kortti, jonka te olette lähettäneet 10) kirja, jonka he ovat julkaisseet

文法問題 58-2. ()内の動詞を行為者分詞の適切な形に直しなさい。

- 1) Näytä meille viime kesänä (ottaa) kuvia!
あなたがこの間の夏に取った写真を見せて
- 2) Leena oli ihastunut lauantai-iltana (nähdä) tv-ohjelmaan.
レーナは土曜の晩に見たテレビ番組が気に入った
- 3) Gallen-Kallelan (maalata) freskoissa on Kalevalasta saadut aiheet.
ガッレン・カッレラのフレスコ画の題材はカレワラから取られている
- 4) Sydämellinen kiitos häöpäivänämme (saada) lahjoista.
結婚記念日にいただいた贈り物に心より感謝しています
- 5) Jotunin (kirjoittaa) novellit kuvaavat mielenkiintoisella tavalla naisten elämää.
ヨトゥニの書いた短編小説は女性の人生を興味深く描き出だしている

文法問題 58-3. ()内の動詞を適切な分詞に直しなさい。

- 1) Tuolla on (hiihtää) mies. あそこにスキーをしている男がいる
- 2) (hiihtää) matka on 30 kilometriä. 滑らなければならない距離は30キロだ
- 3) (hiihtää) matka on 5 kilometriä. すでに滑ってしまった距離は5キロだ
- 4) Tuolla on 30 kilometriä () nainen. あそこに30キロを滑った女がいる
- 5) Hänen (hiihtää) matka on 30 kilometriä. 彼女の滑った距離は30キロだ
- 6) Seuraavaksi (laulaa) poika menee lavalle. 次に歌う少年が舞台上がる
- 7) Lavalla (laulaa) laulu on kansanlaulu. 舞台上で歌われる歌は民謡だ
- 8) (laulaa) tyttö lähtee pois lavalta. 歌い終えた少女は舞台から下りる
- 9) Lavalla (laulaa) laulu oli joululaulu. 舞台上で歌われた歌はクリスマスの歌だった
- 10) Tytön (laulaa) laulu oli joululaulu. 少女の歌った歌はクリスマスの歌だった

第 59 課

Viideskymmenesyhdeksäs kappale

59-1. 場所を表わす副詞の比較級と最上級

59-2. 季節名の比較級

59-1. 場所を表わす副詞の比較級と最上級

次のような場所を表す語には比較級や最上級の形があります。比較級と最上級の形では様格・分格・変格（あるいは-s）になるのが特徴です。

原級	比較級	最上級
kaukana 遠くで/に kaukaa 遠くから kauas 遠くへ	kauempana kauempaa kauemmaksi/kauemmas	kauimpana kauimpaa kauimmaksi/kauimmas
ulkona 外で/に ulkoa 外から ulos 外へ	ulompana ulompaa ulommaksi/ulommas	uloimpana uloimpaa uloimmaksi/uloimmas
lähellä 近くで/に läheltä 近くから lähelle 近くで	lähempänä lähempää lähemmäksi/lähemmäs	lähimpänä lähimpää lähimmäksi/lähimmäs
keskellä 中央で/に keskeltä 中央から kekelle 中央へ	keskempänä keskempää keskemmäksi/keskemmäs	
alhaalla 下で/に alhaalta 下から alas 下へ	alempana alempaa alemmaksi/alemmas	alimpana alimpaa alimmaksi/alimmas
ylhäällä 上で/に ylhäältä 上から ylös 上へ	ylempänä ylempää ylemmäksi/ylemmäs	ylimpanä ylimpää ylimmäksi/ylimmä
sisällä 中で/に sisältä 中から sisälle 中へ	sisempänä/sisemmällä sisempää/sisemmältä sisemmäksi/sisemmälle	sisimpänä/sisimmällä sisimpää/sisimmältä sisimmäksi/sisimmälle

edessä/edellä 前で/に edestä/edeltä 前から eteen/edelle 前へ	edempänä edempää edemmäksi/edemmäs	
takana 後で/に takaa 後から taakse 後へ	taempana taempaa taemmaksi/taemmas	taimpana taimpaa taimmaksi/taimmas

次の語にも注意してください。

täällä/tässä täältä/tästä tänne/tähän	tännempänä tännempää tännemmäksi/tännemmäs	tännimpänä tännimpää tännimmäksi/tännimmäs
tuolla/tuossa tuolta/tuosta tuonne/tuohon	tuonnempana tuonnempaa tuonnemmaksi/tuonnemmas	tuonnimapana tuonnimpaa tuonnimmaksi/tuonnimmas
siellä/siinä sieltä/siitä sinne/siihen	sinnempänä sinnempää siinnemmäksi/sinnemmäs	

「北で」というような方角を表わす語の比較級でも、内格・出格・入格の形と並んで、様格・分格・変格（あるいは-s）の形がしばしば使われます。

原級	比較級	
pohjoisessa 北で/に pohjoisesta 北から pohjoiseen 北へ	pohjoisemmassa pohjoisemmasta pohjoisempaan	pohjoisempana pohjoisempaa pohjoisemmaksi / pohjoisemmas
etelässä 南で/に etelästä 南から etelään 南へ	etelämmässä etelämmästä etelämpään	etelämpänä etelämpää etelämmäksi / etelämmäs
lännessä 西で/に lännestä 西から länteen 西へ	länнемässä länнемästä länнемäpään	länнempänä länнempää länнemmäksi / länнemmäs
idässä 東で/に idästä 東から itään 東へ	idemässä idemmästä idempään	idempänä idempää idemmäksi / idemmäs

あるいは、たとえば *pohjoisemmalla* や *pohjoisempana* と同じ意味で、**kauempana pohjoisessa** という表現もあります。さらに **kauimpana pohjoisessa** とすることで、最上級の表現をすることも可能です。

Tuolla **kauempana** näkyy kirkko. あそこのもっと遠くに教会が見える
 Asun **lähempänä** koulua kuin muut. 私は他の人たちより学校の近くに住んでいる
 Tenttipäivä tuli yhä **läheemmäksi** (**lähemmäs**). 試験日がますます近づいてくる
 Tule tänne **keskemmäs!** こちらの、もっと真中へ来なさい
 Olen koulussa luokkaa **alempana** kuin veljeni. 私は兄より1学年下だ
 Muutimme kerrosta **ylemmäksi**. 私たちは1階上へ引っ越した
 Tuo **tännempänä** oleva rakennus on koulu. あのこちら側の建物は学校だ
 Tule **tännemmäksi** (**tännemmäs**). もっとこちらへ来なさい
 Siirry hiukan **tuonnemmaksi**. 少しあちらへ移りなさい
 Palataan asiaan **tuonnempana**. この件には後ほど戻しましょう
 Muuttolinnut saapuvat Välimerta **etelämpää**. 渡り鳥は地中海より南から到着する

59-2. 季節名の比較級

さらに季節を表す *kevät* 「春」、*syksy* 「秋」、*talvi* 「冬」については、次のような比較級の形が使われることがあります。

原級	比較級
keväällä	keväämpänä/keväämmällä
keväälle	keväämmäksi/keväämmälle
syksyllä	syksympänä/syksymmällä
syksyille	syksymmäksi/syksymmälle
talvella	talvempana/talvemmallä
talvelle	talvemmaksiksi/talvemmälle

Symposiumi järjestetään **syksympänä**.

シンポジウムは秋のもっと遅い時期に開催される

Keväämmällä pidetään kilpailut.

春のもっと遅い時期に競技会が開かれる

Kokous piti olla joulukuussa, mutta se siirrettiin **talvemmaksiksi**.

会議は12月にあるはずだったが、冬のもっと遅い時期に延期された

文法問題 59-1.

- 1) Tuolla () näkyy silta. あそこのもう少し遠くに橋が見える
- 2) Tuolta () ilmestyy vuori. あそこのもう少し向こうから山が現れる
- 3) Lentokone lentää (). 飛行機はもっと遠くへ飛んでいく
- 4) Asum () yliopistoa kuin sinä. 私はあなたより大学の近くに住んでいる
- 5) Katso ()! もっと近くから見なさい
- 6) Olemme päässeet () ratkaisua. 我々は解決により近づいた
- 7) Hän asuu () kaupunkia kuin ennen. 彼/彼女は以前より町の中心に住んでいる
- 8) Kone laskeutuu (). 飛行機は高度を下げる
- 9) Kirja, jota etsin, oli () pinossa. 捜していた本は山のいちばん下にあった
- 10) Olin koulussa luokkaa () kuin siskoni. 私は妹より1学年上だった
- 11) Ei askeltakaan (). 1歩も前へ出るな
- 12) Istuin bussissa () kuin toiset. 他の人たちよりバスでは前に座った
- 13) Hän on () kuvassa. 彼/彼女は写真の中でいちばん後にいる
- 14) () on vielä tilaa. もっとあっちにまだ場所がある
- 15) Etsi vähän (). もっとそっちを捜しなさい
- 16) Rakennus siirretään (). その建物はより北へ移される
- 17) Rovaniemi sijaitsee () kuin Oulu. ロバニエミはオウルよりも北に位置する
- 18) Maasto kohoo (). もっと東で地形は上昇する
- 19) Laivaväylä kulkee (). 水路はもっと南を通っている
- 20) Laivaväylä kulkee () etelässä. 水路はもっと南を通っている
- 21) Töiden aloittaminen siirtyi (). 仕事開始は秋(の遅い時期)に延期された
- 22) Matka siirrettiin (). 旅行は春(のもっと遅い時期)まで延期された
- 23) Kuulin () kovaa melua. もっと中から激しい騒ぎが聞こえた
- 24) Matkustettiin yhä (). さらに東へと旅した
- 25) () kasvillisuus harvenee. もっと西では植生がまばらになる

第 60 課

Kuudeskymmenes kappale

- 60-1. 分詞構文について
- 60-2. 能動分詞を使った分詞構文
- 60-3. 分詞構文に所有接尾辞が使われる場合

60-1. 分詞構文について

フィンランド語には「分詞構文」と呼ばれている表現方法があります。たとえば「言う、話す、思う、気づく、知っている」などという動詞は、目的語として **että**-節を取ることができます (**että**-節 = **että** + 文 = 「～だと、～だということ」)。

Luulen, **että Harri on ulkomailla**. 私は、ハッリは外国にいると思う

分詞構文と呼ばれているのは、このような動詞の目的語となっている **että**-節に相当する内容を、分詞を使うことによって **että** という接続詞を使わずに表現する方法のことです。分詞構文は、話し言葉よりは書き言葉で多用される表現方法です。**että**-節を分詞構文に書き換える勉強をしますが、もちろんフィンランド語を母語とする人々が、書き換えによって分詞構文を作っているわけではありませんので、誤解しないで下さい。書き換えはあくまでも、分詞構文を理解する一つの手段です。

次に上げるのが、**että**-節を目的語として取ることのできる代表的な動詞です。

ajatella 「考える」、epäillä 「疑う」、haluta 「望む」、huomata 「気づく」、
ilmoittaa 「知らせる」、kertoa 「語る」、kirjoittaa 「書く」、kuulla 「聞く」、
kuvitella 「想像する」、käsittää 「理解する」、luulla 「思う」、nähdä 「見る」、
pelätä 「恐れる、思う」、sanoa 「言う」、tajuta 「理解する」、
tietää 「知っている」、todeta 「気づく、述べる」、uskoa 「信じる、思う」

60-2. 能動分詞を使った分詞構文

että-節は分詞を使って、たとえば次のように書き換えられます。

Luulen, **että Harri on nyt ulkomailla**. 私は、ハッリは今外国にいると思う

→ Luulen **Harrin olevan** nyt ulkomailla.

että-節を分詞構文の形に書き直す方法は次のようになります。

- ① まず **että** という接続詞は消えます。
- ② **että**-節の中の主語が属格になります (**Harri** > **Harri-n**)。
- ③ **että**-節の中の動詞が分詞になりますが、さらに **-n** をつけて属格(=対格)の形にします (**on** > **ole-va** > **ole-va-n**)。

次の例で確認して下さい。

Luulen, että Harri palaa pian ulkomailta.

→ **Luulen Harrin palaavan pian ulkomailta.**

私は、ハッリはまもなく外国から戻るだろうと思う

それでは次の例を見ましょう。

Luulen, että Harri on jo palannut ulkomailta.

→ **Luulen Harrin jo palanneen ulkomailta.**

私は、ハッリはもう外国から戻ったと思う

ここで、前の2つの例と違っているのは分詞の種類です。前の2つの文では現在分詞 **oleva**、**palaava** に **-n** をつけた形を使いましたが、ここでは過去分詞 **palannut** に **-n** をつけた形を使っています。現在分詞を使うか過去分詞を使うかは、次のようにして決まります。

- ① 分詞に変えようとする **että**-節の中の動詞(最初の例では **on** 「いる」)の表している行為や出来事が、文全体の動詞(**Luulen** 「私は思う」)と同じ時間の行為や出来事であったり、あるいは **että**-節の中の動詞(2番目の文の **palaa** 「戻るだろう」)が文全体の動詞(やはり **Luulen**)から見ると未来の事を表している場合には、現在分詞を使います。
- ② **että**-節の中の動詞(最後の例では **on palannut** 「(もう)戻った」)の表している行為や出来事が、文全体の動詞(**Luulen** 「私は思う」)の表す行為や出来事よりも、時間的に以前の事を表している場合には過去分詞を使います。

次の例を見て上のことを確認して下さい。

Joku kertoi, että Mika asuu tällä hetkellä Kiinassa.

Joku kertoi Mikan asuvan tällä hetkellä Kiinassa.

ミカは現在中国に住んでいると誰かが言っていた

Joku kertoi, että Mika oli ennen asunut Kiinassa.

Joku kertoi Mikan ennen asuneen Kiinassa.

ミカは以前に中国に住んでいたことがあると誰かが言っていた

ポイント 100 – 能動分詞を使った分詞構文

Luulen, **että Harri palaa** pian ulkomailta. → Luulen **Harrin palaavan** pian ulkomailta.

私は、ハッリはまもなく外国から戻るだろうと思う

Luulen, **että Harri on jo palannut** ulkomailta. → Luulen **Harrin jo palanneen** ulkomailta.

私は、ハッリはもう外国から戻ったと思う

60-3. 分詞構文に所有接尾辞が使われる場合

次の文を見てみましょう。

Tiedät, **että olet** väärässä. あなたは、自分が間違っていると分かっている
ここでは文全体の主語と **että**-節の中の主語はどちらも「あなた」です。文全体の主語と **että**-節の主語が同じ場合には、分詞構文では分詞に所有接尾辞を付け、分詞の主語にあたるものを属格の形で表すことはしません。

Tiedät **ole-va-si** väärässä.. あなたは、自分が間違っていると分かっている
現在分詞を使う場合も過去分詞を使う場合も、理屈は同じです。

{ Tiedät, **että olet tehnyt** virheen.
Tiedät **teh-nee-si** virheen.
あなたは、自分が間違いを犯したことが分かっている

次の例で確認してください。

{ Martti luuli, **että hän oli** kuningas.
Martti luuli **ole-va-nsa** kuningas.
マルッティは自分が大統領だと思っていた

{ Huomasimme, **että olimme myöhästyneet**.
Huomasimme **myöhästy-nee-mme**.
我々は遅れてしまったことに気がついた

ポイント 101 – 分詞構文に所有接尾辞が使われる場合

Tiedät, **että olet** väärässä. → Tiedät **olevasi** väärässä..

あなたは、自分が間違っていると分かっている

Tiedät, **että olet tehnyt** virheen. → Tiedät **tehneesi** virheen.

あなたは、自分が間違いを犯したことが分かっている

文法問題 60-1. 分詞構文に書き換えなさい。

- 1) Luulin, että te olette tyytyväisiä. あなたたちは満足だと思った
- 2) Uskon, että loma auttaa Pekkaa. 休暇がペッカにはよいだろうと思う
- 3) Näimme, että juna seisoj asemalla. 列車が駅にいるのを見た
- 4) Väitetään, että vastakohtat täydentävät toisiaan. 正反対のものはたがいに補い合うと言われている
- 5) Sanoitko, että hallitus eroaa? 政府が辞職すると言ったのか
- 6) Isä sanoi, että kaikki nukkuvat jo. 父は皆もう寝ていると言った

文法問題 60-2. 分詞構文に書き換えなさい。

- 1) Muistatko, että olen lainannut sinulle rahaa? あなたに金を貸したのを覚えているか
- 2) Äiti pelkäsi, että lapsi oli sairastunut. 母親は子どもが病気になったと思った
- 3) Etkö muista, että lupasin tulla? 私が来ると約束したのを覚えていないのか
- 4) Poliitikot uskovat, että inflaatio on pysähtynyt. インフレは止まったと政治家たちは信じている
- 5) Kuka kertoi, että minä olin puhunut tästä? 私がこれについて話したと誰が言ったのか
- 6) En uskonut, että molemmat ovat lähteneet yhtäikaa. 二人とも同時に出かけたとは思わなかった

文法問題 60-3. 分詞構文に書き換えなさい。

- 1) Luuletko, että sinä ehdit junaan? あなたは列車に間に合うと思うか
- 2) En voinut kuvitella, että saan näin paljon rahaa. こんなに多くの金をもらえるとは想像できなかった
- 3) Muistimme, että olimme kuulleet siitä aikaisemmin. 以前それについて聞いたのを覚えている
- 4) Hän väittää, että on puhunut totta. 彼/彼女は真実を語ったと主張している
- 5) Uskotte, että näitte ufon. あなた方はユーフォーを見たと言っている
- 6) Myönnätkö, että olette tehneet virheen? あなた方は間違いを犯したことを認めるか

文法問題 60-4. että を使って書き換えなさい。

- 1) Hän toivoo meidän ymmärtävän häntä. 彼/彼女は我々が理解することを望んでいる
- 2) Luulen teidän epäonnistuvan. あなた方は失敗すると思う
- 3) Sanotaan työntekijöiden jääneen työttömiksi. 労働者は失業したと言われている
- 4) Tiedän puhuvani totta. 私は自分が真実を話しているのが分かっている
- 5) Hän sanoi tehneensä parhaansa. 彼/彼女は最善をつくしたと言っていた
- 6) Uskotteko pystyvänne siihen? あなた方はそれができると言っているか

第 61 課

Kuudeskymmenesyhdes kappale

- 61-1. 受動分詞を使った分詞構文
- 61-2. 分詞構文を取る代表的な動詞
- 61-3. 第 2 不定詞具格

61-1. 受動分詞を使った分詞構文

että-節の動詞が受動形の場合には、分詞構文では受動の分詞を使います。分詞はやはり **-n** のついた属格 (=対格) の形になります。また受動形には主語はありませんので、että-節の主語を属格にするという作業は必要ありません。

että-節の中の動詞が、文全体の動詞と同じ時間の出来事や行為、あるいは未来の出来事や行為を表しているときには、受動現在分詞の属格 (=対格) を使います。

- Tiedämme, että Suomessa **puhutaan** suomea, ruotsia, ja saamea.
- Tiedämme Suomessa **puhuttavan** suomea, ruotsia ja saamea.
- フィンランドではフィンランド語、スウェーデン語、サーミ語が話されていることを私たちは知っている
- Kalle kuuli, että huoneessa **siivottiin**.
- Kalle kuuli huoneessa **siivottavan**.
- カッレは部屋で掃除をしている音が聞こえた

että-節の動詞が、文全体の動詞よりも以前の出来事や行為を表している場合には、受動過去分詞の属格 (=対格) を使います。

- Lehdet kertovat, että asiaa **tutkittiin**.
- Lehdet kertovat asiaa **tutkitun**.
- その件は調査されたと新聞各社は語っている
- Tiedämme, että tässäkin kylässä **on** ennen **puhuttu** saamea.
- Tiedämme tässäkin kylässä ennen **puhutun** saamea.
- この村でも以前はサーミ語が話されていたことを、私たちは知っている
- Uutisissa sanotaan, että hallituksen eroa **suunniteltiin** jo viime kuussa.
- Uutisissa sanotaan hallituksen eroa **suunnitellun** jo viime kuussa.
- 政府の辞任は、すでに先月には計画されていたとニュースで言っている

ポイント 102 –受動分詞を使った分詞構文

Tiedämme, että Suomessa **puhutaan** saamea.

→ Tiedämme Suomessa **puhuttavan** saamea.

フィンランドではサーミ語が話されていることを私たちは知っている

Tiedämme, että tässäkin kylässä **on** ennen **puhuttu** saamea.

→ Tiedämme tässäkin kylässä ennen **puhutun** saamea.

この村でも以前はサーミ語が話されていたことを、私たちは知っている

61-2. 分詞構文を取る代表的な動詞

感覚に関わる次のような動詞は、しばしば分詞構文を取ります。

Kaupunki *näky* **nukkuvan**.

町は眠っているようだ

Auto *näyttää* **olevan** rikki.

自動車は故障しているようだ

Sinä *näytät* **olleen** sairas.

あなたは病気をしていたように見える

Sari *kuuluu* **ostaneen** uuden mökin.

サリは新しい小屋を買ったそうだ

Tilanne *tuntuu* **vaikeutuvan**.

状況は困難なものになりつつあるように感じられる

Kaikki *tuntuvat* **unohtaneen** tämän asian.

皆がこのことを忘れてしまっているようだ

ポイント 103 –分詞構文を取る代表的な動詞

Kaupunki *näky* **nukkuvan**. 町は眠っているようだ

Sinä *näytät* **olleen** sairas. あなたは病気をしていたように見える

Kaikki *tuntuvat* **unohtaneen** tämän asian. 皆がこのことを忘れているようだ

61-3. 第2不定詞具格

すでに第1不定詞と第3不定詞を学習しましたが、第2不定詞と呼ばれる形があります。第2不定詞には、第2不定詞内格と第2不定詞具格という2つの形がありますが、ここでは具格のみ学習します。

1) 第2不定詞具格の作り方

第2不定詞具格は、不定詞（＝第1不定詞短形）の最後の**-a / -ä**を**-en**に変えることによって得られます。

hiihtää > 第2不定詞具格 **hiihtä-en**

juoda > 第2不定詞具格 **juod-en**

tulla > 第2不定詞具格 **tull-en**

herätä > 第2不定詞具格 **herät-en**

tarvita > 第2不定詞具格 **tarvit-en**

-enの前に-eが来る場合には、その-eは-iに変わります。

lukea > 第2不定詞具格 **luki-en**

2) 第2不定詞具格の用法

第2不定詞具格は「～することによって、～しながら」というような意味を表す形です。

Tytöt kävelivät **naura-en**. 少女たちは笑いながら歩いていた

Pojat tulivat **juost-en**. 少年たちは走ってやってきた

Vietin päivän **hiihtäen, leväten ja lukien**.

スキーをしたり休んだり、読書をしたりして1日を過ごした

Elä elämäsi **hymyillen!** 笑って人生を過ごしなさい

また第2不定詞具格に、属格の形でその主語に相当する語をつけ、「誰それが～している中で」というような意味を表すことがあります。

Sinä sanoit sen **kaikkien kuullen**.

君は皆が聞いている中で（皆に聞こえるように）それを言った

3) 第2不定詞を含む慣用表現

第2不定詞は書き言葉でよく使われる形ですが、とくに次のような慣用表現は話し言葉でも使われます。

siitä lähti-en それ以来 **suoraan sano-en** 率直に言うと

toisin sano-en 別の言い方をすれば、つまり

kaikesta päättä-en すべてのことから判断すれば、明らかに

menn-en tull-en 行きも帰りも

näin oll-en こういうことなので、結果的に

kaikkien nähd-en 皆の知っている前で

kaikkien kuull-en 皆の聞いている前で

文法問題 61-1. 分詞構文に書き換えなさい。

- 1) Tiedän, että kurssilla luetaan Kiven romaania. 講座でキビの本を読むことは知っている
- 2) Tiedän, että kurssilla luettiin Kiven romaania. 講座でキビの本を読んだことは知っている
- 3) Toivon, että asiasta puhutaan. この件について話されるのを望む
- 4) Muistan, että asiasta puhuttiin viime vuonna. 去年その件について話されたのを覚えている
- 5) Tiedämme, että Suomesta on viety ulkomaille paperia jo kauan.
長い間フィンランドから外国へ紙が輸出されてきたことを知っている
- 6) Lehdet kertovat, että asiaa tutkitaan. その件は調査されると新聞は語っている
- 7) Uutisissa kerrottiin, että löydettiin pommeja. 爆弾が発見されるとニュースで言っていた
- 8) Minulle on kerrottu, että suomea puhutaan myös Pohjois-Ruotsissa.
スウェーデン北部でもフィンランド語が話されていると私は聞いている
- 9) Tiedän, että suomea on puhuttu myös Keski-Ruotsissa 1500-luvulla.
スウェーデン中部でも 1500 年代にはフィンランド語が話されていたことは知っている
- 10) Kerrotaan, että Savossa syödään kalakukkoa. サボではカラクッコを食べると言われている

文法問題 61-2. 例にならって書き換えなさい。

例 : Näyttää siltä, että sade jatkuu.

⇒ Sade näyttää jatkuvan. 雨は続くようだ

- 1) Tuntuu siltä, että pojat ovat kotona. 少年たちは家にいるようだ
- 2) Näyttää siltä, että sade on lakannut. 雨はやんだようだ
- 3) Näyttää siltä, että vointi on parannut. 体調は回復したようだ
- 4) Tuntuu siltä, että teillä on kiire. あなた方は忙しそうだ
- 5) Olen kuullut, että tilanne on niin. 状況はそうだとということだ

文法問題 61-3. 例にならって書き換えなさい。

例 : Hän nauroi, kun hän vastasi.

⇒ Hän vastasi nauraen. 彼/彼女は笑いながら返事をした

- 1) Kävelen, kun käyn ostoksilla. 歩いて買い物に行く
- 2) Hymyile, kun tervehdit vieraitasi. 客に挨拶するときには微笑みなさい
- 3) Hän itki, kun hän kertoi asiasta. 彼/彼女は泣きながらその件について話した
- 4) Ompelen, kun istun iltaa kotona. 縫い物をしながら家で座って夜を過ごす
- 5) Istutko vai seisot, kun teet tätä työtä? この仕事は座ってするのか、立ってするのか

第 62 課

Kuudeskymmeneskahdes kappale

- | |
|--------------------------------------|
| 62-1. tahansa, hyvänsä, vain, vaikka |
| 62-2. minkä-で始まる疑問詞 |
| 62-3. -pa/-pä を使った重要な表現 |
| 62-4. 方角を表す語 |
| 62-5. さまざまな副詞 |

62-1. tahansa, hyvänsä, vain, vaikka

疑問詞に tahansa、hyvänsä をつけると「誰でも、何でも」というような意味を表すことができます。また vain にも同じ働きがあります。

Tuon osaa **kuka tahansa**. それは誰だってできる

Mitä tahansa voi tapahtua. 何が起こってもおかしくはない

Saattaa sattua **mitä vain**. 何だって起こり得る

Kysy **keneltä tahansa**. 誰でもいいから聞いてみなさい

Siihen pystyy **kuka mies tahansa**. それはどんな男でもできるだろう

Lapsi voi syntyä **milloin tahansa**. 子どもはいつ生まれてもおかしくない

Niin voi käydä **kenelle hyvänsä**. 誰にだってそうなることはありうる

疑問詞の前に vaikka をつけても同じような意味になります。

Saattaa tapahtua **vaikka mitä**. 何でも起こり得る

Sellaista voi sattua **vaikka kenelle**. 誰にだってそういうことは起こり得る

62-2. minkä-で始まる疑問詞

minkä-で始まる疑問詞の代表的なものには、下のようものがあります。

Minkäikäisinä menitte naimisiin? あなた方は何歳の時に結婚したか

Minkäkokoinen (Kuinka suuri) se on? それはどのくらいの大きさか

Minkämaalainen laulun säveltäjä on? その歌の作曲者はどこの国の人か

Minkänimisen pojan kanssa seurustelet? 何という名の少年と付き合っているのか

Minkänäköisistä housuista pidät? どういう見ためのズボンが好きか

Minkävärisen paidan ostit? 何色のシャツを買ったのか

62-3. -pa/-pä を使った重要な表現

-pa/-pä は過去形の動詞と組み合わせさって「～であろう」というような意味を表すことができます。

Tämä suunnitelma on toteutettava, **veipä** se aikaa miten paljon tahansa.

この計画ににいかにか多くの時間がかかろうと、実現しなければならない
Hinnat nousevat, **tulipa** devalvaatio tai ei.

通貨切り下げがあろうとなかろうと、価格は上昇するだろう

Et siitä täydellistä saa, **teitpä** kuinka huolellisesti tahansa.

どんなに注意深くやろうと、完全な形で手に入れることはできない

Tulos on sama, **voittipa** kuka hyvänsä. 誰が勝とうと結果は同じだ

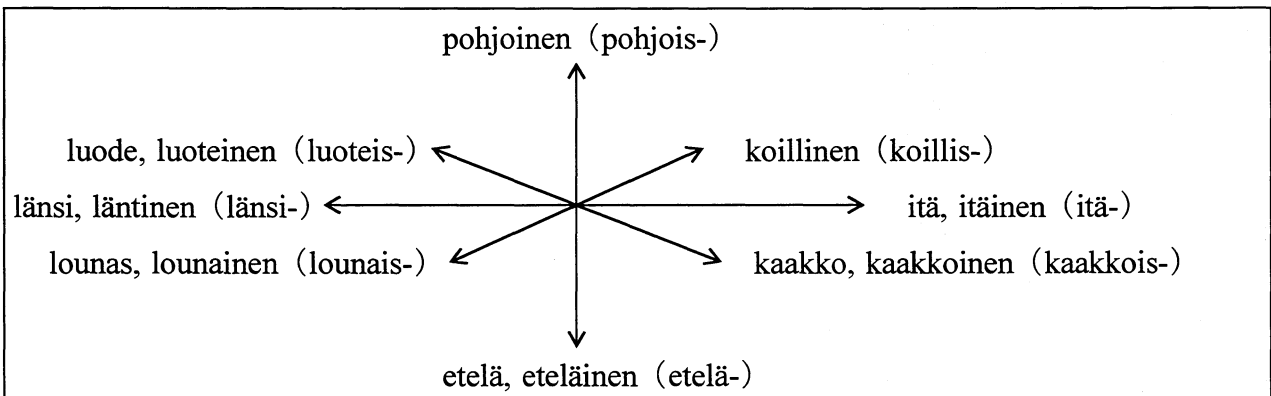
On samantekevää, **olipa** rahaa tai ei. 金があろうがなかろうが同じことだ
また命令形と結びつく表現もあります。

Totta se on, **uskopa** tai älä. あなたが信じようが信じまいが、それは真実だ
また **vaikkapa** は「たとえば」というような意味を表すことができます。

Illalla voimme lähteä **vaikkapa** elokuvaan. 晩は映画にでも行くこともできる

62-4. 方角を表す語

フィンランド語には「東西南北」に加えて、「北西、北東、南西、南東」を表す語があります。最初の形が名詞で次の形が形容詞ですが、() の中に挙げた形は複合語の第1要素として、よく使われる形です。



Lounais-Suomessa puhutaan suomen **lounaismurteita**.

南西フィンランドではフィンランド語の南西諸方言が話されている

Tuulee **kaakosta**. 南東から風が吹いている

Asun **luoteisessa** kaupunginosassa. 私は町の北東部に住んでいる

Aurinko nousi **koillisesta**. 太陽は北東から昇った

62-5. さまざまな副詞

1) 否定文で使われることの多い副詞

次のような語は一般的に否定文で使われます。

En unohda sinua **koskaan**. けっしてあなたを忘れない

Oletko **koskaan** sairas? 今までに病気をしたことがあるか

Ei sitä **milloinkaan** tiedä, mitä tapahtuu. 何が起こるかはけっして分からない

Oletko **milloinkaan** ajatellut erota? 一度でも辞任することを考えたことがあるか

En **mitenkään** kerkiä. どうしたって間に合わない

Lapsi ei itkenyt **yhtään**. 子どもはちっとも泣かなかった

Onko sinulla **yhtään** rahaa? 少しはお金を持っているのか

Hän ei syönyt **lainkaan**. 彼/彼女はちっとも食べなかつた

En osaa laulaa **ollenkaan**. 私は歌はまったく歌えない

Ei **ikinä** ole sellaista sattunut. そんなことはけっして起こったことはない

2) その他

tuskin は「ほとんど～ない」というような否定の意味を持つ語です。

Keksinnöllä **tuskin** on käytännön merkitystä.

その発明には現実的な意義はほとんどない

Tuskin oli toinen lopettanut, kun toinen jo aloitti.

片方が終える前に、もう一方が始めてしまった

mahdollisimman は「できるだけ」という意味ですが、**niin...kuin mahdollista** という言い方もできます。。

Tule **mahdollisimman** pian (= **niin pian kuin mahdollista**). できるだけ早く来い
その他に次のような重要な語があります。

Tuletko mukaan? - **Ilman muuta (tietysti, tietenkin)**. 一緒に来るか—もちろん
ilman muuta は「理由もなく」という意味にもなります。

Tapasin hänet **sattumalta**. 偶然に彼/彼女に出会った

Onneksi kukaan ei ollut näkemässä. 幸い誰も見ていなかった

Valitettavasti (Ikävä kyllä) en pääse kokoukseen. 残念ながら会議に出られない

Autoon mahtuu **jopa** kahdeksan henkeä. その車には 8 人の人間さえ乗れる

Tarvitsisin **ainakin** viikon loman. 少なくとも 1 週間の休暇が必要だが

Hinta on kohonnut **jonkin verran**. 価格は若干上昇している

文法問題 62-1. ()内に入れるのに適切な語を下から選びなさい。

- 1) Ei ketään () muuta tuomita. 誰も理由もなく裁かれない
- 2) Häiritsekö? - Et (). おじゃまですか—いいえ、ちっとも
- 3) Voit tulla milloin (). あなたはいつ来てもよい
- 4) Hän harrastaa kaikenlaista, () karateakin. 彼/彼女は何でも、空手までやる
- 5) () laulun säveltäjä on? その歌の作曲者はどこの国の人か

[a. vain b. jopa c. ilman d. minkämaalainen e. ollenkaan]

文法問題 62-2. ()内に入れるのに適切な語を下から選びなさい。

- 1) Se on () totetutumaton haave. それは決して実現しない夢だ
- 2) () luulen niin. 少なくとも私はそう思う
- 3) En lähde () vielä. 少なくともまだ出かけない
- 4) Lähdetään () heti. すぐにでも出かけよう
- 5) () matka oli lyhyt. 幸い距離は短かった

[a. onneksi b. ainakin c. ainakaan d. koskaan e. vaikka]

文法問題 62-3. ()内に入れるのに適切な語を下から選びなさい。

- 1) Oli kuinka (), vahinko on korvattava. どうであろうと損害は補償しなければならない
- 2) En tiedä siitä () mitään. それについては何一つ知らない
- 3) En () palaa. 二度と戻っては来ない
- 4) Koetan olla () lyhytsanainen. できるだけ短く話すようにする
- 5) Jaksoin () enää seistä. ほとんど立ち続けていられなかった

[a. yhtään b. mahdollisimman c. tuskin d. ikinä e. tahansa]

文法問題 62-4. ()内に入れるのに適切な語を下から選びなさい。

- 1) () maa rajoittuu mereen. その国は南西で海に面している
- 2) Kuulin asiasta (). その件については偶然に耳にした
- 3) () mitä tahansa, aina hän haukkui. 私が何をしようと、彼/彼女はいつも文句をいう
- 4) En ole nähnyt () kirahvia. 一度もキリンを見たことがない
- 5) En muuta mieltäni, () hän mitä tahansa. 彼/彼女が何と言おうと私は考えを変えない

[a. sattumalta b. lounaassa c. milloinkaan d. teinpä e. sanoipa]

第 63 課

Kuudeskymmeneskolmas kappale

- 63-1. 時相構文について
- 63-2. 時相構文(1)－第 2 不定詞内格
- 63-3. -kkain/-kkäin
- 63-4. -ttain/-ttäin

63-1. 時相構文について

動詞の目的語になる **että**-節の内容を分詞を使って表現するのが分詞構文でした。それに対して「時相構文」は、**kun**「～している時に、～した後で」に相当する内容を、動詞をある形にすることによって表現する方法です。まず、2つの行為や出来事が同時に起こっている場合に使う時相構文を学習します。

63-2. 時相構文(1)－第 2 不定詞内格

動詞を第 2 不定詞内格と呼ばれる形にすると、その形自体が「～する時に、～している間に」という意味を持ちます。

1) 第 2 不定詞内格の作り方

第 2 不定詞具格の印は **-en** ですが、第 2 不定詞内格の印は **-essa/-essä** です。不定詞の最後の **-a/-ä** を **-essa/-essä** に変えれば第 2 不定詞内格の形になります。

puhua > 第 2 不定詞内格 **puhu-essa**

syödä > 第 2 不定詞内格 **syöd-essä**

tulla > 第 2 不定詞内格 **tull-essa**

herätä > 第 2 不定詞内格 **herät-essä**

-essa/-essä の前に **-e-** という音がある場合だけは、その **-e-** を **-i-** に変えて下さい。

lukea > luke- > 第 2 不定詞内格 **luki-essa**

2) 第 2 不定詞内格の用法

kun を使った文を、第 2 不定詞内格を使って書き直してみます。

{ **Kun äiti luki**, lapset kuuntelivat.
Äidin luki-essa lapset kuuntelivat.
母親が読んでいる間、子供たちは聞いていた

どういふ変化が起こっているかまとめてみましょう。

- ① **kun** が消えています。
- ② **kun** に導かれていた部分の主語である **äiti** が属格の **äidin** になっています(分詞構文でも同じようになりました)。
- ③ **kun** の導いていた部分の動詞 **luki** が第 2 不定詞内格 **lukiessa** になっています。

次の例を見ましょう。

- Kun minä kirjoitti kirjettä, hän luki kirjaa.**
- (**Minun**) **kirjoitta-essa-ni** kirjettä hän luki kirjaa.
- 私が手紙を書いている間、彼/彼女は本を読んでいた

ここでは第 2 不定詞内格 **kirjoitta-essa** に **minun** がついていますが、第 2 不定詞内格に人称代名詞の属格がつけば、さらに所有接尾辞をつけて **minun kirjoitta-essa-ni** とします。1 人称と 2 人称の人称代名詞の属格は省略されるのがふつうです。

次の例を見ましょう。

- Kun kävelin kotiin, ajattelin hänestä.**
- Kävellessäni** kotiin (~ **Kotiin kävellessäni**) ajattelin hänestä.
- 家へ歩きながら、私は彼/彼女について考えた

この例では歩いていたのは「私」、考えていたのも「私」です。このように 2 つの行為の主語が同じ場合には、第 2 不定詞内格には所有接尾辞だけをつけます(**minun kävellessä-ni** ではなく **kävellessä-ni**)。次の 2 つの文の違いに注意して下さい。

- Matti lauloi tanssi-essa-an.** マッティは踊りながら歌った
- Matti lauloi hänen tanssi-essa-an.**
- マッティは、ほかの彼/彼女が踊っているとき歌っていた

最初の文では **tanssi-essa-an** に属格の主語がついていないので、「踊っている」のは文全体の主語である **Matti** です。下の文では **tanssi-essa-an** に **hänen** という属格がついていますので、「踊っている」のは文全体の主語 **Matti** とは別の人間です。

ポイント 104 – 時相構文(1) – 第 2 不定詞内格

Äidin lukiessa lapset kuuntelivat. 母親が読んでいる間、子供たちは聞いていた

Lukiessani lapset kuuntelivat. 私が読んでいる間、子どもたちは聞いていた

Matti lauloi **tanssiessaan**. マッティは踊りながら歌った

Matti lauloi **hänen tanssiessaan**. マッティは、ほかの彼/彼女が踊っているとき歌っていた

63-3. -kkain/-kkäin

-kkain/-kkäin は「たがいに」というような意味合いを持つ接辞です。

He istuivat **vierekkäin**. 彼らは並んで座った

Kävelimme **rinnakkain**. 我々は並んで歩いた

He istuivat junassa **vastakkain**. 列車で彼らは向かい合って座った

Teokset ilmestyivät ihan **peräkkäin**. それらの作品は続けて出版された

Asumme **lähekkäin**. 我々はたがいの近くに住んでいる

Tilaisuudet menevät **päällekkäin**. 集まりが重なってしまった

63-4. -ttain/-ttäin

-ttain/-ttäin という接辞によっても、多くの語が生まれています。

1) 方法を表すもの

He puhuvat ruotsia **suomalaisittain**.

彼らはフィンランド人式にスウェーデン語を話す

He ääntävät suomea **eestiläisittäin**.

彼らはフィンランド語をエストニア人式に発音する

Näette asiat **kaupukilaisittain**. あなた方は、物事を都会人の目で見ている

2) 数に関するもの

Tästä voidaan mainita **kymmenittäin** esimerkkejä.

これについては数十の例を挙げる事ができる

Linnut muuttavat **joukoittain**. 鳥たちは集団で移動する

3) 時に関するもの

Sienisato vaihtelee huomattavasti **vuosittain**. キノコの収穫は年毎に著しく変化する

Lehti ilmestyy **kuukausittain**. その雑誌は月毎に出る

Potilas oli ajoittain hyvinkin pirteä. 患者は時おり非常に元気だった

4) 場所に関するもの

Rakennustyypit vaihtelevat **alueittain**. 建築のスタイルは地域ごとに異なる

5) その他

Väite pitää vain **osittain** paikkansa. その主張は部分的にしか真実ではない

Ikkuna on **puolittain** auki. 窓は半分だけ開いている

文法問題 63-1. 時相構文に書き換えなさい。

- 1) Kun aurinko paistaa, on hauska olla ulkona.
- 2) Kun ihminen on nuori, koko maailma on hänelle avoin.
- 3) Junan ovet sulkeutuvat automaattisesti, kun juna lähtee.
- 4) Kun kielikurssi päättyi, pidettiin aina tentti.
- 5) Kukaan ei jaksanut nauraa, kun Tuomas ja Harri kertoivat vanhoja vitsejään.

文法問題 63-2. 時相構文に書き換えなさい。

- 1) Kaikki lakkasivat puhumasta, kun minä tulin huoneeseen.
- 2) Pelkään aina kun sinä ajat autoa.
- 3) Kun hän lähti, seisoin ikkunassa katselemassa.
- 4) Pekka oli kymmenenvuotias, kun me tapasimme toisemme.
- 5) Kun te heräsitte, äiti oli jo lähtenyt toimistoon.

文法問題 63-3. 時相構文に書き換えなさい。

- 1) Kun viini vanhentuu, se paranee.
- 2) Kun olen matkoilla, ikävöin usein kotiin.
- 3) Millä tavalla reagoit, kun joudut vaikeaan tilanteeseen?
- 4) Kun näimme heidät, menimme juttelemaan heidän kanssaan.
- 5) Mitä teette, kun tarvitsette rahaa?
- 6) Lapset tulevat äidin luo, kun tämä kutsuu heitä.
- 7) Lapset tulevat äidin luo, kun tarvitsevat apua.

文法問題 63-4. ()内に適切な語を入れなさい。

- 1) Vero nousee (). 税金はじょじょに上昇する
- 2) Istuttiin (). 二人ずつ座った
- 3) Seisoin veljeni kanssa jonossa (). 兄/弟と列に前後に並んだ
- 4) Flunssatilanne vaihtelee (). インフルエンザの状況は地域によって異なっている
- 5) Odotetaan () selkeää säätä. 比較的晴天が予想される

[a. pareittain b. paikkakunnittain c. asteittain d. peräkkäin e. verrattain]

第 64 課

Kuudeskymmenesneljäs kappale

64-1. 時相構文(2)－第2不定詞内格受動形

64-2. 時相構文(3)－受動過去分詞の分格

64-1. 時相構文(2)－第2不定詞内格受動形

第2不定詞内格には受動の形があります。受動形過去の*-iin*を*-aessa/-äessä*に変えると、第2不定詞内格の受動形になります。

lukea > 受動形現在 luetaan > 受動形過去 luettiin

>第2不定詞内格受動形 luett-aessa

kun を使った文を書き換えてみましょう。

Kun opiskellaan vierasta kieltä, tarvitaan hyvä oppikirja.

Opiskeltaessa vierasta kieltä tarvitaan hyvä oppikirja.

外国語を勉強するときには、良い教科書が必要だ

kun の後に出てくる *opiskellaan* という受動形の動詞が、***opiskeltaessa*** という第2不定詞内格の受動形に変わっています。受動形には主語はありませんので、所有接尾辞がつくこともありません。

Kun tätä työtä tehdään, täytyy olla hyvä valaistus.

Tätä työtä **tehtäessä** täytyy olla hyvä valaistus.

この仕事をするときには、良い照明がなければならない

Kun kuunnellaan musiikkia, pitää olla hiljaa.

Musiikkia **kuunneltaessa** pitää olla hiljaa.

音楽を聴くときには静かにしていなければならない

Kun tultiin kotiin, ulkona satoi hirveästi.

Kotiin **tultaessa** ulkona satoi hirveästi.

家に帰ってきたとき、外はひどく雨が降っていた

Kun äänestettiin hallituksen lakiehdotuksesta, oppositio sai selvän voiton.

Äänestettäessä hallituksen lakiehdotuksesta oppositio sai selvän voiton.

政府の法案について投票が行われた際には野党が完全な勝利を収めた

ポイント 105 - 時相構文 (2) - 第 2 不定詞内格受動形

Kun opiskellaan vierasta kieltä, tarvitaan hyvä oppikirja.

→ **Opiskeltaessa** vierasta kieltä tarvitaan hyvä oppikirja.

外国語を勉強するときには、良い教科書が必要だ

Kun tultiin kotiin, ulkona satoi hirveästi.

→ **Kotiin tultaessa** ulkona satoi hirveästi.

家に帰ってきたとき、外はひどく雨が降っていた

Kun äänestettiin hallituksen lakiehdotuksesta, oppositio sai selvän voiton.

→ **Äänestettäessä** hallituksen lakiehdotuksesta oppositio sai selvän voiton.

政府の法案について投票が行われた際には野党が完全な勝利を収めた

64-2. 時相構文 (3) - 受動過去分詞の分格

第 2 不定詞内格は、2 つの行為や出来事が同時に起こっている場合に使うことができました。それに対して受動過去分詞の分格の形は「～した後で、～してから」という意味で、時間的に以前の出来事を表します。そのほかの点については、第 2 不定詞内格の場合とまったく同じです。

Kun äiti oli lähtenyt työhön, lapset alkoivat taas nukkua.

Äidin lähde-tty-ä työhön lapset alkoivat taas nukkua.

母親が仕事へ出かけると、子供たちはまた寝始めた

ここでは、子どもたちが寝始めたのより、母親が出かけたのが以前の話です。この場合には第 2 不定詞内格ではなく、受動過去分詞の分格の形を使います。

① kun が消えています。

② kun に導かれていた部分の主語である **äiti** が属格の **äidin** になっています

③ kun の導いていた部分の動詞 **oli lähtenyt** が受動過去分詞の分格 **lähdettyä** になっています。

次をみましょう。

Kun olin lukenut kirjan, hän alkoi sitä lukea.

Minun lue-ttu-a-ni kirjan hän alkoi sitä lukea.

私が本を読んでしまうと、彼がそれを読み始めた

ここでは **minun** という人称代名詞の属格がついているので、**luettua** に所有接尾辞がついています。1 人称や 2 人称の代名詞の属格は省略されるのがふつうです。

Lue-ttu-a-ni kirjan hän alkoi sitä lukea.

さらに、文全体の主語と時相構文となる部分の主語が同じ場合には、受動過去分詞の分格には所有接尾辞だけをつけ、人称代名詞の属格はつけません。

{ Kun olin lukenut kirjan, lähdin ulos. 読書した後で、私は外出した

Lue-ttu-a-ni kirjan lähdin ulos.

{ Tuletko ulos, kun olet juonut kahvia? コーヒーを飲んだら外へ来るか

Tuletko ulos **juo-tu-a-si** kahvia?

次の2つの文の意味の違いに注意してください。

{ **Syö-ty-ä-än** Pekka lähti kävelylle.

食事を終わるとペッカは散歩に出かけた

Hänen syö-ty-ä-än Pekka lähti kävelylle.

ほかの彼/彼女が食事を終わると、ペッカは散歩に出かけた

ポイント 106 一時相構文(3) 受動過去分詞の分格

Kun äiti oli lähtenyt työhön, lapset alkoivat taas nukkua.

→ **Äidin lähdettyä** työhön lapset alkoivat taas nukkua.

母親が仕事へ出かけると、子供たちはまた寝始めた

Kun olin lukenut kirjan, hän alkoi sitä lukea.

→ (Minun) **luettuani** kirjan hän alkoi sitä lukea.

私が本を読んでしまうと、彼がそれを読み始めた

Kun olin lukenut kirjan, lähdin ulos.

→ **Luettua-ni** kirjan lähdin ulos.

読書した後で、私は外出した

Tuletko ulos, kun **olet juonut** kahvia? コーヒーを飲んだら外へ来るか

→ Tuletko ulos **juotuasi** kahvia?

{ **Syö-ty-ä-än** Pekka lähti kävelylle.

食事を終わるとペッカは散歩に出かけた

Hänen syö-ty-ä-än Pekka lähti kävelylle.

ほかの彼/彼女が食事を終わると、ペッカは散歩に出かけた

文法問題 64-1. 時相構文に書き換えなさい。

- 1) Kun keskustellaan koulusta, unohdetaan tavallisesti kysyä oppilaiden mielipidettä
- 2) Kun pidetään puhetta, on otettava huomioon, kenelle puhutaan.
- 3) Kun ajetaan Helsingistä pohjoiseen päin, tullaan Lahteen.
- 4) Kun on tutkittu ilmaston kehitystä, on todettu, että mahdollisesti on tulossa uusi jääkausi.
- 5) Kun tuotetaan korkealaatuista tavaraa, hintakin on tavallisesti korkea.

文法問題 64-2. 時相構文に書き換えなさい。

- 1) Kun Harri oli tullut kotiin, Maarit lähti työhön.
- 2) Kun aurinko on laskenut, tulee pimeä.
- 3) Kun lukukausi on loppunut, opiskelijat pääsivät lomalle.
- 4) Kun ystäväni ovat palanneet lomalta, järjestämme pienen juhlan.
- 5) Kun juna oli lähtenyt, huomasin, ettei minulla ollut lippua eikä rahaa.

文法問題 64-3. 時相構文に書き換えなさい。

- 1) Kun olen ollut poissa kotoa, minulle tulee koti-ikävä.
- 2) Tutustuimme heihin, kun he olivat muuttaneet tänne.
- 3) Kaikki lakkaavat aina puhumasta, kun hän on tullut huoneeseen.
- 4) Lähdimme kävelylle, kun olitte saapuneet.
- 5) Hirvi juoksi auton eteen, kun olimme ajaneet 40 km Porvooseen päin.

文法問題 64-4. 時相構文に書き換えなさい。

- 1) Käyt kai usein ajelemassa nyt, kun olet saanut ajokortin.
- 2) Nukuin levottomasti, kun olin katsonut jännittävän elokuvan.
- 3) Masentuuko hän helposti, kun on epäonnistunut jossakin?
- 4) Kun olette nyt voittanut pienen summan lotossa, jatkatte varmaan lottoamista.
- 5) Jari unohtivat muut tytöt, kun oli tutustunut Annaan.

文法問題 64-5. 時相構文に書き換えなさい。

- 1) Lapset tulevat äidin luo, kun tämä on tullut työstä kotiin.
- 2) Lapset tulevat äidin luo, kun ovat tulleet koulusta kotiin.

第 65 課

Kuudeskymmenesviides kappale

- 65-1. 共格
- 65-2. 欠格
- 65-3. 具格
- 65-4. 格の不一致

65-1. 共格

共格は「～と一緒に、～を含めて」というような意味を持ちますが、書き言葉で多く使われる形で、ふつうは「属格 + *kanssa*」などの表現を使います。

1) 共格の作り方

共格語尾は **-ine-** ですが、最初の **-i-** という音は複数標識の **-i-** と同じ様な変化を引き起こします。ですから複数語幹に **-ne-** をつけると考えるとよいでしょう。語幹に階程交替がある場合には強階程になります。共格には単数と複数の区別がありませんので、前後関係や常識から、単数か複数かを判断することになります。さらに共格の特徴は、**-ine-** の後ろに必ず所有接尾辞がつくということです。

minä perhe-ine-ni 私と、私の家族

sinä vaimo-ine-si あなたと、あなたの奥さん

Helsinki ympäristö-ine-en ヘルシンキと、その周辺

ただし名詞を修飾する形容詞には **-ine** だけをつけ、所有接尾辞はつけません。

te kaikk-ine ystäv-ine-nne 「あなた方と、あなた方のすべての友人」

2) 共格の用法

Lennän vanho-ine ystäv-ine-ni Lontooseen.

私は古い友人（たち）とロンドンへ飛行機で行く

Savonlinna ympäristö-ine-en on kesällä vilkasta turistiseutua.

サボンリンナとその周辺は、夏は活気のある観光地だ

65-2. 欠格

欠格は「～なしで」という意味を持ちますが、書き言葉で多く使われる形で、多くの場合「*ilman* + 分格」という形の方を使います。

1) 欠格の作り方

欠格の語尾は **-tta/-ttä** で、母音語幹につけます。階程交替がある場合には弱階程になります。

raha > 単数欠格 **raha-tta** = ilman rahaa 金なしで、一文無しで

takki > 単数欠格 **taki-tta** = ilman takkia コートを着ずに

käsine > 複数欠格 **käsinei-ttä** = ilman käsineitä 手袋をつけず

欠格の語尾は、動詞の第 3 不定詞欠格の中でも使われています (**-matta/-mättä**) 。

2) 欠格の用法

Kauanko voi elää **ruua-tta** (= ilman ruokaa)?

食事なしで、どのくらい生きられるだろうか

On ikävä elää **ystäv-i-ttä** (ilman ystäviä).

友人もなく生きることはいつまらない

Tällä koneella siivoatte kotinne **vaiva-tta** (= ilman vaivaa).

この機械を使えば、面倒もなくお宅の掃除ができる

65-3. 具格

具格は一般的に「～で、～を使って」など手段や方法を表すことのできる格ですが、慣用的な表現を除けば、ふつう書き言葉で使われる形です。

1) 具格の作り方

具格の語尾は **-n** ですが、(弱階程)母音語幹につけます。結果的に単数具格は単数属格と同じ形になります。

jalka > 単数具格 **jala-n** 徒歩で、足で

ただし、単数具格が使われるのはまれで、1 つのものを表す場合でも複数具格の形を使うのが一般的です。複数でも(弱階程)複数語幹に **-n** をつけます。

silmä > 複数具格 **silmi-n** 目で

また、具格には所有接尾辞はつけません。

2) よく使われる具格を含んだ表現

aamuin illoin 朝も夜も

kaikin mokomin 絶対に、ぜひとも

kaikin tavoin あらゆる方法で

käsin 手で

paljain käsin 素手で

kaikin keinoin あらゆる手段で

kaikin puolin あらゆる点において

kaikin voimin 全力で

molemmin käsin 両手で

molemmin puolin 両側に

millä tavoin どういう方法で
monin tavoin 多くの方法で
omin päin 自分一人で、独力で
omin voimin 自分の力で
paljain päin 何もかぶらずに

missä määrin どの程度
omin käsin 自らの手で
omin silmin 自らの目で
paljain jaloin 裸足で
suurin odotuksin 大きな期待を持って

ポイント 107 - 共格・欠格・具格

Lennän **ystäv-ine-ni** Lontooseen. 私は友人(たち)とロンドンへ飛行機で行く
Kauanko voi elää **ruua-tta**? 食事なしで、どのくらい生きられるだろうか
Se on tehty **käsi-n**. それは手作りだ

65-4. 格の不一致

名詞とそれを修飾する形容詞は同じ格になるのが原則でしたが、この原則からはずれている慣用的な表現があります。

1) tavoin

tapa「方法」の接格 **tavalla** は「方法で」という意味になりますが、複数具格 **tavoin** が使われることがあります。その場合にも修飾する語は接格になるのが普通です。

Millä tavoin (= **Millä tavalla**) se tehdään? それはどんなふうにするのか

Asia tuntuu **jollakin tavoin** (= **jollakin tavalla**) tutulta.

そのことは何かしら知っていることのような感じがする

他に **tällä tavoin** 「この方法で」、**sillä tavoin** 「その方法で」、**monella tavoin** 「さまざまな方法で」などがあります。

2) kertaa

kerta 「回、度」は分格の形で、接格の語と結びつくことがあります。

Heitä tuli **yhdellä kertaa** kolmetoista. 彼らは1度に13人も来た

他に **tällä kertaa** 「今回は」、**samalla kertaa** 「同時に」、**toisella kertaa** 「2度目は」などがあります。

3) määrin

määrä 「程度」の複数具格 **määrin** は内格の修飾語と結びつきます。

Hän suuttui **siinä määrin**, että meni puhumattomaksi.

彼/彼女は口をきかなくなるほど怒った

他に **missä määrin** 「どの程度」、**jossakin määrin** 「ある程度」などがあります。

文法問題 65-1. 共格を使って書き換えなさい。

- 1) Tuolla on eräs ystäväni ja hänen perheensä.
- 2) Naapurissa asuu nuori nainen kolmen lapsensa kanssa.
- 3) Konferenssin aiheena ovat kehitysmaat ja niiden ongelmat.
- 4) Me muutamme asuntoa, mukanamme lapset, koira ja kaikki tavarat.
- 5) Kesällä syömmme perunat ja niiden kuoret.
- 6) Meitä kiinnostavat pohjoismaat ja niiden korkeat elintasot.

文法問題 65-2. 欠格を使って書き換えなさい。

- 1) Monet eivät osaa nukkua ilman unilääkkeitä.
- 2) Et saa lähteä ilman lupaa.
- 3) Ennen oli paljon sairaita, jotka jäivät hoitoa vaille.
- 4) Tähän junaan ei pääse ilman paikkalippua.
- 5) Hän puhui tunnin ilman taukoa.
- 6) Tämän sinä opit ilman vaivaa.

文法問題 65-3. 具格を使って書き換えなさい。

- 1) Kerron jutun käyttäen omia sanoja.
- 2) Hän veti ovea käyttäen kaikkia voimiaan.
- 3) Hän veti ovea käyttäen molempia käsiään.
- 4) Lopetan kirjeeni lähettäen sydämellisiä terveisiä.
- 5) Hän yritti päästä ulos käyttäen kaikkia keinoja.
- 6) Hän näki tapauksen omilla silmillään.

文法問題 65-4. ()内に適切な語句を入れなさい。

- 1) Saman asian voi sanoa (). 同じことをいろいろな言い方ができる
 - 2) Mitä muuta saisi olla? -Ei nyt muuta (). 他には何かー今回は他にはありません
 - 3) Tauti ei ole () lisääntynyt. 病気は言及するほど増えてはいない
 - 4) Hän toimitti kaksi asiaa (). 彼女は同時にふたつのことをしていた
 - 5) Asia on järjestettävä (). その件は別の方法でやらなければならない
- [a. mainittavassa määrin b. tällä kertaa c. samalla kertaa d. muulla tavoin
e. monella tavoin]

第 66 課

Kuudeskymmeneskuudes kappale

- 66-1. 不定形について
- 66-2. 注意すべき分詞の用法
- 66-3. -itse

66-1. 不定形について

動詞の様々な形を定形と不定形に分けることがあります。定形と呼ばれるのは、現在形や過去形などのように時制を持っている形です。逆に分詞や不定詞がいつのことを指しているのかは、定形の動詞を見なければ分かりません。たとえば

- { Hän on **syömässä**. 彼女は食事中だ
- { Hän oli **syömässä**. 彼女は食事中だった

という 2 つの文の意味をを比べるときに、第 3 不定詞内格 **syömässä** を見てもいつの話なのかは分かりません。いつの話なのかを表しているのは **on, oli** という定形の動詞です。**syömässä** のように時制を持たない動詞の形を不定形と呼びます。

フィンランド語には多くの不定形があり、基本的な働きは学習しましたが、ここではそれ以外に注意しておくべき不定形の用法を学習します。

66-2. 注意すべき分詞の用法

1) 能動現在分詞

- ① Rakkaus on **voittava** vihan. 愛が憎しみに打ち勝つであろう

olla-動詞と結びついて未来を表すことがあります。単数形しかありません。

On **tuleva** aika, jolloin sodat loppuvat. 戦争のなくなるときが来るであろう

Tämä lapsi oli **kokeva** paljon. この子は多くのことを経験することとなった

- ② Hän on **nukkuvinaan**. 彼/彼女は寝ているふりをしている

能動現在分詞の複数様格に所有接尾辞のついた形が動詞 olla と結びついて「～のふりをする」という意味を持つことがあります。

Hän ei ollut **näkevinään** meitä. 彼/彼女は我々が見えないふりをしていた
あるいは「～した気がする」というような意味になる場合があります。

Olin **kuulevinani**, että puhelin soi. 電話が鳴ったような気がした

2) 受動現在分詞

① Radio vietiin korjattavaksi. ラジオは修理するため持っていかれた

受動現在分詞の変格は「～されるように、～されるために」というように目的を表すことがあります。

Hän toi autonsa **myytäväksi**. 彼/彼女は売るために自動車を持ってきた

Hänet vietiin sairaalaan **hoidettavaksi**. 彼/彼女は治療のため病院へ送られた

② Radio on ollut jo viikon korjattavana. ラジオはもう1週間修理に出してある

受動現在分詞の様格は「～されている」というように、状態を表します。

Hänen autonsa on **myytävänä**. 彼/彼女の自動車は売りに出されている

Hän on sairaalassa lääkärin **hoidettavana**. 彼/彼女は病院で医者の治療中だ
あるいは「～されるべき」というような意味合いを表します。

Minulla on kirja **käännettävänä**. 訳さなければいけない本がある

③ Onko opettaja tavattavissa? 先生に会えますか

受動現在分詞の複数内格は動詞 olla と結びついて、「～できる、～できる状態にある」というような可能の意味を持つことがあります。

Ratkaisu ei ole **löydettävissä**. 解決策を見つけることは不可能だ

On **odotettavissa** pakkasta huomiseksi. 明日は零下になると予想される

3) 能動過去分詞

① Tulin valehdelleeksi. 私は嘘をついてしまった

能動過去分詞の変格の形が動詞 tulla と結びつくと、偶然の行為を表したり、誤って何かをしてしまったというような意味を表したりします。

Tulin **sanoneeksi** sellaista, mitä en tarkoittanut.

意図してはいないことを言ってしまった

Kuinka tulit **tehneeksi** näin pahan virheen?

どうしてこんなひどいまちがいをしてしまったのか
また、完了した行為を表すこともあります。

Tulen pian **asuneeksi** Suomessa vuoden.

もうすぐフィンランドに住んで1年になる

4) 受動過去分詞

① On tullut **valvotuksi** (**valvottua**) myöhään. 夜更かしをしてしまった

受動過去分詞の変格が動詞 **tulla** と結びつくと、偶然の行為を表したり、誤って何かをしてしまったというような意味を表したりします。受動過去分詞は変格ではなく分格になる場合もあります。

Joskus tulee **sanotuksi** (**sanottua**) sellaista, mitä ei tarkoita.

意図しないことを言ってしまうことがある

また、完了した行為を表すこともあります。

Silta tuli **rakennetuksi** kahdessa vuodessa.

橋は2年間で建設されることになる

② En saanut **kirjoitetuksi** (**kirjoitettua**) kirjettä. 手紙を書いてしまえなかった

受動過去分詞の変格が動詞 **saada** と結びつくと、「(うまいこと)~してしまう」という意味で完了を表します。受動過去分詞は分格になる場合もあります。

Saatko työn **tehdyksi** (**tehtyä**) tänään? 今日仕事を終えられますか

Hän ei saanut **lähetetyksi** (**lähetettyä**) pakettia. 彼/彼女は小包を送れなかった

ポイント 108 - 注意すべき分詞の用法

Hän on **nukkuvanaan**. 彼/彼女は寝ているふりをしている

Radio vietiin **korjattavaksi**. ラジオは修理するため持っていかれた

Radio on ollut jo viikon **korjattavana**. ラジオはもう1週間修理に出してある

On **odotettavissa** pakkasta huomiseksi. 明日は零下になると予想される

Tulin **sanoneeksi** sellaista, mitä en tarkoittanut. 意図しないことを言ってしまった

On tullut **valvotuksi** (**valvottua**) myöhään. 夜更かしをしてしまった

En saanut **kirjoitetuksi** (**kirjoitettua**) kirjettä. 手紙を書いてしまえなかった

66-3. -itse

-itse をつけて「電話で」、「郵便で」、あるいは「陸路で」というような表現をすることができます。次のようなものがあります。

He kuljettavat puutavaraa **maitse** (<maa). 彼らは材木を陸路で運ぶ

Asiasta sovittiin **puhelimitse** (<puhelin). その件については電話で約束した
その他に **meritse** 「海路で」、**lentoteitse** 「空路で」、**rautateitse** 「鉄道で」などがあります。

文法問題 66-1. ()内の動詞を適切な形に直しなさい。

- 1) Tulin (kävellä) kadun tällä puolella. 通りのこちら側を歩いてしまった
- 2) Olin vain (ymmärtää). 私はただ理解したふりをしていた
- 3) Asiaa ei ole (auttaa). その件はどうしようもない
- 4) Sain (säästää) rahaa tietokoneeseen. コンピュータを買う金を貯めることができた
- 5) Rikkinäinen televisiomme vietiin (korjata). 故障したテレビは修理に出された
- 6) Hän tuli (tuntea) keksijänä. 彼/彼女は発明家として知られるようになった
- 7) Uskon, että vielä kerran on (tapahtua) niin. もう一度そうなるだろうと思う
- 8) Maalaus on (nähdä) gallerian ikkunassa. その絵はギャラリーのウィンドーで見れる
- 9) Kuinka tulit (ajatella) sellaista? どうしてそんなことを考えるようになったのか
- 10) Jätin auton (pestä). 自動車は洗車のために置いてきた
- 11) He olivat vain (pitää) huoneesta. 彼らはただ部屋が気に入ったふりをしていた
- 12) Mitään ei ole (tehdä) potilaan hyväksi. 患者のためにできることはない
- 13) Milloin olette saaneet tämän työn (tehdä)? いつこの仕事を終えられたか
- 14) Hän tuli (juoda) viiniä. 彼/彼女はワインを飲んでしまった
- 15) Taiteilija toi maalauksiaan (myydä) galleriaan. 画家は売るために絵をギャラリーに持ち込んだ
- 16) Olohuoneen matto on pesulassa (puhdistaa). 居間のマットは洗濯屋に出してある
- 17) Tulimme (nukkua) liian pitkään. 寝すぎてしまった
- 18) En saanut häntä (lähteä). 彼/彼女を出かけさせられなかった
- 19) Hän alkoi syödä, kun oli saanut lehdet (lukea). 新聞を読んでしまうと食事を始めた
- 20) Olit vain (kuunnella). あなたはただ聞いているふりをしていただけだ
- 21) Kokous annettiin Suomen (järjestää). 会議はフィンランドが主催することになった
- 22) Kenen (hoitaa) tämä asia on? この件は誰が担当しているのか
- 23) Onko ratkaisu (löytää)? 解決策を見つけることができるだろうか
- 24) He tulivat (luvata) sen hänelle. 彼らは彼/彼女にそれを約束してしまった
- 25) Hän tunsu tulleen (pettää). 彼/彼女は自分がだまされたと感じた
- 26) Olitte vain (kiinnostua) asiasta. あなた方はただその件に興味があるふりをしている
- 27) Useimmat erehdykset ovat (korjata). ほとんどの間違いはやりなおせる
- 28) Voit mennä, kun olet saanut tämän kirjeen (kirjoittaa). 手紙を書いてしまったら行ってよい
- 29) Mikä sai sinut (tehdä) sen? どうしてそんなことをしたのか
- 30) Televisiomme on ollut nyt jo viikon (korjata). テレビはもう1週間修理に出してある

第 67 課

Kuudeskymmenesseitsemäs kappale

- 67-1. 注意すべき不定詞の用法
- 67-2. 注意すべき動名詞の用法
- 67-3. フィンランド語の話し言葉

67-1. 注意すべき不定詞の用法

1) 第 1 不定詞短形

- ① Olin **kaatua**. もう少しでころぶところだった

動詞 olla と結びつくと「～しそうだ、もう少しで～するところだ」という意味を表します。

Olimme **kuolla** naurusta. 我々はおかしくて死にそうだった

- ② Olin vähällä **kaatua**. もう少しでころぶところだった

on vähällä と結びついて「もう少しで～するところだ」という意味を表します。

Olin vähällä **unohtaa** koko asian. その件はすべて忘れるところだった

- ③ Pidän velvollisuutenani **mennä**. 行くことが私の義務だと思う

pitää 「思う、みなす」や luulla 「思う」の目的語となることができます。

Luulen velvollisuutenani **mennä**. 行くことが私の義務だと思う

- ④ Annoin hänen **leikkiä** ulkona. 彼/彼女を外で遊ばせておいた

antaa 「～させておく、～することを許す」は属格と第 1 不定詞短形を取ります。

Hän antaa vauvan **itkeä**. 彼/彼女は赤ん坊を泣かせておいた

Anna (Antakaa) **olla!** 放っておきなさい、そのままにしておきなさい
käskeä 「命令する」も同じ形を取ることがあります。

He käskivät *minun* **mennä** ulos. 彼らは私に外へ出るよう命じた

(= He käskivät *minua* **menemään** ulos. 第 3 不定詞を取ることもあります)

2) 第 3 不定詞入格

- ① Tulen aina **rakastamaan** sinua. ずっとあなたを愛しつづけるでしょう

動詞 tulla と結びついて未来を表すのに使われることがあります。

Tulet **katumaan** tätä. このことを後悔することになるだろう

3) Olin **nukkumaisillani**. 私は眠ろうとしていた

動詞に「-maisilla/-mäisillä + 所有接尾辞」をつけた形を第 5 不定詞と呼ぶことがあります。この形は動詞 olla と結びついて「まさに～しようとしているところだ」という意味を持ちます。この形は動詞に-mainen/-mäinen という接辞をつけてできた語を複数接格にして、さらに所有接尾辞をつけた形です。

Jäät ovat **lähtemäisillään** järvestä. 湖から氷が消えようとしている

ポイント 109 – 注意すべき不定詞の用法

Pidän vellvollisuutenani **mennä**. 行くことが私の義務だと思う

Hän antaa vauvan **itkeä**. 彼/彼女は赤ん坊を泣かせておいた

Tulen aina **rakastamaan** sinua. ずっとあなたを愛しつづけるでしょう

Olin **nukkumaisillani**. 私は眠ろうとしていた

67-2. 注意すべき動名詞の用法

① Puu kasvaa **kasvamistaan**. 木はどんどんと生長していく

ある動詞と、同じ動詞の動名詞の分格の形に所有接尾辞をつけた形を結びつけると「～し続けている」という意味を強調することができます。

Lentokone nousi **nousemistaan**. 飛行機はどんどん高度を上げていった

② Järjestö toimii pakolaisten **auttamiseksi**. その団体は難民を助けるために活動している
動名詞の変格はしばしば目的を表します。

Ei ole mitään ihmelääkettä työttömyyden **poistamiseksi**. 失業をなくすための魔法の薬などない

Potilaan **pelastamiseksi** tehtiin kaikki mahdollinen. 患者を救うためできる限りのことが行われた

③ Meidän on **lähteminen**. 我々は出かけなければならない

動名詞は動詞 olla の 3 人称単数形と結びつくと「～しなければならない」という意味になることがあります。この使われ方をしている動名詞の形を第 4 不定詞と呼ぶことがあります。日本語で主語に相当する人物は属格で表します。-minen は肯定文で使われ、否定文では分格の -mista / -mistä になります。

Sinne ei ole **menemistä**. そこへは行ってはいけない

④ En ole missään **tekemisissä** hänen kanssaan. 私は彼/彼女とは何の関係もない
tekeminen は「関係、関わり」というような意味で使われます。

Olet joutunut **tekemisiin** rikollisten kanssa.

あなたは犯罪者たちと関わりを持つことになった

Sillä on jotakin **tekemistä** tämän asian kanssa. それはこの件と何らかの関わりがある

Minulla ei ole mitään **tekemistä** noiden ihmisten kanssa.

私はあの人たちとは何の関係もない

⑤ Olin lähellä kaatumista. もう少しでころぶところだった

lähellä と動名詞の分格が結びついて「もう少しで～するところだ」という意味を表します。

Juna oli lähellä **suistumista**. 列車はもう少しで脱線するところだった

ポイント 110 – 注意すべき動名詞の用法

Lentokone nousi **nousemistaan**. 飛行機はどんどん高度を上げていった

Järjestö toimii pakolaisten auttamiseksi. その団体は難民を助けるために活動している

En ole missään **tekemisissä** hänen kanssaan. 私は彼/彼女とは何の関係もない

67-3. フィンランド語の話し言葉

フィンランド語も書き言葉と話し言葉の間には差がありますし、また地域差もあります。ここではフィンランド語の話し言葉の大きな特徴を取り上げます。

1) 複数 1 人称の代わりに受動形を使う (26 課参照)

Me mentiin Helsinkiin. = Me menimme Helsinkiin. 我々はヘルシンキへ行った

2) 人称代名詞

minä は mä、sinä は sä となります。また hän と he の代わりに se と ne が使われます。mä の語幹は mu-、sä の語幹は su-となり、たとえば接格は mulla、sulla となります。

3) 代表的な動詞は短くなる

olla の現在形は oon・oot・on・ollaan・oote・on、tulla の現在形は tuun・tuut・tulee・tullaan・tuutte・tulee、mennä の現在形は meen・meet・menee・mennään・meette・menee となります。1 人称複数形として受動形が使われ、3 人称は単複同形です。

4) 疑問詞や -ko/-kö に -s がつく

mikäs や kukas のように疑問詞にしばしば -s がつきますが、疑問文を作る -ko/-kö にもしばしば -s はつきます。さらに -o/-ö が消えて -ks となることもあります。

Ootteks (= Oletteko) te kotona huomenna?

5) 指示代名詞

tämä は tää、tuo は toi となります。toi の語幹は to-となり、たとえば分格は tota となります。同様に nämä は nää、nuo は noi となります。

文法問題 67-1. 例にならって書き換えなさい。

例：Olin kaatua. 私は転ぶところだった

⇒ Olin vähällä kaatua / Olin kaatumaisillani.

- 1) Hän oli tunnustaa kaiken.
- 2) Olimme menettää toivomme.
- 3) Olin unohtaa koko asian.
- 4) Autot olivat peittyä lumeen.

文法問題 67-2. ()内の動詞を必要があれば、適切な形に直しなさい。

- 1) Äiti antoi isän (juoda) olutta. 母は父にビールを飲ませておいた
- 2) He katsoivat asiakseen (ottaa) siitä selvää. それをはっきりさせるのが義務だと考えた
- 3) Ryhdytään ennakkotoimiin taudin (estää). 病気を予防するため事前の行動に入ろう
- 4) Tilanne on pahanetunut (pahentua). 状況は悪化の一途を辿ってきている
- 5) Anna minun (olla) rauhassa! 私を静かにしておいてくれ
- 6) Hän joutui (tehdä) vihollisten kanssa. 彼/彼女は敵と関係を持つようになった
- 7) Isä käski minun (mennä) pankkiin. 父は私に銀行へ行くよう命じた
- 8) Isä käski minua (mennä) pankkiin. 父は私に銀行へ行くよう命じた
- 9) Ihmiset tulevat aina (olla) sellaisia. 人間というのは常にそうしたものであり続けるだろう
- 10) Antakaa pojan (jatkaa) urheilua. 少年たちに運動をさせておけ
- 11) Hän puhui (puhua). 彼/彼女は話し続けた
- 12) Tulemme aina (vastustaa) väkivaltaa. 我々は常に暴力には反対し続けていくだろう
- 13) Kesällä yö lyhenee (lyhetä). 夏には夜がどんどんと短くなっていく
- 14) Pidin asianani (ilmoittaa) tästä sinullekin. これについて君にも知らせるのが義務だと思った
- 15) Käskin veljeni (avata) television. 弟にテレビをつけろと命じた
- 16) Opiskeluaikana he olivat paljon (tehdä) keskenään. 学生時代に彼らはずいぶんと関係があった
- 17) Ihmisten väliset erot eivät tule kosakaan (hävitä). 人と人の違いは決してなくなりはないだろう
- 18) Tämä tehtävä on (suorittaa). この仕事は成し遂げなければならない
- 19) Kerätään rahaa nälkää näkevien (auttaa). 飢えに直面している人々を助けるために金を集めよう
- 20) Me katsoimme parhaaksi (lähteä). 出かけるのが一番よいと考えた
- 21) Sillä ei ole mitään (tehdä) tämän kanssa. それはこれとは何の関係もない
- 22) He harjoittelivat (harjoitella). 彼らは練習に練習を重ねた
- 23) Pidettiin viisaampana (jäädä) kotiin. 家にいるほうが賢いと考えた

第 68 課

Kuudeskymmeneskahdeksas kappale

68-1. 可能法現在形

68-2. 可能法完了形

68-1. 可能法現在形

すでに学習した直説法（現在形・過去形・現在完了形・過去完了形）、命令法、条件法（現在形・完了形）のほかに、動詞には可能法と呼ばれる形があります。簡単に言えば「おそらく～だ、～かもしれない」というような意味を持つ形です。ここでは可能法現在形を学習します。

1) 可能法現在形の作り方

可能法を表す印は**-ne-**です。タイプ 1 と 2 の動詞では(強階程)母音語幹に**-ne-**をつけます。タイプ 3、4、5、6 の動詞では子音語幹につけます。

① タイプ 1, 2 の動詞

tietää > 強階程語幹 tietä- > 可能法語幹 **tietä-ne-**

juoda > 語幹 juo- > 可能法語幹 **juo-ne-**

② タイプ 3 の動詞

タイプ 3 の動詞では、不定詞の最後の 2 文字を取った子音語幹に**-ne-**をつけます。ただし可能法の**-ne-**の最初の**-n-**は必ず、子音語幹の最後の子音と同じ音に変化します。能動過去分詞の**-nut / -nyt**をつけるときにも同じことが起こりました(能動過去分詞の作り方については 36 課参照)。

tulla > 子音語幹 tul- > tul-**ne-** > 可能法語幹 **tul-le-**

mennä > 子音語幹 men- > men-**ne-**

purra > 子音語幹 pur- > pur-**ne-** > 可能法語幹 **pur-re-**

pestä > 子音語幹 pes- > pes-**ne-** > 可能法語幹 **pes-se-**

③ タイプ 4, 5, 6 の動詞

-ta / -tä で終わる動詞では、最後の **-a / -ä** を取った形が子音語幹です。その子音語幹に**-ne-**をつけますが、タイプ 3 とは逆に子音語幹の最後の**-t-**が必ず**-n-**に変わります。これも能動過去分詞を作るときに起こったことと同じです。結果的に、タイプ 4、5、6 の動詞では**-ta / -tä** を取って、**-nne-**をつけると考えても構いません。

haluta > 子音語幹 halut- > halut-ne- > 可能法語幹 **halun-ne-**
 tarvita > 子音語幹 tarvit- > tarvit-ne- > 可能法語幹 **tarvin-ne-**
 suureta > 子音語幹 suuret- > suuret-ne- > 可能法語幹 **suuren-ne-**

④ 動詞 olla の可能法語幹

動詞 olla の可能法語幹は例外的に **liene-** (あるいは **lie-**) となります。

⑤ 動詞 nähdä、tehdä の可能法語幹

nähdä は **nähne-**、tehdä は **tehne-** となります。

⑥ 可能法現在形の活用

可能法語幹ができれば、今までと同様に人称語尾をつけるだけです。3 人称単数形では、最後の母音である -e- を伸ばします。

	肯定形	否定形	
minä	tietäne-n	en	} tietäne
sinä	tietäne-t	et	
hän	tietäne-e	ei	
me	tietäne-mme	emme	
te	tietäne-tte	ette	
he	tietäne-vät	eivät	

2) 可能法現在形の代表的な用法

可能法は書き言葉で使われ、日常の話し言葉ではあまり使われることはありません。基本的に次のような内容を表します。

① 平叙文

平叙文では「たぶん～だろう、～かもしれない」というような意味を表します。話し言葉では可能法の代わりに直説法を使い、ehkä、kai、kenties、luultavasti、mahdollisesti、varmaankin というような、「おそらく、たぶん」というような副詞を添えるのがふつうです。

Muistanette, mitä minä sanoin.

私の言ったことをおそらく覚えていらっしゃるでしょう

② 疑問文

疑問文では強い疑いの気持ちを表します。この場合には、付加詞 -han/-hän が同じような働きをします。

Muistaneeko hän ostaa postimerkkejä? (Muistaakohan hän ostaa postimerkkejä?)

彼/彼女は切手を買うのを覚えているだろうか

ポイント 111 – 可能法現在形

Ymmärtänet, mitä minä sanon. 私の言うことがおそらく理解できるでしょう

Lieneekö se pelkkä sattuma? それはまったくの偶然なのであろうか

68-2. 可能法完了形

1) 可能法完了形の作り方

今までと同じく完了形は動詞 **olla** と能動過去分詞で作りますが、動詞 **olla** が可能法の形になります。また過去分詞は単数と複数では形が変わります。

	肯定形	否定形
minä	lienen	en
sinä	lienet	et
hän	lienee	ei
me	lienemme	emme
te	lienette	ette
he	lienevät	eivät
	tiennyt	liene tiennyt
	tienneet	liene tienneet

2) 可能法完了形の用法

働きは可能法現在形と同じですが、完了形はすでに完了したことに関して使い「たぶん～しただろう、～したかもしれない」というような意味になります。また疑問文では強い疑いの気持ちを表します。

Lienen nähnyt tämän elokuvan aikaisemmin.

私は以前にこの映画を見たことがあるかもしれない

Lieneekö Harri unohtanut soittaa minulle?

ハッリは私に電話をするのを忘れてしまったのだろうか

ポイント 112 – 可能法完了形

Matti lienee unohtanut soittaa. マッティはおそらく電話するのを忘れたのだろう

Hän ei liene tehnyt sitä tahallaan. 彼/彼女はおそらく故意にやったのではない

文法問題 68-1. 例にならって、副詞を省いた表現に書き換えなさい。

例：Ehkä hänkin lähtee pian. 彼/彼女もおそらくじきに出かけるだろう

⇒ Hänkin lähtenee pian.

- 1) Muistat kai, mitä minä sanoin sinulle. 私があなたに言ったことをおそらく覚えているでしょう
- 2) Saan luultavasti kuulla asiasta lisää. その件については更に聞くことができるでしょう
- 3) Ymmärrätte kai, että asia on vakava. 事態は深刻だと理解してくださるでしょう
- 4) Kysymykset eivät luultavasti kiinnosta kaikkia. 問題は皆の興味を引くわけではないらしい
- 5) Hän palaa kai kotiin ensi viikolla. 彼/彼女はおそらく来週家に帰るだろう

文法問題 68-2. 例にならって、可能法を使った表現に書き換えなさい。

例：Hän saattaa lähteä jo tänään. 彼/彼女はもう今日にも出かけるかもしれない

⇒ Hän lähtenee jo tänään.

- 1) Monet taitavat muuttaa mielensä kuultuaan tämän. これを聞いて多くの人が心を変えるかもしれない
- 2) Asiasta saattaa nousta suuri melu. その件については大騒ぎになるかもしれない
- 3) Mahtaako hän tietää, miten suuresti häntä rakastan? どんなに私が愛しているか彼/彼女は知っているだろうか
- 4) Tällä perheellä ei taida olla muita tuloja. この一家には他の収入はないのかもしれない
- 5) Tapaus saattaa olla makupala skandaalilehdistölle.

その出来事はスキャンダルなマスコミの格好の餌食かもしれない

文法問題 68-3. 例にならって、副詞を省いた表現に書き換えなさい。

例：Hän on luultavasti jo lähtenyt. 彼/彼女はおそらくもう出かけた

⇒ Hän lienee lähtenyt.

- 1) Hän on kai hankkinut ammattitaitonsa ulkomailla.
彼/彼女はおそらく海外で仕事の技術を身につけたのだろう
- 2) Murhaaja on kai tunnustanut. 殺人者はおそらく自白しただろう
- 3) Maailman ilmasto on luultavasti muuttunut teollisuusaasteiden takia.
世界の気候はおそらく産業汚染のせいで変化してしまったのだろう
- 4) Olenkohan ehkä tuhlanut liikaa aikaa television katselemiseen?
私はテレビを見るのに時間を無駄にしすぎてしまったのだろうか。
- 5) Noiden kahden puolueen yhteistyö on luultavasti päättynyt.
そのふたつの政党の協力はおそらく終わってしまったのだろう

第 69 課

Kuudeskymmenesyhdeksäs kappale

- 69-1. 受動形(7)－可能法現在形
- 69-2. 受動形(8)－可能法完了形
- 69-3. 完了形のまとめ
- 69-4. 動詞の活用一覧

69-1. 受動形(7)－可能法現在形

受動形過去の最後の **-iin** を **-aneen/-äneen** に変えると、可能法の受動現在形ができます。

tietää > 受動形現在 tiedetään

> 受動形過去 tiedettiin

> 受動形・可能法現在 tiedettäneen

否定では最後の 2 文字 **-en** を取り、否定動詞の **ei** と結びつけます。

tiedettäneen > 否定形 **ei tiedettäne**

Asia **otettäneen** esille seuraavassa kokouksessa.

その件はおそらく次の会議で取り上げられるだろう

Sopimus **allekirjoitettäneen** huomenna. 条約はおそらく明日調印されるだろう

Sinua **ei valittane** puheenjohtajaksi. 君はおそらく議長には選ばれないだろう

Päätöstä **ei tiedettäne** ennen maanantaita.

決定はおそらく月曜日以前には分からないだろう

69-2. 受動形(8)－可能法完了形

完了形は必ず動詞 olla と過去分詞を結びつけて作られます。ここでは、動詞 olla の可能法の形である lienee と受動過去分詞を組み合わせることになります。

tietää > 受動・可能法完了形 **lienee tiedetty** > 否定形 **ei liene tiedetty**

Kirja **lienee käännetty** japaniksi.

その本はおそらく日本語に訳されているだろう

Kaikille **lienee ilmoitettu** tapauksesta.

その出来事についてはおそらく皆に連絡してあるだろう

Tätä reaktiota ei liene odotetu.

こういった反応はおそらく予想されていなかった

Susia ei liene nähty näillä seuduilla.

この辺りでは、おそらく狼は見かけたことはないだろう

ポイント 113 – 可能法の受動形 (現在形・完了形)

Sopimus allekirjoitettaneen huomenna. 条約はおそらく明日調印されるだろう

Häntä ei valittane puheenjohtajaksi. 彼/彼女はおそらく議長には選ばれないだろう

Kirja lienee käännetty japaniksi. その本はおそらく日本語に訳されているだろう

Tätä reaktiota ei liene odotetu. こういった反応はおそらく予想されていなかった

69-3. 完了形のまとめ

完了形は「動詞 olla + 過去分詞」の形になります。能動過去分詞は単数と複数で形が変わりますが、主語の人称や肯定・否定の違いは動詞 olla が表します。

ここでは肯定形だけまとめておきますが、否定形では動詞 olla が否定形になります。

能動の完了形			
現在完了	過去完了	条件法・完了	可能法・完了
olen } olet } on } juonut	olin } olit } oli } juonut	olisin } olisit } olisi } juonut	lienen } lienet } lienee } juonut
olemme } olette } ovat } juoneet	olimme } olitte } olivat } juoneet	olisimme } olisitte } olisivat } juoneet	liemme } lienette } lienevät } juoneet

受動の完了形			
現在完了	過去完了	条件法・完了	可能法・完了
on juotu	oli juotu	olisi juotu	lienee juotu

69-4. 動詞の活用一覧

可能法を学習し、フィンランド語の動詞の形はひとつおりの学習し終えたことになります。次のページの活用一覧で、それぞれの形を確認してください。

		現在	過去	条件法・現在	可能法・現在	
能	肯	annan	annoin	antaisin	antanen	
		annat	annoit	antaisit	antanet	
		antaa	antoi	antaisi	antanee	
		annamme	annoimme	antaisimme	antanemme	
		annatte	annoitte	antaisitte	antanette	
		antavat	antoivat	antaisivat	antanevat	
	定	否	en	en	en	en
			et	et	et	et
			ei	ei	ei	ei
			emme	emme	emme	emme
			ette	ette	ette	ette
			eivät	eivät	eivät	eivät
動	定	anna	antanut	antaisi	antane	
		antaneet	antaneet			
受	肯	annetaan	annettiin	annettaisiin	annettaneen	
	否	ei anneta	ei annettu	ei annettaisi	ei annettane	

		現在完了	過去完了	条件法・完了	可能法・完了	
能	肯	olen	olin	olisin	lienen	
		olet	olit	olisit	lienet	
		on	oli	olisi	lienee	
		olemme	olimme	olisimme	lienemme	
		olette	olitte	olisitte	lienette	
		ovat	olivat	olisivat	lienevät	
	定	否	en	en	en	en
			et	et	et	et
			ei	ei	ei	ei
			emme	emme	emme	emme
			ette	ette	ette	ette
			eivät	eivät	eivät	eivät
動	定	ole	ollut	olisi	liene	
		antanut	antanut	antanut	antanut	
受	肯	on annettu	oli annettu	olisi annettu	lienee annettu	
	否	ei ole annettu	ei ollut annettu	ei olisi annettu	ei liene annettu	

文法問題 69-1. 例にならって書き換えなさい。

例： Näinkö ymmärrätte asian? あなた方はその事をこんなふうに理解しているのか

⇒ Näin se nykyisin ymmärrettäneen. 今はこのように皆理解しているだろう

- 1) Näinkö opettajasi selittää tämän asian? 先生はこのようにこれを説明したのか
- 2) Näinkö te käänätte tämän termin? この用語はこのように訳すのか
- 3) Näinkö sinä kirjoitat tämän sanan? この語をあなたはこのように書くのか
- 4) Näinkö täällä käsitetään metsäkuoleman syyt? 森林絶滅の理由はこのように理解されているのか
- 5) Näinkö täällä hoidetaan alkoholisteja? アルコール中毒者はこのように治療されているのか

文法問題 69-2. 例にならって書き換えなさい。

例： Tästä ei luultavasti kerrota lapsille. これについてはおそらく子供たちには話さない

⇒ Tästä ei kerrotane kaikille.

- 1) Palanutta rakennusta ei luultavasti rakenneta uudelleen.
消失した建物はおそらく再建されないだろう
- 2) Ei kai voida väittää, etten olisi yrittänyt.
私がやろうとしなかったとは、おそらく誰も主張できないだろう
- 3) Missään muualla ei varmaankaan juoda niin paljon kahvia kuin Suomessa.
フィンランドほどコーヒーを飲む場所は他にはおそらくないだろう
- 4) On mahdollista, että tänä vuonna ei vaadita suuria palkankorotuksia.
おそらく今年は大きな賃金引き上げは要求されないだろう
- 5) Tämän tehtaan toimintaa ei ehkä enää jatketa.
この工場の操業はおそらくもう続けられないだろう

文法問題 69-3. 例にならって書き換えなさい。

例： Päätös tehtänee pian. まもなく決定が下されるかもしれない

⇒ { Päätös lienee jo tehty. 決定はすでに下されているかもしれない
Päätöstä ei liene vielä tehty. 決定はまだ下されていないかもしれない

- 1) Vastaus annettaneen pian. 回答はまもなく出されるかもしれない
- 2) Hänet valittaneen pian puheenjohtajaksi. 彼/彼女はまもなく議長に選出されるかもしれない
- 3) Uusi hallitus muodostettaneen tällä viikolla. 新内閣は今週中に発足するかもしれない
- 4) Hintoja nostettaneen pian. 価格はまもなく引き上げられるかもしれない
- 5) Asiasta keskusteltaneen pian. その問題についてはまもなく話し合われるかもしれない

第 70 課

Seitsemäskymmenes kappale

- 70-1. 命令法・1 人称複数形
 70-2. 命令法・3 人称
 70-3. 命令法・受動形
 70-3. 動詞の語幹と命令法のまとめ

70-1. 命令法・1 人称複数形

この形は話し相手、仲間などに「～しよう」と呼びかける形です。書き言葉で使われる形で、日常の話し言葉では受動形現在の形が同じ働きをします。

命令法・1 人称複数の印は **-kaamme/-käämme** で、命令法・2 人称複数の **-kaa/-kää** と同じように語幹につけます。タイプ 1 とタイプ 2 の動詞では(強階程)母音語幹プ 3、4、5、6 の動詞、そして *nähdä* と *tehdä* では子音語幹につけます。

動詞のタイプ	不定詞	語幹	命令法・複数 1 人称
タイプ 1	<i>lukea</i>	母音語幹 <i>luke-</i>	Luke-kaamme!
タイプ 2	<i>syödä</i>	母音語幹 <i>syö-</i>	Syö-käämme!
タイプ 3	<i>mennä</i>	子音語幹 <i>men-</i>	Men-käämme!
タイプ 4	<i>haluta</i>	子音語幹 <i>halut-</i>	Halut-kaamme!
タイプ 5	<i>valita</i>	子音語幹 <i>valit-</i>	Valit-kaamme!
タイプ 6	<i>vaieta</i>	子音語幹 <i>vaiet-</i>	Vaiet-kaamme!
<i>nähdä、tehdä</i>	<i>tehdä</i>	子音語幹 <i>teh-</i>	Teh-käämme!

否定動詞は **älkäämme** という形になります。*alkäämme* と結びつく動詞には、2 人称複数の命令形の場合と同じく **-ko/-kö** がつきます。

Luke-kaamme! > 否定形 **Älkäämme luke-ko!**

Syö-käämme! > 否定形 **Älkäämme syö-kö!**

2 人称の場合と同じく肯定文では、属格(対格)の目的語は主格の形になります。

Muista-kaamme tämä asia! このことを覚えておこう

否定文の目的語はやはり分格になります。

Älkäämme unohta-ko tätä asiaa! このことを忘れずにおこう

上の 2 つの文は受動形を使って、次のように言うのが普通です。

Muistetaan tämä asia!

Ei unohdeta tätä asiaa!

70-2. 命令法・3人称

命令法・3人称には単数と複数があり、これらの形は「(誰それに)～させよう」、あるいは「(誰それに)～させておけばよい」というような意味を表します。

命令法・3人称単数の印は**-koon/-köön**、複数の印は**-koot/-kööt** ですが、そのつけ方は2人称複数や1人称複数と同じです。

不定詞	語幹	命令法・単数3人称	命令法・複数3人称
lukea	母音語幹 luke-	Luke-koon!	Luke-koot!
syödä	母音語幹 syö-	Syö-köön!	Syö-kööt!
mennä	子音語幹 men-	Men-köön!	Men-kööt!
haluta	子音語幹 halut-	Halut-koon!	Halut-koot!
valita	子音語幹 valit-	Valit-koon!	Valit-koot!
vaieta	子音語幹 vaiet-	Vaiet-koon!	Vaiet-koot!
tehdä	子音語幹 teh-	Teh-köön!	Teh-kööt!

また否定動詞は単数では **Älköön**、複数では **Älkööt** という形になりますが、これらと結びつく動詞には、やはり **-ko/-kö** をつけます。

Luke-koon! > 否定形 **Älköön luke-ko!** Luke-koot! > 否定形 **Älkööt luke-ko!**

3人称の命令文の属格(対格)の目的語は主格にはなりません。

Joku **vielläköön** heille *tämän kirjeen*. 誰かにこの手紙を彼らのところへ持っていかせよう「～させておこう、～させておけばよい」という意味ではよく使われます。

Menkööt vain! (彼らが行きたいのなら) 行かせておけばよい

また次のような慣用的な表現があります。

Eläköön! 万歳

Onneksi olkoon! おめでとう

70-3. 命令法・受動形

受動形過去の **-iin** を **-akoon/-äköön** に変えると命令法の受動形になります。

antaa > 受動現在 annetaan > 受動過去 annettiin > 命令法・受動 **annettakoon**

否定形は **Älköön** を使います。

Annettakoon! > 否定形 **Älköön annettako!**

Syylinen **tuomittakoon**, syytöntä **älköön tuomittako**.

有罪者は裁かれよ、無罪の者は裁かれずにいよ

70-4. 動詞の語幹と命令法のまとめ

動詞のタイプごとに語幹を確認しましょう。

	母音語幹		子音語幹
	強階程語幹	弱階程語幹	
タイプ 1	luke-	lue-	—
タイプ 2	syö-		—
タイプ 3	mene-		men-
タイプ 4	halua-		halut-
タイプ 5	valitse-		valit-
タイプ 6	vaikene-		vaiet-
nähdä, tehdä	teke-	tee-	teh-

- ①表の左側の母音語幹がそのまま単数 2 人称の命令形になります。階程交替がある場合には弱階程語幹の方を使います。否定では *älä* をつけます。
- ②それ以外の命令形を作るときには、子音語幹のある語では子音語幹を使います。子音語幹がなければ母音語幹を使いますが、階程交替がある場合には強階程語幹を使います。

	lukea		tulla	
	肯定	否定	肯定	否定
単 2	Lue	Älä lue	Tule	Älä tule
複 2	Luke-kaa	Älkää luke-ko	Tul-kaa	Älkää tul-ko
複 1	Luke-kaamme	Älkäämme luke-ko	Tul-kaamme	Älkäämme tul-ko
単 3	Luke-koon	Älköön luke-ko	Tul-koon	Älköön tul-ko
複 3	Luke-koot	Älkööt luke-ko	Tul-koot	Älkööt tul-ko

	haluta		tehdä	
	肯定	否定	肯定	否定
単 2	Halua	Älä halua	Tee	Älä tee
複 2	Halut-kaa	Älkää halut-ko	Teh-kää	Älkää teh-kö
複 1	Halut-kaamme	Älkäämme halut-ko	Teh-käämme	Älkäämme teh-kö
単 3	Halut-koon	Älköön halut-ko	Teh-köön	Älköön teh-kö
複 3	Halut-koot	Älkööt halut-ko	Teh-kööt	Älkööt teh-kö

文法問題 70-1. 次の文を命令法・1人称複数を使って書き換えなさい。

- 1) Ajatellaan asiaa! その件について考えよう
- 2) Puhutaan suomea! フィンランド語を話そう
- 3) Korjataan virheet! 間違いを直そう
- 4) Ryhdytään toimiin! 行動に移ろう
- 5) Tehdään parhaamme! 最善を尽くそう
- 6) Ei unohdeta sukulaisia! 親戚の人間を忘れずにおこう
- 7) Ei nukuta myöhään! 遅くまで寝ているのはやめよう
- 8) Ei vaadita liikaa! 要求しすぎるのはやめよう
- 9) Ei menetetä toivoamme! 希望を失わずにしよう
- 10) Ei jäädä passiiviseksi! 受身になるのはやめよう

文法問題 70-2. 例にならって、次の文に答えなさい。

例：Saako hän tulla? 彼/彼女は来てもよいか

⇒ $\left\{ \begin{array}{l} \text{Tulkoon! 来させればよい} \\ \text{Älköön tulko! 来させずにおこう} \end{array} \right.$

- 1) Saako Mikko ostaa jäätelöä? ミッコはアイスクリームを買ってよいか
- 2) Saako hän yrittää vielä kerran? 彼/彼女はもう一度やってみてもよいか
- 3) Saako kissa maata sängyssä? 猫はあなたのベッドで横になってもよいか
- 4) Saako Ritva viedä koirat ulos? リトバは犬を外へ連れて行ってもよいか
- 5) Saako poikamme tuhlatka kaikki rahat? 息子がすべての金を無駄使いしてもよいか

文法問題 70-3. 例にならって、次の文に答えなさい。

例：Saavatko he tulla?

⇒ $\left\{ \begin{array}{l} \text{Tulkoot! 来させればよい} \\ \text{Älkööt tulko! 来させずにおこう} \end{array} \right.$

- 1) Saavatko lapset jäädä kotiin? 子どもたちは家に残ってもよいか
- 2) Saavatko he lähteä? 彼らは出かけてもよいか
- 3) Saavatko he surra tapahtunutta? 彼らは過ぎたことを悲しんでいてよいか
- 4) Saavatko koirat syödä sisällä? 犬は中で餌を食べてもよいか
- 5) Saavatko oppilaat mennä kotiin? 生徒たちは家へ帰ってもよいか

東海大学文学部北欧学科

『フィンランド語文法』

(「北欧語Ⅰ」・「北欧語Ⅱ」・「北欧語Ⅲ」用教材)

作成日時：2002年3月

作成者：吉田欣吾

**TOKAIN YLIOPISTO
POHJOISMAIDEN KIELTEN JA
KULTTUURIEN LAITOS
SUOMEN
KIELIOPPIA**